

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書XII

堂 古 遺 跡

下 割 遺 跡 VI

二 反 割 遺 跡 II

2017

新潟県教育委員会

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書XIII

堂<sup>どう</sup>古<sup>こ</sup>遺跡  
下<sup>しも</sup>割<sup>わり</sup>遺跡VI  
二<sup>に</sup>反<sup>たん</sup>割<sup>わり</sup>遺跡II

2017

新潟県教育委員会

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 序

一般国道 253 号上越三和道路は、上越市寺と上越市三和区本郷を結ぶ地域高規格道路（自動車専用道路）で、上越市から南魚沼市に至る一般国道 253 号上越魚沼地域振興快速道路の一部です。この上越魚沼地域振興快速道路は、上越地方生活圏と魚沼地方生活圏を相互に連絡して広域ネットワークを形成し、広域的な地域の連携強化・活性化、道路交通の安全性・信頼性の確保、救急救命の支援などを目的としています。

本書は、この上越三和道路建設事業に先立ち、2014 年度に実施した堂古遺跡、2015 年度に実施した堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡の発掘調査報告書です。

堂古遺跡は 13 世紀から 15 世紀を中心とする中世の集落で、掘立柱建物や井戸、溝などの遺構が確認できました。井戸のなかからは珠洲焼や漆器などが出土しています。下割遺跡は、堂古遺跡の西側に隣接する中世から近世の遺跡です。井戸や溝のほか、19 世紀前半の火災後の不要品を片付けた跡も見つかりました。二反割遺跡は 12 世紀中心の中世集落で、建物同士が柱筋をそろえるなど、計画性の高い集落づくりの様子がうかがえます。

発掘調査で得られた資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されることを期待しています。

最後に、この発掘調査に多大な御協力と御理解をいただいた上越市教育委員会並びに地元の方々、また発掘調査から本書の作成まで、格別の御配慮をいただいた国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所に対して、厚くお礼申し上げます。

2017 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長 池田幸博

## 例 言

- 1 本書は、新潟県上越市米岡字堂古 535 番地ほかに所在する堂古遺跡、新潟県上越市米岡字ころ原 624 番地 10 ほかにある下剗遺跡、新潟県上越市三和区岡本字二反割 1013 番地ほかに所在する二反割遺跡の発掘調査記録で、下剗遺跡・二反割遺跡は 2015 年度調査分を取録している。
- 2 発掘調査は一般国道 253 号上越三和道路の建設に伴い、国土交通省（以下、国交省）から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。
- 3 発掘調査は県教委の依頼を受けた公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が実施した。
- 4 埋文事業団は発掘作業・整理作業・関連諸工事等の一部業務を、2014 年度は株式会社古田組に、2015 年度は小柳建設株式会社に委託して発掘調査を実施した。
- 5 整理作業及び報告書作成に係る作業は、2014～2016 年度に埋文事業団が県教委から受託して行った。
- 6 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。遺物の注記は、略記号を 2014 年度堂古遺跡は「14 下ウコ」、2015 年度堂古遺跡は「15 下ウコ」、2015 年度下剗遺跡は調査回数（7 回目）を合わせ「下ワリⅦ」、2015 年度二反割遺跡は「15 ニタン」とし、出土地点や層位等を併記した。
- 7 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 8 本書に掲載した遺物番号は、堂古遺跡、下剗遺跡、二反割遺跡ともそれぞれ、種別に係わりなく通し番号とし、本文及び挿入・遺物観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 9 引用・参考文献は、著者及び発行年（西暦）を本文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。自然科学分析については、節末に掲載した。
- 10 調査成果の一部は、現地説明会（2014 年 9 月 6 日、2015 年 9 月 26 日）、広報誌「埋文にいがた」の No.88・93・94、平成 26・27 年度の『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』第 20・21 回遺跡発掘調査報告会（2015 年 9 月 6 日、2016 年 10 月 23 日）などで公表しているが、本書の記述をもって正式な報告とする。
- 11 自然科学分析はパリオ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果は千葉博俊・高橋 敦・金井慎司・芝口 怜が執筆した。
- 12 遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 13 本書の執筆は、飯坂盛泰・山崎忠良（以上、埋文事業団）、城前喜英・渡邊大士（以上、株式会社古田組）、桶谷 潤・福永 徹・坂之井真弓（以上、小柳建設株式会社）が当たり、編集は飯坂・山崎が担当した。執筆分担は以下のとおりである。なお第二章は『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 171 集 狐宮遺跡』第二章【飯坂・河崎・榎原 2007】、『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 201 集 延命寺遺跡』第二章【畠野 2008】、『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 230 集 下剗遺跡Ⅴ』第二章【山下 2012】を一部改変して引用する。  
第 1 章 1・2A2)・2B2)・3・4、第 3 章 3A10)、第 4 章 1～4、第 5 章…山崎、  
第 1 章 2A1)・2B1)、第 3 章 1…飯坂、第 1 章 2B3)・4)、第 3 章 2B・4A…桶谷、第 2 章…城前・渡邊・桶谷、  
第 3 章 2A…飯坂・山崎、第 3 章 3A1)～6)・9)…城前・渡邊・山崎、第 3 章 3A7)・8)…城前・渡邊、  
第 3 章 3B1)・2)・4B1) a・4B2)・3)…福永、第 3 章 4B1) b・c…坂之井、  
第 3 章 3B3)～5)…城前・渡邊・福永、  
第 3 章 5、第 4 章 5…千葉・高橋・金井（第 3 章 5 のみ）、芝口（パリオ・サーヴェイ株式会社）
- 14 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力をいただいた。ここに記して厚くお礼申し上げる（五十音順 敬称略）。  
相羽重徳 国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所 上越市岡本町内会 上越市ガス水道局  
上越市教育委員会 上越市米岡町内会 藤 実 吉川俊久



# 目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過	2
A 試掘・確認調査	2
1) 堂古遺跡及び2015年度下割遺跡本調査分	2
2) 2015年度二反割遺跡本調査分	2
B 本 調 査	2
1) 2014年度堂古遺跡	2
2) 2015年度堂古遺跡	5
3) 下割遺跡	6
4) 二反割遺跡	6
3 整理作業	7
4 調査・整理解体制	7
A 試掘・確認調査	7
B 本調査・整理作業	8
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	9
1 遺跡周辺の地理的環境	9
2 遺跡の分布と歴史的環境	11
第Ⅲ章 堂古遺跡・下割遺跡	14
1 グリッドの設定	14
2 基本層序	15
A 堂古遺跡	15
B 下割遺跡	15
3 堂古遺跡	17
A 遺 構	17
1) 記述の方法と形状の分類	17
2) 遺構の概要と時期	18
3) 掘立柱建物	19
4) 竪穴状遺構	23
5) 井 戸	24
6) 溝	30
7) 畑 作 溝	34
8) 焼土土坑	34
9) 土坑・ピット	34
10) 性格不明遺構	37
B 遺 物	37
1) 土器・陶磁器	37
2) 土 製 品	45
3) 石 製 品	46
4) 木 製 品	47
5) 金属製品	48
4 下割遺跡	49
A 遺 構	49
1) 概 要	49
2) 掘立柱建物	49
3) 井 戸	50
4) 溝	52
5) 土 坑	53

B 遺物	55
1) 土器・陶磁器	55
2) 石製品	59
3) 木製品	60
5 自然科学分析	60
A はじめに	60
B 樹種同定	60
1) 試料	60
2) 分析方法	60
3) 結果	60
4) 考察	61
C 骨同定	64
1) 試料	64
2) 分析方法	64
3) 結果	64
4) 考察	65
D 土壌理化学分析	65
1) 試料	65
2) 分析方法	65
3) 結果	66
4) 考察	67
<引用文献>	68
第IV章 二反割遺跡	69
1 グリッドの設定	69
2 基本層序	69
3 遺構	70
A 概要	70
B 古代の遺構	71
C 中世の遺構	72
1) 掘立柱建物	72
2) 井戸	76
3) 溝	77
4) 土坑・ピット	78
4 遺物	79
A 土器・陶磁器	79
B 土製品	79
C 石製品	79
D 木製品	80
E 金属製品	80
5 自然科学分析	80
A はじめに	80
B 放射性炭素年代測定・樹種同定	80
1) 試料	80
2) 分析方法	80
3) 結果	81
4) 考察	82
C 土壌理化学分析	83
1) 試料	83
2) 分析方法	83
3) 結果	84
4) 考察	85
<引用文献>	86
第V章 まとめ	87
1 二反割遺跡について	87
A 中世集落の変遷	87
B 掘立柱建物について	88
C 中世集落の造営について	91

2 堂古遺跡・下割遺跡について	92
A 堂古遺跡の中世集落の変遷	92
B 下割遺跡の集落について	99
3 総 括	99
A 中世集落の特徴	99
B 遺跡の動向	100
《引用・参考文献》	101
《観 察 表》	103

## 挿 図 目 次

第 1 図 上越三和道路の路線と調査遺跡の位置	1	第 13 図 堂古遺跡 ST684 出土骨	64
第 2 図 堂古遺跡・下割遺跡の試掘・確認調査 トレンチ位置図	3	第 14 図 堂古遺跡 15SD29・基本層序の 土壌理化学分析結果	66
第 3 図 堂古遺跡・下割遺跡本調査必要範囲と 2014・2015 年度堂古遺跡・下割遺跡 本調査範囲	3	第 15 図 二反割遺跡のグリッド設定図・基本層序図	70
第 4 図 二反割遺跡の試掘・確認調査対象範囲と 本調査範囲	4	第 16 図 二反割遺跡暦年較正結果	82
第 5 図 周辺の地形	10	第 17 図 二反割遺跡の木材	82
第 6 図 周辺の主な遺跡	13	第 18 図 二反割遺跡 15SX435・基本層序の 土壌理化学分析結果	84
第 7 図 堂古遺跡・下割遺跡のグリッド設定図	14	第 19 図 二反割遺跡リン酸含量と腐植含量の相関図	85
第 8 図 堂古遺跡・下割遺跡の基本層序	16	第 20 図 二反割遺跡の中世集落 a 方位段階	89
第 9 図 遺構平面形態・断面形態の分類と堆積状況	17	第 21 図 二反割遺跡の中世集落 b・c 方位段階	90
第 10 図 堂古遺跡・下割遺跡の土器・陶磁器の 分布 (1)	39	第 22 図 二反割遺跡・堂古遺跡・下割遺跡の 建物面積	91
第 11 図 堂古遺跡・下割遺跡の土器・陶磁器の 分布 (2)	40	第 23 図 堂古遺跡の埋葬関連土坑の法量分布	94
第 12 図 堂古遺跡・下割遺跡の木材	62	第 24 図 堂古遺跡・下割遺跡の遺構変遷 (1)	95・96
		第 25 図 堂古遺跡・下割遺跡の遺構変遷 (2)	97・98

## 表 目 次

第 1 表 周辺の主な遺跡	12	第 12 表 堂古遺跡土壌理化学分析結果	66
第 2 表 下割遺跡基本層序対応表	15	第 13 表 二反割遺跡基本層序対応表	69
第 3 表 堂古遺跡の遺構数	18	第 14 表 二反割遺跡放射線炭素年代測定及び 暦年較正結果	82
第 4 表 堂古遺跡土器・陶磁器の重量組成比	38	第 15 表 二反割遺跡土壌理化学分析結果	84
第 5 表 古代の暦年代	38	第 16 表 二反割遺跡の建物長軸方向	87
第 6 表 珠洲焼の暦年代	38	第 17 表 2011 年度二反割遺跡の建物長軸方向と 時期	88
第 7 表 下割遺跡の遺構数	49	第 18 表 堂古遺跡の建物長軸方向	93
第 8 表 2015 年度下割遺跡土器・陶磁器の 重量組成比	55	第 19 表 堂古遺跡の遺構変遷	93
第 9 表 下割遺跡 15SK170・199・252 出土 陶磁器ほかの重量組成比	57	第 20 表 堂古遺跡の埋葬関連土坑	94
第 10 表 堂古遺跡・下割遺跡樹種同定結果	61	第 21 表 二反割遺跡・堂古遺跡の中世集落の 特徴	100
第 11 表 堂古遺跡 ST684 出土骨同定結果	64		

## 図版目次

### 【図面図版】

- 図版 1 堂古遺跡・下割遺跡 全体図  
図版 2 堂古遺跡 全体図  
図版 3 堂古遺跡 遺構分割図 (1) 遺構個別図 (1)  
図版 4 堂古遺跡 遺構分割図 (2) 遺構個別図 (2)  
図版 5 堂古遺跡 遺構分割図 (3) 遺構個別図 (3)  
図版 6 堂古遺跡 遺構分割図 (4) 遺構個別図 (4)  
図版 7 堂古遺跡 遺構分割図 (5)  
図版 8 堂古遺跡 遺構分割図 (6)  
図版 9 堂古遺跡 遺構個別図 (5)  
図版 10 堂古遺跡 遺構分割図 (7)  
図版 11 堂古遺跡 遺構個別図 (6)  
図版 12 堂古遺跡 遺構個別図 (7)  
図版 13 堂古遺跡 遺構個別図 (8)  
図版 14 堂古遺跡 遺構個別図 (9)  
図版 15 堂古遺跡 遺構個別図 (10)  
図版 16 堂古遺跡 遺構個別図 (11)  
図版 17 堂古遺跡 遺構個別図 (12)  
図版 18 堂古遺跡 遺構個別図 (13)  
図版 19 堂古遺跡 遺構個別図 (14)  
図版 20 堂古遺跡 遺構個別図 (15)  
図版 21 堂古遺跡 遺構個別図 (16)  
図版 22 堂古遺跡 遺構個別図 (17)  
図版 23 堂古遺跡 遺構個別図 (18)  
図版 24 堂古遺跡 遺構個別図 (19)  
図版 25 堂古遺跡 遺構個別図 (20)  
図版 26 堂古遺跡 遺構個別図 (21)  
図版 27 堂古遺跡 土器・陶磁器 (1)  
図版 28 堂古遺跡 土器・陶磁器 (2)  
図版 29 堂古遺跡 土器・陶磁器 (3)  
図版 30 堂古遺跡 土器・陶磁器 (4) 土製品  
図版 31 堂古遺跡 石製品 木製品 (1)  
図版 32 堂古遺跡 木製品 (2) 金属製品  
図版 33 下割遺跡 全体図  
図版 34 下割遺跡 遺構分割図 (1)  
図版 35 下割遺跡 遺構個別図 (1)  
図版 36 下割遺跡 遺構分割図 (2)  
図版 37 下割遺跡 遺構個別図 (2)  
図版 38 下割遺跡 遺構個別図 (3)  
図版 39 下割遺跡 遺構個別図 (4)  
図版 40 下割遺跡 遺構個別図 (5)  
図版 41 下割遺跡 土器・陶磁器 (1)  
図版 42 下割遺跡 土器・陶磁器 (2)  
図版 43 下割遺跡 土器・陶磁器 (3) 石製品 (1)

- 図版 44 下割遺跡 石製品 (2) 木製品  
図版 45 二反割遺跡 全体図  
図版 46 二反割遺跡 遺構分割図 (1) 遺構個別図 (1)  
図版 47 二反割遺跡 遺構分割図 (2) 遺構個別図 (2)  
図版 48 二反割遺跡 遺構分割図 (3) 遺構個別図 (3)  
図版 49 二反割遺跡 遺構個別図 (4)  
図版 50 二反割遺跡 遺構個別図 (5)  
図版 51 二反割遺跡 遺構個別図 (6)  
図版 52 二反割遺跡 遺構個別図 (7)  
図版 53 二反割遺跡 遺構個別図 (8)  
図版 54 二反割遺跡 遺構個別図 (9)  
図版 55 二反割遺跡 遺構個別図 (10)  
図版 56 二反割遺跡 遺構個別図 (11)  
図版 57 二反割遺跡 遺物

### 【写真図版】

- 図版 58 遺跡の位置  
図版 59 堂古遺跡・下割遺跡 全景  
図版 60 堂古遺跡・下割遺跡 遠景  
図版 61 堂古遺跡 全景  
図版 62 堂古遺跡 孤立柱建物 8・9G・H 周辺  
図版 63 堂古遺跡 SD510 10～12G～J 周辺  
V層出土状況  
図版 64 堂古遺跡 基本層序 遺物出土状況  
図版 65 堂古遺跡 遺構個別写真 (1)  
図版 66 堂古遺跡 遺構個別写真 (2)  
図版 67 堂古遺跡 遺構個別写真 (3)  
図版 68 堂古遺跡 遺構個別写真 (4)  
図版 69 堂古遺跡 遺構個別写真 (5)  
図版 70 堂古遺跡 遺構個別写真 (6)  
図版 71 堂古遺跡 遺構個別写真 (7)  
図版 72 堂古遺跡 遺構個別写真 (8)  
図版 73 堂古遺跡 遺構個別写真 (9)  
図版 74 堂古遺跡 遺構個別写真 (10)  
図版 75 堂古遺跡 遺構個別写真 (11)  
図版 76 堂古遺跡 遺構個別写真 (12)  
図版 77 堂古遺跡 遺構個別写真 (13)  
図版 78 堂古遺跡 遺構個別写真 (14)  
図版 79 堂古遺跡 遺構個別写真 (15)  
図版 80 堂古遺跡 遺構個別写真 (16)  
図版 81 堂古遺跡 遺構個別写真 (17)  
図版 82 堂古遺跡 遺構個別写真 (18)  
図版 83 堂古遺跡 遺構個別写真 (19)  
図版 84 堂古遺跡 遺構個別写真 (20)  
図版 85 堂古遺跡 遺構個別写真 (21)

- 図版 86 堂古遺跡 遺構個別写真 (22)
- 図版 87 堂古遺跡 遺構個別写真 (23)
- 図版 88 堂古遺跡 遺構個別写真 (24)
- 図版 89 堂古遺跡 遺構個別写真 (25)
- 図版 90 堂古遺跡 遺構個別写真 (26)
- 図版 91 堂古遺跡 遺構個別写真 (27)
- 図版 92 堂古遺跡 遺構個別写真 (28) VI層の調査
- 図版 93 堂古遺跡 土器・陶磁器 (1)
- 図版 94 堂古遺跡 土器・陶磁器 (2)
- 図版 95 堂古遺跡 土器・陶磁器 (3)
- 図版 96 堂古遺跡 土器・陶磁器 (4) 土製品 石製品 (1)
- 図版 97 堂古遺跡 石製品 (2) 木製品 (1)
- 図版 98 堂古遺跡 木製品 (2) 金属製品
- 図版 99 下朝遺跡 全景 基本層序 掘立柱建物
- 図版 100 下朝遺跡 遺構個別写真 (1)
- 図版 101 下朝遺跡 遺構個別写真 (2)
- 図版 102 下朝遺跡 遺構個別写真 (3)
- 図版 103 下朝遺跡 遺構個別写真 (4)
- 図版 104 下朝遺跡 遺構個別写真 (5)
- 図版 105 下朝遺跡 遺構個別写真 (6)
- 図版 106 下朝遺跡 遺構個別写真 (7)
- 図版 107 下朝遺跡 土器・陶磁器 (1)
- 図版 108 下朝遺跡 土器・陶磁器 (2)
- 図版 109 下朝遺跡 土器・陶磁器 (3)
- 図版 110 下朝遺跡 石製品 木製品 壘材 戸車
- 図版 111 二反朝遺跡 近景 全景
- 図版 112 二反朝遺跡 10 ~ 13I ~ L 周辺  
15SX435 15SD1A 基本層序
- 図版 113 二反朝遺跡 遺構個別写真 (1)
- 図版 114 二反朝遺跡 遺構個別写真 (2)
- 図版 115 二反朝遺跡 遺構個別写真 (3)
- 図版 116 二反朝遺跡 遺構個別写真 (4)
- 図版 117 二反朝遺跡 遺構個別写真 (5)
- 図版 118 二反朝遺跡 遺構個別写真 (6)
- 図版 119 二反朝遺跡 遺構個別写真 (7)
- 図版 120 二反朝遺跡 遺構個別写真 (8)
- 図版 121 二反朝遺跡 遺構個別写真 (9)
- 図版 122 二反朝遺跡 遺構個別写真 (10)
- 図版 123 二反朝遺跡 遺構個別写真 (11)
- 図版 124 二反朝遺跡 遺構個別写真 (12) ほか
- 図版 125 二反朝遺跡 遺物

# 第I章 序 説

## 1 調査に至る経緯

上越魚沼地域振興快速道路は広域的な地域の連携強化・活性化、道路交通の安全性・信頼性の確保などを目的とし、上越地方生活圏と魚沼地方生活圏を相互に連絡し広域ネットワークを形成する地域高規格道路である。上越三和道路は、上越魚沼地域振興快速道路のうち上越市寺から同市三和区本郷間の7.0kmの区間を指す。1998（平成10）年度に整備区間に指定、2000（平成12）年度、都市計画道路に決定され、2001（平成13）年度、用地買収の開始、2002（平成14）年度から工事を行っている。

国土交通省（以下、国交省）は新潟県教育委員会（以下、県教委）に上越市寺から三和村本郷（現、上越市三和区本郷）間の分布調査を依頼し、県教委の依頼を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（現、公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団、以下、埋文事業団）が2001年4月に実施した。その結果、対象地域の広範囲で古代・中世の遺物が採取でき、遺跡の存在する可能性が高いことから、道路法線のほぼ全域について試掘調査が必要であると県教委に報告した。

堂古遺跡及び2015（平成27）年度下割遺跡本発掘調査（以下、本調査）範囲に係る試掘調査は、埋文事業団が2008（平成20）年8・11月に22,700m<sup>2</sup>を対象に実施した。その結果、中世以前の遺構・遺物が検出されたため、対象範囲西側を下割遺跡の拡大とし、東側を堂古遺跡として新規登録した。本調査必要面積は下割遺跡7,967m<sup>2</sup>、堂古遺跡11,006m<sup>2</sup>である。2015年度二反割遺跡本調査範囲に係る確認調



第1図 上越三和道路の路線と調査遺跡の位置  
(国土地理院「高田東部」1:50,000原図2007年発行)

は、埋文事業団が2012（平成24）年7月に12,600m<sup>2</sup>を対象に実施した。中世以前の遺構・遺物が検出されたため、隣接する二反割遺跡の拡大と判断した。本調査必要面積は5,230m<sup>2</sup>である。

2014（平成26）年度堂古遺跡の本調査は、平成26年3月19日付けで国交省から県教委に依頼があり、県教委は「平成26年3月31日付け教文第1580号の2」で埋文事業団に調査の実施を依頼した。2015年度堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡の本調査は、「平成27年3月5日付け国北整高二調第54号」で国交省から県教委に依頼があり、県教委は「平成27年3月12日付け教文第1477号の2」で埋文事業団に調査の実施を依頼した。なお、2014・2015年度本調査範囲は道路法線の暫定供用部分のみである。

## 2 調査の経過

### A 試掘・確認調査（第2～4図）

調査は対象範囲内にトレンチ（略号T）を設定し、重機（バックホー）及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。その後、トレンチの位置や土層の堆積状況などを図面・写真などに記録する方法を採用した。

#### 1) 堂古遺跡及び2015年度下割遺跡本調査分

堂古遺跡及び2015（平成27）年度下割遺跡本調査範囲に係る試掘調査は、2008（平成20）年8月27日から29日、11月17日から21日にかけて22,700m<sup>2</sup>を対象とし（STANo219付近～236付近）、トレンチ30か所、合計780m<sup>2</sup>を調査した（第2図20-1～30T）。その結果18か所のトレンチで中世以前の遺構（溝・井戸・土坑・柱穴）を確認し、17か所のトレンチで中世以前の遺物（土師器・珠洲焼）が出土した。そのため、20-1～15T間は下割遺跡の範囲拡大とし、そのうちの7,967m<sup>2</sup>について本調査が必要とした。また20-16～27T間は堂古遺跡として新規登録し、11,006m<sup>2</sup>について本調査が必要とした。

#### 2) 2015年度二反割遺跡本調査分

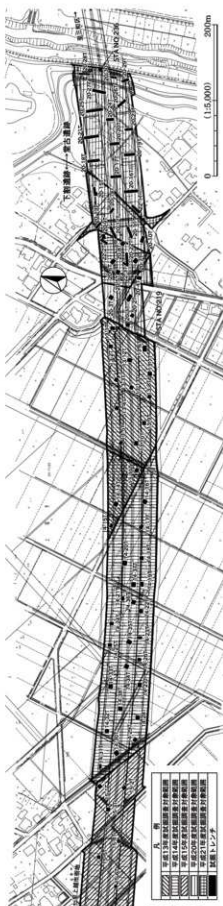
2015年度二反割遺跡本調査範囲に係る確認調査は、2012（平成24）年7月9日から12日にかけて12,600m<sup>2</sup>を対象とし（STANo250付近～261付近）、トレンチ14か所、合計300m<sup>2</sup>を調査した（第4図24-1～14T）。その結果、4か所のトレンチで中世以前の遺構（溝・ピット）を確認し、9か所のトレンチで土師器などが出土した。土師器は摩耗したものが多く、時期決定に迷うものも見られた。2011年度の本調査成果も加味して、24-1～7T間を二反割遺跡の範囲拡大と判断し、5,230m<sup>2</sup>について本調査が必要とした。

## B 本調査

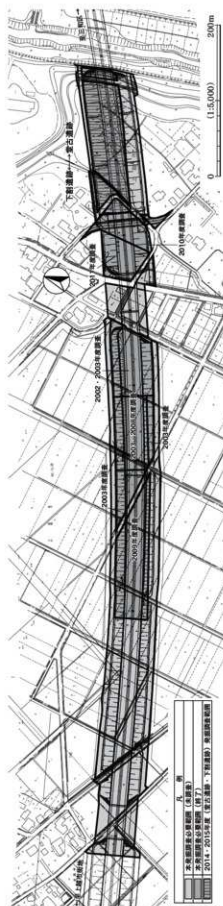
### 1) 2014年度堂古遺跡

2014（平成26）年度は4月7日から10月3日まで実施した。当初6,800m<sup>2</sup>を調査対象に、調査を完了する予定であったが、深さ2mの井戸の完掘、堀（SD510）の掘削などに時間を要し、また狐宮遺跡<sup>まぎのみや</sup>の調査を優先したため3,870m<sup>2</sup>で調査を終了し、残り2,930m<sup>2</sup>は次年度以降に行うこととした。

4月7日から準備を開始し、調査範囲の雑木類の伐採・片づけを行った。17日から重機による表土層等掘削を始めた。近・現代の畑作などにより遺物包含層が削平されていたことから、遺構検出（Ⅲ層）



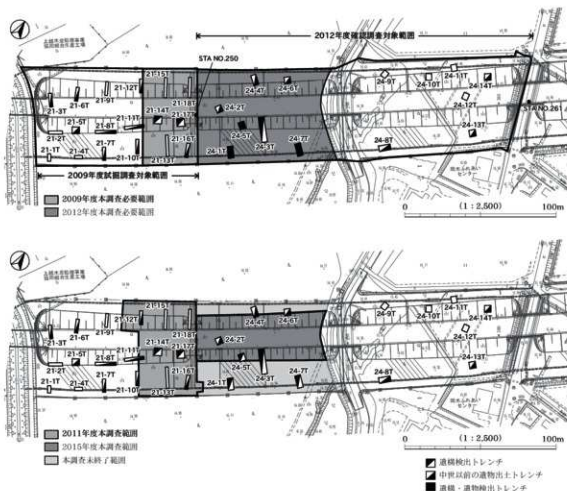
第2図 堂台運動場・下道運動場の試験・確認調査トレンチ位置図 (トレンチ番号は「調査年度 (西暦) - トレンチNo.」を表す)



第3図 堂台運動場・下道運動場本調査必要範囲と2014・2015年度調査必要範囲と2014・2015年度調査必要範囲と2014・2015年度調査必要範囲



## 2 調査の経過



第4図 二反割道路の試掘・確認調査対象範囲と本調査範囲

まで掘削を行った。調査範囲の東側は、南北方向に掘られた水路の掘削土が旧表土(II層)に厚く堆積し、また西側は下割遺跡との境にある農業用水路周辺が旧水路ですでに掘削され、現水路の擁壁の埋め戻しにゴミが使われていた。24日に表土層等掘削が終了し、25日にグリッド杭を打設した。5月の連休明け、7日から作業員約30名を動員し、本格的に遺構検出を始めた。5月9日、飯田川近くの水路より東側、3・4列部分は試掘調査で遺構・遺物が希薄であったが、周辺に遺構が分布するため、試掘トレンチと重複しない範囲を部分的に調査した。その結果、ピットを検出したことから全面調査に切り替えた。

掘削は溝掘り用ショベル、竹べらなどを用い、遺構検出はジョレン、両刃カマなどで行った。遺物の取り上げは2mごとの小グリッドを基本とし、遺構出土の遺物はこれに遺構名を付した。遺構は掘立柱建物の柱穴、井戸、土坑、溝などを検出した。遺構図面のうち、断面図の作成は作業員が行い、平面図は完掘した範囲から測量業者が電子平板で作成した。

7月から調査範囲西側で検出した堀(SD510)の掘削を始めた。8月に入っても、井戸や堀など、大型の遺構に加え、8・9G・H周辺の重複のある建物柱穴などの調査もあり、堀周辺及び調査範囲西側に調査が進捗しなかった。9月中旬からは狐宮遺跡を調査する予定となっていたことから、調査途中ではあるが堂古遺跡の調査を終了することにした。9月6日、現地説明会を開き57名の参加があった。9月19日にラジコンヘリコプターを使用し調査範囲の航空写真撮影を行い、その後、10月3日まで9列周辺から東側にある井戸で、深くまで完掘できていなかったものを重機で半載した。10月20日から28日まで調

査範囲の埋め戻しを行った。遺構や遺構面を傷めないように土嚢やブルーシートで養生し、調査が完了できなかった範囲も一旦埋め戻した。

## 2) 2015年度 堂古遺跡

2015(平成27)年度は2,930m<sup>2</sup>を対象に4月21日から8月27日まで実施した。4月上旬から準備に着手し、4月21日からは重機による遺構検出面(Ⅲ層)を覆う埋め戻し土の除去、人力によるブルーシートの撤去を開始した。SD510内の埋め戻し土も重機で掘削し、4月22日から27日に人力でSD510の壁面を検出した。

5月7日、作業員を投入しベルコンを設置した。8日からSD510の北東側と南西側に分かれ、北東側は2014年度調査の遺構内埋め戻し土の除去、検出済み遺構の掘削、南西側ではビットなどの遺構掘削を開始した。調査方法や遺構図化の方法は2014年度調査と同様である。21日、南西側で15SK96を調査したところ、底面付近から古墳時代の土師器が出土した(図版63)。遺構内に土師器が混入したものと考え、遺構掘形を確認したところ、土師器を包含する黒褐色粘質土(Ⅵ層)が面的に広がることが判明した。そこで、27日にⅥ層の堆積範囲を確定するための調査を行い、SD510南西側(第8図⑦～Aを結ぶラインの南西側)に堆積することが判明した。このⅥ層は下割遺跡にも分布し、2010・2011・2015年度調査でも遺構壁面などで確認できたが(図版40 15SK169)、遺構・遺物が検出できないため調査していない。未調査範囲を扶むが、Ⅵ層は2003年度下割遺跡調査時のⅨ1層に相当する可能性がある。

5月28日、Ⅵ層堆積範囲を確認する際Ⅵ層上面で溝(15SD29)の一部を検出したため、その延長を検出する調査を6月3日まで行った。15SD29は北東-南西方向の溝で、中世遺構検出面(Ⅲ層)を掘り込む古代から中世の遺構と判明した。しかし15SD29のⅢ層上面での検出が困難であることから、Ⅲ層上面の調査終了後、Ⅵ層調査時に15SD29も含めて調査することとした。その後Ⅲ層上面の調査に戻り、6月19日にSD510北東側が終了、24日にはSD510南西側が終了した。7月7日にはⅢ層上面の終了確認を得た。10日に下割遺跡とともにラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を行い、その後、航空写真撮影時の清掃で新たに検出した遺構の調査を行った。7月21日からは、深度の関係で、底面まで調査していなかった井戸を重機で断ち切る調査に着手した。井戸の多くが分布するSD510北東側にはⅥ層は堆積しないが、断ち切りに際しⅢ層を重機で薄く剥ぎ取りながら、遺構の有無に注意した。そしてSD510北東側Ⅲ層以下に遺構は分布しないことを確認した。また井戸の調査と並行して、15SD29の検出とⅥ層での遺物の分布状況を確認するため、重機によりⅥ層上面まで掘削を行った(図版10)。その結果、15SD29以外に溝を2条(15SD298・299)検出し、22日には17L6周辺でも土師器が分布することが判明した。ここまでの調査で、Ⅵ層では15L15・20(15SK96)周辺と17L6周辺に遺物が分布し(図版63・92)、溝を3条検出した。22日から24日に15SD29・298・299を調査した。遺物は出土しなかったが、いずれもⅡ層直下からⅢ層を掘り込むことが確認でき(図版9)、古代から中世の溝と判断した。

8月3日、人力で15L15・20周辺・17L6周辺のⅥ層を掘削し、遺物は分布するが古墳時代の遺構は分布しないことを確認した(図版10・63・92)。同日、県教委と現地協議し、遺構が分布しないため遺物の分布範囲を中心にやや広めにⅥ層を人力掘削することとした。5・6日、15L15・20周辺と17L6周辺の遺物出土状況と遺物取り上げ後の写真を撮影。調査範囲の図化を行い、Ⅵ層の調査を終了した。井戸の断ち切り調査では、SE588から曲物の残欠(図版64)、15SE222から白木椀(124)・小刀(133)などが出土したが(図版64)、遺物の出土は少なかった。24日に井戸の断ち切り調査が終了し、27日にす

すべての調査が終了した。その後10月27日から埋め戻しを行い、11月16日、国交省に現地を引き渡した。

### 3) 下 割 遺 跡

2015（平成27）年度は1,200m<sup>3</sup>を対象に5月8日から8月27日まで実施した。調査範囲は市道を挟んで東側と西側に分かれ、西側は2010・2011年度調査範囲の東隣に位置する。4月上旬から準備を開始し、堂古遺跡の埋め戻し土除去終了後の5月8日から重機により東側調査区の表土層等掘削を開始した。北東側には農業用水路があり、2014年度堂古遺跡の調査成果から攪乱を受けている可能性が高いと考え、残りがよいと思われる部分から表土層等掘削を行った。遺物包含層を検出したが、遺物が少ないことから、包含層も重機で慎重に掘削した。なお東側調査区のうち、水道管理設部分（14.0m<sup>2</sup>）は国交省・県教委とも協議し、ベルト状に残し調査していない（図版33）。5月12日に西側調査区の表土層等掘削に着手し、14日には終了した。

5月18日から西側調査区に作業員を投入し、ベルトコンベアーの設置と基本層の確認を行った。20日からは遺構の検出、掘削を開始した。調査や遺構図化の方法は2014年度堂古遺跡の調査と同様である。埋土の特徴からは遺構の時期（中世・近世）の特定に至らなかったため、近代以降と判断できるもの以外は記録を残した。井戸や土坑、ピットなどを調査し、2010・2011年度調査範囲から続く遺構も確認したが、掘立柱建物は2010年度調査の延伸部分を除き確認できなかった。

6月8日からは、西側調査区と並行して東側調査区の調査にも着手した。東側調査区では、表土層等掘削時に炭化物が弧状に巡る大型のプランを3か所確認していた（15SK170・199・252）。15日から15SK170・199・252の調査に着手したところ、大量の炭化物とともに、近世陶磁器や石製品などが出土した。近世の遺構であることが判明し、土量も多いことから、ショベルなどの大型道具を用いて掘削した。陶磁器は被熱しているものが多く、焼けた壁材も出土したことから、火事始末と考えられた。このほか井戸やピットの調査を行い、7月2日には遺構掘削が終了した。7日には終了確認を得て、10日に堂古遺跡とともにラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を行った。

8月24日からは井戸の下部を重機で断ち切る調査に着手した。堂古遺跡と同様、井戸の深度が深いと想定していたが、予想よりも浅く遺物も少量であったため、27日には断ち切り調査が終了した。その後10月27日から埋め戻しを行い、11月16日、国交省に現地を引き渡した。

### 4) 二 反 割 遺 跡

2015（平成27）年度は2,580m<sup>3</sup>を対象に7月13日から9月30日まで実施し、その範囲は2011（平成23）年度調査範囲の東隣に位置する。調査前は杉の根株や伐採した樹木が残り、雑木類も繁茂している状況であった。そのため、7月6日から10日にかけて、重機とクローラードンプを使用して雑木類の伐採・搬出を行った。また調査範囲内には未伐採の杉木が残っていたため、国交省と協議し、後日、国交省が伐採を行うことになった。なお遺構面への影響を避けるため、杉木の抜根は行わなかった。

7月13日から重機2台とクローラードンプ2台を使用して、調査範囲東側から表土層等掘削を開始した。遺物の出土が希薄なことから、遺構検出面まで重機で慎重に掘削を行った。全体的に遺構密度はあまり高くはなかった。遺物の出土は、全体的に低調ななかでも中央付近ではややまとまり、その後の調査で15SX435も確認できた。西側では2011年度調査のⅢ層（古墳時代の遺物包含層）に当たる黒色シルト～粘質土層を確認した。15日には、杉木未伐採範囲を除いた調査範囲の表土層等掘削が終了した。

7月21日から作業員約20人を投入し、周囲の壁面の成形、層序の確認を行い、22日にはベルコンを設置した。23日からは東側から2班体制で遺構検出を開始し、ピットを中心に井戸や溝などを調査した。調査や遺構図化の方法は2014年度堂古遺跡の調査と同様である。国交省による杉木伐採の終了後、24日から27日にかけて伐採範囲の表土層等掘削を行った。調査の進展に伴い、遺構埋土に黒色土主体のもの、褐色土主体のもの、灰色土(褐灰色など)主体のものが確認できたが、遺物を含む遺構がほとんどないことから明確な時期の特定には至らなかった。8月27日には堂古遺跡・下割遺跡の調査が終了したため、31日、その1班が合流し3班作業員30人体制での調査となった。

9月に入り、掘立柱建物を把握するため平面図で検討を行った。その結果、数棟の建物の存在が判明するとともに、規模や構造に比して柱穴が貧弱なことも判明した。そこで、貧弱な柱穴のいくつかは、未検出の掘形などがないか再確認を行ったが、検出されなかった。また未検出の柱穴が存在すると予想される場所は5cmずつ2回に分けて検出面を掘り下げ、柱穴の検出に努めた。9月9日、遺構の調査状況について2011年度の調査担当者と現地で協議し、未検出の掘形など遺構の掘り残しはないという結論に至った。11日にはすべての遺構掘削が終了し、15日から17日にはローリングタワーを使用するなどして建物などの部分写真の撮影を行った。16日にラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を行い、17日、県教委の終了確認を得た。19日から23日に現地説明会の準備、未終了の遺構図面を作成した。26日に現地説明会を実施し、63名の参加があった。現地を公開するとともに、堂古遺跡・下割遺跡の写真や遺物も展示した。9月28日からは井戸の断ち割り調査を開始し、30日には終了した。

10月1日から8日にかけて残務処理・撤収準備を行い、9日に遺物や図面などを運搬し、現地での作業を終了した。その後10月19日から埋め戻しを行い、10月27日、国交省に現地を引き渡した。

### 3 整理作業

2014(平成26)年度堂古遺跡の整理作業は現地調査と並行しながら進めた。遺物の水洗・注記、遺構記録類の整理の一部は現地事務所で行い、現地調査終了後、報告書作成に関わる遺構・遺物図版の作成、原稿執筆などを株式会社古田組遺跡調査研究室で行った。2014年度分の整理作業は3月末に終了した。

2015(平成27)年度調査分堂古遺跡・下割遺跡の整理作業は、現地調査と並行しながら進めた。遺物の水洗・注記、遺物の実測・拓本の一部、遺構記録類の整理の一部は現地事務所で行った。現地調査終了後の10月上旬から、遺物の実測・拓本、報告書作成に関わる遺構・遺物図版作成、原稿執筆などを小柳建設株式会社埋蔵文化財調査事務所で行った。また2014年度堂古遺跡整理分も含め、編集を行った。

2016(平成28)年度は二反割遺跡を中心に整理作業を行ったが、遺物の水洗・注記、遺構図面の校正は2015年度の現地調査と並行しながら進め、10月上旬(現地調査終了時)に終了した。2016年4月から、遺物の接合・復元・実測・拓本、報告書作成に関わる遺構・遺物図版の作成、原稿執筆を新潟県埋蔵文化財センターで行った。その後、堂古遺跡・下割遺跡分も合わせて編集し、印刷刊行した。

### 4 調査・整理体制

#### A 試掘・確認調査

堂古遺跡と2015年度下割遺跡・二反割遺跡に係る試掘・確認調査の体制は以下のとおりである。

## 4 調査・整理体制

	堂古遺跡・下朝遺跡試掘調査	二反朝遺跡確認調査
調査期間	2008（平成20）年8月27日～29日、11月17日～21日	2012（平成24）年7月9日～12日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 武藤克己）	新潟県教育委員会（教育長 高井盛雄）
調査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総括	木村正昭（事務局長）	木村正昭（事務局長）
管理	斎藤 栄（総務課長）	熊倉宏二（総務課長）
庶務	長谷川靖（同 班長）	伊藤 忍（同 班長）
調査総括	藤巻正信（調査課長）	北村 亮（調査課長）
調査担当	田海義正（同 課長代理）	渡邊裕之（同 課長代理）
調査員	品野義昭（同 主任調査員）	朝岡政康（同 主任調査員）

## B 本調査・整理作業

堂古遺跡と2015年度下朝遺跡・二反朝遺跡に係る本調査・整理作業の体制は以下のとおりである。

	2014年度 堂古遺跡	2015年度 堂古遺跡・下朝遺跡・二反朝遺跡
調査期間	2014（平成26）年4月7日～10月3日	堂古遺跡 2015（平成27）年4月21日～8月27日 下朝遺跡 2015（平成27）年5月8日～8月27日 二反朝遺跡 2015（平成27）年7月13日～9月30日
整理期間	2014年10月6日～2015年3月31日	堂古遺跡・下朝遺跡 2015年10月1日～2016年3月31日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 高井盛雄）	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
調査	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団	
総括	土肥 茂（事務局長）	土肥 茂（事務局長）
管理	熊倉宏二（総務課長）	松田 祐（総務課長）
庶務	仲川国博（同 班長）	仲川国博（同 班長）
調査総括	高橋 保（調査課長）	鈴木俊成（調査課長）
指導	田海義正（同 課長代理）	澤田 敦（同 課長代理）
調査担当	飯坂盛泰（同 班長）	山崎忠良（同 班長）
支援	株式会社古田組 現場代理人 竹内一喜 調査員 城前喜英・渡邊大士	小柳建設株式会社 現場代理人 大島清隆 調査員 桶谷 潤・福水 徹 補助員 坂之井真弓（10月～3月）・宮嶋佑也・小林 睦

	2016年度 堂古遺跡・下朝遺跡・二反朝遺跡
整理期間	2016（平成28）年4月1日～2017年3月31日
整理	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総括	土肥 茂（事務局長）
管理	松田 祐（総務課長）
庶務	星野美奈（同 班長）
整理総括	鈴木俊成（調査課長）
指導	高橋 保（同 課長代理）
整理担当	山崎忠良（同 専門調査員）

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

遺跡周辺の環境について、『新潟県埋蔵文化財調査報告書第171集 狐宮遺跡』第Ⅱ章〔飯坂・河崎・桐原 2007〕、『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 集延寺遺跡』第Ⅱ章〔島野 2008〕、『新潟県埋蔵文化財調査報告書第230集 下割遺跡V』第Ⅱ章〔山下 2012〕を一部改変して引用する。

### 1 遺跡周辺の地理的環境（第5図）

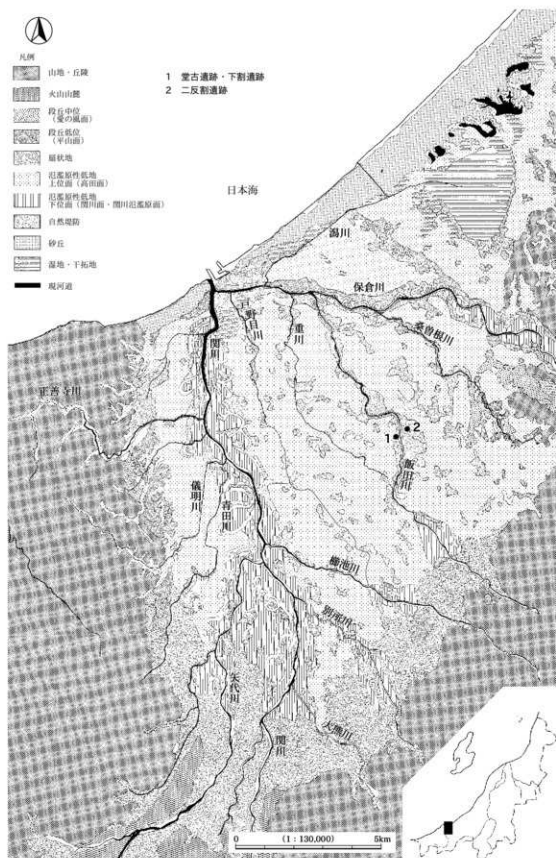
堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡が立地する高田平野は、新潟県南西部に位置する沖積平野である。その形状は上越市五智、同柿崎区竹鼻、同三和区岡田、妙高市小出雲付近を頂点とする不等辺四角形となっている。北辺は長さ20kmにわたり湯野砂丘が発達し、海岸と平野を区画している。東辺から南東辺には東頸城丘陵が広がり、柏崎平野・新潟平野・十日町盆地・長野盆地と高田平野を隔てている。東頸城丘陵北端には米山を主峰とする米山山地、南東部には信越国境を成す関田山脈、南端には斑尾山がそびえている。西辺には西頸城丘陵が広がり海岸に沿って西方に延び、糸魚川市の平野部と高田平野を隔てている。西頸城丘陵南方には西頸城山地が連なり、その北端には青田難波山、南端には主峰の火打山がそびえ、南には富士火山帯の北端に位置する焼山及び妙高山が連なり、平野南端は妙高山の岩屑流や火砕流により形成された丘陵と接している。

高田平野にはこれら周辺の山地や山脈、丘陵から多数の河川が流入している。最大の河川である関川は、火打山・妙高山及び長野県との県境となる高妻山・乙妻山付近を水源とし、途中、太田切川・矢代川・青田川・穠明川・藤池川・飯田川・保倉川などを合流し、平野西側を北流して日本海に注ぐ。また北東部では、東頸城丘陵・米山山地を水源とする吉川・大出口川・柿崎川などが高田平野に流出し、日本海に注いでいる。北東部から南西部にかけて、これらの河川により形成された扇状地が発達している。

高田平野の地形面は階段状で、もっとも低い関川氾濫原・関川面、もっとも高い高田面の2段の沖積段丘から構成される。堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡が立地する高田面は主に礫・砂・シルトの互層からなる高田層によって形成された堆積面であり、その分布は平野の大部分を占める。平野の中央部において高田面の表層地質や珪藻遺骸について検討した結果、この地域には沼沢地のような環境が広がっていたことが明らかになっている〔高田平原団体研究グループ1962〕。また平野に分布する遺跡を検討した結果、高田面は古墳時代初頭から段丘化し始め、数回に及ぶ洪水性堆積物によって覆われながら、平安時代には完全に段丘化したと考えられている〔高田平原団体研究グループ1980、岡本1999〕。しかし、堂古遺跡から約3.5km西に位置する狐宮遺跡（第6図5）では、縄文時代草創期の石器や後期・晩期の土器が出土しており、少なくとも縄文時代後半には人々が居住できる環境が整っていた可能性があり、高田面の形成年代については検討が必要であろう〔飯坂・河崎ほか2007〕。

堂古遺跡・下割遺跡は飯田川左岸の自然堤防上に、二反割遺跡は飯田川右岸の自然堤防上に立地する。左岸の飯田川と関川との間には小規模な自然堤防が点在し、その分布は一定の方向性をもって配列している。一方右岸は、桑曾根川や飯田川周辺のほか、両河川の間とそれと並行するように自然堤防が形成されている。このような自然堤防上の微高地に現集落も成立している。

1 遺跡周辺の地理的環境



## 2 遺跡の分布と歴史的環境

堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡が立地する高田平野とその周辺に広がる古墳時代から中世の主な遺跡の分布は、第6図に示すとおりである。平野内における古代の遺跡は、多くが自然堤防上や扇状地上に位置する〔笹澤 2003a〕。この傾向は、古墳時代の集落や城館跡を除く中世の遺跡でも同様である〔戸根 2003〕。

**古墳時代** 高田平野は、平野周縁の丘陵上を中心に中期から後期の群集墳が密集する古墳の集中地域である。飯田川流域でも国指定史跡の水科古墳群（10）・宮口古墳群（11）などが所在する。

集落遺跡として、前期は下割遺跡（2）・津倉田遺跡（12）・一之口遺跡（23）・北割遺跡（13）・荒町南新田遺跡（14）などが自然堤防上などで多く確認されている。飯田川流域の津倉田遺跡と下割遺跡からは畿内系のタタキ甕や布留甕が出土しており、なかでも下割遺跡は畿内系タタキ甕の出土量が多い〔山崎・金子 2004、尾崎・長沼 2011〕。中期の集落遺跡としては月岡遺跡（20）・倉田遺跡（21）・北割遺跡などが挙げられるが、その数は減少する。後期以降は再び増加し、荒町南新田遺跡・宮ノ本遺跡（33）・杉明遺跡・岡嶺遺跡などが平野部西部の段丘上や扇状地周辺で確認されるようになる。

**古代** 高田平野は古代の頸城郡に位置する。頸城郡は大室 2（702）年に古志郡・魚沼郡・蒲原郡とともに越後国に編入される以前は、越中国に属していた。越後国に編入後、頸城郡に国府が置かれたことが『和名類聚抄』に記載されている。その所在地に関しては、先学によって複数の推定地が提示されているが、国府関連遺跡としては、関川右岸の段丘上に立地する今池遺跡（15）と周辺の子安遺跡（16）・下新町遺跡（17）が挙げられる。この3遺跡に本長者原廃寺（18）を加え、「今池遺跡群」と総称している。今池遺跡は8世紀前半～9世紀前半の東西棟の掘立柱建物が多数検出され、円面硯や瓦片、近畿地方から搬入された土器が出土している〔坂井 1984〕。子安遺跡は今池遺跡の衰退後に遺構数が増加し、この地域の中核となる遺跡である〔坂井 前掲、野村 2009〕。本長者原廃寺は南北に主軸をもつ基壇跡や、今池遺跡との位置関係などから国分寺跡と推定されている〔小島・中村 1984〕。また関川と矢代川間の段丘上に立地する栗原遺跡（19）は頸城郡衙に関連する遺跡と考えられる。栗原遺跡は8世紀初頭～中葉の遺跡で、周辺の同時期の遺跡として月岡遺跡（20）・倉田遺跡（21）・東沖遺跡（22）が位置する。栗原遺跡では基壇跡や大型の掘立柱建物が出され、「郡」と記された墨書土器や帯金具が出土している〔坂井 1982、高橋 1984〕。倉田遺跡では規格性のある建物が出され、その配置には計画性が認められる。周辺の頸城郡衙に関連する栗原遺跡との関係性から、曹司の一角と推測されている〔佐藤 2013〕。

堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡周辺の8世紀～9世紀代を中心とする遺跡は、三角田遺跡（6）・延命寺遺跡（7）・狐宮遺跡（5）・越前遺跡（9）などがある。三角田遺跡では8世紀～9世紀にかけて集落が営まれ、それに伴う畑が検出された〔沢田・細井 2006〕。微高地とその周縁において断続的に居住・生産活動が行われたと推定される。延命寺遺跡では木簡が21点出土し、そのなかに現在の地名との関係性をうかがえるものもあった。帯金具・貝注磨などの出土から官衙的な性格の遺跡と推定されている〔山崎・畠野 2008〕。狐宮遺跡は川辺に営まれた集落で、竪穴建物・掘立柱建物・井戸などととも、畑が検出された。遺物では石製腰帯具や墨書土器が出土した〔飯坂・河崎 前掲〕。越前遺跡では、自然流路に沿って計画的に配置された遺構が検出され、遺物では律令祭祀具や大量の墨書土器が出土したことから、公的機関または富裕層が関与した遺跡と推定されている〔笹澤 2003b〕。



古代の窯跡は高田平野緑線の丘陵に立地する。東頸城丘陵には末野窯跡(34)・日向窯跡(35)などが、西頸城丘陵には下馬場古窯跡群(36)・滝寺古窯跡群(37)・大貫古窯跡群(38)・向橋古窯跡群(39)などが分布する。高田平野の須恵器生産は7世紀末に下馬場古窯跡群で開始され、8世紀代に活発化するが、9世紀中葉に佐渡国の小泊窯跡群産が越後国に流通し始めると衰退する〔笹澤2002〕。向橋古窯跡群は瓦陶兼業の窯跡で、時期は8世紀第3四半期と推定されている〔笹澤2003c〕。

中世 中世になると、直江津地域が中世都市として発展する。直江津地域には守護所と考えられる至徳寺跡(40)、上杉氏の居館である御館跡(41)や安国寺(42)などが立地している〔戸根前掲〕。御館跡は弘治年間(1555～1558年)に上杉謙信によって造営されたが、謙信の跡目を景勝と景虎が争った「御館の乱」では景虎側の拠点となり、天正7(1578)年に落城したことが知られている。至徳寺跡は11世紀～13世紀前半・14世紀末～16世紀初頭・16世紀末～17世紀前半の遺物が出土した。遺構は、中世前期では饗宴に用いられたと思われる大量の土器が出土した土坑などがあり、中世後期には幅6～8mの堀が構築される。堀間の距離は約250mで、全周していると考えると一辺が2町を超える。守護所に比定する説が有力であるが、至徳寺との関係など、不明瞭な部分も多い〔鶴巻・水澤2003〕。

堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡周辺には清水田遺跡(4)が位置する。堂古遺跡・下割遺跡から西約1kmに位置する清水田遺跡は水田などの生産域を含む集落遺跡で、下割遺跡と清水田遺跡の間には水田域が広がっていたと考えられる。遺物は鉄鍋や鉄瓶のほか、70枚以上の銭貨が出土している〔佐藤・城前ほか2015〕。下割遺跡2002・2003年度調査分・樋田遺跡(29)・水久保遺跡(30)・子安遺跡(16)は溝が建物群を区画し、複数の屋敷地が集合して集落を形成している〔山崎・外山ほか2003、山崎・金子ほか前掲〕。横曽根遺跡(28)は幅3～6mの溝で区画され、40～50mの方形地割が推定できる。居館としての性格がうかがえ、青磁酒海壺なども出土している〔水澤2003〕。用言寺遺跡(31)は居住域と生産域が一体的に検出できた事例で、散村的な景観がうかがえる〔加藤・杉田ほか2006〕。

No	遺跡名	主な時代	No	遺跡名	主な時代	No	遺跡名	主な時代
1	堂古遺跡	古墳～中世	15	今池遺跡	奈良・平安	29	樋田遺跡	中世
2	下割遺跡	古墳～近世	16	子安遺跡	弥生～中世	30	水久保遺跡	中世
3	二反割遺跡	古墳～中世	17	下新町遺跡	弥生～平安	31	用言寺遺跡	平安・中世
4	清水田遺跡	平安～近世	18	本長者原廃寺	奈良	32	池田遺跡	平安・中世
5	狐宮遺跡	縄文～古代	19	栗原遺跡	奈良	33	宮ノ本遺跡	古墳・中世
6	三角田遺跡	古代～近世	20	月岡遺跡	古墳～平安	34	末野窯跡	平安
7	延命寺遺跡	古墳～奈良	21	倉田遺跡	古墳・奈良	35	日向窯跡	奈良
8	榎敷新田遺跡	平安	22	東津遺跡	奈良・平安	36	下馬場古窯跡群	飛鳥
9	越前遺跡	奈良・平安	23	一之口遺跡	古墳～平安	37	滝寺古窯跡群	奈良・平安
10	水科古墳群	古墳	24	八反田遺跡	縄文～近世	38	大貫古窯跡群	平安
11	宮口古墳群	古墳	25	山廻遺跡	弥生・飛鳥	39	向橋古窯跡群	奈良
12	津倉田遺跡	古墳～奈良	26	岩ノ原遺跡	平安	40	至徳寺跡	中世
13	北割遺跡	古墳	27	海道遺跡	平安～近世	41	御館跡	中世
14	荒町南新田遺跡	弥生～中世	28	横曽根遺跡	中世	42	安国寺	中世

第1表 周辺の主な遺跡(表の番号は第6図の番号と一致する)



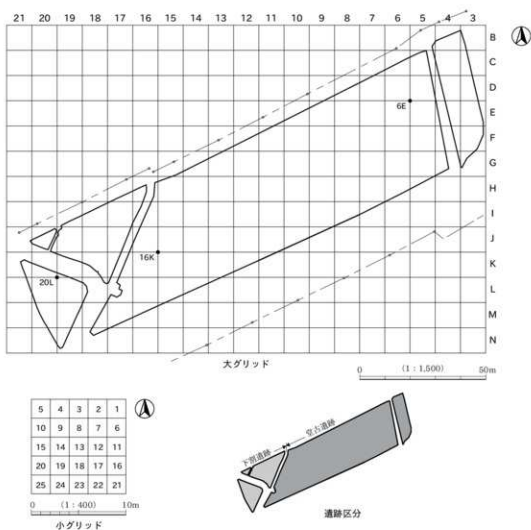
第6図 周辺の主な遺跡(細井・高橋2012を改変)

[国土地理院発行「高田平野東部」・「高田平野西部」(林嶋) 1:50,000 原図]

### 第三章 堂古遺跡・下割遺跡

#### 1 グリッドの設定 (第7図)

グリッドは、2010(平成22)年度下割遺跡の調査時に堂古遺跡・下割遺跡を含めて設定されている〔石川・山下ほか2012〕。グリッド方向は、国家座標軸(日本測地系)と一致する。グリッドは大小2種類あり、大グリッドは10m四方を単位とし、小グリッドはそれを2m四方に25等分したものである。大グリッドの名称は、北東隅の杭を基点に東西方向(東→西)を算用数字、南北方向(北→南)をアルファベットとし、両者の組合せで表示している。また、小グリッドは1～25の算用数字で表し、北東隅を1、南西隅を25とした。グリッド表記は「7D1」のように呼称した。グリッド杭の座標値(世界測地系、東日本大震災後の補正値)は6E杭(X=125940.514, Y=-16030.310)、16K杭(X=125880.514, Y=-16130.308)、20L杭(X=125870.514, Y=-16170.307)である。



第7図 堂古遺跡・下割遺跡のグリッド設定図

## 2 基本層序(第8図)

### A 堂古遺跡

堂古遺跡は、飯田川によって形成された自然堤防上に立地する。微地形は、飯田川に近い北東側から南西側に向かって高くなるが、11～13H・I周辺を境に南西側に向かい再び低くなる(図版2)。標高は13.3～14.5mである。調査範囲は昭和50年代まで畑として利用されており、遺物包含層は失われ、遺構検出面(Ⅲ層)まで当時の畑の痕跡が残る。北東側は、4・5列に位置する水路を掘削した時の発生土が旧表土(Ⅱ層)上に20～80cm盛られていた。古墳時代の土師器が出土したⅥ層下面(Ⅶ・Ⅷ層上面)の微地形は北東側から南西側に向かい徐々に低くなり、標高は13.2～14.1m程度である(図版10)。Ⅵ層は第8図⑦～Aを結ぶラインの南西側に堆積し、隣接する下割遺跡にも延びる(図版40 15SK169)。自然堤防背後の地形の低いところに堆積している状況が見て取れる。出土した土師器も摩耗しており、接合する破片は非常に少ない。

- I層: 黒褐色粘質土(10YR3/2) 粘性強。しまりなし。腐葉土。現表土。
  - Ⅱ層: 暗オリーブ褐色粘質土(2.5Y3/3) 粘性強。しまりなし。旧表土。
  - Ⅲ層: オリーブ褐色粘質土(2.5Y4/6) 粘性強。しまり弱。遺構検出面。古代の遺物が少量出土。
  - Ⅳ層: 褐色粘質土(10YR4/4) 粘性強。しまり弱。
  - V層: 暗褐色粘質土(10YR3/3) 粘性・しまり強。
  - Ⅵ層: 黒褐色粘質土(2.5Y3/1) 粘性・しまり強。灰色粘質土をまばらに含む。古墳時代の土師器出土。
- 下割遺跡 2003年度調査IX 1層に相当する可能性がある。
- Ⅶ層: 黄灰色粘質土(2.5Y4/1) 粘性普通。しまり強。暗褐色粘質土をまばらに含む。
  - Ⅷ層: 黄褐色粘質土(2.5Y5/6) 粘性強。しまり普通。灰白色粘質土をまばらに含む。

### B 下割遺跡

2015(平成27)年度調査範囲は遺跡の東端に当たり、飯田川左岸の自然堤防上に位置する。標高は13.5～14.0mで、調査前は荒蕪地であった。調査範囲内の微地形はほぼ平坦だが、東側から南側は堂古遺跡との境界に位置する農業用水路に向かい傾斜する(図版33)。後世の改変を受けて、遺存状態が良好ではないところもあるが、基本層序は1～

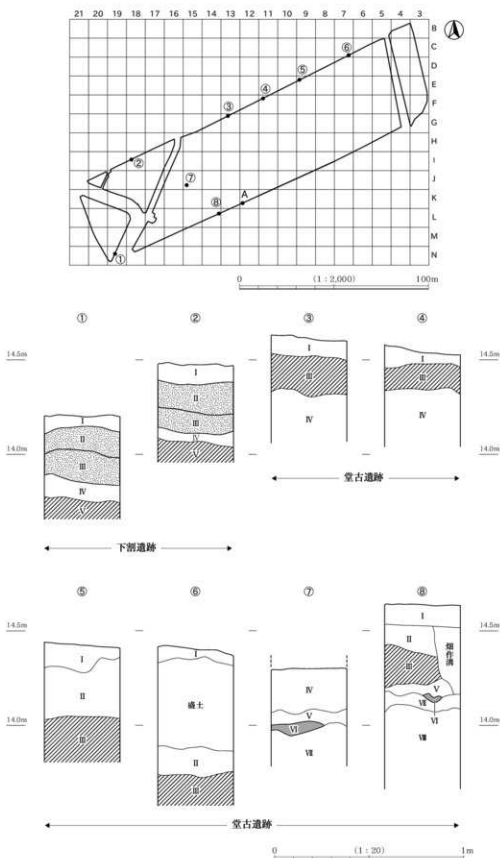
V層に分層した。これは2010・2011年度下割遺跡の調査成果とほぼ同じである(第2表)。

- I層: 褐色～暗褐色粘質土(10YR4/4～3/3) 粘性・しまり弱。現表土。
- Ⅱ層: 褐色～暗褐色粘質土(10YR4/4～3/4) 粘性・しまり弱。近世以降の遺物包含層。
- Ⅲ層: 黒褐色～黄灰色粘質土(10YR3/2～2.5Y4/1) 粘性・しまり弱～普通。中世以降の遺物包含層。
- Ⅳ層: 黄褐色～黄灰色粘質土(10YR5/6～2.5Y4/1) 粘性弱～強。しまりやや弱～普通。黒褐色粘質土・褐灰色粘質土を少量含む。古代の遺物がごく少量出土した。漸移層。
- V層: 明褐色～明黄褐色粘質土(7.5YR5/6～10YR6/6) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土をまばらに少量含む。遺構検出面。

2010・2011年度	2015年度	備考
0層	—	盛土
I層	I層	表土
I'層	—	旧表土
Ⅱ層	Ⅱ層	近世以降の遺物包含層
Ⅲ層	Ⅲ層	中世以降の遺物包含層
Ⅳ層	Ⅳ層	漸移層
V層	V層	遺構検出面

第2表 下割遺跡基本層序対応表

2 基本層序



第8図 堂古遺跡・下湖遺跡の基本層序

### 3 堂古遺跡

#### A 遺構

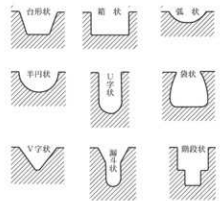
##### 1) 記述の方法と形状の分類

遺構の個別説明は、主要な遺構と重要な遺構について本文・個別図・遺構個別写真・遺構観察表を用いて行う。それ以外の遺構は全体図と分割図に掲載している。遺構種別は略号を用い、掘立柱建物をも「SB」、竪穴状遺構をも「SI」、井戸をも「SE」、焼土土坑をも「ST」、土坑をも「SK」、ピットをも「P」、溝（畑作溝を含む）をも「SD」、杭列をも「SA」、性格不明遺構をも「SX」と表示した。遺構番号は、時代・種別・グリッドに関わらず調査順に通し番号とし、遺構略号の後に付した。2015年度調査分は遺構略号の前に「15」をつけ、2014年度調査分と区別した。整理作業により、2014年度調査の1017・1020・1088・1089・1095～1099・1130・1132は欠番とした。平面形態・断面形態などの表記は、和泉A遺跡の分類〔加藤・荒川1999〕を参考に（第9図）、当てはまらないものは適切な表現を記載した。規模や深さは基本的に検出面での計測値である。埋土の色調はおおむね黒色～オリーブ褐色を「黒色系」、褐色～黄褐色を「褐色系」、褐色～青灰色を「灰色系」と呼称する。事実記載の新旧関係は、基本的に直接の切り合いによる新旧を記述している。遺構出土遺物は層位や出土状況を記述しているが、層位の記述がないものは埋土からの出土である。

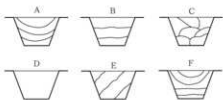
##### 平面形態の分類



##### 断面形態の分類



##### 堆積状況



##### 平面形態

円形	半径が短径の1.2倍未満のもの
楕円形	半径が短径の1.2倍以上のもの
方形	長軸が短軸の1.2倍未満のもの
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの
不整形	四角で一定の平面形を持たないもの

##### 断面形態

台形状	底部に平面面をもち、緩やか～急角度に立ち上がるもの
箱状	底部に平面面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるもの
弧状	底部に平面面をもたない碗状で、緩やかに立ち上がるもの
平底状	底部に平面面をもたない碗状で、急角度に立ち上がるもの
U字状	縁面の径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの
鉢状	縁面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの
V字状	点的な底部をもち、急角度に立ち上がるもの
罌斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの
階段状	階段状の立ち上がりをもつもの

##### 堆積状況

レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
水 平	複数層が水平に堆積する。
ブロック状	ブロック状に堆積する。
卓 層	覆土が単一層のもの
乱 位	乱れに堆積するもの
水平レンズ	覆土下位は水平、上位はレンズ状に堆積する。

第9図 遺構平面形態・断面形態の分類と堆積状況

## 2) 遺構の概要と時期

遺跡東側を北に向かい直線的に流れる飯田川は、改修されて現在の流路となっているが、かつては蛇行を繰り返し、南側約100mと北側約30mに三日月湖として往時の流路が残存する。遺跡は南東-北西方向に形成された飯田川左岸の自然堤防上に立地する。この自然堤防から外れる北東側と南西側は、遺構の分布が希薄である。また堂古遺跡と下割遺跡の間には、北東に向かい農業用水路が流れている。この水路部分は南東側（堂古遺跡側）、北西側（下割遺跡側）から地形が低くなる地点に当たり、飯田川の旧流路を利用している可能性もある。飯田川はたびたび氾濫を起こし、流路が変わる暴れ川であったが、調査範囲内で洪水の痕跡は確認できず、下割遺跡も含め比較的安定した場所であったことが分かる。

検出した遺構数は第3表のとおりである。近年の畑作の影響はあるものの遺構の遺存状況は比較的良好なものも多く、15SD29・298・299を除き、基本的にⅢ層で検出した。Ⅲ層からは古代の遺物が少量ではあるが出土する。主にⅢ層で検出した遺構からは、古代の遺物のみが出土する場合、古代と中世の遺物が出土する場合、中世の遺物のみが出土する場合、古代から近世の遺物が出土する場合、遺物が出土しない場合などがあるが、遺構埋土が黒色系やⅢ・Ⅳ層由来の褐色系で共通することから、遺構の時期はほぼ同じ、大半が中世と判断した。時期の詳細は埋土が共通する上、形態上の差異もほとんど認められないことから不明のものも多い。15SD29・299はⅥ層、15SD298はⅤ・Ⅵ層で検出した。中世と判断した遺構とは異なり、褐色系埋土などが主体的に堆積する。断面の観察などでいずれもⅢ層を掘り込むことを確認したが（図版9）、埋土の色調がⅢ層と類似するためⅢ層では検出できなかった。分析の結果15SD29の埋土は腐植含量が少なく（第Ⅲ章5D）、中世の遺構とは堆積環境が異なる可能性もある。そのため、ほかの中世の遺構よりも相対的に古く、古代にさかのぼる可能性もあると考えているが、遺物が出土していないことから詳細は不明である。そのため古代から中世の遺構とするとどめる。またⅢ層から古代の遺物が少量ながら出土したこと、古代の可能性もある遺構（15SD29・298・299）が存在することから、井戸の断り割り調査の際、Ⅲ層を重機で薄く剥ぎ取って遺構の有無を確認したが、遺構は検出できなかった。周辺に古代の遺跡が所在し、その縁辺部に当たる可能性も考えられる。

遺構分布については、3・4E・F周辺、7F周辺、17・18M・N周辺に遺構の希薄な範囲が存在する。このうち3・4E・F周辺、17・18M・N周辺は、自然堤防から外れていく範囲である。掘立柱建物柱は8・9G・H周辺や6～10D・E周辺に分布し、建物は一部重複しながら構築されている。井戸は建物周辺のほか、建物からやや距離のある11～14G～I周辺にも分布する。また竪穴状遺構は掘立柱建物と重複する傾向にあり、埋葬に関連する可能性のある土坑は建物と一定の距離をとって分布する。調査範囲内は畑地として利用され、その耕作痕は検出面にも及んでいるが、水田の痕跡は確認できなかった。自然堤防上に位置するため水田には不向きと考えられ、そのことは中世も同様であったと思われる。

15SD29・298・299が古代から中世の遺構で、そのほかはおおむね中世の遺構と考えられることから、遺構の種別ごとに順次説明していく。

遺構	2014年度	2015年度	合計
掘立柱建物	10	2	12
竪穴状遺構	8	0	8
井戸	69	24	93
溝	20	7	27
畑作溝	12	0	12
焼土土坑	1	0	1
土坑	60	12	72
ピット	850以上	253	1103以上
性格不明遺構	2	1	3

第3表 堂古遺跡の遺構数

### 3) 掘立柱建物

掘立柱建物は12棟検出した。SB61・73・170・240・1013・1014・1019、15SB295は発掘調査段階で掘立柱建物と認定していたが、そのほかの建物は整理作業の結果、図面上で抽出・認定したものである。多くが側柱建物で、張り出しがつく建物（SB73・1014）、廂ないし下屋（以下、廂で統一する）がつく建物（SB1013、15SB304）も確認できる。柱穴の平面形状は円形や楕円形が多く、規模は径0.20～0.50mのものが多い。礎盤や柱根は遺存していなかったが、深さがやや深い柱穴などでは柱根の確認できるものが多い。底面には柱が接地してできた変色部や硬化部（柱の当たり）を伴うものもある。建物と認定した柱穴以外にも、柱痕や柱の当たりが確認できるものがあり、その多くは建物などを構成する柱穴として機能した可能性が高いと考えている。掘立柱建物の記述に当たり、便宜上、柱数が多い側あるいは長軸方向を「桁行」とし、柱数が少ない側あるいは短軸方向を「梁行」とする。建物に付属すると考えられる杭列（15SA305）と溝（SD653）も合わせて記述する。

#### SB61（図版11・65）

5Fに位置する。桁行2間（3.42m）×梁行2間（3.26m）、桁行方向N-15°-Eの南北棟の建物である。北西隅柱は検出できず、SE211に切られたと考えられる。面積は約11.15m<sup>2</sup>である。柱穴間隔は桁行1.81mと3.42m、梁行1.56～1.71mである。P8がやや内側に位置するため、柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形は円形がほとんどで、断面形はU字状が多い。規模は径が0.30～0.41mでほぼ同じだが、深さは0.27～0.50mとややばらつく。地形的に低い地点に位置するP16の底面標高は、ほかの柱穴に比べやや低い。柱痕は3基で確認でき、径は0.12～0.15mである。周辺にはSE33などが位置する。北西側でSE211と重複し、新旧関係はSE211に切られる。遺物は出土していない。

#### SB73（図版11・65）

7・8G・Hに位置する。桁行3間（6.45m）×梁行3間（3.18m）の身舎西妻側に張り出し（0.90m×2.04m）がつく建物である。桁行方向はN-87°-Wで、面積は約22.35m<sup>2</sup>である。身舎桁行の柱穴間隔は1.80～2.63mで、桁行中央のP72-P68間、P67-P71間が広がる。梁行の間隔は0.89～1.71mとなる。張り出しは身舎から0.90mの出となる。桁行北側のP67・71がやや外側に位置するが、柱筋の通りは比較的よい。柱穴の平面形は円形や楕円形、断面形は漏斗状やU字状が多い。規模は径0.20～0.52m、深さ0.23～0.63mとばらつきがある。張り出し部分の柱穴（P79・81）は、ほかの柱穴と比べて特に小型ということはない。柱痕は9基で確認でき、径は0.07～0.22mとばらつく。周辺にはSB1013・1100・1134、15SB304が位置する。建物のほかにもS1255やSE80・412・475・800、SD151、多くのピットが隣接することから、SB73が集落の中心域に位置していることが分かる。北東側でSK63と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

#### SB170・15SA305（図版11・66）

SB170は9E・Fに位置し、東面から南面には15SA305（廂）が設置される。桁行2間（5.01m）×梁行2間（3.76m）、桁行方向N-11°-Eの南北棟の総柱建物である。面積は約18.84m<sup>2</sup>である。桁行の柱穴間隔は2.28～2.71m、梁行は1.80～2.03mである。P831がやや外側に位置するものの、柱筋の通りは比較的よい。柱穴の平面形は楕円形や円形、断面形は階段状が多い。規模は径0.24～0.79m、深さ0.29～0.72mである。P831が極端に小さいが、それ以外の柱穴はほかの建物に比べ大型のものが多い。柱痕は6基で確認でき、径は0.12～0.23mである。建物内に位置するP830もほかの柱穴と同規模で、



束柱ではなく棟木を支持する柱が据えられた可能性も考えられよう。遺物は P828・832 から土師器片が少量出土した。

15SA305 は 5 基の柱穴で構成される杭列である。当初は SB170 の廂と考えていたが、整理作業時に柱穴配置などを考慮して杭列に変更した経緯がある。9E・F (SB170 の南東部分) に位置する。長軸方向は N-6°-E、N-83°-W である。SB170 との距離は約 0.6m で近接する。柱穴間隔は 1.12 ～ 2.51m で、柱穴の平面形は楕円形、断面形は U 字状が多い。規模は径 0.20 ～ 0.47m、深さ 0.19 ～ 0.37m である。SB170 の柱穴よりも小型のものが多い。柱痕は 2 基で確認でき、径は 0.11m と 0.18m である。性格は堀などを想定しているが、SB170 に近接する点にやや疑問が残る。遺物は出土していない。

周辺には SB1019、SE154・169、SD150・151 などが位置し、特に北西側約 2m に位置する SB1019 とは軸方向をそろえている。SE306、P307 と重複し、新旧関係は SE306、P307 を切る。

#### SB240 (図版 11・66)

6C・D に位置する。周辺の微地形は北側に向かい徐々に傾斜する。桁行 3 間 (6.79m) × 梁行 2 間 (4.05m)、桁行方向 N-6°-E の南北棟の建物である。面積は約 27.50m<sup>2</sup> である。桁行の柱穴間隔は 1.92 ～ 2.77m、梁行は 1.93 ～ 2.14m で、柱筋の通りはよい。桁行中央の P230-P206 間、P226-P225 間が広がるが、それ以外は 2m 前後で梁行の柱穴間隔とほぼ同じである。柱穴の平面形は円形が、断面形は U 字状が多い。規模は径 0.23 ～ 0.39m、深さ 0.09 ～ 0.65m である。規模はほぼ同じだが、深さにかなりばらつきがあり、特に梁行中央の P242・244 はかなり浅い。P230-P225 間に位置する P222 は深さが 0.23m で、P242・244 を除くと一番浅い。間仕切柱が据えられていたと考えられる。柱痕は 7 基で確認できる。径は 0.08 ～ 0.15m で、0.10m 前後が多い。西側で SD209 と重複し、新旧関係は SD209 に切られる (図版 4)。建物内に SK204 が位置するが、SK204 が埋葬に関連する土坑の可能性もあるため、SB240 と同時に存在するとは考えにくい。遺物は出土していない。

#### SB1013 (図版 12・62・67)

7・8H に位置する。桁行 2 間 (5.60m) × 梁行 2 間 (3.74m) の身舎の北側に廂がつく東西棟の建物で、廂は身舎から 1.15m の出となる。桁行方向は N-79°-W、面積は約 27.38m<sup>2</sup> である。身舎桁行の柱穴間隔は 2.77 ～ 2.88m、梁行は 1.80 ～ 3.71m となる。柱筋の通りはよい。柱穴の平面形は円形や楕円形、断面形は U 字状が多い。規模は径 0.28 ～ 0.56m、深さ 0.34 ～ 0.96m で、深さにかなりばらつきがある。柱穴の規模は、身舎よりも廂の方がやや小型となる。建物内には、P604-P985 間に P349 が位置する。P349 の規模はほかの柱穴と同じだが、深さは P667 などと比べやや浅い。棟木を支持する柱が据えられた可能性も考えられる。柱痕は 8 基で確認できる。径は 0.08 ～ 0.16m で、0.10m 前後が多い。P682 では柱の当たりが確認できる。周辺には SB73・1100・1134、15SB304、SE412、SD151・318・328 のほか、竪穴状遺構や土坑なども集中しており、SB1013 が集落の中心域に位置することが分かる。遺物は、P184・674 から少量の土師器片が出土した。

#### SB1014 (図版 12・62・67)

7・8E に位置する。桁行 3 間 (7.32m) × 梁行 2 間 (5.10m) の建物の東側に SE249、P693・698・703・705 が隣接する。P693・703 は建物の柱穴と柱筋の通りが比較的良好で、建物に伴うと判断した。P693・700・703・711 に囲まれるように SE249 が位置するため、P693・703 は SB1014 に伴う井戸の上屋の柱穴と考えている。また P693・698・703・705 で単独の上屋を構成し、SB1014 と時期差をもつ可能性も残るが、4 基の柱筋の通りが悪く、その可能性は低いと考えている。桁行方向 N-10°-E

の南北棟で、面積は約43.52㎡である。桁行の柱穴間隔は1.92～2.64m、梁行は2.21～2.95mとばらつく。柱筋の通りは比較的よい。柱穴の平面形は楕円形や円形で、断面形はU字状が多い。規模は径0.22～0.50m、深さ0.28～0.87mで、径・深さとも0.30～0.40mのものが多く、P112-P711間に位置するP130はSB1014では平均的な規模・深さで、位置関係から間仕切柱が据えられていたと考えられる。柱痕は10基で確認できる。径は0.06～0.17mで、0.10～0.15mのものが多く、周辺にはSE202・205・237、SD151、SK118・235・236などが位置し、SB1018、SI159・238、SE315、SD201、SK245、P247・248・704・744などと重複する。SE249がSB1014に伴うと考えられることから、新旧関係はSI159・238、SE315、SD201、P704・744に切られ、SB1018、SK245、P247・248との新旧関係は不明である。遺物はP112・127の1層から土師器が出土した。SE249からは土師器・須恵器・珠洲焼が出土し、SE205出土の珠洲焼(4)と接合した。

#### SB1018 (図版12・62・67・68)

8E・Fに位置する。桁行3間(8.10m)、梁行1間(3.93m)で、桁行方向N-5°-Eの南北棟の建物である。面積は約31.83㎡、桁行の柱穴間隔は2.25～3.07mで、桁行中央のP138-P164間、P174-P143間は広くなる。梁行は3.56mと3.93mで、桁行より広い。梁行方向の柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形は円形がほとんどで、断面形はU字状や階段状が多い。規模は径0.24～0.58m、深さ0.21～0.86mで、かなりばらつく。P138-P143間に位置するP114は、ほかの柱穴とほぼ同じ規模で、その位置関係から間仕切柱であろう。柱痕は2基で確認でき、径は0.15mと0.16mである。P163では柱痕は確認できないが、径0.10mの柱の当たりが底面に残る。周辺にはSB170、SE205・237・315、SD151、SK235などが位置する。SB1014、SI159と重複するが、新旧関係は不明である。遺物はP122の2層から用途不明金属製品(129)、P114の1層から刀子(130)が出土した。

#### SB1019 (図版13・64・68)

10Eに位置する。北西側は調査範囲外に延伸するため全容は不明だが、便宜上、桁行2間(4.37m)以上、梁行2間(4.25m)以上、桁行方向N-82°-Wの東西棟の建物とした。面積は18.57㎡以上である。柱穴間隔は2.02～2.36mで、ほぼ等間隔である。P168・199がやや外側に位置するが、柱筋の通りは比較的よい。柱穴の平面形は円形、断面形はU字状が多い。規模は径0.25～0.39m、深さ0.27～0.40mで、ほぼ同規模である。柱痕は3基で確認でき、径は0.12～0.13mである。P305では柱痕は確認できないが、底面に径0.11mの柱の当たりが残る。建物内のP309は、調査で明確にできなかったが複数のピットが重複している可能性がある。SB1019を構成する柱穴の可能性も残るが、柱筋の通りもあまりよくないので、現状ではSB1019の柱穴とは判断しない。周辺にはSB170、SE154・306、SD150などが位置するが、重複する遺構はない。遺物は、P168(深さ0.27m)の1層から土師器・鎌(131)が出土した。131は立位に近い状態で出土し、柄部は残存していない。建物の解体に際し、柄のついていない鎌を柱穴に入れており、儀礼行為の一種と考えている。

#### SB1100 (図版13・62・68)

8Hに位置する。桁行2間(4.62m)、梁行2間(3.54m)、桁行方向N-5°-Eの南北棟の総柱建物で、面積は約16.35㎡である。桁行の柱穴間隔は2.02～2.40m、梁行は1.68～1.79mでほぼ等間隔である。柱穴の平面形は楕円形、断面形はU字状がやや多い。規模は径0.25～0.53m、深さ0.26～0.64mで、ばらつきがある。P1129-P460間のP643は深さが0.46mと平均的だが、規模はSB1100のうちで最小である。柱痕は5基で確認でき、径は0.07～0.11mである。周辺にはSB73・1013、SI255・732、

SE368・412・475・800、SD151・318・328のほか、多数のピットが位置し、集落の中心域に位置していることが分かる。SB1134-P644、15SB304、SI736、SE737、SK722などと重複する。新旧関係はSE737を切り、SB1134-P644、15SB304、SI736に切られる。SK722との新旧関係は不明である。遺物はP419から珠洲焼片が数点出土した。

#### SB1134 (図版 13・62・69)

8・9Hに位置する。桁行3間(5.71m)、梁行2間(4.02m)、桁行方向N-79°-Wの東西棟の建物で、面積は約22.95m<sup>2</sup>である。桁行の柱穴間隔は1.44～2.20m、梁行は1.80～4.00mで、柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形は円形や楕円形が多い。規模は径0.21～0.61m、深さ0.26～0.86mで、かなりばらつきがある。P291では径0.10mの柱痕が確認できる。周辺にはSB73・1013、SI255・736、SE368・412・800、SD151・318・328のほか、多くのピットが位置する。SB1100-P643、15SB304-P406、SI732、SE737などと重複し、新旧関係はSB1100-P643、SE737を切り、15SB304-P406、SI732に切られる。遺物はP650・743から珠洲焼のほか、P760から土師器・須恵器などが出土している。

#### 15SB295 (図版 13・69)

13・14K・Lに位置し、南東側は調査範囲外に延伸する。桁行3間(5.60m)以上、梁行2間(4.02m)以上、桁行方向N-30°-Eの東西棟の建物で、面積は22.51m<sup>2</sup>以上である。桁行の柱穴間隔は1.33～2.14m、梁行は1.95mと2.08mである。梁行はほぼ等間隔だが、桁行は中央の15P272-15P247間が狭い。柱穴の平面形は円形が多い。規模は径0.20～0.46mで、ほかの建物に比べ小型のものが多い。深さは0.19～0.57mでばらつきがある。いずれも埋土は単層で、柱痕は確認できなかった。周辺には15SE226・229、15SD29・298などが位置する。調査範囲外となるため詳細は不明だが、15SD298とは重複する可能性がある。その場合、15SB295と15SD298の埋土の特徴から15SB295が切る可能性が高い。そのほかピットとも重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

#### 15SB304・SD653 (図版 14・62・69)

15SB304は8・9G・Hに位置する。整理作業の結果、桁行3間(7.71m)×梁行2間(3.76m)の身舎(総柱)の東側と西側に廂がつく南北棟の建物と判断した。廂部分を含めると、桁行7.71m×梁行5.76mとなる。桁行方向はN-10°-E、面積は約44.41m<sup>2</sup>である。身舎桁行の柱穴間隔は2.34～2.70m、梁行は1.74～2.04mでややばらつく。廂は身舎から東側・西側ともに1.00mの出となる。柱穴の平面形は円形や楕円形が多い。規模は身舎が径0.23～0.59m、廂が径0.20～0.58m、深さは身舎が0.17～0.81m、廂が深さ0.09～1.14mである。深さは身舎・廂ともにばらつきが大きい。柱痕は10基で確認でき、径は0.07～0.13mである。建物内に位置するP458と重複するP435は、埋土に明青灰色粘質土を多く含んでおり、P458の抜き取り穴と考えられる。また、建物内北側ほぼ中央にはSK251が位置する。SK251の埋土は黄褐色粘質土を含む黒褐色粘質土で、深さは0.11mである。壁面や底面などに被熱は認められず、焼土なども出土していない。15SB304との関係は不明である。

SD653は9H(15SB304の南西部分)に位置する。長軸方向は9H7・12でN-8°-E、9H16・17でN-75°-Wである。平面形はL字状、断面形は半円状を呈する。規模は長さ6.20m、幅0.15～0.37m、深さ0.25mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土をブロック状に含む灰色系埋土と黒色系埋土がレンズ状に堆積する。SD653の東西方向は15SB304の梁行と並行し、その長さは梁行の約1/2、南北方向は15SB304桁行と並行し、その長さは桁行の1間分であることから、15SB304との関連を想定した。SD653が設置される15SB304の南側は地形が高いことから排水溝の可能性もあるものの、具体

的な性格は明確にできなかった。

周辺にはSB73・1013、SI255、SE368・412・475・800、SD151・318・328・462のほか、多くのピットが位置し、遺構が集中している。15SB304も集落の中心域に位置していることが分かる。SB1100、SB1134-P410、SI465・732・736、ST684などと重複し、新旧関係はSB1100、SB1134-P410、SI465を切り、SI732・736、ST684に切られる。遺物はP298・403・406・415・607・690から土師器が出土し、SD653から珠洲焼が出土した。

#### 4) 竪穴状遺構

竪穴状の掘り込みで、明確な柱穴が確認できないものを「竪穴状遺構」とした。工房や倉庫などの機能が想定され〔鶴巻2001、大野2001〕、既舎の構成要素ともされているが〔篠崎2010〕、堂古遺跡の竪穴状遺構の性格は明確にできなかった。なお整理作業の結果、SI159は竪穴の掘り込みの外側に柱穴が巡る建物の可能性を考えているが、ほかの竪穴状遺構とともに報告する。

##### SI159 (図版14・70)

SE16・17・21～23、8F1・2に位置する。整理作業の結果、竪穴外に柱穴(P146・155・171～173・177)が巡る建物の可能性を考えている。長軸方向はN-77°-Wである。竪穴部の平面形は方形、断面形は台形状で、底面はほぼ平坦である。規模は長軸2.76m、短軸2.67m、深さ0.25m、面積は約7.37m<sup>2</sup>である。埋土は5層に分層できる。黄褐色粘質土や灰白色粘質土をブロック状に含む黒色系埋土がレンズ状に堆積しており、人為的な埋め戻しと考えられる。2～4層の底面部分には厚さ2～3cmの貼床状の硬化面が認められ、かなり堅緻である。壁溝・炉・カマドなどの施設や被熱の痕跡は確認できなかった。柱穴は6基確認できたが、SE315が位置する北側・北東側の柱穴は検出できなかった。新旧関係はSE315を切ることから、当初から柱穴は設置されていなかったと考えられ、出入口が位置していた可能性もある。柱穴の平面形は円形や楕円形で、断面形はU字状が多い。規模は径0.19～0.44m、深さ0.28～0.54mである。埋土は1～3層に分層でき、黄褐色粘質土を含む黒色系埋土が主体となる。柱痕はP172で確認できた。SB1014-P178、SE315、P176・180と重複し、新旧関係はSB1014-P178、SE315、P180を切り、P176に切られる。このほかSB1018とも重複するが、新旧関係は不明である。遺物は土師器片、須恵器片、土師質土器皿(1)、珠洲焼片、鉄滓が竪穴部から少量出土した。またススが付着した礫も出土した。

##### SI238 (図版15・70)

7E3～5・8～10に位置する。樹木根の影響で、遺存状況はあまり良好ではない。長軸方向はN-83°-Wである。平面形は長方形、断面形は弧状に近く、掘り込みはやや不明瞭である。底面は凹凸が顕著で、明確な平坦面はない。規模は長軸3.28m、短軸2.01m、深さ0.20m、面積は約6.59m<sup>2</sup>である。埋土は2層に分層でき、水平に堆積する。2層は褐色系埋土で、1層も黄褐色粘質土を含むことから、人為的な埋め戻し土と考えられる。壁溝・貼床・炉・カマドなどは確認できない。SB1014-P693、SE237・249、SD201、SK245などと重複し、新旧関係はSB1014-P693、SE249、SK245を切り、SE237、SD201に切られる。遺物は出土していない。

##### SI465 (図版15・70)

9H2・3・7・8に位置する。近年の畑作で一部削平され、遺存状況はあまり良好ではない。長軸方向はN-8°-Eである。平面形は長方形に近く、北西側が張り出す。その先端は削平され形状が不明だが、約

0.50m 張り出すと推測できる。断面形は弧状に近く、底面はほぼ平坦で、立ち上がりは比較的明瞭である。規模は長軸 3.28m、短軸 2.09m、深さ 0.10m、面積は 6.86m<sup>2</sup> 以上である。埋土は 2 層に分層でき、黒色系埋土がおおむねレンズ状に堆積する。底面の一部には硬化部分が認められたが、貼床のような形状ではない。15SB304-SD653 と重複し、新旧関係は SD653 に切られる。遺物は、接合はしないが、SD510 出土の須恵器 (60) と同一個体の破片が出土した。畑作による混入と考える。

#### SI736 (図版 15・71)

8H13～15・18～20 に位置する。整理作業時に柱穴 (P965・967) が伴う可能性も考えたが、P965・967 以外の柱穴が不明なため、判断ができなかった。長軸方向は N-78°-W である。竪穴部の平面形は長方形、断面形は台形状で、底面は東側を除きほぼ平坦である。規模は長軸 3.61m、短軸 2.38m、深さ 0.20m、面積は約 8.59m<sup>2</sup> である。埋土は 4 層に分層でき、4 層はしまりのある灰白色シルトの貼床である。壁溝・炉・カマドなどは確認できない。2 基の柱穴は平面形が方形基調で、断面形が台形状となる。平面の規模は 0.16～0.26m、深さは 0.13m と 0.14m である。いずれも柱痕が確認でき、径は 0.06m と 0.08m である。SB1100-P976、15SB304-P971、SI732、SE737 などと重複し、新旧関係は SB1100-P976、15SB304-P971、SE737 を切り、SI732 に切られる。遺物は P967 から土師器が出土した。

### 5) 井 戸

井戸は直径に比べ、深さが深いものが多い。そのため井戸下部の調査は重機による断ち割りを行い、遺物の確認や断面の記録を行った。断ち割りは上部調査時のセクションポイントの方向に合わせて行ったが、井戸の密集する範囲では、上部のセクションポイントとは反対側から断ち割りをを行った井戸もある。そのような井戸の下部断面図は左右反転して作成したが、写真は左右反対で撮影している (SE796・950・997・999・1101、15SE3・61・99)。SE80・306・412 も反対側から断ち割っているが、上部の断面図を左右反転して作成した。なお、断ち割りをを行った井戸の下端などは断面図に反映できていない。

井戸は 93 基検出した。素掘りのものが多いが、埋土の堆積状況から 15SE185 は井戸側が設置されていたと考えられる。基本的な埋土は、しまりがあり黄褐色粘質土などを含む黒色系埋土とⅢ・Ⅳ層に由来する褐色系・灰色系埋土で、人為的に埋め戻されたと判断している。壁面の中位や下位は崩落しているものが多く、原形を保つものは少ない (SE196・202・313・388・391・393・727・800・1087、15SE185)。同じ場所で掘り直したことが確実な井戸は 3 基確認できる (SE80・737、15SE185)。なお SE249・313・315・800 は調査時には土坑としたが、整理作業の結果、井戸と判断した。

#### SE33 (図版 16・71)

5F4・9・10 に位置する。平面形は方形で、断面形は箱状に近く、壁面は崩落している。規模は長軸 1.45m、短軸 1.32m、深さ 2.44m である。埋土は 11 層に分層でき、下位は水平堆積で、上位～中位はレンズ状に堆積する。灰色系・褐色系埋土と黒色系埋土の互層である。遺物は 1 層から土師器片が少量出土した。

#### SE80 (図版 16・71)

7G13・18 に位置する。平面形は円形で、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径 1.14m、短径 1.02m、深さ 2.14m である。埋土は 14 層に分層でき、おおむね黒色系埋土と灰色系・褐色系埋土の互層となる。8～14 層は水平ないしレンズ状、3～7 層はブロック状、1・2 層はレンズ状に堆積する。断面観察からは、壁面の崩落などのために埋め戻し (8～14 層)、その後掘り直した (1～7 層) 状況が想

定できるものの、掘り直しの方が約48cm浅い。遺物は須恵器が出土したほか、3層から珠洲焼片口鉢片(Ⅲ～Ⅳ期頃)、下層から板状木製品(115・116)も出土した。

#### SE196 (図版16・71・72)

9F24・25、9G4・5に位置する。平面形は円形で、断面形は箱状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径0.94m、短径0.84m、深さ2.47mである。埋土は5層に分層でき、水平ないしレンズ状に堆積する。いずれも黒色系埋土で、3～5層には黄褐色粘質土をブロック状に含む。遺物は1層から土師器の薄片、下層から珠洲焼片口鉢(2)、5層から漆器椀(117)が出土している。

#### SE202 (図版16・72)

7D20・25に位置する。平面形は円形で、断面形は箱状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径1.17m、短径1.02m、深さ1.55mである。埋土は7層に分層でき、水平やレンズ状に堆積する。6・7層が褐色系埋土、2～5は黒色系埋土、1層は灰色系埋土で、1・4・5層は黄褐色粘質土を含む。遺物は土師器のほか、5層から青磁椀(3)が出土した。

#### SE205 (図版16・72)

8D21、8E1に位置する。平面形は円形に近く、断面形は袋状で、壁面は崩落している。規模は長径1.33m、短径1.13m、深さ2.13mである。埋土は7層に分層できる。おおむね褐色系・灰色系埋土と黒色系埋土の互層で、レンズ状に堆積する。黄褐色粘質土や灰色系シルトなどを含む層が多い。SK118と重複し、新旧関係はSK118に切られる。遺物は3層から珠洲焼片口鉢(4)が出土している。なお、4はSE249出土の破片と接合した。

#### SE237 (図版17・72)

7E8・9に位置する。平面形は円形で、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径1.11m、短径1.02m、深さ2.31mである。埋土は13層に分層できる。褐色系・灰色系埋土と黒色系埋土の互層で、下位はおおむね水平に、中位は斜位に、上位はレンズ状に堆積する。黄褐色粘質土を含む層が多い。SI238と重複し、新旧関係はSI238を切る。遺物は下層から珠洲焼、7層から珠洲焼転用研磨具(92)が出土した。

#### SE249 (図版17・73)

7E4・5・9・10に位置する。平面形は円形で、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径2.40m、短径2.04m、深さ1.83mである。埋土は31層に分層でき、おおむね水平、レンズ状に堆積する。中位は黒色系埋土で、そのほかは褐色系・灰色系埋土などである。炭化物や黄褐色粘質土を含む層が多い。SI238、SD201、SK245、P247・248・704・744と重複する。新旧関係はSI238、SD201、P704・744に切られるが、SK245、P247・248との新旧関係は不明である。遺物は土師器・珠洲焼が出土しており、珠洲焼はSE205出土の破片(4)と接合した。

#### SE306 (図版17・73)

9E20・25、10E16・21に位置する。平面形は楕円形で、断面形はU字状に近く、壁面は崩落している。規模は長径2.24m、短径1.78m、深さ2.26mである。埋土は10層に分層でき、下位はおおむね水平に、中位は斜位に、上位はレンズ状に堆積する。下位は灰色系埋土、中位は褐色系埋土、上位は黄褐色粘質土をブロック状に含む黒色系埋土である。SB170-P831と重複し、新旧関係はSB170-P831に切られる。遺物は土師器、5層から須恵器、土師質土器、6層から珠洲焼片口鉢の破片(Ⅲ～Ⅳ期頃)、青磁片、1層から砥石(103)、10層から板状木製品が出土している。

## SE313 (図版18・73)

6H12・13・17・18に位置する。南東側は調査範囲外に延び、全容は不明である。平面形は円形と推定でき、断面形は箱状でⅡ層直下から掘り込まれる。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は径2.60m、深さ1.56mである。埋土は17層に分層でき、黒色系・褐色系・灰色系埋土が斜れないブロック状に堆積する。黄褐色粘質土や黒褐色粘質土が混入し、人為的な埋戻しが想定できる。遺物は土師器のほか、3・5層などから珠洲焼壺(5・6)・甕、3層から青磁片が出土した。

## SE315 (図版18・73・74)

7E15・20、8E11・12・16・17に位置する。平面形は円形で、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径2.83m、短径2.71m、深さ2.35mである。埋土は19層に分層できる。中位～下位は主に灰色系・褐色系埋土がブロック状に堆積し、上位は黄褐色粘質土を含む黒色系埋土がレンズ状に堆積する。SB1014-P178・339、SI159と重複し、新旧関係はSB1014-P178・339を切り、SI159に切られる。遺物は上層から土師器、8層から刀子(132)が出土した。そのほか珠洲焼も出土した。

## SE367 (図版18・74)

8I13・14に位置する。平面形は円形で、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径1.05m、短径0.94m、深さ1.64mである。埋土は10層に分層でき、下位はおおむね水平に、上位はレンズ状に堆積する。下位は灰色系埋土、中位～上位は黒色系埋土が主体で、壁際には暗褐色粘質土が堆積する。なお上部調査時、7層と8層の層境を確認できないまま、下部の断ち割りに移行した。そのため、層境が不明瞭となったことから、断面図には点線で図示した。遺物は土師器や珠洲焼、磨製石斧(104)が出土した。104は10層(底面)から出土している。

## SE380 (図版18・74)

10I7・12に位置する。平面形は円形、断面形は袋状に近い。規模は長径0.91m、短径0.90m、深さ1.86mである。埋土は4層に分層できる。4層が灰色系埋土、そのほかは黄褐色粘質土などを含む黒色系埋土で、レンズ状に堆積する。遺物は珠洲焼のほか、4層から土師質土器皿(7)が出土した。

## SE388 (図版19・74・75)

8I3・8に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状を呈する。壁面の崩落はなく、ほぼ原形を保つ。規模は長径1.01m、短径0.92m、深さ1.47mである。埋土は4層に分層でき、レンズ状に堆積する。2層が褐色系埋土のほかは黒色系埋土で、4層には礫が混入する。SD328と重複し、新旧関係はSD328を切る。遺物は珠洲焼甕・壺の破片や越前焼が出土した。

## SE391 (図版19・75)

10I3・8に位置する。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径0.97m、短径0.88m、深さ1.72mである。埋土は5層に分層でき、1層は黄褐色粘質土を含む黒色系埋土、2・3層は褐色系埋土、4・5層は灰色系埋土である。上位は水平に、下位はレンズ状に堆積する。遺物は土師器や須恵器、珠洲焼壺(8)・片口鉢(9)が出土した。

## SE393 (図版6・75)

10J2・3・7・8・12・13に位置する。平面形は円形、断面形は階段状を呈する。壁面の崩落はあまりない。規模は長径2.91m、短径2.64m、深さ2.08mである。埋土は12層に分層でき、下位には灰色系埋土、壁際には褐色系埋土、上位には主に黒色系埋土が堆積する。堆積状況はレンズ状堆積である。SD1034と重複し、新旧関係はSD1034を切る。遺物は土師器・須恵器が下層から出土したほか、土師質土器皿

(10・11) や珠洲焼片口鉢 (12・13) も出土した。13 は SD318 出土の破片と接合した。

#### SE412 (図版 19・75)

8H1・6 に位置する。平面形は円形で、断面形は U 字状に近く、壁面は崩落している。規模は長径 0.94m、短径 0.79m、深さ 2.29m である。埋土は 12 層に分層でき、上位はレンズ状、下位は水平に堆積する。おおむね灰色系・褐色系埋土と黒色系埋土の互層である。遺物は土師器や土師質土器、珠洲焼が少量出土したほか、11 層から曲物や漆器皿 (118) が出土した。

#### SE588 (図版 19・64・76)

12G16・21 に位置する。平面形は楕円形、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している (3 層)。規模は長径 1.08m、短径 0.84m、深さ 1.95m である。埋土は 5 層に分層できる。中位が灰色系埋土、上位・下位が黒色系埋土で、斜位ないしレンズ状に堆積する。下部の断り割り調査の際、4・5 層 (井戸底部) に曲物が設置されていたことが確認できた。SE588 以外で、曲物が設置された井戸は確認できていない。遺物は珠洲焼が 2・3 層から出土した。

#### SE613 (図版 19・76)

10H1・2・6・7 に位置する。平面形は円形、断面形は袋状を呈し、壁面は崩落している。規模は長径 1.11m、短径 0.98m、深さ 1.83m である。埋土は 7 層に分層でき、中位～下位は水平に、上位はレンズ状に堆積する。5 層は灰色系埋土、そのほかは黒色系埋土である。遺物は土師器や珠洲焼片口鉢 (14)、平瓦 (93) が出土した。93 は 6 層からの出土で、混入と考えている。

#### SE737 (図版 19・64・76・77)

8H13・14・18・19 に位置する。平面形は方形に近く、断面形は袋状に近い。壁面は崩落している。規模は長軸 1.53m、短軸 1.41m、深さ 2.46m である。埋土は 17 層に分層でき、灰色系・褐色系と黒色系埋土の互層で、レンズ状や水平に堆積する。断面観察から井戸を掘り直した状況がうかがえる。壁面の崩落などで埋め戻し (13～17 層)、その後掘り直した (1～12 層) と考えられるが、掘り直したの方が約 22cm 浅い。SB1100-P1129、SB1134、SI736、P738・954 と重複し、新旧関係は P954 を切り、SB1100-P1129、SB1134、SI736、P738 に切られる。遺物は土師質土器皿 (15) や珠洲焼片口鉢 (16)、用途不明石製品 (105)、漆器椀 (119)、板状木製品 (120・121)、用途不明金属製品 (埋土) が出土した。土師器や須恵器も出土したが、混入と考える。119・120 は出土層位から掘り直した井戸に伴う。

#### SE800 (図版 20・77)

8G12・13・17・18・22・23 に位置する。平面形は方形に近く、断面形は袋状に近い。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長軸 3.01m、短軸 2.68m、深さ 2.07m である。埋土は 30 層に分層できる。下位と上位は褐色系・灰色系埋土が、中位は黒色系埋土が主体となる。堆積状況は上位と下位はおおむねレンズ状、中位はブロック状に近い。SI255 と重複し、新旧関係は SI255 に切られる。遺物は土師器や須恵器 (7 層など)、土師質土器、珠洲焼壺 (17～19)・片口鉢 (20・21) が出土した。19 は SK256 出土破片と接合し、20 は SD151、SK264 出土破片と接合した。また 71・74 と接合する破片も出土した。

#### SE922 (図版 20・77)

12I21 に位置する。平面形は楕円形、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径 1.41m、短径 1.21m、深さ 1.88m である。埋土は 22 層に分層でき、おおむね褐色系・灰色系埋土と黒色系埋土の互層である。堆積状況は下位が水平に近く、中位が斜位、上位がブロック状である。遺物は土師器や須恵器のほか、珠洲焼が 20 層から少量出土している。SE922 は 2014 年度に上部の調査を行い、2015 年



度下部の断り割り調査を行った。その結果、埋土と考えた1～22層の両側で層序の不連続を確認した(a～h層)。a～h層は褐色系埋土などで、h層以外は混入物がほとんど認められず、a～d・g・h層はさらにその外側にも堆積する。そのため調査時には人為的な埋め戻しには考えが及ばず、基本層序に確認できないe・f層の存在に疑問をもちながらも、井戸水をくみ上げたことにより周辺土層が陥没するなどした結果、層序の不連続が生じたと理解していた。その後の整理作業で、e・f層の存在、井戸水のくみ上げによる層序の不連続にしては周辺の遺構に影響がないことから、井戸側を設置した際の裏込めや掘り直しなど、人為的な埋め戻し土と考えた方が妥当ではないかと考えている。

#### SE999 (図版 21・77・78)

12H3・4に位置する。平面形は円形と思われ、断面形はU字状に近く、壁面は崩落している。規模は径1.24m、深さ1.89mである。埋土は13層に分層でき、上位・下位はレンズ状に、中位は水平に堆積する。おおむね黒色系埋土と褐色系・灰色系埋土の互層で、粘質土・シルト・砂質土を含む。15SE99と重複し、新旧関係は15SE99に切られる。遺物は6層から須恵器、12・13層から土師質土器、13層から曲物底板(122)・蓋(123)が出土している。

#### SE1087 (図版 21・78)

11H4・8～10・14に位置する。平面形は楕円形に近く、断面形は台形状に近い。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径2.34m、短径1.92m、深さ1.96mである。埋土は9層に分層できる。上位～中位は黒色系埋土、下位は灰色系埋土で、1層を除き灰白色粘質土などを含む。堆積状況は下位がレンズ状、上位～中位が斜位である。遺物は須恵器杯蓋(23)・珠洲焼片口鉢(24)が5層から出土したほか、土師質土器(2層)や越前焼(上層)も出土した。

#### SE1104 (図版 21・78・79)

11H15、12H11に位置する。平面形は円形、断面形はU字状に近く、壁面の中位が大きく崩落している。規模は長径1.42m、短径1.28m、深さ2.76mである。埋土は14層に分層できる。おおむね褐色系・灰色系埋土と黒色系埋土の互層で、下位はレンズ状、上位～中位は水平に近い堆積となる。P1128、15P215・216と重複し、新旧関係は15P215・216を切り、P1128に切られる。遺物は珠洲焼が出土したほか、土師器や砥石(106)が1層から出土している。

#### SE1124 (図版 22・79)

12H16に位置する。平面形は円形、断面形はU字状で、壁面は一部崩落している。規模は長径1.05m、短径0.90m、深さ1.98mである。埋土は19層に分層できる。おおむね褐色系・灰色系埋土と黒色系埋土の互層で、レンズ状に堆積する。なお10層は腐植物を多く含む。15SE162と重複し、新旧関係は15SE162を切る。遺物は珠洲焼壺(25)が17層から出土し、15SE185C出土の破片と接合した。このほか須恵器(上層)や土師質土器が出土した。

#### 15SE3 (図版 22・79)

13H5・10に位置する。平面形は円形、断面形は箱状に近く、壁面が崩落している。規模は長径1.36m、短径1.23m、深さ1.92mである。埋土は10層に分層できる。褐色系埋土と灰白色～黄褐色粘質土を含む黒色系埋土の互層で、レンズ状や水平に堆積する。遺物は土師器(2・3・5層)や須恵器、用途不明金属製品(3層)のほか、珠洲焼甕(26)・壺(27)・片口鉢(28)が8・9層から出土した。

#### 15SE99 (図版 21・78)

12G23・24、12H3・4に位置する。平面形は楕円形で、断面形はU字状に近く、壁面は崩落している。

規模は長径1.39m、短径1.08m、深さ1.89mである。埋土は14層に分層できる。上位～中位には黒色系埋土、下位には灰色系・褐色系埋土が堆積し、黄褐色～灰白色粘質土を含む層が多い。SE999と重複し、新旧関係はSE999を切る。遺物は珠洲焼が7層から出土した。また礫(9・10層)も出土した。

#### 15SE162 (図版22・80)

12H11・16に位置する。平面形は長方形で、断面形はU字状に近く、壁面は一部崩落している。規模は長軸1.41m、短軸0.97m、深さ1.74mである。埋土は13層に分層できる。褐色系埋土と黄褐色粘質土などを含む黒色系埋土の互層で、おおむねレンズ状に堆積する。SE1124、15P170と重複し、新旧関係は15P170を切り、SE1124に切られる。遺物は珠洲焼片口鉢(29)が7・8層から出土し、15SE302(12H)出土の破片と接合した。また土師器も出土した。

#### 15SE185 (図版22・80)

11H14・15・19・20に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状に近い。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径2.54m、短径2.35m、深さ2.24mである。埋土は45層に分層できる。断面観察から2回の掘り直しが想定できるが、平面では確認できなかった。1～26層はもともと新しい井戸である(C)。17～26層は井戸側設置時の裏込め土と考えられる。ややしまりのある褐色系埋土が主体で、水平ないし斜位に堆積する。12～16層は井戸内部の埋土で、褐色系埋土が水平に堆積する。1～11層は井戸廃棄時に井戸側を抜き取るなどの必要から、15SE185Cの上部を掘削した後に埋め戻された土層と考えている。主に黒色系埋土がレンズ状に堆積し、壁際には褐色系埋土が確認できる。27～42層は二番目に新しい井戸である(B)。27・28層が黒色系埋土のほかは、比較的しまりのある褐色系・灰色系埋土である。堆積状況は不明瞭ではあるが、水平ないし斜位と考えられる。17～26層の堆積状況とも類似しており、井戸側設置時の裏込め土と考える。43～45層は掘り直す前の最初の井戸である(A)。45層は黒褐色粘質土で、井戸機能時に堆積した土層と考えられる。堆積状況はレンズ状で裏込め土は確認できない。15SE185Cと15SE185Bの底面標高はほぼ同じで、15SE185Aより約26cm浅い。15SX182、15SK218と重複し、新旧関係は15SE185Cが15SK218を切る。15SX182は焼土の分布範囲で、15SE185Cの上部に堆積するため15SX182の方が新しい。出土遺物は土師器(30～33)や黒色土器(34)・須恵器(1層)・珠洲焼(35)・青磁(9層)・土製支脚(94)・円筒形土製品(95)などで、15SE185Cの埋土(1～3・9層)や裏込め土(17層)、15SE185Bの裏込め土(28・32層)、15SE185Aの埋土(45層)などから出土している。またSE1124出土の25と接合する破片も出土した。

#### 15SE219 (図版23・80・81)

11G7・11・12・16・17に位置する。平面形は円形で、断面形は漏斗状に近く、壁面は崩落している。規模は長径2.32m、短径2.26m、深さ2.94mである。調査した井戸のなかで、深さがもともと深い。埋土は37層に分層できる。灰色系・褐色系埋土が主体で、黄褐色粘質土を含む黒色系埋土は上位に堆積する。堆積状況は下位が水平に近く、上位がレンズ状である。15P227・228と重複し、新旧関係は15P227・228を切る。遺物は土師器、須恵器(2層)、土師質土器(9層)、珠洲焼片口鉢(36～41)、越前焼(2層)、用途不明金属製品(上層)、鉄滓が出土した。

#### 15SE222 (図版23・64・81)

12K14・15に位置する。平面形は楕円形で、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径1.51m、短径1.13m、深さ2.21mである。埋土は15層に分層でき、下位は水平、中位は斜位、上位はレンズ状に堆積する。黒色系埋土が主体で、灰色系・褐色系埋土は最下層や壁際、中位に堆積する。

10～12・14層は腐植物を多く含む。遺物は土師器や珠洲焼のほか、白木椀(124)・小刀(133)が15層から出土した。中世の井戸から小刀が出土する事例は、周辺では下割遺跡(2002年度調査SE714)[山崎・外山ほか前掲]、清水田遺跡(SE1235・1525)[佐藤・城前ほか前掲]などで確認できる。埋め戻しに関わる儀礼行為と考えられる。

#### 15SE226 (図版23・81)

13K14・19に位置する。平面形は楕円形で、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径1.68m、短径1.09m、深さ1.94mである。埋土は30層に分層できる。おおむね灰色系・褐色系埋土と黒色系埋土の互層で、19・21・24～26層は骨片と思われる白色粒子を含む。堆積状況は上位・下位はレンズ状、中位は水平に近い。上部は近年の畑作の影響を受けている。遺物は10層から近世陶器、19層から珠洲焼が出土した。

#### 15SE229 (図版24・81・82)

13K12・17に位置する。平面形は円形で、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径1.47m、短径1.31m、深さ2.64mである。埋土は21層に分層できる。おおむね灰色系・褐色系埋土と黒色系埋土の互層で、レンズ状ないし水平に堆積する。17層には骨片と思われる白色粒子を多く含む。遺物は須恵器・甕底板ないし蓋(125)が21層から出土したほか、輪の羽口片(20層)も出土した。

#### 15SE282 (図版24・82)

12G7に位置する。平面形は円形、断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長径1.12m、短径0.98m、深さ2.36mである。埋土は22層に分層でき、おおむね灰色系・褐色系埋土と黒色系埋土の互層である。SE896、15P265・283と重複し、新旧関係はSE896、15P265・283に切られる。遺物は土師器や珠洲焼が出土したほか、箸(126)・部材(127)が21層から出土している。

#### 15SE296 (図版24・82)

14J7・8に位置する。平面形は楕円形、壁面は崩落し、断面形が大きく変形している。規模は長径1.73m、短径1.43m、深さ2.18mである。埋土は30層に分層できる。下位は灰色系・褐色系埋土が主体で、上位はおおむね黒色系埋土と褐色系埋土の互層となる。堆積状況はレンズ状である。下位には明赤褐色砂が堆積しており(20・23・26・28層)、比較的地下水の作用を受けやすい場所に構築されていたと思われる。重複する近年の畑作の影響を受けており、遺物は土師器甕(42)や須恵器(2層)、土師質土器(9・16層)、珠洲焼(1・16・30層)、曲物底板(128)、用途不明金属製品(14層)が出土した。

### 6) 溝

溝は39条検出し、そのうち12条は畑作溝である。畑作溝は別項で記述し、15SB304に付随するSD653も掘立柱建物の項で記述する。SD510以外の長軸方向は南北方向と東西方向に大別できる。埋土に流水の痕跡は確認できず、区画溝や堀などの機能が想定できる。

#### SD150 (図版5・83)

9Eに位置する。長軸方向はN-0°で、正方位である。平面形は直線状、断面形は弧状を呈する。規模は長さ2.80m以上、幅0.78～1.21m、深さ0.15mである。埋土は黄褐色粘質土を含む暗褐色粘質土の単層である。SE154、P326と重複し、新旧関係はSE154、P326を切る。遺物は出土していない。周辺にはSB170・1019などが位置し、SB170・1019と長軸方向がそろう可能性がある。またSD201とは南端がほぼ同位置で、長軸方向もそろう可能性がある。

## SD151 (図版5・62・83)

8G・9F・Gに位置する。長軸方向は9F・GでN-5°-E、8・9GでN-75°-Wである。平面形はL字状で、断面形は9Fでは台形状、8Gでは弧状を呈する。建物に隣接しており、SD318・328と同様の区画溝と考えている。規模は長さ22.84m、幅0.72～1.15m、深さ0.25mである。埋土は3層に分層でき、褐色系埋土と黒色系埋土がレンズ状に堆積する。SI255、SK256・262・264・296、P254・258と重複し、新旧関係はSI255、SK256・262・296、P258を切り、SK264・P254に切られる。遺物は1層から土師器や須恵器が出土したほか、珠洲焼片口鉢(43)や磨石類(107)が出土し、珠洲焼は20・70・74と接合する破片も出土している。遺物の主体は珠洲焼で、土師器や須恵器は混入と考える。

## SD201 (図版4・62・83)

7D・Eに位置する。長軸方向はN-15°-Eである。平面形は直線状、断面形は弧状を呈する。規模は長さ12.50m以上、幅0.45～1.18m、深さ0.25mである。幅は一定ではなく、南側ほど広い。埋土は2層に分層でき、黒色系埋土がレンズ状に堆積する。SI238、SE249、SK236・245、P247・248と重複し、新旧関係はSI238、SE249、SK245を切り(図版15)、SK236に切られる。P247・248との新旧関係は不明である(図版17)。遺物は土師器や珠洲焼壺・壺が出土している。

## SD209 (図版4・62・83)

6C・Dに位置する。長軸方向はN-13°-Eである。平面形は直線状、断面形は弧状を呈する。規模は長さ12.80m以上、幅0.20～0.65m、深さ0.11mである。埋土は黄褐色粘質土を含む灰オリープ色粘質土の単層である。SB240-P210、SK234と重複し、新旧関係はSB240-P210、SK234を切る。遺物は肥前系陶器が少量出土した。近年の畑作による混入であろうか。

## SD318・328 (図版6・83・84)

SD318は7～9I、8・9H、9・10Jに、SD328は7・8I、9H～Jに位置する。いずれも平面形はL字状、断面形は台形状、長軸方向は9H～J周辺でN-17°-E、7～9H・I周辺でN-75°-Wである。建物に隣接し、SD151と同様、区画溝と考える。規模はSD318が長さ36.80m以上、幅0.66～1.11m、掘り込み面からの深さ0.50m、SD328が長さ30.80m以上、幅0.40～0.83m、掘り込み面からの深さ0.25mで、SD318の方が少し大きい。ともにII層直下からIII層を掘り込み、底面に明確な傾斜は確認できない。SD318の埋土は3層に分層でき、黒色系埋土が主体となる。SD328は黒褐色粘質土の単層である。新旧関係はSD318がSE368、SD366・462・1136、SK802、P804を切る。SD328はSE365・398を切り、SE388、SD366に切られる。SD318・328は直接重複していないが、SD318・328とSD366との新旧関係から、SD328の方が古くSD318の方が新しい。同様の場所に規模をやや大きくして、構築し直している。建物に近い9H18周辺のSD318からは礎(108)や砥石(109～111)、刀子(134)、鉄滓(1層)が出土した。そのほか土師器・須恵器・越前焼(2・3層)・珠洲焼壺(44)・瀬戸美濃焼、用途不明金属製品が出土した。珠洲焼はSE393出土の破片(13)と接合した。SD328からは土師器や須恵器、珠洲焼、用途不明金属製品(135)が出土した。

## SD366 (図版6・84)

9H～Jに位置する。長軸方向はN-10°-Eで、15SB304に付属するSD653と位置や長軸方向がそろっている可能性がある。平面形は直線状、断面形は台形状を呈する。規模は長さ13.50m以上、幅0.47～0.90m、深さ0.30mである。北側はSD318を超えて延びず、SD318による削平はわずかな範囲にとどまる。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土をブロック状に含む黒色系埋土がレンズ状に堆積する。SE398、

SD318・328・378と重複し、新旧関係はSE398、SD328を切り、SD318・378に切られる。遺物は土師器のほか、主に2層から珠洲焼や越前焼が出土しており、珠洲焼甕・壺が比較的多い。15SB304との関連から区画溝と考えられる。

#### SD462 (図版6・84)

9G～Jに位置する。長軸方向はおおむね南北方向である。遺構の分布状況から、区画溝の可能性が高い。平面形は弧状、断面形は半円状を呈する。規模は長さ24.00m以上、幅0.33～0.85m、深さ0.25mである。埋土は2層に分層でき、灰色系埋土と黒色系埋土がレンズ状に堆積する。いずれも黄褐色粘質土をブロック状に含む。SE392、SK685、SD318と重複し、新旧関係はSE392、SK685を切り、SD318に切られる。遺物は土師器や須恵器、土師質土器皿(45)、珠洲焼片口鉢・甕・壺(主に1層)、越前焼甕(46)などが出土しており、北側(SE392周辺)にまとまる傾向がある。

#### SD510 (図版2・8・9・63・84)

12J・K、13I～K、14H～J、15H・Iに位置する。長軸方向はN-45°-Wである。平面形は直線状、断面形は台形状を呈する。規模は長さ39.90m以上、幅3.72～4.97m、深さ1.45mである。埋土は褐色系・灰色系埋土や黒色系埋土がレンズ状に堆積し、主に北東側から供給された様子が観察できる。SD510機能時に堆積したと考えられる黒色系埋土は、北西側(図版9 A-A')では底面付近(9層)に、南東側(図版9 B-B')では底面付近(14・15層)と中位付近(10層)に堆積している。このことから、南東側では2時期の変遷が想定できるが(1～11層:B、12～16層:A)、平面では確認できなかった。底面の標高は北西側で13.07m、南東側のSD510Aが13.00m、SD510Bが13.30mである。古段階(SD510A)ではほとんど傾斜しないが、新段階(SD510B)は北西側に向かいやや傾斜する。

遺構の性格は、流水の痕跡や用水施設が確認できないことから水路とは考えにくく、SD510の北東側と南西側で遺構密度が異なることから、区画溝(堀)と考えられる。SD510に沿って杭列が確認できないこと、直近まで遺構が分布することから、柵や塀などの遮蔽施設、土塁などは設置されなかったと考えられる。また底面に柱穴など、橋脚の痕跡も確認できなかった。SD510の北西側は、下割遺跡との境界に位置する農業用水路と合流し、北側に位置する飯田川の旧流路に接続する可能性がある。南東側は明確ではないが、東に折れて飯田川旧流路に接続するか、別の区画施設を設けていたと思われる。つまり、SD510や飯田川旧流路などに囲まれた範囲に集落が構築された可能性が考えられる。

遺物は土師器無台椀(47)・皿(48・49)・甕(50～52)、黒色土器高杯(53)、須恵器無台杯(54～57)・有台杯(58)・杯蓋(59)・瓶類(60)、土師質土器、珠洲焼甕(61・62)、越前焼甕(63)、瀬戸美濃焼天目茶碗(64・65)、白磁碗ないし皿(66)、土製支脚(96)、珠洲焼転用研磨具(97～99)、石鉢(112)、砥石(113)、用途不明金属製品(1・2層)などで、図化できない細片も多い。遺物は南東側にやや多く分布する。土器・陶磁器の出土量を層位ごとに見ると、1～4層(上層)出土>12～14層(下層)>7層(中層)となる。上層では特に1・2層からの出土が多く、古代から近世の遺物が出土している。そのうち古代の遺物(土師器・須恵器)が一番多く、次が中世(珠洲焼・越前焼・瀬戸美濃焼・青磁・白磁)、近世(肥前系陶器、17世紀代)は少量であった。7層(中層)からは古代から中世の遺物が出土しており、古代の遺物(土師器・須恵器)の方が多い。中世の遺物は越前焼甕の体部片が1点確認できる。12～14層(下層)からは古代(土師器・須恵器)から中世(珠洲焼・白磁)の遺物がほぼ同量出土している。

7層と12～14層出土の遺物は、新旧2段階(SD510B・A)に伴う遺物と考えられる。SD510A段階は、12層から13世紀後半～14世紀初頭の白磁(66)が出土しており、14世紀には埋め戻される。そのた

め13世紀代と考えられる。次に古代から近世の遺物が混在する上層(1~4層)は、SD510B段階の埋め戻し土と考えられる。1層から肥前系陶器が出土したことから、最終的には近世前半(17世紀代)に埋め戻されたと判断できる。SD510B段階の時期に関しては、7層出土の越前焼は破片のため時期は不明である。遺跡全体では16世紀代の遺物が明瞭ではないことから、15世紀後葉以降(珠洲VI期)集落は終焉に向かい、16世紀代に機能を停止し、17世紀代にSD510が最終的に埋め戻されたと考えられる。したがってSD510B段階は14世紀~15世紀代の年代が想定できる。

#### 15SD23 (図版8・9・84)

15・161・J、16K~Mに位置する。長軸方向はN-10°-Eである。平面形は直線状、断面形は弧状を呈する。規模は長さ39.40m以上、幅1.05~2.44m、深さ0.44mである。南西側に位置する農業用水路構築の時の影響か、北側は削平されている。埋土は5層に分層でき、黒色系埋土と褐色系埋土がレンズ状に堆積する。SD510ほどではないが、15SD23の東側と西側で遺構分布に差異が認められる。15SE71、15SD22・29・298・299と重複し、新旧関係は15SD22・29・298・299を切り、15SE71に切られる。遺物は古墳時代の土師器片(底面付近)、須恵器甕(67)が出土した。15SD23がⅢ層を掘り込む15SD298・299を切ることや埋土の状況から、中世の遺構と判断できる。

#### 15SD29 (図版2・8・9・85)

13・14K、15K・L、16・17Lに位置する。1層がⅢ層と類似することからⅣ層で検出した。Ⅲ層を掘り込むため、Ⅲ層検出の遺構と同じ図版に掲載する。長軸方向はN-65°-76°-Eである。平面形はほぼ直線状だが、15K周辺でやや北西側に張り出す形状となる。断面形は漏斗状を呈する。規模は長さ43.20m以上、幅0.32~0.44m、深さ0.80mである。北東側は徐々に浅くなり13Kで取束するが、Ⅲ層を掘り込むことを考えれば、本来はSD510に接続していたと思われる。埋土は4層に分層できる。上位には黒色系埋土が、下位には褐色系埋土がレンズ状に堆積し、いずれも灰白色粘質土をブロック状に含む。15SD23・298、15P30と重複し、新旧関係は15SD298を切り、15SD23、15P30に切られる。遺物は出土していない。15SD29はほかの中世の遺構と同様にⅢ層を掘り込むが、下位に暗灰黄色シルトが堆積するなど埋土の状況は異なる。埋土の分析の結果、腐植含量が少ないことが判明した(第三章5D)。黒色系埋土が堆積する中世の遺構とは堆積環境が異なり、相対的に時期が古くなる可能性が考えられる。したがって古代から中世の遺構と考える。

#### 15SD298 (図版8・9・85)

14・15L、15・16K、16Jに位置する。1・2層がⅢ層と類似することからⅤ・Ⅵ層で検出した。Ⅲ層を掘り込むため、Ⅲ層検出の遺構と同じ図版に掲載する。長軸方向は16J・KでN-37°-W、それ以外ではN-56°-Wである。平面形はほぼ直線状だが、16Kで長軸をやや北側に振る。断面形は弧状を呈する。規模は長さ26.60m以上、幅0.69~1.20m、掘り込み面からの深さは0.55mである。北西側は不明瞭で、徐々に取束するか、農業用水路に削平されたと考えられる。埋土は5層に分層でき、褐色系埋土がレンズ状に堆積する。15SD23・29、15SK262、15P246と重複し、新旧関係は15SD23・29、15SK262、15P246に切られる。遺物は出土していない。Ⅲ層を掘り込むが、褐色系埋土が堆積することから、黒色系埋土が堆積する中世の遺構よりも相対的に時期が古い可能性がある。したがって古代から中世の遺構と考える。

#### 15SD299 (図版2・8・9・85)

15~17L・Mに位置する。2層がⅢ層と類似することからⅣ層で検出した。Ⅲ層を掘り込むため、Ⅲ

層検出の遺構と同じ図版に掲載する。長軸方向はおおむね東西方向である。平面形はS字状で、断面形は弧状を呈する。規模は長さ14.80m以上、幅0.61～1.05m、掘り込み面からの深さは0.83mである。埋土は3層に分層でき、黒色系埋土と灰色系・褐色系埋土がレンズ状に堆積する。15SD23、15P122・123と重複し、新旧関係は15SD23、15P122・123に切られる。遺物は出土していない。埋土の状況から、15SD298と同様に古代から中世の遺構と考える。

### 7) 畑 作 溝

規模・埋土・長軸方向がほぼ同じで、連続して構築される溝を畑作溝とした。3・4B・Cに位置するSD85・86・91～100が該当する(12条)。SD86とSD91の間隔がやや広いことから(約0.64m)、SD85・86とSD91～100がそれぞれ一連の畑と考えている。

#### SD91～100 (図版3・86)

4B・Cに位置し、10条で構成される。長軸方向はN-2～12°-Wである。規模は長さ3.74～7.44m以上、幅0.75～0.97m、深さ0.08～0.16mである。断面形は弧状や台形状で、底面には凹凸がある。埋土は単層で、いずれも粘性の強い暗褐色粘質土が堆積している。溝同士の間隔は、狭いところは接しており、広いところでは0.48m(SD92とSD93の間)である。溝の間が畝となるわけだが、溝の幅に比べて、溝同士の間隔が狭いことが分かる。これは、複数回にわたる耕作によって、溝の部分が徐々に広がった結果と考えている。遺物は古代の土師器・壺片が多数出土しているが、細片のため図示していない。耕作の影響で細片になったと思われる。

### 8) 焼 土 土 坑

#### ST684 (図版25・86)

9H12・17に位置する。平面形は長方形で、断面形は箱状を呈する。規模は長軸0.86m、短軸0.32m、深さ0.14mで、遺存状況は良好である。埋土は4層に分層でき、下位には褐色系埋土が、上位には黒色系埋土が堆積する。堆積状況はレンズ状に近い。径3～5cmの焼土をブロック状に多く含む3層には、最大2cm程度の被熱した骨片が混在している。分析の結果、骨片は人骨であることが判明している(第3章5C)。底面や壁面が被熱していないことから、土坑内部で火が焚かれたとは考えにくく、別の場所で茶毘に付され、拾骨の後に残った炭・焼土・灰などを廃棄した可能性が高い。そして、その中に拾骨し切れなかった骨片が混じっていたと考えている。出土した骨片が、最大でも2cm程度と小さいのはそのためであろう。また、調査範囲内で火が焚かれた痕跡は確認できなかったため、茶毘の場所は調査範囲外と考えられる。15SB304に付属するSD653と重複し、新旧関係はSD653を切る。骨片は出土したが、そのほかの遺物は出土していない。

### 9) 土 坑 ・ ビ ッ ト

土坑のうち、SK204・212・233・239・381・464・479・480・622・686・923は、形態や埋土の特徴から、埋葬に関連する可能性を考えている。

#### SK83 (図版25・87)

4C24、4D4に位置する。平面形は方形で、断面形は半円状を呈する。規模は長軸1.13m、短軸0.95m、深さ0.36mである。埋土は3層に分層でき、黒色系埋土と褐色系埋土がレンズ状に堆積する。黄褐色粘

質土をブロック状に含み、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物は土師器（1層）が出土した。

**SK167** (図版25・87)

9E25、9F5、10E21、10F1に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。規模は長径0.72m、短径0.56m、深さ0.15mである。埋土は単層で、黒褐色粘質土が堆積する。遺物は珠洲焼壺が出土しており、P263出土の74と接合した。

**SK204** (図版25・87)

6D8に位置する。平面形は長方形で、断面形は台形状を呈する。規模は長軸1.49m、短軸0.84m、深さ0.47mである。埋土は3層に分層できる。黄褐色粘質土をブロック状に含む黒色系埋土がレンズ状に堆積し、人為的な埋め戻しと考えられる。SB240内に位置し新旧関係は不明だが、SK204が埋葬に関連する土坑と考えられるので、同時に存在したとは考えられない。遺物は出土していない。

**SK212** (図版25・87)

5E7・8・12・13に位置する。平面形は長方形で、断面形は台形状を呈する。規模は長軸1.84m、短軸0.82m、深さ0.39mである。埋土は4層に分層できる。1層は黄褐色粘質土をブロック状に含む黒色系埋土、2～4層は褐色系・灰色系埋土で、レンズ状に堆積する。人為的な埋め戻しと考えられる。近年の畑作の影響で土師器が混入していた。

**SK233** (図版25・88)

6E2・3・7・8に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。規模は長径1.84m、短径0.99m、深さ0.41mである。埋土は7層に分層できる。黄褐色粘質土をブロック状に含む黒色系埋土が主体で、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物は須恵器の杯蓋が出土したが、混入の可能性がある。

**SK234** (図版25・88)

6D25、6E5に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。規模は長径1.36m、短径0.96m、深さ0.48mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土をブロック状に含む黒色系埋土と褐色系埋土がレンズ状に堆積する。人為的な埋め戻しと考えられる。SD209と重複し、新旧関係はSD209に切られる。遺物は土師器が少量出土した。

**SK235** (図版25・88)

7E14に位置する。平面形は円形で、断面形は台形状を呈する。規模は長径1.56m、短径1.33m、深さ0.29mである。埋土は3層に分層できる。黄褐色粘質土をブロック状に含む黒色系埋土と褐色系埋土がレンズ状に堆積しており、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物は土師器・須恵器が出土したが、周辺に近年の畑作溝が位置するため、混入の可能性が高い。

**SK239** (図版25・88)

5E20・25、6E16・21に位置する。平面形は長方形に近く、断面形は台形状を呈する。規模は長軸1.69m、短軸1.09m、深さ0.42mである。埋土は3層に分層できる。1層が主体で、レンズ状に堆積する。人為的な埋め戻しと考えられる。遺物は出土していない。

**SK256** (図版26・89)

9C2・6・7に位置する。平面形は長方形で、断面形は台形状を呈する。規模は長軸1.31m、短軸0.96m、深さ0.45mである。埋土は4層に分層できる。黒色系埋土と灰色系埋土の互層で、レンズ状に堆積する。SD151、SK296、P254と重複し、新旧関係はSK296を切り、SD151、P254に切られる。遺物は土師器や珠洲焼が出土したほか、越前焼壺(68)・白磁皿(69)が3・4層から出土している。珠洲焼



はSE800出土の19と接合する破片も出土した。

#### SK264 (図版26・91)

8G13に位置する。平面形は円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長径1.10m、短径1.02m、深さ0.18mである。埋土は3層に分層でき、黒色系埋土がレンズ状に堆積する。SI255、SD151、P263と重複し、新旧関係はSI255、SD151を切り、P263に切られる。遺物は珠洲焼片口鉢(70)が1層から出土し、SI255、SD151出土の破片と接合した。また、20・74と接合する破片も出土した。

#### SK296 (図版26・89)

9G6・7に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長径1.24m、短径0.92m、深さ0.20mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土をブロック状に含む灰色系埋土がレンズ状に堆積する。SD151、SK256と重複し、新旧関係はSD151、SK256に切られる。遺物は珠洲焼片口鉢(71)が1層から出土した。71はSE800の出土破片と接合し、21と同一個体の可能性がある。

#### SK381 (図版26・89)

10I22・23、10J2に位置する。平面形は長方形に近く、断面形は箱状に近い。規模は長軸1.24m、短軸0.68m、深さ0.29mである。埋土は3層に分層でき、褐色系埋土と黒色系埋土がレンズ状に堆積する。遺物は土師器甕(72)、用途不明金属製品・鉄滓(1層)が出土した。堆積状況・出土遺物から2・3層がSK381本来の埋土で、埋没後に掘削された後の埋土が1層と考えている。1層は少量ながら黄褐色粘質土を含むことから人為的な埋め戻しが予想され、その際に土師器などが混入したと思われる。周辺には近年の畑作溝が位置しており、1層も近年の畑作溝の可能性が高い。

#### SK503 (図版26・89)

4E16・17・21・22に位置する。平面形は方形で、断面形は箱状を呈する。規模は長軸0.72m、短軸0.68m、深さ0.19mである。埋土は単層で、黄褐色粘質土をブロック状に含む暗褐色粘質土が堆積する。遺物は土師器の破片が1層から少量出土した。

#### SK622 (図版26・90)

9H15・20、10H11・16に位置する。平面形は長方形で、断面形は箱状を呈する。規模は長軸1.32m、短軸0.60m、深さ0.42mである。埋土は4層に分層できる。いずれも黄褐色粘質土・炭化物を含み、レンズ状に堆積する。埋土をすべて篩にかけてところ、1～5mmの骨片が6点出土した。骨片は被熱している可能性があるが、土坑の底面や壁面などに被熱の痕跡は確認できない。骨片の出土から埋葬に関する性格を想定しているが、ST684に比べ骨片は少なく、SK622から焼土は出土していない。そのため詳細な性格は不明とする。SE727、P918と重複し、新旧関係はP918を切り、SE727に切られる。遺物は土師器が少量出土した。

#### SK691 (図版26・90)

9G10・15に位置する。平面形は長方形で、断面形は箱状を呈する。規模は長軸1.20m、短軸0.87m、深さ0.28mである。埋土は4層に分層できる。上位に黒色系埋土、下位に褐色系・灰色系埋土がレンズ状に堆積する。3層を除き黄褐色粘質土や橙色シルトなどを含んでおり、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物は土師器・須恵器の破片や用途不明金属製品(2層)が出土した。

#### SK722 (図版26・90)

8H17・18・22・23に位置する。平面形は楕円形と思われ、断面形は弧状を呈する。規模は径0.92m、深さ0.14mである。埋土は単層で、黒褐色粘質土が堆積する。SB1100、P726と重複し、新旧関係は

P726を切り、SB1100とは不明である。遺物は土師質土器皿(73)が1層から出土した。

#### 15SK96 (図版26・63・90)

15L15・20、16L11・16に位置する。平面形は円形に近く、断面形は半円状を呈する。規模は長径0.75m、短径0.66m、深さ0.40mである。埋土は6層に分層でき、黒色系埋土と褐色系埋土がレンズ状に堆積する。調査中、底面付近から古墳時代の土師器が出土した。遺構掘形を確認したところ、土師器は下位のVI層から出土することが判明した。掘形を掘りすぎた結果で、15SK96に伴う遺物ではない。したがって、15SK96から遺物は出土していない。また、出土した土師器は摩耗が顕著で接合も低調のため、図示してはいるが、16LVI層出土の土師器(89～91)とほぼ同時期と考えている。

#### 15SK218 (図版26・91)

11H10・15に位置する。平面形は楕円形に近く、断面形は台形状を呈する。規模は長径1.38m、短径0.74m、深さ0.41mである。埋土は3層に分層でき、褐色系・灰色系埋土の上に黒色系埋土が堆積する。15SE185C、15P211・214と重複し、新旧関係は15SE185C、15P211・214に切られる。遺物は土師質土器が2層から少量出土している。

#### 15SK264 (図版26・91)

14I20、15I11・16に位置する。平面形は円形に近く、断面形は弧状を呈する。規模は長径2.35m、短径1.22m、深さ0.29mである。埋土は単層で、黄褐色粘質土・炭化物を含む暗オリーブ褐色粘質土が堆積する。遺物は土師質土器が少量出土している。

#### P263 (図版26・91・92)

8G13に位置する。平面形は円形で、断面形は台形状を呈する。規模は長径0.68m、短径0.58m、深さ0.33mである。埋土は5層に分層できる。1・2層は柱痕で、径は0.08～0.10mである。SI255、SK264と重複し、新旧関係はSI255、SK264を切る。遺物は珠洲焼壺(74)が3・4層(掘形埋土)から出土した。74はSE800、SD151、SK167・264から出土した破片と接合した。

### 10) 性格不明遺構

#### 15SX182 (図版26・92)

11H15に位置する焼土の分布範囲である。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長径0.62m、短径0.36m、深さ0.06mである。埋土は3層に分層できる。1・2層は黒色系埋土、3層はしまりの強い暗赤褐色砂礫で被熱する。15SE185Cと重複し、新旧関係は15SX182が15SE185Cの上部に堆積するため、15SX182の方が新しい。遺物は円筒形土製品(100)が出土した。

## B 遺 物

### 1) 土器・陶磁器

#### a 概 要 (第4表、第10・11図)

重量組成比を見ると、古墳時代5%弱、古代30%弱、中世55%強、近世1%強、不明10%強となる。古墳時代の土器は土師器のみである。分布は極端に偏り、15～17LVI層からの出土が多い。古代から近世の遺物がほぼ分布しない範囲から出土するが、VI層の微地形から(図版10)、地形の低いところに流れ込んだような状況が考えられる。壺などの器種が確認できるが、摩耗が顕著で、全体を復元できる個体は

ない。古代の土器類は遺構が集中する範囲に分布し、中世の遺構に混入する傾向がある。井戸やSD510の掘削、修築、埋め戻し、近年の畑作などにより、中世の遺構に混入したと想定する。このほか14JⅡ・Ⅲ層でも土師器・須恵器が集中する。遺構は確認できないが、遺存率が比較的高い個体が出土している(78～85)。古代の土器類が30%弱を占めることから、周辺に古代の遺跡が存在する可能性が考えられる。中世の土師質土器・珠洲焼は出土量は異なるものの、分布域はほぼ同じで、遺構が集中する範囲から出土する。井戸や溝からの出土が多い。用途別では、食膳具(椀・皿類)は土師質土器・瀬戸美濃焼・青磁・白磁などがあり、比率は土師質土器75%強、青磁15%強、白磁5%強、瀬戸美濃焼3%強となる。一方、調理具(片口鉢)は珠洲焼のみである。甕・壺類の貯蔵具は珠洲焼・越前焼があるが、珠洲焼が90%を超える。中世越前焼は1.7%強、近世や時期不明のものも加えると2.7%弱となる。珠洲焼に比較すれば低い比率だが、13世紀～14世紀の個体も出土し、越前焼は遺跡内で一定の比率を占めている。近世の土器・陶磁器の分布は図示していないが、ほぼ全域に散在する傾向がある。

土器・陶磁器の時期・器種分類について、古代の土師器・須恵器は春日真実氏の論考〔春日1999〕、中世の土師質土器は水澤幸一氏の論考〔水澤2005〕、珠洲焼は吉岡康暢氏・加賀真樹氏の論考〔吉岡1994・2003、加賀1997〕、瀬戸美濃焼は藤澤良祐氏の論考〔藤澤2002・2008〕、越前焼は岩田隆氏・木村孝一郎氏の論考〔岩田1997、木村2008〕、輸入陶磁器は主に大宰府条坊跡での調査成果〔山本ほか2000〕を参考にした。古代・中世の暦年代は第5・6表を目安とする。

## b 遺 構 出 土

### SI159 (図版27・93)

1は手づくね成形の土師質土器皿で、口径は12.6cmである。器形は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部は面取りされる。体部と底部の境界は不明瞭で、底部には指頭圧痕が残る。時期は14世紀前半と考える。

### SE196 (図版27・93)

2は珠洲焼片口鉢である。口縁端部は丁寧に面取りされ、内面はやや摩耗する。卸目は7条1単位である。時期は珠洲Ⅲ期頃と考える。

### SE202 (図版27・93)

3は青磁椀で、鎗蓮弁文が施される。破片が小さく不明な点もあるが、時期は13世紀後半頃と考える。

### SE205 (図版27・93)

4は珠洲焼片口鉢で、体部が内湾ぎみに立ち上がる。口縁端部は面取りされ、上方に積み上げられる。

時期	種類	組成比
古墳時代	土師器	4.03%
	土師器	17.66%
古 代	須恵器	11.01%
	土師質土器	0.67%
中 世	珠洲焼	52.90%
	越前焼	1.71%
	瀬戸美濃焼	0.03%
	青 磁	0.14%
	白 磁	0.05%
中世陶器		0.02%
近世陶磁器		1.10%
時期不明		10.09%

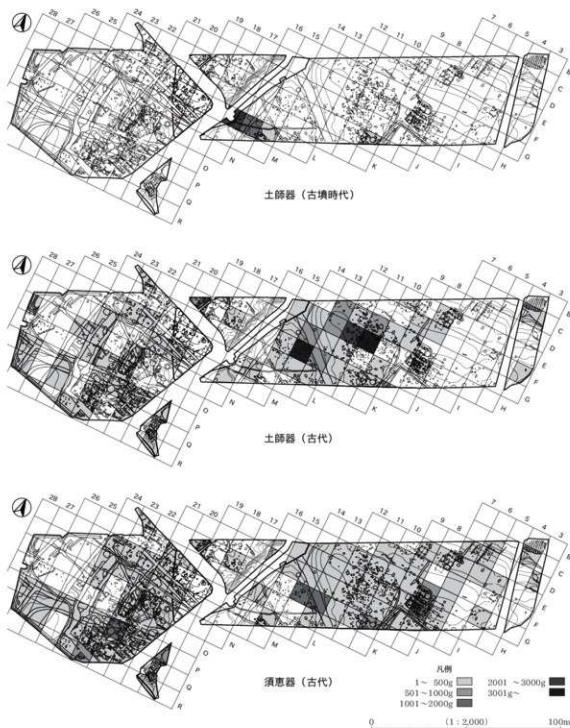
第4表 堂古遺跡土器・陶磁器の重量組成比

時期	暦年代
古代Ⅰ期	6世紀末～7世紀前半
古代Ⅱ期	7世紀後半～7世紀末
古代Ⅲ期	8世紀前半～8世紀前半
古代Ⅳ期	8世紀後半～9世紀前半
古代Ⅴ期	9世紀前半～9世紀中葉
古代Ⅵ期	9世紀後半～10世紀初頭前後

第5表 古代の暦年代  
(春日1999を改変)

時期	暦年代
珠洲Ⅰ期	12世紀中葉～
珠洲Ⅱ期	1160～1170年代
珠洲Ⅲ期	1180～1190年代
珠洲Ⅳ期	13世紀前半～1270年代
珠洲Ⅴ期	1280～1310年代
珠洲Ⅵ期	1320～1350年代
珠洲Ⅶ期	1360～1370年代
珠洲Ⅷ期	1380～1440年代
珠洲Ⅷ期	1450～1470年代

第6表 珠洲焼の暦年代  
(加賀1997を改変)

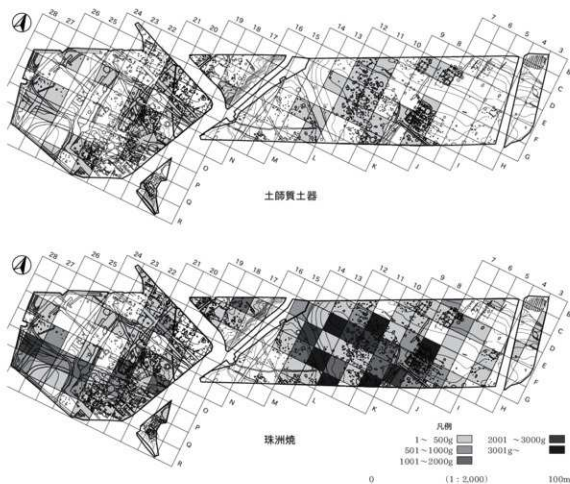


第10図 堂古遺跡・下割遺跡の土器・陶磁器の分布(1)

ロクロ目が顕著で器面の凹凸が著しい。卸目は7条1単位で浅い。内面には炭化物が付着し、中位から下位にかけて使用痕が著しい。SE249出土の破片と接合した。時期は珠洲Ⅱ～Ⅲ期と考える。

SE313 (図版27・93)

珠洲焼の壺R種C類(5)・壺T種(6)を図示する。5は頸部がわずかに肥厚し、口縁端部はほぼ平坦になる。頸部外面と口縁部内面、口縁端部に波状文が巡り、文様の振幅はやや乱れる。時期は珠洲Ⅲ～Ⅳ期と考える。6の外面には幾何学文のタキガ、内面にはあて具痕が残る。あて具痕の上からはナデが施



第11図 堂古遺跡・下割遺跡の土器・陶磁器の分布(2)

される。時期は珠洲Ⅱ期頃と考える。

#### SE380 (図版27・93)

7は手づくね成形の土師質土器皿で、口径は8.8cmである。体部は底部から直線的に立ち上がり、口縁端部は面取りされる。体部と底部の境界は比較的明瞭で、焼成は良好である。時期は13世紀後半と考える。

#### SE391 (図版27・93)

珠洲焼の甕(8)・片口鉢(9)を図示する。8は体部に張りが弱く、口縁端部は肥厚して丸くおさまられる。外面は平行タタキ、内面にはあて具痕が残るが、あて具痕は不明瞭である。時期は珠洲Ⅲ~Ⅳ期と考える。9の内面には8条1単位の卸目が隙間なく密に入れられる。内面の使用痕が顕著で、特に底面は卸目の一部消えている。

#### SE393 (図版27・93)

土師質土器皿(10・11)・珠洲焼片口鉢(12・13)を図示する。10は手づくね成形で、口径9.0cm、器高は1.8cmである。器形は丸みをもつ底部から直線的に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまられる。体部と底部の境界は不明瞭で、器壁はやや厚い。内外面に油煙様の炭化物が付着することから、灯明皿として使用されたと予想される。時期は14世紀前半頃と考える。11はロクロ成形で、底部の切り離しは回転系切りである。体部は直線的に立ち上がり、底部は器壁が厚い。内外面には油煙様の炭化物が付着

し、内面は器面の剥落が目立つ。時期は15世紀代と考える。12・13の器形は、体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。内傾する口縁端部には波状文が施文される。12の波状文は振幅の乱れはほとんどなく、13は振幅が乱れ全体的に施文が粗い。いずれも内面に炭化物が付着しており、12の外面にはススが付着する。卸目は12が5条1単位、13が8条1単位である。なお13はSD318の1層から出土した破片と接合している。時期はいずれも珠洲Ⅴ期である。

#### SE613 (図版27・93)

14は珠洲焼片口鉢で、やや腰高きみの器形である。卸目は16条1単位で、「米」の字状に入れられる。外面と断面にススが付着する。内面の使用痕は比較的顕著である。底部外面には、切り離し後に板上に置いたと思われる痕跡が残る。時期は珠洲Ⅲ期頃と思われる。

#### SE737 (図版27・93)

手づくね成形の土師質土器皿(15)・珠洲焼片口鉢(16)を図示する。15は底部からやや外反きみに立ち上がり、底部と体部の境界は不明瞭である。破片が小さく誤差もあるかもしれないが、口径は10.6cmとなる。時期は14世紀前半と考える。16は胎土が砂質で、そのため摩耗が著しく器面も剥落する。卸目は14条1単位で密に入れられる。

#### SE800 (図版27・93)

珠洲焼の壺(17～19)・片口鉢(20・21)を図示する。17は壺R種C類で、体部上半に鋭利な波状文が2段施される。文様の振幅に乱れはほとんどない。時期は珠洲Ⅱ～Ⅲ期とする。18は外反する壺の口縁部片で、端部は面取りされる。時期は珠洲Ⅳ期と考える。19は壺K種で、器形は底部から直線的に立ち上がる。内面のロクロ目が顕著で、底部外面には切り離し後に板上に置いたと思われる痕跡が残る。SK256の4層出土の破片と接合した。20は体部が直線的に立ち上がる器形で、口縁端部が面取りされ、内側は上方へ摘み上げられる。卸目は20条1単位で、1条当たりの幅が狭い。SD151、SK264出土の破片と接合している。時期は珠洲Ⅲ期頃と考える。21も直線的に立ち上がる器形で、卸目は7条1単位である。内面のロクロ目や使用痕は顕著である。器形や胎土からSK296出土の71と同一個体の可能性がある。

#### SE986 (図版27・93)

22は珠洲焼片口鉢で、11H23に位置するSE986から出土した。底部から内湾しながら立ち上がる器形で、口縁端部は面取りされる。片口部内面の幅は約1.5cm(指1本弱)で狭い。1/2弱遺存し、口縁部は片口部に近い範囲しか遺存しない。そのため断定はできないが、卸目は施されていない可能性が高く、内面には部分的に顕著な使用痕が確認できる。同様に誤差があるかもしれないが、口径は18.0cmで、「小鉢」に分類できる。1/2個体分の破片が出土する状況は、15SE162出土の29と類似する。時期は珠洲Ⅰ～Ⅱ期と考える。

#### SE1087 (図版28・93)

須恵器杯蓋(23)・珠洲焼片口鉢(24)を図示する。23は山笠状の杯蓋で、口縁端部は短く、内側にやや屈曲する。時期は古代Ⅳ期と考える。24の卸目は9条1単位で、卸目は比較的密に入れられる。断面に炭化物が付着する。焼成はやや不良である。

#### SE1124 (図版28・93)

25は珠洲焼壺Ⅱ種で、内湾する体部にくの字状の口頸部がつく。頸部は肥厚し、口縁端部は外側へ摘み出される。体部外面には綾形状のタタキ、内面にはあて貝痕が残る。隣接するタタキ同士の角度が鋭角

そのため、綾杉が明瞭である。頸部外面には「+」の記号文ないし刻字文が刻まれる。単線は縦線→横線の順である。15SE185Cの1層出土の破片と接合している。時期は珠洲Ⅱ～Ⅲ期と考える。

#### 15SE3 (図版28・94)

珠洲焼の甕(26)・壺T種(27)・片口鉢(28)を図示する。26は内湾する体部に短い口縁部がつく器形で、口縁端部は外側へ摘み出される。体部外面には平行タタキ、内面にはあて具痕が残る。また、体部外面の上位には刻印が確認できる。時期は珠洲Ⅲ～Ⅳ期と考える。27は内湾する体部にくの字状の口頸部がつく。頸部は内外面に綾が認められる。口縁端部は外側へ摘み出され、やや丸みを帯びる。体部外面には綾杉状のタタキ、内面にはあて具痕が残る。タタキが粗雑で、綾杉が崩れ平行に近くなっている。体部外面の上位には「大」の刻字文が確認できる。28は体部から口縁部にかけてやや内湾する器形で、端面は少しくぼむ。内面には炭化物が付着し、11条1単位の卸目が確認できる。27・28の時期は珠洲Ⅳ期と考える。

#### 15SE162 (図版28・94)

29は珠洲焼片口鉢である。器形は底部から直線的に立ち上がり、口縁部がわずかに内湾する。口縁端部は内傾し幅広い面をもつが、内面の段は不明瞭である。施文方法が粗雑なためか、卸目は7条1単位の部分と5条1単位の部分が混在し、時計回りで放射状に入れられる。胎土は大小の礫を含み粗い。時期は珠洲Ⅵ期と考える。12H2・3・8に位置する15SE302の1・3層出土の破片と接合するが、それぞれの井戸から約1/2個体分の破片が出土している。

#### 15SE185 (図版28・94)

土師器(30～33)・黒色土器(34)・珠洲焼(35)を図示する。このほか青磁なども出土したが、小破片のため図化していない。30は非ロクロ成形の小型甕である。体部はやや内湾ぎみに立ち上がり、口縁部はくの字状に短く屈曲する。端部は面取りされる。体部外面にはハケやケズリが施される。また内面にはコゲ、外面にはスガが付着する。31～33は非ロクロ成形の長胴甕である。31・32の体部は緩やかに内湾する。頸部は直立し、口縁部は外傾する器形となる。調整はあまり明瞭ではないが、ナデやハケが施される。33の器形は底部から内湾ぎみに立ち上がる。内外面にはハケが施され、底部外面まで及ぶ。34は非ロクロ成形の杯類とした。遺存状況から高杯の可能性も残る。器形は体部が内湾ぎみに立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。30～34は古代Ⅰ～Ⅱ期の所産と思われる。35は片口鉢の口縁部片で、端面がわずかにくぼむ。破片のため卸目の単位は確認できない。時期は珠洲Ⅲ期頃である。

#### 15SE219 (図版28・94)

珠洲焼片口鉢(36～41)を図示する。36はやや腰高ぎみの器形である。口縁端部は肥厚し、端面がややくぼむ。卸目は10条1単位の、内面の使用痕が顕著である。37の器形も36とほぼ同じだが、口縁端部はやや内傾する。卸目は10条1単位の、内面の使用痕は顕著である。36・37の時期は珠洲Ⅳ期と考える。38は口縁端部が面取りされる。時期は珠洲Ⅲ期頃と考える。39は底部から直線的に立ち上がる器形である。卸目は11条1単位の、内面の使用痕は顕著である。胎土は粗く大小の礫を多く含む。内外面ともに摩耗している。40・41は底部の破片である。いずれも卸目は確認できないが、内面の使用痕が顕著であることから片口鉢と判断した。

#### 15SE296 (図版29・94)

42は土師器の小型甕で、ロクロ成形と思われる。器形は丸底の底部から内湾しながら立ち上がる。くの字状に屈曲する口縁部はわずかに内湾し、端部は丸くおさめられる。胎土は混入物を多く含む粗いもので、やや摩耗している。時期は古代Ⅲ～Ⅳ期としておく。

## SD151 (図版 29・94)

43は珠洲焼片口鉢である。体部はゆるやかに内湾しながら立ち上がり、口縁部はやや肥厚する。卸目は16条1単位で、内面の使用痕は顕著である。時期は珠洲Ⅳ期と考える。

## SD318 (図版 29・94)

44は珠洲焼の小型壺Ⅰ種である。肩部外面には波状文が走り、振幅の乱れがほとんどない。内面全体に赤色漆が付着するが、断面には付着していない。用途としては漆容器などが考えられる。時期は珠洲Ⅳ期頃であろうか。

## SD462 (図版 29・94)

手づくね成形の土師質土器皿(45)・越前焼壺(46)を図示する。45は丸みのある底部からやや外反ぎみに立ち上がる器形で、口縁部は丸くおさめられる。内外面には油煙様の炭化物が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。時期は14世紀前半と考える。46の口縁部は受け口状で、断面形はN字状となる。焼成は良好である。時期は13世紀後半～14世紀前半としておく。

## SD510 (図版 29・94・95)

古代の遺物は土師器(47～52)・黒色土器(53)・須恵器(54～60)を図示する。土師器はいずれも口クロ成形である。47は無台椀で、体部は内湾し、口縁部はやや外反する。器壁は底部に厚みがあるが、体部から口縁部は比較的均一である。全体的に摩耗が著しい。48・49の器種は皿とした。類似の器形は今池遺跡〔坂井<sup>1)</sup>前掲〕(土師器)、八幡林遺跡〔田中・桑原1994〕(木器)、鉄砲町遺跡〔藤巻・横田1995〕(須恵器)などで散見できる。器形は48が外反しながら立ち上がり、口縁部はやや外反しながら上方に摘み上げられる。49は直線的に立ち上がり、口縁部は直立する。いずれも底部切り離し技法は回転糸切りである。胎土とともに精良だが、焼成が不良で摩耗が著しい。47～49の時期はおおむね古代Ⅵ2～3期と考える。50は小型壺で、口縁部はくの字状に屈曲し、端部は丸くおさめられる。51・52は長胴壺で、口縁部はくの字状に屈曲する。52は口縁部がやや肥厚し、端部は上方に摘み上げられる。ともに体部は張りがなく、ほぼ垂直状となる。調整は、外面はナデ・ハケ・ケズリ、内面はナデ・カキメなどが施される。50～52の時期は古代Ⅳ期と考える。53の器種は高杯で、杯部の内底面と脚部が遺存する。杯部の内面は黒色処理後ミガキが施され、脚部には輪積みの痕が明瞭に残る。時期は古代Ⅰ期前後と思われる。54～57は無台杯で、いずれも底部切り離し技法はヘラ切りである。54～56は底部から直線的に立ち上がり、57はやや内湾ぎみに立ち上がる。55・57の口縁部は外反する。54は底部がやや厚く、身が深い。56の内外面には火だすきの痕跡が残る。焼成は54を除き良好である。時期は54・55が古代Ⅳ1～2期、56が古代Ⅲ2～Ⅳ1期、57が古代Ⅲ2期と考えている。58は有台杯で、底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。高台は外へ踏ん張るような形態で、内端で接地する。ヘラ切りによる切り離し後、その痕跡をナデ消す。焼成はやや不良である。時期は古代Ⅲ2期と考える。59はつまみが擬宝珠状となる杯蓋で、器壁は厚い。時期は古代Ⅳ期と考える。60は瓶頸とした。全体の器形は不明である。SI465から同一個体片が出土している。

中世の遺物は珠洲焼(61・62)・越前焼(63)・瀬戸美濃焼(64・65)・白磁(66)を図示する。61・62は壺で、61の口縁部はくの字状に屈曲し、やや肥厚する。62の口縁部は外側に引き出され、断面形はコの字状となる。口縁部は比較的平坦である。ともに体部外面には平行タタキ、内面にはあて貝痕が残る。時期はいずれも珠洲Ⅳ期頃と考える。63は壺の体部片で、外面に格子目の押印文が確認できる。押印は縦線11条以上(4.0cm以上)、横線6条(3.1cm)の横長である。SK256出土の68にも同様の押印があ



り、接合はしないが同一個体の可能性もある。「鉄塗り」技法が採用されていないことから16世紀が下限となる[田中1994]。64・65は天目茶碗で、底部を欠損する。64の器形は体部が直線的に立ち上がり、口縁部は直立する。時期は古瀬戸後期様式Ⅲ～Ⅳ期(15世紀前半～末)頃と考える。65は64に比べ体部の器壁が厚く、口縁部の断面形はゆるいS字状となる。時期は大濠様式2～3段階(16世紀中葉～末)頃と考えている。66は口禿白磁で、器種は椀ないし皿と考える。口縁部は外傾し、端部はやや丸みを帯びる。時期は13世紀後半～14世紀初頭と考える。

#### 15SD23 (図版29・95)

67は外面に波状文が施される須恵器甕で、振幅の乱れはほとんどない。時期は古代Ⅳ期頃と思われる。

#### SK256 (図版29・95)

越前焼(68)・口禿白磁皿(69)を図示する。68は外面に格子目の押印文が施される。押印は縦線12条(4.6cm)、横線6条(3.1cm)の横長で、SD510出土の63と同一個体の可能性もある。「鉄塗り」が確認できないことから、16世紀が下限となる[田中前掲]。69は体部がほぼ直線的に立ち上がり口縁部に至る器形で、端部は強めに面取りされる。時期は13世紀後半～14世紀初頭と考える。

#### SK264 (図版29・95)

70は珠洲焼片口鉢で、体部中位で内湾する低平な器形である。口縁端部は面取りされ、端面はわずかにくぼむ。卸目は10条1単位である。SI255(1層)、SD151出土の破片と接合した。時期は珠洲Ⅲ～Ⅳ期と考える。

#### SK296 (図版29・95)

71は珠洲焼片口鉢である。体部が直線的に立ち上がるやや腰高の器形で、口縁端部は面取りされる。口縁部が著事で、器面の凹凸が著しい。卸目は7条1単位で、内面の使用痕が目立つ。SE800出土の破片と接合し、SE800出土の21と同一個体の可能性がある。時期は珠洲Ⅳ期と考える。

#### SK381 (図版30・95)

72は口縁部成形の土師器の小型甕である。体部は直線的で、口縁部は緩くくの字状に屈曲する。口縁端部は上方に摘み上げられる。外面にはナデとカキメが施される。時期は古代Ⅳ1期前後と考える。

#### SK722 (図版30・95)

73は手づくね成形の土師質土器皿で、やや丸みのある底部から内湾しながら立ち上がる器形である。口縁端部は丸くおさまられ、底部と体部の境界は不明瞭である。全体的に摩耗し、内面は剥落する。時期は14世紀前半と考える。

#### P263 (図版30・91・92・95)

74は珠洲焼壺Ⅰ種である。体部はなで肩状となり、頸部はやや肥厚し外面に稜が認められる。口縁端部は外側に摘み出される。体部外面には綾杉状のタタキ、内面にはあて具痕が残る。SE800(3・4・10層)、SD151(1・2層)、SK167・264出土の破片と接合した。時期は珠洲Ⅳ期と考える。

#### P297 (図版30・95)

75は8H10に位置するP297から出土した口禿白磁皿である。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁端部はやや強めに面取りされる。時期は13世紀後半～14世紀初頭と考える。

#### P500 (図版30・95)

76は8H18に位置するP500から出土した手づくね成形の土師質土器皿で、口径は9.0cmである。器壁は厚く、体部は内湾しながら立ち上がる器形で、口縁端部の面取りは弱い。全体的に摩耗する。時期

は14世紀前半と考えておく。

#### P801 (図版30・95)

77は715・811に位置するP801から出土した珠洲焼で、口縁部はくの字状に屈曲する。外面には平行タキ、内面にはあて具痕が残る。時期は珠洲Ⅲ～Ⅳ期と考える。

#### c 遺構外出土 (図版30・95・96)

古代の上師器・須恵器(78～85)は14JⅡ・Ⅲ層(中世遺構検出面)から出土し、遺存率が比較的高い。古墳時代の土師器(89～91)は15L周辺や16・17L周辺のⅥ層から出土したが、摩耗が著しくほとんど接合しない。器種は壺や甕が多い。14J、15L周辺、16・17L周辺は中世の遺構がやや希薄である。

78・79はロクロ成形の土師器の小型甕で、胎土は類似する。78は体部の張りが弱く、口縁部はくの字状に屈曲し、口縁端部は面取りされる。体部内面にはカキメが確認できる。全体的に摩耗が顕著である。79の器形は体部が球形で、口縁部はやや内湾し、端部は面取りされる。体部外面はカキメ後にケズリが施され、内面はカキメが施されている。78・79の時期は古代Ⅳ1期と考えている。80は須恵器無台杯である。器形はやや丸みのある底部から直線的に立ち上がり、口縁部がやや外反する。底部切り離し技法はヘラ切りで、焼成はやや不良である。時期は古代Ⅲ2～Ⅳ1期である。81は須恵器有台杯で、器形は体部が緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。高台が低く、外側へ踏ん張るような形状である。底部切り離し技法はヘラ切りで、使用痕があまり確認できない。時期は古代Ⅲ2期と考えられる。82～85は須恵器杯蓋である。いずれも器形は天井部が扁平で、口縁端部は短く内側へ屈曲する。82はヘラ切りによる切り離し後、内外面にロクロナデが施され、83～85は切り離し後、ケズリとナデにより切り離しの痕跡が消されている。時期は82が古代Ⅲ2期前後、83～85が古代Ⅲ2～Ⅳ1期と考えている。86は手づくね成形の土師質土器皿である。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部は面取りされる。底部と体部の境界は不明瞭で、器壁が厚い。底部外面には指頭圧痕が残る。時期は14世紀前半と考える。87は珠洲焼瓶類の把手で、手づくねの痕跡が残る。88は青磁碗で、高台内は施軸されていない。軸の厚さは全体的に薄い。89～91は古墳時代前期の土師器で、摩耗が著しい。89は二重口縁壺の口縁部片で、口縁部に粘土を貼付して段を作出する。調整は外面にナデ、内面にミガキがわずかに確認できる。90も二重口縁壺とした。89ほど明瞭ではないが、段が設けられている。91は壺の頸部で、粘土を貼付して段を作出している。

## 2) 土製品

### a 遺構出土

#### SE237 (図版30・96)

92は珠洲焼壺・甕の体部片を研磨具に転用している。比較的手にもちやすい大きさである。外面のタキ部分の使用面で、特に中心部の摩耗が著しい。

#### SE613 (図版30・96)

93は須恵質の平玉で、凹面には布目痕が、凸面には縄叩き痕が残る。焼成は良好である。

#### 15SE185 (図版30・96)

94は支脚とした。下部を欠損するが、脚部がつくと思われる。外面上部(残存長の3/4)が被熱し、調整はハケが施される。95は円筒形土製品で、外面にハケが施され、内面には輪積痕が残る。

**SD510** (図版 30・96)

96は円柱状の支脚片で、直径約1.0cmの孔が確認できる。外面には手づくね痕が残り、内外面は被熱する。97～99は珠洲焼甕・壺の転用研磨具である。97は上端・右側面の断面部分、98は外面タタキ部分と底部外面、99は外面タタキ部分が使用面である。98・99は手にもちやすい大きさである。

**15SX182** (図版 30・96)

100は円筒形土製品である。外面はハケが施され、内面には成形時の輪轆痕が残る。

**b 遺 構 外 出 土** (図版 30・96)

101は13G21 III層(中世遺構の検出面)から出土した支脚で、脚部はハの字状に開く。内面や外面中位に手づくね痕が残る。外面上半部は被熱し、全体的に摩耗する。102は珠洲焼甕・壺の転用研磨具で、外面のタタキ部分が使用面である。比較的手にもちやすい大きさで、7H I層から出土した。

**3) 石 製 品**

石製品は砥石・硯・磨石類・石鉢・磨製石斧などが出土した。磨製石斧は縄文時代の所産で、中世の井戸(SE367)に混入したものと考えている。石製品は井戸や溝から出土する傾向にあり、遺構密度が高いSD510の北東側から多く出土する。

**a 遺 構 出 土**

**SE306** (図版 31・96)

103は砥石(中砥ないし上砥)である。形状は角柱状で厚みがあり、上端を欠損する。正裏左右側面が使用面で、細かな線状痕や刻み痕がある。側面にやや反りが認められる。石材は凝灰岩である。

**SE367** (図版 31・96)

104は磨製石斧である。基部側が狭い撥形を呈している。全面を丁寧に研磨し、刃部には使用痕が認められる。石材は蛇紋岩で、SE367底面のほぼ中央から刃部を南側に向けて出土した。

**SE737** (図版 31・96)

105は用途不明石製品とする。隅丸長方形の自然礫の側面に槌状の細い刻み痕や擦痕、正裏面に溝状の刻み痕が確認できる。釘や錐のような先の細い工具の先端などを研磨した砥石の可能性もある。研磨は往復方向に行われている。石材は軟質の凝灰岩である。

**SE1104** (図版 31・96)

106は砥石(荒砥)である。形状は角柱状に近く厚みがあり、ほぼ完形である。正裏左右側面が使用面で、細かな線状痕や深い筋状痕がある。この筋状痕は先端が尖ったものを研磨した痕跡と考えられる。石材は砂岩である。

**SD151** (図版 31・96)

107は磨石類で、自然礫を素材とする。正裏面とも敲打による凹み、上下端にツブレが認められる。石材は凝灰岩で、全体に風化する。

**SD318** (図版 31・83・96)

108は硯で上端(海部)を欠損する。全体に剥落が認められ、遺存状況はあまりよくない。縁の内側は卵形で、縁辺に墨痕が残存する。縁の高さは約0.2cm、海部の深さ約1.3cmである。視面は比較的丁

準な作りだが、裏左右側面には線状痕が残る。製作痕であろうか。石材は黒色粘板岩で、石質はあまり緻密ではない。109～111は砥石（中砥ないし仕上げ砥）で、形状は角柱状に近い。109は側面にやや反りをもつが、それ以外はあまり反らない。石材はすべて凝灰岩である。

#### SD510 (図版31・97)

112は石鉢で、片口部分のみ遺存する。特にススなどの付着物も認められない。石材は砂岩である。113は自然礫を素材とする砥石である。正裏面が使用面で、細かな線状痕や刻み痕が残る。左側面を欠損する。石材は安山岩である。

#### b 遺構外出土 (図版31・97)

114は砥石（中砥ないし仕上げ砥）である。形状は角柱状で、側面は反っている。正裏左右側面が使用面で、細かな線状痕がある。上下端は欠損しており、表面にはススが付着する。石材は流紋岩である。

#### 4) 木製品

漆器・曲物・箸のほか、部材などが出土した。図示していないものも含め、すべて井戸から出土している。

#### SE80 (図版31・97)

115は杭状木製品で、下端を右側縁から斜めに削り、尖端を作出する。上端と下端を欠損する。116は板状木製品で、裏面と上下端を欠損する。

#### SE196 (図版31・97)

117は漆器椀で、底部から体部の一部が遺存する。内外面に黒色漆を塗布する。器形は底部から直線的に立ち上がる。木取りは横木取りである。

#### SE412 (図版31・97)

118は漆器皿で、内外面に黒色漆を塗布する。器形は底部から直線的に立ち上がる。木取りは縦木取りで、底部に轆轤挽きの痕跡が残る。時期は13世紀後半～14世紀前半と考える。

#### SE737 (図版31・64・97)

119は漆器椀である。内外面には黒色漆を塗布し、赤色漆で文様（植物文か）が描かれる。外面の文様は同じものが3単位描かれる。底部からゆるやかに内湾しながら立ち上がる器形で、器壁は全体的に薄い。木取りは横木取りである。時期は13世紀後半～14世紀代と考える。120・121は板状木製品で、木取りは柁目である。120は上下端を欠損し、正面に斜位の加工痕が残る。121も上下端を欠損し、径0.3～0.5cmの孔が5か所確認できる。孔はいずれも摩耗し、粗などを通していたと思われる。

#### SE999 (図版32・97)

122は曲物底板とする。木釘穴が確認できないため、側板に取りつける前の可能性がある。3枚の板を合釘で接ぎ合せており、合釘は遺存している。木取りは柁目で、樹種はトウヒ属である。123は容器の蓋であろうか。2か所に径約0.7cmの孔が確認でき、側面観は湾曲する。木取りは板目で、樹種はキハダである。

#### 15SE222 (図版32・64・97)

124は白木椀とした。器形は底部から内湾しながら立ち上がり、口縁端部は上方に挽き出される。器壁は厚みがあり、轆轤挽きの痕跡が明瞭に残る。底部には孔が2か所、底部外面には木地を轆轤に固定した痕跡が1か所確認できる。未製品の可能性があり、小刀(133)とともに意図的に井戸のなかに入れ

られたと考えられる。木取りは横木取りで、樹種はブナ属である。

**15SE229** (図版 32・97)

125 は瓶底板ないしは容器の蓋であろうか。中央に 0.9cm の孔、四隅に約 0.5cm の孔が設けられる。正面には黒色付着物が認められる。木取りは柱目で、左右側面を欠損する。樹種はヒノキである。

**15SE282** (図版 32・98)

126 は箸で、上端と下端を尖らすように加工する。樹種はスギである。127 は角柱状の部材で、下部には加工痕(抉り)が認められる。木取りは柱目で、上端と下端を欠損する。

**15SE296** (図版 32・98)

128 は曲物底板とする。右外周が破損するため明確ではないが、木釘穴などは確認できない。正面などに加工痕や線状痕が確認できる。木取りは柱目で、樹種はヒノキである。

## 5) 金 属 製 品

鎌・刀子・小刀・用途不明金属製品が柱穴・井戸・溝などから出土している。器種では刀子・小刀の出土が多い傾向がある。

### a 遺 構 出 土

**SB1018** (図版 32・68・98)

129 は P122 から出土した用途不明金属製品である。上端は剣先状を呈するが、先端を欠損するため詳細は不明である。下端も欠損し、下部には目釘状の突起物が確認できる。長さ 13.0cm、幅 2.8cm、厚さ 1.3cm である。130 は P114 から出土した刀子で、刃部と茎の一部が残存する。

**SB1019** (図版 32・64・98)

131 は P168 から出土した鎌である。刃部の厚さは薄く、反りはほぼない直刃である。刃部の長さは推定約 17.0cm である。柄の部分には木質・目釘が残存するが、柄自体は残存しない。形状や大きさから実用的な刃鎌と考えられる。

**SE315** (図版 32・98)

132 は刀子である。刃部と茎を欠損し、区の周辺のみ残存する。

**15SE222** (図版 32・64・98)

133 は小刀である。ほぼ完形で、反りが認められる。茎に目釘穴が 1 か所確認できるが、目釘や柄は残存しない。意図的に柄が外され、白木碗(124)とともに井戸に入れられた可能性がある。長さは 29.3cm である。

**SD318** (図版 32・98)

134 は刀子で、区の周辺のみ残存する。

**SD328** (図版 32・98)

135 は用途不明金属製品で、一部が折り曲げられる。

### b 遺 構 外 出 土 (図版 32・98)

136 は用途不明金属製品とした。下方に向かい幅が広がる形状で、下端は平坦である。断面形は扁平で、下方に向かい徐々に厚みを減じる。上端は欠損するが、角柱状の柄がつく可能性がある。

## 4 下割遺跡

### A 遺構

#### 1) 概要

記述の方法と遺構の分類については第三章 3A1)・3) に準じて記述する。2015 年度調査で検出した、2010 年度調査遺構の延伸部分は同一の遺構名を使用した (SB09、SE212、SD253・267・299、濠、SK291)。このうち SE212 は 2010 年度にビット (P212) としたが、2015 年度調査の結果、井戸と判断したので「SE212」として報告する。2015 年度調査の遺構については、遺構略号の前に調査年「15」を付した。遺構数は 2010 年度遺構の延伸部分を含め、掘立柱建物 1 棟、井戸 21 基、溝 11 条、濠 1 条、土坑 23 基、ビット 260 基である (第 7 表)。遺構番号は 313 まで付したが、245 は欠番とした。

西側調査区 (市道の南西側) の遺構分布は、19M・N、20M には溝が多く、20M 周辺には井戸がややまとまって位置する。20K・L 周辺はビットを中心に土坑や井戸などが点在し、19L 周辺は遺構がやや希薄となる。東側調査区 (市道の北東側) は 18・19 列間を境として、その東西で遺構分布に偏りが見られる。19・20 列 (西側) は大型土坑 (15SK170・199・252) のほか、ビットがやや多く分布する。ビットのなかには、深さが深く建物などの柱穴として機能した可能性があるものも確認したが、SB09 を除き建物などの認定には至らなかった。17・18 列は、堂古遺跡との間を流れる農業用水路に向かい地形が傾斜しており、遺跡の縁辺部に当たる。そのため遺構分布が希薄になっている。

2010・2011 年度調査では古代から近世の遺構が確認されているが [石川・山下<sup>aa</sup>前掲]、2015 年度調査の遺構からは主に中世から近世の遺物が出土している。遺構出土の遺物量、遺物が出土した遺構数は多くはなく、遺構の埋土や形態上の差異などもほとんど認められないため、時期を特定できる遺構は少ない。そのため、時期を特定できる遺構以外は、おおむね中世から近世の遺構とまでしか言及できない。したがって、遺構の種類ごとに説明していく。

#### 2) 掘立柱建物

2015 年度は 262 基のビットを検出した。掘立柱建物を構成する柱穴となる可能性が考えられるものも存在したが、建物と認定できたものは 1 棟のみである。

##### SB09 (図版 37・99)

2010 年度調査で調査範囲外であった SB09 の北東隅柱 (15P15・16) を検出した。西側調査区 20・21L、21M に位置する桁行 2 間 (6.56m) × 梁間 1 間 (4.16m) の建物である。2010 年度には桁行の延伸が不明であったため 2 間以上としていたが [石川・山下<sup>aa</sup>前掲]、2015 年度調査でそれ以上の延伸がないことが判明した。桁行方向 N-22°E の南北棟で、面積は約 27.30m<sup>2</sup> である。P213 を除き柱穴が 2 基 1 組、0.56 ~ 0.96m 間隔で桁行上に配置され、15P15 の北側にも 15P16 が位置する。これらのビット (P215・277・284・255 北、15P16) は柱の補強目的や床束柱の可能性が指摘されている [石川・山

	2010 年度の 遺構の延伸	2015 年度
掘立柱建物	1	0
井戸	1	20
溝	3	8
濠	1	0
土坑	1	22
ビット	0	260

\*ビット 2 基は掘立柱建物で集計

第 7 表 下割遺跡の遺構数

下<sub>は</sub>前掲。桁行の柱穴間隔は2.28～4.24mで、北側が狭く、南側が広い。梁行は4.16mと4.18mで、ほぼ等間隔である。柱穴の平面形は楕円形が多く、規模は径0.18～0.72m、深さ0.27～0.84mである。かなりばらつきがあるが、北側に位置するP215・277・284・255北、15P16の方が、南側の柱穴よりおおむね小型である。柱痕はP213で確認でき、径は0.13mである。15P16内では根石状の礎を確認した。この礎に関しては、柱の補強との関連性のほか、15P16でのみ確認できることから柱の長さ調整の可能性も指摘できる。遺物は15P15の1層から近世陶磁器片が出土した。2010年度調査でP215から17世紀後半～18世紀前半の陶磁器が出土しており、近世の建物とされている【石川・山下<sub>は</sub>前掲】。

### 3) 井 戸

西側調査区で14基、東側調査区で7基の合計21基の井戸を検出した。そのうちの1基(SE212)が2010年度調査時にピットとした遺構(P212)の延伸部分で、2015年度の調査の結果、井戸と判断した。井戸はすべて素掘りである。埋土は黄褐色粘質土や灰色粘質土などを含む黒色系埋土とⅣ・Ⅴ層に由来する褐色系・灰色系埋土が堆積しており、基本的には人為的に埋め戻されたと判断している。2015年度調査では、遺構からの出土遺物は少ないとはいえ、遺構別では井戸から出土する傾向が認められる。ここでは、遺物の出土などである程度時期の推定できる井戸を中心に記述する。井戸の調査の過程では、0.5～0.6m掘り下げたところで湧水を確認し、崩落の危険性が考えられたため、人力での掘削を約1mまでとした。井戸下部の調査は、航空写真撮影後に重機を使用して断ち割りを行い、遺物の確認や断面の記録を行った。断ち割り調査の方法などは、第三章3A5)に準じている。なお、主に重機の作業スペースとの関係で、上部調査時のセクションポイントとは反対側から断ち割り調査を行った井戸は、15SE100・121・155の3基である。

#### SE212 (図版37・101)

2010年度にピットとした遺構(P212)で、2015年度の調査の結果、井戸と判断した。西側調査区20L5・10、21L1・6に位置する。平面形は円形、断面形は上位でわずかに開くU字状を呈する。壁面の崩落はなく、原形をほぼ保つ。規模は長径1.09m、短径1.00m、深さ1.08mを測る。埋土は3層に分かれ、灰色系・褐色系埋土がほぼ水平に堆積する。3層はしまりが弱く、直径4～8cmの礫を少量含む。15P72と重複し、新旧関係は15P72に切られる。遺物は出土していない。

#### 15SE32 (図版38・101)

西側調査区20L7・8に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状に近い。中位東側が大きく膨らみ、壁面は崩落している。規模は長径1.26m、短径1.18m、深さ2.31m。中位の最大径は1.31mを測る。埋土は13層に分かれる。おおむね灰色系・褐色系埋土が主体で、上位・下位はレンズ状、中位は水平に堆積する。15SD48、15P61・62と重複し、新旧関係は15SD48、15P61・62を切る。遺物は1・3・9・11層から近世陶磁器片(細鉢など)が出土したほか、磨石類(48)も出土した。

#### 15SE44 (図版38・101)

西側調査区20L17・22に位置する。平面形は円形で、断面形は下位がやや膨らむU字状を呈し、壁面は崩落している。規模は長径0.83m、短径0.76m、深さ2.00mを測る。埋土は11層に分かれる。おおむね黒色系埋土と灰色系・褐色系埋土の互層で、6層が7～11層を掘り込むような堆積状況が確認できる。上端の中心と6層の中心が大きくずれているため詳細は不明であるが、壁面の崩落などにより埋め戻した(7～11層)後に、掘り直した可能性も考えられるかもしれない。遺物は6・11層から近世陶

磁器片、2層から用途不明金属製品が出土している。

#### 15SE74 (図版 38・102)

西側調査区 19L7・8 に位置し、15SK38 掘削後に底面で検出した。平面形は円形、断面形は箱状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径 0.79m、短径 0.72m、深さ 1.00m を測る。埋土は 8 層に分かれる。灰色系・褐色系埋土が主体で、下位は水平、上位はレンズ状に堆積する。15SK38 と重複し、新旧関係は 15SK38 に切られる。遺物は出土していない。

#### 15SE81 (図版 38・102)

西側調査区 19M15 に位置し、南西側には 15SE82 が隣接する。平面形は楕円形で、断面形は下位がやや膨らむ U 字状を呈し、壁面は崩落している。規模は長径 1.09m、短径 0.87m、深さ 1.20m を測る。埋土は 5 層に分かれ、主に灰色系・褐色系埋土が水平に堆積する。最下層 (5 層) にしまりの弱い暗緑灰色粘質土が厚く堆積する状況は、15SE82 と共通する。遺物は台石 (49) が 5 層から出土した。

#### 15SE82 (図版 38・102)

西側調査区 19M15・20、20M11・16 に位置し、北東側には 15SE81 が隣接する。平面形は楕円形で、断面形は階段状を呈し、壁面は崩落している。規模は長径 1.24m、短径 1.03m、深さ 1.24m を測る。埋土は 5 層に分かれ、灰色系・褐色系埋土がほぼ水平に堆積する。最下層 (5 層) にしまりの弱い暗緑灰色粘質土が厚く堆積する状況は、15SE81 と共通する。近世の可能性も残る SD267 と重複し、新旧関係は SD267 を切る。遺物は 5 層から珠洲焼片口鉢片 (IV~V 期) が出土した。

#### 15SE100 (図版 39・102)

西側調査区 20M1 に位置する。明治以降に構築された濠 [石川・山下ほか前掲] 掘削後に検出した。平面形は方形、断面形は箱状を呈する。壁面の崩落はなく、原形をほぼ保つ。規模は長軸 0.86m、短軸 0.83m、深さ 1.10m を測る。埋土は 5 層に分かれ、全体的にしまりがやや弱い灰色系埋土や褐色系埋土がレンズ状に堆積する。層厚は 4 層がもっとも厚く、1/2 以上を占める。明治時代以降に構築された濠と重複し、新旧関係はこの濠に切られる。遺物は 3 層から須恵器片が出土した。

#### 15SE107 (図版 39・103)

西側調査区 20M3・8 に位置する。SK291 掘削後に底面で検出した。平面形は楕円形、断面形は箱状を呈する。壁面の崩落はなく、原形をほぼ保つ。規模は長径 0.83m、短径 0.66m、深さ 1.20m を測る。埋土は 4 層に分かれ、灰色系埋土がほぼ水平に堆積する。SK291 と重複し、新旧関係は SK291 に切られる。遺物は砥石 (50) や下駄 (58)、板状木製品が出土した。

#### 15SE108 (図版 39・103)

西側調査区 20M7 に位置する。平面形は円形、断面形は下位が狭く上位が開く U 字状を呈し、壁面の崩落はなく、原形をほぼ保つ。規模は長径 0.88m、短径 0.83m、深さ 1.78m を測る。埋土は 5 層に分かれる。主に下位には黒色系埋土が、上位～中位には灰色系埋土が堆積し、4 層は炭化物を多く含む。堆積状況は下位がレンズ状、上位は水平堆積である。15SE162 と重複し、新旧関係は 15SE162 を切る。遺物は 3 層から珠洲焼片口鉢片、1 層から陶器片、5 層から砥石 (51) などが出土した。

#### 15SE111 (図版 39・103)

東側調査区 18I19 に位置する。平面形は円形、断面形は箱状を呈する。壁面の崩落はなく、原形をほぼ保つ。規模は長径 0.89m、短径 0.85m、深さ 0.78m を測る。埋土は 6 層に分かれ、黒色系埋土がレンズ状に堆積する。特に 6 層は炭化物を多く含み、しまりが弱い。15P221 と重複し、新旧関係は



15P221を切る。遺物は珠洲焼甕(1)や青磁碗(2)、陶磁器(1層)のほか、礫も出土した。

#### 15SE121 (図版39・103)

東側調査区 20J18・23に位置する。平面形は楕円形、断面形は上位がやや開くU字状を呈する。壁面の崩落はなく、原形をほぼ保つ。規模は長径1.00m、短径0.81m、深さ1.42mを測る。埋土は7層に分かれる。7層が灰色系埋土のほかは、いずれも黒色系埋土で、レンズ状や斜位に堆積する。15P151と重複し、新旧関係は15P151を切る。遺物は出土していない。

#### 15SE155 (図版39・104)

東側調査区 19J19に位置する。平面形は方形に近く、断面形は上位がやや開く箱状を呈する。壁面の崩落はなく、原形をほぼ保つ。規模は長軸0.98m、短軸0.94m、深さ1.07mを測る。埋土は5層に分かれる。おおむね灰色系埋土と黒色系埋土の互層で、水平ないしレンズ状に堆積する。埋土はいずれも粘性が強い。遺物は出土していない。

#### 15SE162 (図版39・104)

西側調査区 20M7に位置する。平面形は円形、断面形は箱状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径1.09m、短径1.03m、深さ0.93mを測る。埋土は4層に分かれる。灰色系・褐色系埋土が堆積し、2層の明黄褐色粘質土が約1/2を占めている。15SE108と重複し、新旧関係は15SE108に切られる。遺物は出土していない。

#### 15SE193 (図版39・104)

東側調査区 17J10、18J6に位置する。平面形は楕円形、断面形はU字状に近く、壁面は崩落している。規模は長径1.62m、短径1.33m、深さ1.97mを測り、2015年度調査分のなかで最大の井戸である。埋土は10層に分かれ、おおむね黒色系埋土と灰色系・褐色系埋土の互層である。堆積状況は6～8層がレンズ状、そのほかは水平に堆積する。遺物は3・6・9層から珠洲焼甕体部片や片口鉢片、2層から近世陶器片が出土したほか、台石(52)も出土している。

#### 15SE214 (図版34・35・100・104)

東側調査区 19J18・22・23に位置する。平面形は円形、断面形は箱状に近く、壁面は崩落している。規模は長径1.22m、短径1.10m、深さ1.77mを測る。埋土は11層に分かれ、8～11層は黒色系埋土と灰色系埋土の互層、1～7層は灰色系・褐色系埋土が堆積する。埋土や断面観察から、7層以上と8層以下で掘り直されたと考えられる。15SK170、15P292と重複し、新旧関係は15P292を切り、15SK170に切られる。遺物は8層から珠洲焼片口鉢片、11層から折敷底板(59)が出土した。

#### 15SE291 (図版34・35・100・105)

東側調査区 19J7に位置し、15SK252掘削時に検出した。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。壁面の崩落はなく、原形をほぼ保つ。規模は長径0.89m、短径0.68m、深さ0.71mを測る。埋土は17層に分かれ、おおむね黒色系埋土と灰色系・褐色系埋土の互層となる。15SK170・252と重複し、新旧関係は15SK170・252に切られる。遺物は出土していない。

#### 4) 溝

西側調査区で5条、東側調査区で6条の溝を検出した。東側の溝は残存状態が悪いものや、調査範囲外へ延び全容が不明なものも多く、性格の特定には至らなかった。西側の溝は区画溝と考えられ、2010年度調査範囲から延伸するものが多い。ここでは西側の溝について記述する。

**SD253** (図版 34・35・99・105)

2010年度調査範囲から延伸する溝で、20Mに位置する。長軸方向はN-81°-Wである。平面形は直線状、断面形は半円状を呈する。規模(2015年度検出分)は長さ5.80m、幅0.65～1.10m、深さ0.25mである。埋土は3層に分かれ灰色系・褐色系埋土が堆積する。15SD94と重複し新旧関係は15SD94に切られる。遺物は出土していない。2010年度の調査では近世後期以降の溝とされている〔石川・山下<sup>ほか</sup>前掲〕。

**SD267** (図版 34・35・99・105)

2010年度調査範囲から延伸する溝で、19・20Mに位置する。長軸方向はN-70°-Wである。平面形は直線状、断面形は台形状を呈する。規模(2015年度検出分)は長さ14.18m以上、幅0.70～1.20m、深さ0.55mである。埋土は11層に分かれ、褐色系埋土が主体となる。断面観察では4層以上と5層以下で、掘り直されたような状況が認められる。そのほかの断面では埋土は15層程度に分層でき、掘り直された状況は確認できない。2010年度調査でも確認できないことから、ほかの遺構が位置していた可能性も考えられるが、平面では確認できなかった。15SE82、15SD94、SK291と重複し、新旧関係はSK291を切り、15SE82、15SD94に切られる。遺物は主に壁際から須臾器や珠洲焼、越前焼、近世陶磁器が出土した。2010年度の調査では中世の溝とされている〔石川・山下<sup>ほか</sup>前掲〕が、出土遺物から近世の可能性もある。

**SD299** (図版 34・35・99・105)

2010年度調査範囲から延伸する溝で、19・20Nに位置する。長軸方向はN-74°-Wである。平面形はほぼ直線状、断面形は弧状を呈する。規模(2015年度検出分)は長さ8.08m以上、幅0.50～0.70m、深さ0.26mである。埋土は褐灰色粘質土の単層で、遺物は出土していない。2010年度の調査では近世の溝とされている〔石川・山下<sup>ほか</sup>前掲〕。

**15SD94** (図版 34・35・99・105)

19・20Mに位置する。長軸方向はN-82°-Wである。平面形はほぼ直線状、断面形は半円状を呈する。規模は長さ7.40m以上、幅0.45～0.95m、深さ0.17mである。埋土は2層に分かれる。灰色系埋土がレンズ状に堆積し、1層は鉄分を含む。SD253・267と重複し、新旧関係はSD253・267を切る。遺物は出土していないが、SD253が近世後期の溝なので〔石川・山下<sup>ほか</sup>前掲〕、それ以降の構築となる。

## 5) 土 坑

**SK291** (図版 40・105)

2010年度調査範囲から延伸する土坑で、西側調査区20M3・4・8・9に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状で底面は平坦である。規模は長径3.15m、短径2.05m、深さ0.52mを測る。埋土は灰色系埋土を主体に7層に分かれ、7層は腐植物を多く含む。15SE107、SD267、P290と重複し、新旧関係は15SE107を切り、SD267、P290に切られる。遺物は7層から珠洲焼炭体部片が出土している。

**15SK140** (図版 40・105)

東側調査区20J6に位置する。平面形は不整形で、断面形は半円状に近い。規模は長軸0.71m、短軸0.59m、深さ0.39mを測り、南東側が調査範囲外へ延びる。埋土は4層に分かれ、黄褐色粘質土や青灰色粘質土を含む黒色系埋土がレンズ状に堆積する。遺物は4層から珠洲焼片が出土している。

**15SK163** (図版 40・106)

東側調査区18K10・15に位置する。平面形は方形、断面形は弧状を呈する。規模は長軸1.33m、短

幅 1.15m、深さ 0.29m を測る。埋土は 4 層に分かれる。灰色系・褐色系埋土がレンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

#### 15SK169 (図版 40・106)

東側調査区 18J11・12 に位置する。平面形は円形で、断面形は U 字状に近い。規模は長径 1.62m、短径 1.47m、深さ 0.70m を測る。埋土は灰色系・褐色系埋土を主体として 6 層に分かれ、V 層に類似する 1 層が厚く堆積する。そのため人為的に埋め戻されたと考えられる。調査時、底面付近の側壁を確認できた黒褐色粘質土を埋土と判断して掘削したところ、ほぼ水平に堆積していた。結果として、遺構掘削を掘りすぎてしまったが、この黒褐色粘質土は堂古遺跡の VI 層であると判明した。2010・2011 年度調査時にも遺構壁面に VI 層は確認できていたが、2015 年度調査でも再確認できたことになる。VI 層から遺物は出土していない。15SK169 の 1 層から珠洲焼片が出土している。

#### 15SK170・199・252 (図版 34・35・100)

東側調査区に位置する 15SK170・199・252 は埋土の状況が共通し、出土した陶磁器同士が接合することから、相互に関連性がうかがえる。断面観察で埋土に不整合が認められたため新旧関係を想定したが、陶磁器の接合関係や遺構の性格からほぼ同時に構築・埋め戻しが行われたと考えている。そのため 3 基まとめて記述する。

15SK170 は 18・19J に、15SK199・252 は 19I・J にそれぞれ位置する。北西から順に 15SK199、15SK252、15SK170 となり、15SK199 は北西側が調査範囲外へ延びる。平面形は 15SK170・199 が不整形、15SK252 が方形で、断面形は 15SK170・199 が台形状に近く、15SK252 が半円状に近い。規模は 15SK170 が最大で、長軸 7.70m、短軸 5.70m、深さ 0.92m を測る。15SK199 は長軸 4.65m、短軸 2.40m、深さ 0.78m、15SK252 は長軸 3.65m、短軸 3.30m、深さ 0.80m となる。15SK199・252 では両土坑の中間付近 19J3 で、15SK170 では 19J16・21 で、地山を掘り残す形で、土坑内部に舌状に張り出すステップ状の小段を作出している。それぞれに共通する特徴的な構造である。埋土の状況も共通し、1 層にはにぶい黄褐色粘質土が、その下には炭化物を非常に多く含む黒色系埋土が堆積している。1 層はしまりがあり、2 層以下の黒色系埋土をバックする状況が見て取れる。

15SK170 は 15SE214・291、15SK247・252、15P292 と重複し、新旧関係は 15SE214・291、15SK247、15P292 を切り、15SK252 に切られる。15SK199 は 15SK252 と重複し、15SK252 に切られる。15SK252 は 15SE291、15SK170・199・305、15P298 と重複し、新旧関係は 15SE291、15SK170・199、15P298 を切り、15SK305 に切られる。15SK170 と 15SK199 の新旧関係は不明である。遺物は近世陶磁器 (3～45)、瓦質土器 (46)、石製品 (53～57)、戸車 (図版 110)、壁材 (図版 110)、用途不明金属製品などが出土している。これらの遺物は炭化物を多く含む黒色系埋土から出土しており、1 層からの出土は少ない。陶磁器には一定量被熱しているものが含まれ、壁材なども被熱するものが確認できる。なお壁材には木舞自体は残っていないが、その痕跡として直径 0.5～0.7cm の円形の孔が確認できるものもある。15SK170・199・252 は出土した陶磁器から、近世後半 (19 世紀前半) の遺構と考えられる。

このような状況に加え、遺構の底面や壁面に被熱の痕跡が確認できないことなどから、15SK170・199・252 は火事始末の跡と考えられる。ほかの場所で起きた火災の後片付けとして、炭や不要となった陶磁器などを 3 基の土坑内に廃棄し、埋め戻したと推測する。その際、土坑中央まで効率よく廃棄するために設けられたのが、舌状に張り出したステップ状の小段と考えられる。調査範囲内では火災の痕跡は

確認できないことから、火災が起きた場所は調査範囲から離れた地点であったと推測でき、居住地から離れた場所に廃棄したことが分かる。この15SK170・199・252と同様の土坑が2011年度にも検出されている(SK1124)〔石川・山下ほか前掲〕。SK1124は24Mに位置し、この3基とは直線で約60m離れている。SK1124の出土遺物は近世のものが多く、18世紀後半～19世紀前半の越前焼などが出土している。15SK170・199・252出土の遺物とほぼ同時期である。

#### 15SK180 (図版40・106)

東側調査区20J1に位置する。平面形は円形で、断面形は半円状に近い。規模は長径0.56m、短径0.49m、深さ0.35mを測る。埋土は9層に分かれ、黒色系埋土が主体的に堆積する。断面観察から、複数の土坑が重複している可能性もある。遺物は出土していない。

#### 15SK223 (図版40・106)

東側調査区18125、19121に位置する。平面形は楕円形、断面形は階段状を呈する。規模は長径1.17m、短径0.83m、深さ0.70mを測る。埋土は3層に分かれ、下位に褐色系埋土が、上位～中位に黒色系埋土がレンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

## B 遺物

### 1) 土器・陶磁器

#### a 概要 (第8表、第10・11図)

重量組成比を見ると、古代2%弱、中世5%弱、近世90%強、時期不明2%強で、近世の陶磁器類が多く、近世の遺跡という印象を受ける。近世陶磁器類は15SK170・199・252からの出土が突出して多く、近世陶磁器類全体に占める比率は96%強である。火事始末という性格上、15SK170・199・252には大量の陶磁器類が廃棄されている。そこで15SK170・199・252出土の近世陶磁器類を除いた重量組成比を見ると、古代10%強、中世40%弱、近世30%弱、時期不明20%弱となる。この数値がより遺跡の実態に近い比率であろう。土器・陶磁器類の分布傾向に関して、2010・2011年度調査結果も含めて確認しておく。まず古代の土師器は、分布の顕著な偏りは確認できず全体的に散在する傾向にある。須恵器は遺構が集中する範囲に多く、遺構(溝・井戸)から出土する傾向があるが、2015年度調査範囲では少ない。中世の土師質土器も出土量が少なく、散在する傾向にある。珠洲焼は道路状遺構の位置するP列周辺や遺構が集中する範囲に多く分布している。また、2015年度調査では15SE111から出土している(1)。青磁の出土は少なく不明な点もあるが、遺構から出土する傾向が認められる。近世陶磁器類の分布傾向としては、19～28M～Q(2010・2011年度調査範囲の中央)と15SK170・199・252に集中している。

古代・中世の土器・陶磁器の時期・器種分類は堂古遺跡と同じ論考を参考にした(第三章3B1)a)。近世陶磁器の時期・器種分類は、肥前系陶磁器は大橋康二氏の論考[大橋1989・1994]や『九州陶磁の編年』[九州近世陶磁学会2000]、瀬戸焼は『愛知県史』[愛知県史編さん委員会編2007]、信楽焼は畑中英二氏の論考[畑中2003・2005]など、越前焼は木村孝一郎氏の論考[木村2004]を参考にした。

時期	種別	組成比	組成比*
古代	土師器	1.22%	10.28%
	須恵器	0.42%	3.50%
中世	土師質土器	0.06%	0.46%
	珠洲焼	4.38%	36.79%
	青磁	0.08%	0.64%
	近世陶磁器	91.49%	28.44%
時期不明		2.37%	19.90%

\*15SK170・199・252出土の近世陶磁器を除いた重量組成比

第8表 2015年度下割遺跡土器・陶磁器の重量組成比

## b 遺 構 出 土

## 15SE111 (図版41・107)

1は珠洲焼成である。還元焼成が不完全なため、軟質な仕上がりで、全体的に摩耗が著しい。体部外面には平行タタキが施される。内面は摩耗のため不明だが、あて具痕が残ると推測する。頸部は直立ぎみに立ち上がり、口縁部は強く屈曲する。時期は珠洲Ⅱ期と考える。2は青磁碗で、体部外面には竊逸文が施される。鎊の稜線はやや不鮮明である。時期は13世紀後半頃と考える。

## 15SK170・199・252 (図版41～43・107～109)

15SK170・199・252は火事始末の跡で、一括性が高いと判断できることからまとめて記述する。第9表に重量組成比を掲載する。器種別では椀が約10%、皿が約12%、播鉢が約16%、鉢が約7%、火入・香炉類が約3%、瓶類が約5%、壺・甕が約36%、火鉢が約3%などである。食膳具(椀・皿)と調理具(播鉢)、貯蔵具(壺・甕)で70%を超える。種類別では肥前系陶器が約56%、肥前系磁器が約26%、瓦質土器が約9%、瀬戸焼が約3%などとなる。次に器種別では、椀、皿、瓶類は肥前系磁器の比率が高く、播鉢、鉢、壺・甕は肥前系陶器が高い。火入・香炉類は瀬戸焼と肥前系磁器がほぼ同じ比率である。おおよその傾向は反映していると考えているが、重量による組成比のため、播鉢、鉢、壺・甕の比率がやや高くなっている可能性がある。主体となる肥前系陶磁器が18世紀後半～19世紀前半を中心とすることから、その時期の資料と考えられる。

椀(3～15) 瀬戸焼(3・4)・信楽焼(5)・肥前系磁器(6～15)の13点を図示する。そのうち6・8・10・12は椀蓋である。3は端反碗で、高台が欠損する。口縁部には緑釉が、それ以外には透明釉が施軸される。4は腰銘椀で、体部外面に2本の沈線が巡る。沈線から上には透明釉が、下には鉛釉が施される。内面は透明釉がかかる。置付は無軸で、外面は被熱する。時期は19世紀前半と考える。5は小杉椀であるが、破片資料のためか文様は確認できない。体部が内湾しながら立ち上がる器形で、底部との境界は段を形成する。高台は削り出し高台である。口径8.9cm、高台径3.4cmの小型品で、時期は18世紀後半～19世紀初頭と考える。6・7はともに外面に菊花文や松文が描かれる。口縁部内面には四方禪文が巡り、見込には二重圏線内にコンニャク印の五弁花が施される。7の高台周りには二重圏線が巡り、底部は肥厚する。8・9は薄手の広東椀である。ともに外面に果樹文・家屋文などが描かれ、8は高台内も施文される。見込には鷲文が描かれる。9には焼継の痕跡が残る。10～12は外面に青磁釉が施される。10・11はともに口縁部内面には四方禪文が巡る。11の見込には二重圏線内にコンニャク印の五弁花が施され、高台は欠損する。12の高台内には、二重角枠内に崩れた渦福が入る。置付には砂が付着し、施軸前には鉄泥が塗られる。口縁部には四方禪文が巡り、見込に手描きの五弁花が描かれる。13・14はともに外面に雪輪草花文が描かれ、高台内に崩れた銘が入る。発色はやや不良である。14は13よりもやや大型で、見込に五弁花(コンニャク印)が施される。15は半筒形の椀である。外面に丸文と斜格子文が巡り、高台周りに二重圏線が巡る。内面は見込に手描きの五弁花が描かれる。

小杯(16・17) 肥前系磁器を2点図示する。16は白磁の小杯で、底部が肥厚し、口縁部は外反する。高台は無軸である。17は外面に若松文と二重圏線が描かれ、内面は無文である。

皿(18～25) 皿は口径の法量分布をもとに、10cm以下を「小皿」、10cm超20cm以下を「中皿」、20cm超を「大皿」に分類した。さらに肥前系磁器の中皿は3法量に細分できる(21～23)。小皿は2点図示する(18・19)。18は肥前系陶器の小皿である。内外面に鉄軸が施される。見込には重ね焼き痕、

器種	種類	近世										古代		不明	器種合計 組成比	
		肥前系 陶器	陶器 未定	瀬戸焼	信楽焼	越前焼	越中 瀬戸焼	備前焼?	肥前系 磁器	色絵 磁器	瓦葺 土器	須恵器	珠洲焼			
椀		60.2 0.10%		255.3 0.37%	556.2 0.80%				5586.8 8.04%						8.7 0.01%	6476.2 9.32%
碗蓋									724.6 1.04%							724.6 1.04%
小杯					19.2 0.03%				183.6 0.26%							202.8 0.29%
皿	大	412.6 0.59%							1655.2 2.38%						11.1 0.02%	2078.9 2.99%
	中	362.6 0.52%							5549.0 7.98%						6.1 0.01%	5917.7 8.51%
	小	57.8 0.08%							74.3 0.11%						26.8 0.04%	158.9 0.23%
	分類不可	81.9 0.12%														81.9 0.12%
	磁鉢	10986.7 15.81%														10986.7 15.81%
鉢	4240.8 6.10%					795.6 1.14%										5036.4 7.25%
水筒類蓋									30.0 0.04%							30.0 0.04%
火入・香炉類		78.5 0.11%	895.4 1.29%						874.5 1.26%						209.2 0.30%	2117.6 3.05%
灯明皿															22.2 0.03%	22.2 0.03%
飯椀	46.3 0.07%			352.3 0.51%					2663.9 3.83%	67.0 0.10%					178.1 0.26%	3307.6 4.76%
水注								452.6 0.65%							105.2 0.15%	557.8 0.80%
水筒									106.0 0.15%							106.0 0.15%
出 費	大	18561.1 26.70%														18561.1 26.70%
	中	1855.8 2.67%														1855.8 2.67%
	中・小	1364.3 1.96%														1364.3 1.96%
	小	485.0 0.70%														485.0 0.70%
	分類不可			267.4 0.38%												389.9 0.56%
壺				254.2 0.37%			662.2 0.95%									916.4 1.32%
壺蓋				147.8 0.21%												147.8 0.21%
甕			434.8 0.63%		405.8 0.58%							5.0 0.01%	164.7 0.24%			1010.3 1.45%
蓋	76.6 0.11%			21.5 0.03%					32.3 0.05%						83.7 0.12%	214.1 0.31%
火鉢											1798.2 2.59%					1798.2 2.59%
戸車									248.4 0.36%							248.4 0.36%
不明	23.7 0.03%		50.5 0.07%		8.3 0.01%				134.2 0.19%			4226.2 6.08%				4442.9 6.39%
種別合計	38624.4	78.5	1903.4	1351.2	1209.7	662.2	452.6	17862.8	67.0	6024.4	5.0	164.7	1101.0		69506.9	
組成比	55.75%	0.11%	2.74%	1.94%	1.74%	0.95%	0.65%	25.70%	0.10%	8.67%	0.01%	0.24%	1.58%		100.00%	

第9表 下割遺跡 15SK170・199・252 出土陶磁器ほかの重量組成比 (単位: g)

底部には回転糸切り痕が残る。19は肥前系磁器の手塩皿である。器形は隅丸菱形に成形され、高台は貼り付け高台となる。口縁部は口紅装飾が施され、外面には松葉文、内面には松文が描かれている。中皿は4点図示する(20～23)。20は肥前系陶器の中皿で、内面と外面上部に刷毛目文様が施され、口縁は稜花形となる。外面下部は無軸で、見込は蛇の目軸割ぎとなる。21～23は肥前系磁器で、内面にはそれぞれ格子目文(21)、梅花繋ぎ文と見込五弁花(22)、草文と見込五弁花(23)が描かれる。いずれも外面は無文で、内面に描かれた二重圏線の内側は蛇の目軸割ぎとなる。大皿は肥前系磁器を2点図示する(24・25)。24は非常に薄手の輪花形の皿で、内面には葡萄文が施される。25は破片資料ではあるが、内面には鳳凰のような鳥類の文様が描かれ、外面には「富貴長春」銘が入る。

**鉢・摺鉢 (26～28)** 肥前系陶器の摺鉢 (26)・鉢 (27) と越前焼の鉢 (28) を図示する。26 の口縁はくの字状に短く外反し、内外面とも鉄軸が施される。高台は貼り付け高台で、断面形は外側に踏ん張るような形状である。卸目は 14 条 1 単位、1 単位の幅は 3.5cm である。被熱による歪みのためか、接合の状況がよくない。18 世紀前葉～中葉にさかのぼる可能性がある。27 の内面には刷毛目による波状文や横線が施される。器形はわずかに内湾しながら立ち上がり、口縁部はくの字状に屈曲し、端部は上方に摘み上げられる。高台は幅広く、外側下部を斜めに切り落として成形している。時期は 18 世紀前葉～中葉にさかのぼる可能性がある。28 はロクロ成形の鉢で、外面のロクロ目は顕著である。体部外面には突起が貼付される。19 世紀初頭頃に位置づける。

**火入・香炉類 (29～33)** 火入は肥前系磁器を 2 点図示する (29・30)。29 の口縁部は肥厚し、端部が平坦である。底部は欠損する。外面には松竹文と雪輪文が描かれている。30 は青磁軸が施される。口縁部は内側に突出し、端部は平坦になる。被熱が顕著である。香炉は 3 点図示する (31～33)。31 は瀬戸焼の筒形香炉 (陶器) である。外面にはヘラ彫りによる文様が施され、外面と口縁部内面は施軸される。被熱が著しい。時期は 18 世紀後半頃と考える。32・33 は肥前系磁器で、32 は青磁軸が施される袴腰香炉である。三足がつくが、足は小さく接地はせず、1 本を欠損する。33 も青磁軸が施される。豊付は無軸で鉄泥が塗られ、32 と同様に三足がつく。

**瓶類 (34～37)** 瓶類は信楽焼 1 点 (34)・肥前系磁器 3 点 (35～37) 図示する。34 は被熱により軸がはがれ、器面は荒れている。器形は底部から内湾しながら立ち上がる。35 は比較的小型で、外面には松竹梅文、鋸歯状文が描かれる。豊付は無軸である。36 の文様は草文と思われ、肩部には貫入が入る。内面は無軸で、ロクロ目が顕著である。37 は色絵磁器である。赤色と緑色の色絵で文様が描かれるが、欠損部分が多く、文様の詳細は不明である。

**水指類 (38)** 38 は肥前系磁器で、器種は水指類の蓋であろうか。扁平な器形で、つまみ部分は欠損する。外面には唐草文が施され、口縁部の外周は軸刺ぎされる。施軸前に鉄泥が塗られている。

**水滴 (39)** 39 は肥前系磁器の水滴である。陽刻が施されているが、文様は不明である。注口部は外面から内面に向かい穿孔される。底部外面は無軸で、底部・注口部周辺にはスガが付着する。

**壺・甕類 (40～45)** 信楽焼 2 点 (40・41)・瀬戸焼 1 点 (42)・肥前系陶器 3 点 (43～45) を図示する。40・41 は壺の蓋・身とした。40 は外面のみに施軸される。41 の体部はなで肩状で、口縁部は受け口になる。内外面に施軸されるが、体部下位はケズリが施され施軸されない。40・41 の軸の色調は類似する。42 は甕で、球形の体部にくの字状に屈曲する口縁部がつく。豊付と高台内を除く内外面には柿軸が施される。6 条の沈線が巡る頸部周辺には、柿軸の上から灰軸が流しかけられる。内面には目痕が顕著に残る。時期は 19 世紀前半と考える。肥前系陶器の甕 (43～45) は口径の法量分布から、小型 (10cm 以下)・中型 (10cm 超 20cm 以下)・大型 (口径 20cm 超) に分類できる。43 は小型の甕である。体部はやや肩が張る器形で、短く直立する口縁部は肥厚する。被熱が顕著である。44 は大型の半胴甕である。外面は体部下に鉄軸を塗り、その上から体部から口縁部にかけて白化粧土を塗る。体部下位のその化粧土を一部帯状に残して剥ぎ取る。そして、剥ぎ取った部分から上位 (体部中心～口縁部) に再度白化粧土を塗り、鉄絵と緑彩で松の文様を描いている。最後に透明軸を全面に塗る。内面は上部のみ白化粧土を塗った後、さらに白化粧土を流しかけている。時期は 18 世紀後半～19 世紀中葉と考える [秦<sup>2012</sup>]。45 は口径 32.7cm で、大型に分類できる。口縁端部は内外面とも突出し、断面形は T 字状となる。体部外面には縄状突起が巡り、内面には粗い格子目状のあて具痕が残る。

火鉢(46) 46は瓦質土器の火鉢である。1/2以上欠損しており、不明瞭であるが、口縁部と高台に3単位の透かし、口縁部内面に4単位の突起がつくと予想される。内外面にはナデが施され、全体的にススが付着する。

### c 遺構外出土(図版43・109)

47は土師器の鍋である。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部はくの字状に屈曲し、端部はわずかに肥厚する。全体的に摩耗するため調整はあまり明瞭ではないが、口縁部内面にはハケが確認できる。体部の外面上半にはスス、内面中位から下半にかけてコゲが付着する。時期は古代Ⅳ期と考える。

## 2) 石製品

砥石・硯・台石・磨石類などが確認でき、井戸や15SK170・199・252から出土する傾向にある。15SK170・199・252の出土遺物はススの付着や被熱が認められるものもある。

### 15SE32(図版43・110)

48は楕円形の自然礫を素材とする磨石類である。上下端と右側面に敲打痕が確認できる。石材は安山岩である。

### 15SE81(図版43・110)

49は台石とした。欠損範囲が広く、全体の形状は不明である。正面を使用面とし、線状痕なども確認できる。石材は安山岩である。上端と裏面は成形している可能性がある。

### 15SE107(図版43・110)

50は砥石(中砥ないし仕上げ砥)である。形状は角柱状で、厚みがある。反りが強く、鎌砥の可能性も考えられる。線状痕のほか、刃物の先端を研いだと思われる刻み痕が残る。石材は凝灰岩である。

### 15SE108(図版43・110)

51は砥石(中砥ないし仕上げ砥)で、上端と下端を欠損する。著しく変形しており、使用頻度の高さがうかがえる。石材は凝灰岩である。

### 15SE193(図版43・110)

52は欠損範囲が広く、全体の形状が不明だが、台石と考えた。正裏面と右側面が使用面で、全体的にススが付着している。石材は安山岩である。

### 15SK170(図版44・110)

53は硯である。海部と陸部で破片同士が接合し、ほぼ完形となる。墨痕が認められ、陸部には使用痕とは異なる横方向の線状痕が多数残る。線状痕は明瞭で、人為的につけられている。また被熱が確認できるが、陸部の破片は被熱が強く、海部の破片はあまり被熱していない。石材は粘板岩であろうか。54・55は砥石である。54は中砥ないし仕上げ砥で、側面観は蒲錐形となる。全体的にススが付着し、左上端は欠損する。石材は凝灰岩である。55は荒砥と考えられる。角柱状で厚みのある形状で、正面の使用面はややくぼむ。置き砥石であろうか。石材は砂岩である。56は用途不明石製品である。長さ13.0cm、幅8.5cm、厚さ4.0cmの卵形の平面形で、手にもちやすい形状・大きさである。使用痕は不明瞭だが、正面には凹みがある。周縁には炭化物が付着する。石材は安山岩である。57は建築部材であろうか。角は丁寧に面取りされ、下面には約2.6cm×約3.7cmの隅丸長方形の孔が設けられる。全面に加工痕が顕著に残る。石材は凝灰岩である。



### 3) 木製品

下駄・折敷などが確認でき、井戸から出土している。出土量はほかの遺物に比べ少ない。

#### 15SE107 (図版44・110)

58は露卯下駄である。台の表面は破損が著しいが、平面形は角型と思われる。後菌の柄穴には差菌の柄が遺存する。木取りは板目で、樹種はモクレン属である。露卯下駄は12世紀以降に出現することが指摘されており〔古泉2001〕、そのため中世から近世の所産と考えられる。

#### 15SE214 (図版44・110)

59は折敷の底板で、約1/2が遺存する。四隅を切り落として多角形状に成形している。表面には線状痕や加工痕が認められ、まな板などに転用された可能性も残る。木取りは柾目で、樹種はスギである。

## 5 自然科学分析

### A はじめに

堂古遺跡・下割遺跡(新潟県上越市米岡字堂古・ころころ原)は、高田平野の中央部、現在の飯田川左岸に分布する自然堤防上に立地する。これらの遺跡は、水路を挟んで隣接しており、発掘調査の結果、堂古遺跡が中世(13世紀～15世紀)の集落、下割遺跡が中世から近世の集落であることが明らかとされている。

本分析では、堂古遺跡及び下割遺跡から出土した木製品の樹種及び木材利用の検討、堂古遺跡で検出された遺構から出土した焼骨片の同定、さらに同遺跡で検出された溝の時期の検討を目的として、自然科学分析を実施した。

### B 樹種同定

#### 1) 試料

試料は、堂古遺跡から出土した木製品6点(122～126・128)と、下割遺跡から出土した木製品2点(58・59)である。このうち、58の下駄は、後菌の柄穴内に菌の一部が残存する。

#### 2) 分析方法

試料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液)で封入し、プレバートとする。プレバートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、〔島地・伊東1982, Wheeler<sup>3)</sup>1998, Richter<sup>3)</sup>2006〕を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、〔林1991, 伊東1995-1999〕を参考にする。

#### 3) 結果

同定結果を第10表に示す。木製品は、針葉樹3分類群(トウヒ属・スギ・ヒノキ)と広葉樹3分類群(ブナ属・モクレン属・キハダ)に同定された。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

・トウヒ属 (*Picea*) マツ科

軸方向組織は、仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、水平樹脂道、放射系組織、エビセリウム細胞で構成される。放射系組織の細胞壁は厚く、垂直壁及び水

平壁にはじゅず状の肥厚が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分界壁孔はトウヒ型で、1分野に3-6個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分界壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分界壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減じる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔及び階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、道管は、単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。

・キハダ (*Phellodendron amurense* Ruprecht) ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圍部は3-5列、孔圍外でやや急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

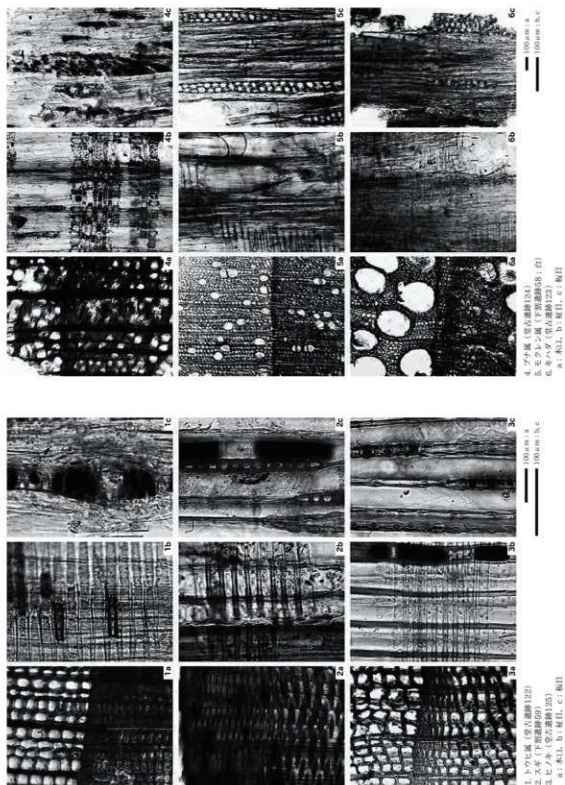
## 4) 考 察

分析対象とされた木製品は、[伊東・山田 2012] の木器分類を参考にすると、堂古遺跡の資料は容器(曲物・椀・蓋?)、調理加工具(飯か蓋)、食器具(箸)、下湖遺跡の資料が服飾具(下駄)、食器具(折敷)に分類される。

樹種同定の結果、これらの木製品には、針葉樹のトウヒ属・スギ・ヒノキと、広葉樹のブナ属・モクレン属・キハダの計6種類が確認された。針葉樹のトウヒ属は山地に生育する常緑高木、スギは谷沿いや扇状地扇端部の湧水池周辺などの水分の多い場所に生育する常緑高木、ヒノキは山地等に生育する常緑高木である。また、広葉樹のブナ属は、山地に生育する落葉高木であり、日本海側では山地の冷温帯性落葉

遺跡名	報告番号	遺構名	層位	部種	部位	木取り	種類 (分類群)
堂古遺跡	122	SE999	13層	曲物	底板	板目	トウヒ属
	123	SE999	13層	蓋?	—	板目	キハダ
	124	15SE222	15層	碗	—	横木地板目取	ブナ属
	125	15SE229	21層	飯か蓋	—	板目	ヒノキ
	126	15SE282	21層	箸	—	部出挿状	スギ
	128	15SE296	30層	曲物	底板	板目	ヒノキ
下湖遺跡	58	15SE107	4層	下駄	台	板目	モクレン属
	59	15SE214	11層	折敷	底板	板目	スギ

第10表 堂古遺跡・下湖遺跡樹種同定結果



第12図 聖古遺跡・下館遺跡の木材

広葉樹林（ブナ林）の主要な構成種であるブナを含む。モクレン属は、山地や丘陵地の溪畔等に生育する落葉高木、キハダは河畔等に生育する落葉高木である。また、各種類の木材の材質について見ると、トウヒ属は針葉樹のなかでは軽軟な部類に入り、保存性が低い、強度は比重の割には高いとされ、スギやヒノキは木理が通直で割裂性と耐水性が比較的高い、ブナ属は重硬な部類に入り、強度が高いものの、保存性は低い。モクレン属とキハダはいずれも軽軟な部類に入るが、モクレン属は強度と保存性が低く、キハダは強度が低いが耐朽性は高いとされる。

遺跡別に見ると、中世（13世紀～15世紀）を主体とする集落である堂古遺跡の資料は、容器、調理加工具、食事具などからなる。容器は曲物の底板2点（122・128）からなり、いずれも桎目板である。樹種はヒノキとトウヒ属が各1点確認されたことから、分割加工が容易な針葉樹の利用が考えられ、ヒノキについては耐水性も考慮されている可能性がある。上越市域における調査事例では、中世の曲物は、隣接する下割遺跡をはじめ八反田遺跡・海道遺跡・用言寺遺跡・仲田遺跡などで、スギを中心にヒノキ・サワラ・ヒノキ科が混じる組成が認められている〔伊東・山田 2012〕。トウヒ属は確認されていないが、民俗事例ではトウヒの特殊な用途として曲輪が挙げられている〔平井 1996〕。今回の資料は、トウヒ属の利用の実例を示す出土資料として注目される。また、トウヒ属は、標高1500m以上の亜高山帯に生育しており、高田平野周辺には生育していないため、トウヒ属の曲物の製作事情や入手に関しては今後の課題である。

一方、蓋？（123）は、キハダの板目板が利用されており、強度の低い広葉樹材からなる。キハダの利用は、強度よりも加工性や耐久性を考慮した木材利用と考えられる。新潟県内における中世の木製品にキハダが確認された事例では、三角田遺跡や仲田遺跡（上越市）の柱根、大武遺跡（旧和島村、現長岡市）の下駄、住古遺跡（旧雲雲寺町、現新発田市）の柱根、田屋遺跡（旧神林村、現村上市）の柱根などが挙げられ、柱としての利用例が多い〔伊東・山田 2012〕。今回の資料は、中世におけるキハダの利用状況を知る上で貴重な資料といえる。また、椀（124）は、素地椀であり、内面には轆轤による同心円状の木挽き痕が認められる。横木地桎目取であり、ブナ属が利用されることから、加工が容易な木材の利用と考えられる。ブナ属は、本地域の中世や近世の漆器椀にも多く利用されている樹種であり〔伊東・山田 2012〕、漆器椀と同様の木材利用が推定される。

調理加工具の瓶か蓋（125）は、中央に1か所、縁辺4か所に穴の開いた円形の桎目板であり、瓶の甲板か蓋の可能性のある資料である。ヒノキが利用されることから、曲物の底板と同様の木材利用が推定される。なお、瓶に関する調査事例は、新潟県内をはじめ、隣接する長野県や富山県には認められない〔伊東・山田 2012〕。

食事具の箸（126）は、削出棒状を呈する資料であり、スギが確認された。このことから、加工性の高い木材の利用が推定される。本地域の調査事例では、箸の多くがスギに同定されており、このほかにヒノキ属、アスナロ近似種、クリ近似種、アジサイ属近似種がわずかに認められる〔伊東・山田 2012〕。このうち、スギの利用状況を見ると、本地域では小型の木製品だけではなく、柱、仕口・継ぎ手材、杭、井戸部材といった大型の建築部材や施設材等にも認められ、広く利用されていたことが明らかとされている。なお、箸のような製品は、加工時に生じる小型の木片からも製作可能であるため、こうした大型の部材製作に付随して製作されていた可能性がある。

一方、中世から近世の集落される下割遺跡の資料は、履物（下駄）、食事具（折敷）からなる。下駄（58）は、台と歯を別材で製作した差歯下駄であり、歯の柄穴が台表まで貫通する露蹄タイプである。柄穴は、前後とも中央に1か所である。台のほか、後歯の柄穴内に歯の一部が残存しており、台と歯の組み合わせが

分かる資料である。樹種は台・後歯ともにモクレン属であり、軽い木材の利用が推定される。高田平野では、仲田遺跡から出土した差歯下駄の台にクスノキ科が確認された例があるが、台と歯の組み合わせを確認できる事例は認められない〔伊東・山田 2012〕。一方、新潟県内の中世の差歯下駄の調査事例を見ると、寺前遺跡（出雲町）の 12 世紀とされる資料にスギが多数確認されるが、これを除くとモクレン属の利用例がもっとも多く、当該期の木材利用を反映すると考えられる。

食事具の折敷（59）は、底板のみの出土である。薄い桎目板のスギが利用されており、加工性の高い木材の利用が推定される。高田平野における中世の折敷の調査事例は、海道遺跡や三角田遺跡などがあり、スギとサワラが確認されているほか、県内の他地域でもスギの事例が圧倒的に多く、わずかにヒノキが含まれる〔伊東・山田 2012〕。今回の資料に認められたスギの利用は、既存の調査事例と調和する結果といえる。

## C 骨 同 定

### 1) 試 料

試料は、堂古遺跡で検出された ST648 から採取された土壌 1 点である。試料は、焼骨片が混じる土壌であり、乾燥した状態で保管されている。

### 2) 分 析 方 法

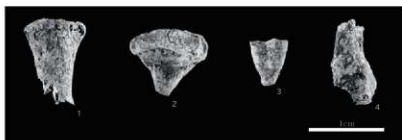
試料の重量を計測した後、一昼夜水に浸漬して泥化を行い、0.5mm の篩上で軽く水洗する。篩上に残った残渣を自然乾燥させ、骨を抽出する。抽出した骨は、肉眼及び実体顕微鏡下で観察し、形態的特徴から種類・部位を同定する。

### 3) 結 果

同定結果を第 11 表に示す。土壌試料（乾重 43.62g）の水洗により回収された骨片は、いずれも白色を呈し、小型であった。このうち、種類及び部位を特定できた骨片は、ヒトの中節骨近位端片・末節骨近位端片、ヒトの可能性のある歯牙片・基節骨 / 中節骨遠位端片である。このほかは、種類・部位不明破片である。

グリッド	遺跡名	分析量 (g)	種類	部位	部分	数量	焼熟	備考
9H12・17	ST684	43.02	ヒト	中節骨	近位端	1	有	
				末節骨	近位端	1	有	
			ヒト?	歯牙	歯根片	4	有	
				基節骨 / 中節骨	遠位端片	1	有	遠位端破片
			哺乳類	不明		10.59 片	有	
			残渣			2.77 片		

第 11 表 堂古遺跡 ST684 出土骨同定結果



1. ヒト中節骨 (ST648)  
2. ヒト末節骨 (ST648)  
3. ヒト?歯牙 (ST648)  
4. ヒト?基節骨/中節骨 (ST648)

第 13 図 堂古遺跡 ST684 出土骨

#### 4) 考 察

ST648 から出土した骨片は、いずれも白色を呈しており、表面に細かなひび割れが生じるなど焼骨の特徴が認められた。出土骨はいずれも小型の破片であり、種類と部位が特定できたのは、ヒトの指趾骨の破片であり、ヒト?とした歯牙片や指趾骨片もヒトの可能性が高いと考えられる。

なお、ST648 については、調査所見によれば、燃焼行為の痕跡とは考えられないことが明らかとされている。そのため、今回の試料に確認された出土骨の状況は、遺構外における火葬行為の痕跡、すなわち頭蓋骨や四肢骨などの大型骨や主要部位を拾い出した後の処理状況を示している可能性が考えられるが、この点については、本遺跡周辺における火葬施設の規模や形態、火葬施設内部の出土骨の状況などの調査事例の蓄積による検討が望まれる。

### D 土壌理化学分析

#### 1) 試 料

試料は、堂古遺跡で検出された溝 (15SD29) から採取された土壌 4 点と、遺跡内に確認された堆積層 (基本層序) から採取された土壌 2 点の計 6 点である (試料はいずれも図版 9D-D' 部分から採取した)。以下に、試料の概要を記す。

##### 15SD29

15SD29 は、基本層序Ⅲ層を確認面とするが、Ⅲ層での検出が困難なため、実際はⅥ層で検出されている。調査所見によれば、埋土は 1～4 層に区分されており、1・2 層がオリブ褐色粘質土、3・4 層が暗灰黄色シルトからなる。試料は、15SD29 埋土の 1～4 層の各層から採取された土壌 4 点 (埋土 1～4 層) からなる。

##### 基本層序

試料は、15SD29 の記録の際の断ち割り面に確認された基本層序のⅤ層とⅥ層より採取されている。調査所見によれば、Ⅴ層は暗褐色粘質土、Ⅵ層は黒褐色粘質土からなり、Ⅵ層からは古墳時代の土師器の出土が確認されている。

本分析では、遺構の年代に関わる資料の作成として、遺構の埋積過程 (埋土の形成) に関わる堆積物の化学性に着目し、上記した土壌試料 6 点について、炭素 (腐植)、リン酸、カルシウムの各種成分含量の測定を行った。

#### 2) 分 析 方 法

有機炭素はチューリン法、リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法 [土壌標準分析・測定法委員会 1986] に従った。以下に各項目の操作工程を示す。

##### 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して 2mm の篩で篩い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm 篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で 4 時間乾燥し、分析試料水分を求める。

## 有機炭素

粉碎土試料0.100～1.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値及び加熱減量法で求めた水分量から乾土当たりの有機炭素量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

## リン酸・カルシウム含量

粉碎土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸(HNO<sub>3</sub>)約10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO<sub>4</sub>)約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計によりカルシウム(CaO)濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土当たりのリン酸含量(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g)とカルシウム含量(CaOmg/g)を求める。

## 3) 結果

分析結果を第12表・第14図に示す。以下に、地点ごとに結果を記す。

## 15SD29

15SD29埋土の野外土性〔ペドロロジー学会編1997〕は、埋土1～4層のいずれもHC(重粘土)と粘質であり、土色も褐色(10YR4/6)である。

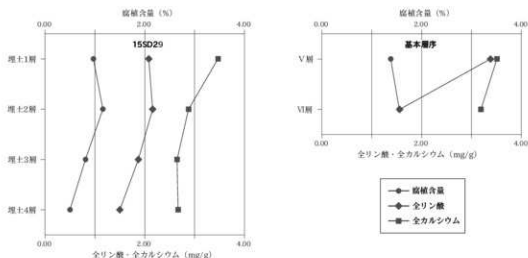
地点名/遺構名/層位名	土色 <sup>1)</sup>	土性 <sup>2)</sup>	有機炭素C (%)	腐植 (%)	全リン酸 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> (mg/g)	全カルシウム CaO (mg/g)
15SD29	埋土1層 10YR4/6	褐	0.56	0.97	2.08	3.47
	埋土2層 10YR4/6	褐	0.67	1.16	2.16	2.88
	埋土3層 10YR4/6	褐	0.47	0.81	1.87	2.65
	埋土4層 10YR4/6	褐	0.29	0.50	1.50	2.67
基本層序	V層 10YR4/6	褐	0.80	1.38	3.38	3.51
	VI層 10YR3/4	暗褐	0.90	1.55	1.56	3.19

1) 土: マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議編 1967)による。

2) 土性: 土壤調査ハンドブック改訂版(ペドロロジー学会編, 1997)の野外土性による。

HC: 重粘土(粘土45～100%、シルト0～55%、砂0～55%)

第12表 堂古遺跡土壌化学分析結果



第14図 堂古遺跡 15SD29・基本層序の土壌化学分析結果

分析の結果、腐植含量は埋土2層が1.16%と最も多く、埋土1層が0.97%、埋土3層が0.81%、埋土4層が0.50%である。全リン酸は、腐植含量と同様に埋土2層が2.16mg/gと最も高く、埋土1層が2.08mg/g、埋土3層が1.87mg/g、埋土4層が1.50mg/gである。全カルシウムは、埋土1層が3.47mg/gと最も高く、埋土2層が2.88mg/g、埋土3層が2.65mg/g、埋土4層が2.67mg/gである。

#### 基本層序

基本層序の野外土性は、V層とVI層はいずれもHCである。土色は、V層が褐色(10YR4/6)、VI層が暗褐色(10YR3/4)である。

分析の結果、腐植含量はV層が1.38%、VI層が1.55%である。全リン酸は、V層が3.38mg/gと今回の試料中でもっとも多く、VI層は1.56mg/gである。全カルシウムは、V層が3.51mg/gと全リン酸と同様に今回の試料中でもっとも多く、VI層が3.19mg/gである。

#### 4) 考 察

一般的に腐植含量は、主に植生繁茂の指標として用いられるが、その腐植の集積量は主に植物遺体供給量に規定され、気候的要因による植生の繁茂状態が、腐植含量に大きく影響を与えているとされる。また、リン酸の多くが植物に由来することが知られている。

なお、リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成することがある。特に活性アルミニウムの多い火山灰土では、非火山性の土壌や沖積低地堆積物などに比べればリン酸の固定力が高いため、火山灰土に立地した遺跡での生物起源残留物の痕跡確認にリン酸含量は有効なことがある。

土壌中に普通に含まれるリン酸含量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例[Bowen1983、Bolt・Bruggenwert1980、川崎<sup>ほか</sup>1991、天野<sup>ほか</sup>1991]があるが、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0mg/g程度である。また、人為的な影響(化学肥料の施用など)を受けた黒ボク土の既耕地では5.5mg/gという報告例[川崎<sup>ほか</sup>1991]があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0mg/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1～50mg/g[藤貫1979]といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。これは、リン酸に比べると土壌中に固定され難い性質による。

今回の分析調査の結果、基本層序のV・VI層では、V層はリン酸及びカルシウム含量が多く、VI層は腐植含量が若干高いという特徴を示した。一方、15SD29埋土は、上層で腐植やリン酸(埋土2層)やカルシウム含量が高い(埋土1層)という特徴が認められたが、全体的に埋土下位に向かって各種成分の含量が減少するという傾向を示す。

調査所見によれば、15SD29はⅢ層を遺構検出面としてVI層以深まで掘削されており、上層に当たる埋土1層がⅢ層を、埋土2層がV層を壁面とし、下層に当たる埋土3・4層はVI層を壁面とする。これらの対応関係を考慮すると、埋土2層は埋積の過程でV層の影響を受けている可能性があり、埋土1層はV層よりも上位にあることから、Ⅲ層やそれ以後に形成された堆積物の影響が想定される。

また、飯田川の対岸に位置する二反割遺跡では、本遺跡と同様に基本層序を対象とした土壌の化学性の検討を行い、リン酸含量と腐植含量との間に高い相関が認められたほか、カルシウム含量は各層準で



1mg/gとなる状況が明らかとされている(第四章5C)。今回の結果と比較すると、腐植含量は二反割遺跡の中世や古墳時代の遺物包含層や遺構検出面に対して有意に少ない状況がうかがえる。一方、カルシウム含量は、上述した天然賦存量の範囲内にあるものの、二反割遺跡の各試料よりも高い値を示すという点で特徴づけられる。

以上の点を踏まえると、15SD29埋土は腐植含量が少ない堆積物が埋積した、あるいはこのような堆積物を母材としていると推定される。また、溝埋土やV層認められたリン酸やカルシウム含量については人為による何らかの影響などの可能性も考えられる。これらの点については、堆積層の形成や堆積後の地歴の検討、さらにIII層及びIII層より上位の土壌の化学性の検討による評価が望まれる。

#### 引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信 1991『中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量』農林水産省農林水産技術会議事務局『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』28-36p
- Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M 1980『土壌の化学』岩田進午・三輪春太郎・井上隆弘・陽 捷行訳学会出版センター 309p
- Bowen,H.J.M. 1983『環境無機化学—元素の循環と生化学—』浅見輝男・茅野充男訳 博友社 297p
- 土壌標準分析・測定法委員会編 1986『土壌標準分析・測定法』博友社 354p
- 藤貫 正 1979『カルシウム』『地質調査所化学分析法』52・57-61p
- 林 昭三 1991『日本産木材顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
- 平井信二 1996『木の百科 解説編』朝倉書店 642p
- 伊東隆夫 1995『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ』『木材研究・資料』31 京都大学木質科学研究所 81-181p
- 伊東隆夫 1996『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ』『木材研究・資料』32 京都大学木質科学研究所 66-176p
- 伊東隆夫 1997『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ』『木材研究・資料』33 京都大学木質科学研究所 83-201p
- 伊東隆夫 1998『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ』『木材研究・資料』34 京都大学木質科学研究所 30-166p
- 伊東隆夫 1999『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ』『木材研究・資料』35 京都大学木質科学研究所 47-216p
- 伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社 449p
- 川崎 弘・吉田 淳・井上恒久 1991『九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量』農林水産省農林水産技術会議事務局『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』23-27p
- 農林省農林水産技術会議事務局監修 1967『新版標準土色帖』
- ベドロジー学会編 1997『土壌調査ハンドブック改訂版』博友社 169p
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. 編 2006『針葉樹材の識別—IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト—』伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社 70p [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.,2004, IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫 1982『図説木材組織』地球社 176p
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. 編 1998『広葉樹材の識別—IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト—』伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社 122p [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.,1989, IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

## 第IV章 二反割遺跡

### 1 グリッドの設定 (第15図)

グリッドは、2011(平成23)年度調査で設定したグリッドを延長して使用した。真北方向を基準に、調査範囲をカバーできるように任意に設定している〔細井・高橋ほか2012〕。グリッドは大小2種類あり、大グリッドは10m四方を単位とし、小グリッドはそれを2m四方に25等分した。大グリッドの名称は南西隅を基点に、東西方向(西→東)を算用数字、南北方向(南→北)をアルファベットとし、両者の組み合わせで表示している。小グリッドは1～25の算用数字で表し、北西隅を1、南東隅を25とした。グリッドの表記は大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「8H1」のように呼称した。なお、グリッド杭の座標値(東日本大震災後の補正値)は8G杭(世界測地系X=126100.514, Y=-15740.319)、12J杭(世界測地系X=126130.515, Y=-15700.321)である。

### 2 基本層序(第15図)

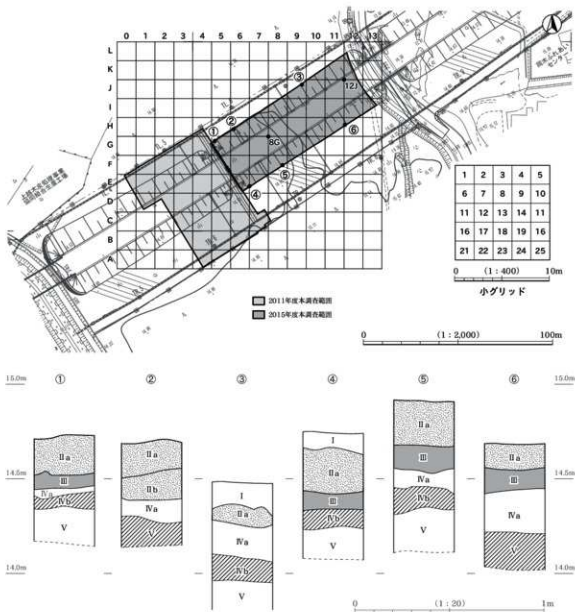
2015年度調査範囲は遺跡の東端に当たり、東側には農業用水路が北流する。2012(平成24)年度の確認調査の結果、この水路の東側と西側では層序が異なることが判明した。水路東側は自然堤防背後の低地、西側は自然堤防と考えられ、この地形の相違が層序の差異の要因となっている。そして、水路はおおむね自然堤防と後背低地との地形の変換点に位置している。遺跡は水路の西側、飯田川右岸の自然堤防上に立地し、標高は13.9～14.8mである。後背低地に当たる水路東側は、遺跡の

範囲から外れている。調査範囲の微地形は北東側、南西側に向かい緩やかに傾斜し、その間の微高地に掘立柱建物などが位置している。基本層序はI～V層に分層し、II層とIV層は混入物の有無により2層に細分した。これは2011年度の調査成果とほぼ同じだが(第13表)、2015年度は遺物の出土が非常に少ない。

- I層: 暗褐色シルト～粘質土(10YR3/4) 粘性・しまり普通。現表土。
- II層: 暗褐色シルト～粘質土(10YR3/3) 粘性普通～弱。しまり弱。灰色粘質土をまばらに含むb層と含まないa層に細分する。中世の遺物包含層。
- III層: 黒色シルト～粘質土(10YR2/1) 粘性やや強。しまり普通。古墳時代の遺物包含層。
- IV層: 褐色シルト～粘質土(10YR4/4～4/6) 粘性普通～弱。しまり弱。黒褐色粘質土をまばらに含むa層と含まないb層に細分する。基本的にIVb層で遺構を検出した。
- V層: 黄褐色シルト～粘質土(10YR5/8) 粘性・しまり弱。青灰色粘質土をまばらに含む。

2011年度	2015年度	備考
I層	I層	表土
I'a層	—	
I'b層	—	近世以降加積作土
II層	IIa層	中世遺物包含層
—	IIb層	
III層	III層	古墳時代遺物包含層
—	IVa層	遺構検出面
IV層	IVb層	
V層	V層	

第13表 二反割遺跡基本層序対応表



第15図 二反割遺跡のグリッド設定図・基本層序図

### 3 遺 構

#### A 概 要

記述の方法と遺構の形態分類などについては、第三章3A1)・3)に準じて記述する。2015年度調査範囲南西側には2011年度調査区が隣接するため、2011年度調査遺構の延伸部分は同一の遺構名を使用する(SB124)。2015年度調査の遺構については、遺構略号の前に調査年「15」を付した。遺構数は2011年度遺構の延伸部分を含め、掘立柱建物14棟、井戸6基、溝31条(そのうち畑作溝16条)、土坑13基、ピット402基、性格不明遺構2基である。なお遺構番号9は欠番である。

調査範囲内の微地形は8Hがもっとも高く、北東側、南西側に向かい徐々に低下する。遺跡は飯田川右岸の自然堤防上に立地する。北東端は自然堤防と後背低地の地形の変換点に当たり、自然堤防の末端に沿って農業用水路が北流する。遺構は調査範囲のほぼ全域に分布する傾向にあるが、地形が低い5G周

辺が希薄になる。また7H周辺に位置する畑作溝(15SD369・375～377・385・386・429～431・452～456・469・470)は、時期が近世以降の可能性が高いため〔細井・高橋ほか前掲〕、報告の対象とはしない。15SK188・238、15SX129は埋土に炭化物層が見られ、人為的に埋め戻されている。平面や断面の形状も共通している。表土等掘削時から炭化物の分布が確認でき、掘り込み面は比較的上位と考えられた。埋土の状況なども加味すれば、中世以前にさかのぼる可能性は低いと考えられ、7H周辺の畑作溝と同様に報告の対象とはしない。2011年度調査では古墳時代の遺構・遺物(5世紀～6世紀)が検出されたが、2015年度は検出されなかった。

遺構埋土は、色調から黒色系埋土・褐色系埋土・灰色系埋土(褐灰色など)の3種類に大別できるが、遺構の新旧関係や出土遺物からは時期差を明確にすることはできなかった。出土遺物から遺構の時期が判明したのは15SX435のみで、古代の遺構と考えられる。そのほかの遺構は、建物の柱穴形状・柱穴規模・構造・軸方向の類似性から、2011年度調査の中世集落(12世紀)との関連性がうかがえた。そこで建物と関連する井戸(15SE471)出土の杭状木製品(15)の年代測定を行ったところ、11世紀中葉～13世紀初頭の年代が得られたことから(第IV章5B)、2015年度調査の集落は12世紀中心の集落と判断した。その前提で遺構埋土を見直すと、建物・井戸・溝は黒色系埋土が主体で、畑作溝、15SK188・238、15SX129は褐色系埋土や黒色系埋土となる。黒色系埋土の一部には、Ⅲ層(古墳時代の包含層)に由来する埋土も見られ、Ⅳ・Ⅴ層をブロック状に含むものが多い。このⅢ層由来の埋土は、柱穴や井戸にも見られること、古墳時代の遺物が確認できないことから、中世遺構を埋める際に混入したと考えられ、古墳時代の遺構とは判断していない。灰色系埋土は不明点が多いが、建物の一部に認められ、中世以前の可能性がある。褐色系埋土はⅣ・Ⅴ層に由来し、中世の遺構にも少ないながら確認できる。

## B 古代の遺構

古代の遺構と判断できるのは15SX435のみで、時期は古代Ⅰ～Ⅱ期(7世紀代)と考えられる。

### 15SX435(図版49・112・113)

8H4に位置する。平面形が楕円形、断面形が台形状を呈する土坑の内部に、土師器(1～7)が据えられていた。そのうち4個体(2～4・7)が原位置を保ち、2・3は口縁部側を下にして立てた状態で検出された。4・7の上下は不明である。土師器の残存高は3.4～12.5cmで、土坑底面から約10cm浮いていた。土坑の規模は長径1.02m、短径0.70m、深さ0.25mである。埋土は4層に分層でき、褐色系埋土や暗赤褐色粘質土などが堆積するが、暗赤褐色粘質土が堆積する遺構は15SX435のみで、壁面や底面などに被熱の痕跡はない。15SB567の内部に位置し、周辺にはビットや畑作溝なども位置するが、直接の新旧関係はない。8H周辺は地形が高く、現地表から遺構検出面まで15～20cmで比較的浅い。そのため、15SX435やその周辺も畑作の影響を受けていることが予想される。土師器の遺存状況もそれを示しており、土坑の掘り込みももう少し深かった可能性もある。

15SX435や周辺の遺物の出土状況から、性格は建物のカマドや貯蔵穴、墓坑などの可能性が予想された。9C2でやや離れるが、円筒形土製品(12)の出土は周辺での竪穴建物の存在を示唆する。15SX435を15SB567に伴う施設とすると、柱穴の形状・配置などから15SB567は古代の建物とは考えにくい。問題が残る。15SB567以外の建物の施設とした場合、例え建物が簡易的な構造であったとしても、その痕跡がまったく検出できなかった点で問題が残る。また埋土の分析も行ったが、墓坑の可能性を示す結果ではなかった(第IV章5C)。土師器が土坑内部に据えられるという15SX435の形態的な特徴を考慮

すると、それ単独で機能したとは考えにくいものの、具体的な性格は不明である。

## C 中世の遺構

### 1) 掘立柱建物

掘立柱建物は14棟検出し、そのうち1棟は2011年度調査の延伸(SB124)で、4棟は整理作業の結果認定した建物(15SB564～567)である。建物の構造は四面廂建物、片廂建物、総柱建物が各1棟ずつで、そのほかはすべて側柱建物である。建物同士は柱筋をそろえるものや軸が正方位を指すものなどがあり、計画的に配置されたことがうかがえる。重複は少なく、集落の存続期間を反映していると考えられる。2011年度調査分の建物とは柱穴の規模や埋土などに類似性が認められ、建物配置も相互に関連する可能性が高い。そのため2011年度調査と同時期(12世紀)の集落と想定でき、自然科学分析でも同様の結果が得られている(第IV章5B)。ただし、15SB567はほかの建物とは軸が異なる一方、近世以降の畑作溝と軸が近似する。そのため、中世の建物とするには問題も残る。

#### SB124 (図版49・113)

5・6Fに位置する。2011年度調査時に検出した建物で、その延伸部分が確認できた。その結果、桁行2間(5.00m)×梁行2間(3.30m)、桁行方向N-88-Eの東西棟の建物であることが判明した。面積は約16.50㎡となる。桁行の柱穴間隔は1.85～3.20mで、梁行は1.60～1.80mである。柱筋の通りはよい。柱穴の平面形は円形が多く、断面形はU字状がほとんどである。規模は径が0.15～0.31m、深さは0.14～0.50mである。いずれもばらつきがあり、小型のものが多く、柱痕は確認できなかった。周辺にはSB125、15SB561、15SD371、SK111などが位置する。SE3と重複しているが、新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

#### 15SB354 (図版50・114)

11K・Lに位置する。桁行3間(8.78m)以上×梁行1間(5.10m)、桁行方向N-0°の南北棟の建物である。北西側が調査範囲外に延伸するが、桁行は3間ないし4間と思われる。面積は44.78㎡以上となる。桁行の柱穴間隔は2.32～3.44mでばらつく。梁行は5.10mで桁行より広い。桁行の柱筋の通りはよいが、梁行は悪い。柱穴の平面形は楕円形がほとんどで、断面形はU字状や台形状が多い。規模は径が0.24～0.63m、深さは0.30～0.56mで、いずれもばらつく。柱痕は2基で確認でき、径は0.13mと0.15mでほぼ同規模である。内部には15SK31が位置するが、15SB354との関係は不明である。このほか周辺には15SB356・425、15SK51などが位置する。15SB354の東側桁行は15SB426の西側桁行と柱筋をそろえており、その距離は約13.2mである。15SB355、15SE30、15SD1Aと重複し、新旧関係は15SD1Aに切られるが、15SB355、15SE30との新旧関係は不明である。遺物は15P223の4層から摩耗した土師器の小片が1点出土した。

#### 15SB355 (図版50・114)

11K・Lに位置する。桁行2間(4.96m)以上×梁行1間(5.61m)、桁行方向N-0°の南北棟の建物である。面積は27.83㎡以上で、北西側が調査範囲外に延伸する。桁行の柱穴間隔は2.26～2.70mで、ばらつく。梁行は5.61mで、桁行より広い。柱筋の通りは比較的よい。重複する15SB354より一回り大きい建物と考えられる。柱穴の平面形は円形が多く、断面形は台形状が多い。規模は径0.25～0.45m、深さ0.34～0.50mで、ややばらつきがある。15P21・38では柱痕と柱の当たりが見られた。周辺には15SB356・425、15SE30、15SK51などが位置する。15SB354、15SD1Aと重複する。15SB354と

の新旧関係は不明だが、15SB354・355がほぼ同時期と想定できることから15SD1Aに切られると思われる。遺物は15P14の1層から土師質土器が出土した。

#### 15SB356 (図版50・115)

10・11J・Kに位置する。桁行3間(6.10m)×梁行2間(3.68m)の身舎の4面に廂がつく、5間(10.00m)×4間(6.36m)の東西棟の建物(桁行方向N-75°W)である。身舎部分の面積は約22.45m<sup>2</sup>、廂を含めると約63.60m<sup>2</sup>となる。身舎桁行の柱穴間隔は1.68～2.80mで、中央の15P170-15P159間、15P119-15P151間が広い。梁行は1.83～2.03mで西妻側がやや広い。廂部分桁行の柱穴間隔は1.48～3.00mで、身舎同様に中央の15P180-15P160間、15P148-15P330間が広い。梁行の柱穴間隔は1.28～1.74mである。廂の出は梁行方向が約1.40～1.50m、桁行方向が約1.80～2.00mである。身舎の柱筋の通りは比較的良好だが、廂は悪い。身舎・廂ともに柱穴の平面形は円形が多く、断面形はU字状が多い。規模は、身舎が径0.19～0.36m、深さ0.13～0.51m、廂が径0.17～0.35m、深さ0.16～0.46mである。ばらつきはあるが、身舎と廂で柱穴の規模に顕著な差異は認められない。柱痕は身舎で5基、廂で6基確認でき、径は身舎が0.05～0.14m、廂が0.06～0.13mで、ほぼ同規模である。周辺には15SB354・355・425・492・563、15SE132、15SK51などが位置する。15SB563の東側梁行の柱筋と廂部分西側梁行の柱筋をそろえており、距離は約6.6mとなる。15SE130と重複し、新旧関係は15SE130に切られる。遺物は出土していない。

#### 15SB425 (図版51・115)

11J・Kに位置する。桁行2間(3.40m)×梁行2間(2.54m)の南北棟建物である。桁行方向はN-31°Wで、面積は約8.64m<sup>2</sup>である。桁行の柱穴間隔は1.46～1.80mで、梁行は1.12～1.32mとなる。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形は円形や楕円形、断面形は階段状が多い。規模は径0.16～0.35mで、深さは0.13～0.46mとばらつきがある。柱痕は3基で確認でき、15P96の径は0.16mである。周辺には15SB354～356・426、15SE132、15SD1A、15SK51などが位置する。15SD1Aの長軸方向と桁行方向がそろって、ほかの建物とはそろわない。遺物は出土していない。

#### 15SB426 (図版51・116)

11J、11・12Iに位置する。桁行3間(7.86m)×梁行1間(4.70m)の身舎の東側に廂(1.18mの出)がつく南北棟建物である。桁行方向はN-3°Eで、面積は約46.22m<sup>2</sup>である。身舎桁行の柱穴間隔は2.16～3.14mで、中央の15P44-15P67間、15P18-15P49間が広がる。梁行は4.70mの等間隔である。廂の柱穴間隔は2.42～2.94mで、身舎同様中央の15P10-15P22間が広い。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形は楕円形が多く、断面形は箱状や台形状などさまざまである。規模は身舎で径が0.23～0.53m、深さが0.10～0.60m、廂で径が0.16～0.31m、深さが0.12～0.37mである。いずれもばらつきが認められるが、身舎の方が廂よりも大きい傾向にある。柱痕は身舎の2基で確認でき、径は0.10mと0.13mである。15P49には礎が3段積まれていた。柱の抜き取り後に入れられたのか、柱の長さ調節のため入れられたのかなど、その機能は明確にできなかった。周辺には15SB425・492、15SE70、15SD1Aなどが位置する。15SB426の東側桁行の柱筋は15SB354の西側桁行の柱筋とそろえている。遺物は出土していない。

#### 15SB492 (図版51・114)

10・11I・Jに位置する。桁行2間(3.35m)×梁行2間(3.14m)、桁行方向N-4°Eの南北棟の建物で、北側梁行中央の柱穴は確認できなかった。面積は約10.52m<sup>2</sup>である。桁行の柱穴間隔は1.25～2.10m

で、北側の方が広い。柱筋の通りは、15P559がやや外側に位置するなど、あまりよくない。柱穴の平面形は楕円形や円形で、断面形は漏斗状に近いものなどさまざまである。規模は径が0.17～0.30m、深さは0.22～0.52mでばらつきがある。柱痕は4基で確認でき、径は0.08～0.14mである。周辺には15SB356・426・563、15SE132などが位置する。遺物は15P181の1層から須恵器杯の小破片が出土している。

#### 15SB561 (図版52・117)

6・7E・Fに位置する。桁行5間(8.06m)×梁行4間(6.70m)、桁行方向N-89°-Wの東西棟の総柱建物であるが、3か所で柱穴が確認できなかった。SB121・261(2011年度調査)とともに、約20mの距離を保ちL字状に配置される(第20図)。面積は約54.00m<sup>2</sup>である。建物の東側にピットが位置することから、廂や塀が付属する可能性も残る。柱穴間隔は桁行が1.33～2.40m、梁行が1.14～2.00mで、いずれもかなりばらつきがある。平均の柱穴間隔は桁行が約1.65m、梁行が約1.58mとなり、桁行の方が広い。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形は円形、楕円形が多く、断面形はU字状、半円状、台形状などさまざまである。規模は径が0.11～0.41m、深さは0.05～0.45mでばらつく。15SD371底面で検出した15P519を除いても、ばらつきが認められる。柱痕は4基で確認でき、径は0.10～0.19mである。周辺にはSB124・125、15SB562・564、15SE350などが位置する。15SE471、15SD325・371、15SK474などと重複し、新旧関係は15SE471、15SD325、15SK474を切り(図版55)、15SD371に切られる。遺物は出土していない。

#### 15SB562 (図版52・117・118)

8・9F・Gに位置する。桁行4間(8.78m)×梁行1間(4.78m)の南北棟の建物で、南側梁行の柱筋と15SB561北側桁行の柱筋がそろおうと判断している。桁行方向はN-4°-Eで、15SB565・566の桁行方向や15SD176の長軸方向とそろおう。面積は約41.97m<sup>2</sup>である。桁行の柱穴間隔は1.82～2.66mで、中央2間分の間隔がやや狭い。梁行は4.78mである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形は円形が多く、断面形は台形状が多い。規模は径0.20～0.47m、深さ0.13～0.48mとばらつきがある。柱痕は2基で確認でき、径は0.07mと0.17mである。周辺には15SB561・564・566・567、15SD176、15SK305などが位置する。東側で15SB565と重複するが、新旧関係は不明である。15SB562内部には深度が浅い15SK554・555が位置するが、建物との関係は不明である。遺物は出土していない。

#### 15SB563 (図版53・118)

9J、9・10Iに位置する。桁行3間(10.10m)×梁行1間(4.26m)、桁行方向N-77°-Wの東西棟の建物である。面積は約43.03m<sup>2</sup>である。桁行の柱穴間隔は2.24～3.74mで、中央の1間分がやや広い。梁行は4.20mと4.26mでほぼ同じである。15P242・216・236が柱筋上から外れるため、通りは悪い。柱穴の平面形は円形や楕円形などで、断面形は漏斗状に近いものや半円状が多い。規模は径が0.22～0.56m、深さは0.12～0.41mで、いずれもばらつく。柱痕は確認できない。周辺には15SB356・492・567、15SE130などが位置する。東側梁行の柱筋が15SB356廂部分の西側梁行の柱筋とそろい、約6.6mの距離がある。遺物は15P226の2層から土師器が出土した。

#### 15SB564 (図版53・117・118)

整理作業で認定した建物である。7・8Gに位置する。桁行2間(3.52m)×梁行2間(2.60m)、桁行方向N-82°-Wの東西棟の建物である。南西隅柱は確認できない。面積は約9.15m<sup>2</sup>である。桁行の柱穴間隔は1.68～1.82mでほぼ同じで、梁行は1.17～1.43mとなる。柱筋の通りは比較的よい。柱穴の平

面形は円形や楕円形で、断面形はU字状が多い。規模は径が0.18～0.31mでほぼ同じだが、深さは0.19～0.40mとややばらつく。柱痕は2基で確認でき、径は0.07mと0.12mである。周辺には15SB561・562・567、15SE350などが位置する。東側で15SK305と重複し、新旧関係は15SK305を切る。遺物は出土していない。

#### 15SB565 (図版53・117・119)

整理作業で認定した建物で、9F・Gに位置する。南東側の大部分が調査範囲外に延びるが、15SB562との関連性を考慮し、桁行2間(3.10m)以上×梁行2間(4.17m)の南北棟建物と判断した。桁行方向はN-3°-Eで、15SB562・566の桁行方向、15SD176の長軸方向とそろろう。面積は12.93m<sup>2</sup>以上である。桁行の柱穴間隔は3.10mで、梁行は1.96mと2.21mである。柱穴の平面形は円形などで、断面形は台形状などである。規模は径が0.18～0.35mで、深さは0.08～0.76mとかなりばらつきがある。柱痕は15P501で確認でき、径は0.10mである。周辺には15SD176、15SK554・555などが位置する。東側で15SB566、西側で15SB562と重複するが、新旧関係は不明である。15SB566とは北側梁行の柱筋がほぼそろろうことから、建て替えている可能性もある。遺物は出土していない。

#### 15SB566 (図版53・117・119)

整理作業で認定した建物で、9F・Gに位置する。南東側の大部分が調査範囲外に延びるが、15SB565と同様に、桁行2間(2.67m)以上×梁行2間(4.50m)の南北棟建物と判断した。桁行方向はN-5°-Eで、15SB562・565の桁行方向、15SD176の長軸方向とそろろう。面積は12.02m<sup>2</sup>以上である。桁行の柱穴間隔は2.67mで、梁行は2.00mと2.50mである。柱穴の平面形は楕円形が多く、断面形はさまざまである。規模は径が0.15～0.38mで、深さは0.18～0.49mとばらつきがある。柱痕は確認できない。周辺には15SB562、15SK554・555などが位置する。西側で15SB565、東側で15SD176と重複するが、新旧関係は不明である。15SB565・566は北側梁行の柱筋がほぼそろろうことから、建て替えている可能性もある。遺物は出土していない。

#### 15SB567 (図版54・119)

整理作業で認定した建物である。8・9H・Iに位置する。桁行3間(8.52m)×梁行2間(6.22m)、桁行方向N-25°-Eの南北棟の建物で、南隅柱は確認できない。15SB567と軸がそろう建物や溝はなく、西側に隣接する畑作溝(近世以降か)の軸に近い。面積は約52.99m<sup>2</sup>である。桁行の柱穴間隔は2.44～3.06m、梁行は2.80～3.30mでばらつきがある。15P368・403が外側に位置するため、柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形は楕円形がほとんどで、断面形はU字状がやや多い。規模は径が0.17～0.70m、深さは0.23～0.58mで、かなりのばらつきがある。柱痕は確認できない。周辺には15SB562～564、15SK384、畑作溝などが位置する。南側で15SD416と重複するが、新旧関係は不明である。内部には15SX435が位置する。15SX435が伴うとすると15SB567も古代の遺構になるが、柱穴の形状や配置などを考えると古代の遺構とは考えにくい。そのため15SX435とは関連がないと判断する。遺跡周辺は近世以降畑地として利用されていた可能性が高く[細井・高橋<sup>ほか</sup>前掲]、15SB567の西側にも畑作溝が隣接する。桁行方向と畑作溝の軸が近似することから、15SB567は畑地に伴う可能性もある。しかし遺物が出土していないため、時期についてこれ以上言及できない。なお周辺のIIa層などから土師器が少ないながら出土しているが、周辺の地形が高いため畑作の影響を強く受けていると考えられる。そのため、直接15SB567に関係する遺物ではないと判断した。



## 2) 井 戸

2011年度調査の井戸は1.5～1.7mの深さで、堂古遺跡の井戸も比較的深かったことから、2015年度の井戸も深いものと予想していた。そこで人力での掘削を約1mまでとし、それ以下は重機を使用して断ち割りを行い、遺物の確認や断面の記録を行うことにした。断ち割り調査の方法は第三章3A5)に準じている。なお、上部調査時のセクションポイントと反対側から断ち割り調査を行った井戸はない。井戸は6基検出した。基本的に素掘りと考えている。15SE471を除き、壁面の崩落はなく比較的原形を保つものが多い。主に平面の規模から大型(15SE70・130・471)・中型(15SE132・350)・小型(15SE30)に分類できるが、2011年度調査の井戸はすべて大型に分類できる(SE3・79・83・110・169)。埋土は黄褐色粘質土などを含む黒色系埋土とⅣ・Ⅴ層由来の褐色系・灰色系埋土などで、人為的に埋め戻されたと判断している。

## 15SE30 (図版54・120)

11L25に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径0.65m、短径0.64m、深さ0.98mで、小型の井戸とした。埋土は11層に分層できる。中位に黒色系埋土が、下位・上位に灰色系埋土がレンズ状に堆積する。15SB354と重複するが、柱穴と直接重複しないため、新旧関係は不明である。遺物は7層から土師器の小片が出土した。

## 15SE70 (図版54・120)

12J18・23に位置する。平面形は円形で、断面形は漏斗状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径1.75m、短径1.54m、深さ1.91mで、大型の井戸である。埋土は16層に分層でき、主に黒色系埋土がレンズ状に堆積する。上位の堆積状況を見ると、井戸側の設置や掘り直しの可能性も残る。15SD1A、15P46・69と重複し、新旧関係は15SD1A、15P46・69を切る。遺物は3層から土師質土器、2層から珠洲焼・磨石類が出土し、そのほか被熱した礫も出土した。

## 15SE130 (図版55・120)

10J6・7・11・12に位置する。平面形は円形で、断面形はV字状に近い。壁面の崩落はなく、原形を保つと考える。規模は長径2.03m、短径1.70m、深さ1.78mで、大型の井戸である。埋土は18層に分層でき、黒色系埋土と灰色系・褐色系埋土の互層でレンズ状に堆積する。黄褐色・灰白色・青灰色粘質土を含む層が多い。断面形や埋土の堆積状況から、井戸側の設置や掘り直しの可能性も残る。15SB356と重複し、新旧関係は15SB356を切る。遺物は3層から土師質土器、12層から石造物(13)・磨石類・棒状木製品、17層から漆器片が出土した。そのほか被熱した礫も出土した。

## 15SE132 (図版55・120)

11J22・23に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径0.95m、短径0.88m、深さ1.31mで、中型の井戸である。埋土は11層に分層でき、レンズ状に堆積する。11層が灰色系埋土で、それ以外は黒色系埋土が堆積する。3・4・9・10層はⅣ・Ⅴ層由来の粘質土を含む。遺物は出土していない。

## 15SE350 (図版55・121)

7F15・20に位置する。この周辺の5G～8Fにかけては地形が低く、遺構の分布が希薄である。平面形は円形で、断面形は台形状を呈する。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長径1.05m、短径0.96m、深さ1.06mで、中型の井戸である。埋土は6層に分層でき、黒色系埋土がおおむね水平に堆積する。1・

3～5層は黄褐色粘質土を含む。遺物は3層から土師器が出土した。

#### 15SE471 (図版55・121)

7E2・3・7・8に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状に近い。壁面は崩落している。規模は長径1.92m、短径1.77m、深さ1.92mで、大型の井戸である。埋土は40層に分層でき、黒色系埋土や褐色系・灰色系埋土がブロック状に堆積する。15SB561-15P515、15SD371と重複し、新旧関係は15SB561-15P515、15SD371に切られる。遺物は32層から土師質土器皿と思われる底部片(8)、39層から下駄(14)、35層から杭状木製品(15)が出土し、そのほか被熱した礫が出土した。杭状木製品(15)の年代を測定したところ、11世紀中葉～13世紀初頭頃という結果が得られ(第IV章5B)、2011年度調査と同様12世紀を中心とする集落と判明した。

### 3) 溝

#### 15SD1 (図版48・112・121)

11K、11・12J、12・13Iに位置し、断面の観察から4回の変遷が確認できる(図版48 15SD1A～D)。平面の記録が残せたのはIV層を掘り込む15SD1Aのみである。長軸方向はN-33°-Wで、平面形は直線状、断面形は台形状(A)、弧状(B)、半円状(C・D)を呈する。長さは31.65m以上、幅は0.78m(A)、0.76m(B)、0.70m以上(C)、1.18m(D)、深さは0.32m(A)、0.24m(B)、0.35m(C)、0.42m(D)である(Aは検出面、B～Dは掘り込み面での規模)。埋土はいずれも黒色系埋土と褐色系埋土がレンズ状に堆積する。15SD1A南西側の7～9層は、混入物やしまり、堆積状況から盛土と判断した。北東側には確認できないが、15SD1Cの構築時に削られたと考えている。15SD1A～Dは相互の新旧関係、掘り込み面からA→B→C→Dの順に変遷する。現地表面を観察すると緩くぼんでいることが分かる(図版48A-A')。調査範囲外の15SD1A延長線上には道が延び、調査前まで道として利用されていたようで(図版112)、その痕跡が緩い凹みとして残っている。このことから15SD1B～Dも15SD1Aと同じ方向で、同様の場所に構築し直されたことがうかがえる。この場所が自然堤防縁辺に位置することを考えれば、土地の区画として機能し続けたことが想定できるが、道の痕跡や流水の痕跡は確認できなかった。周辺には15SB356・425・426などが位置し、15SB425の桁行方向と長軸方向がそろう。15SD1Aが15SB354-15P223、15SB355、15SE70、15P46と重複し、新旧関係は15SB354-15P223を切り、15SE70、15P46に切られる。15SB355とは直接重複しないが、15SB354・355がほぼ同時期と想定できることから15SB355を切ると考えられる。遺物は出土していない。

#### 15SD176 (図版47・122)

9F～Iに位置する。長軸方向はN-8°-Eである。平面形は直線状、断面形は台形状を呈する。規模は長さ21.70m以上、幅1.00m、深さ0.25mである。埋土は4層に分層できる。1～3層は黒色系埋土、4層が褐色系埋土で、レンズ状に堆積する。15SB566、15P239・240・250・531・536と重複し、新旧関係は15P531・536を切るが、15SB566、15P239・240・250とは不明である。遺物は土師器(1・2・4層)や須臾器(1層)が出土し、そのほか被熱した礫(1・2層)も出土した。周辺には15SB562・563・565などが位置し、15SB562・565・566の桁行方向と長軸方向がそろう。

#### 15SD325 (図版46・122)

6・7Eに位置する。長軸方向はN-33°-Eである。平面形は直線状、断面形は弧状を呈する。規模は長さ5.51m、幅0.47m、深さ0.14mである。埋土は黒褐色シルトの単層である。15SB561-15P509、

15SK474と重複し、新旧関係は15SK474を切り、15SB561-15P509に切られる。遺物は出土していない。長軸方向から建物との関連は想定できないが、15SD371とは関連する可能性がある。

#### 15SD371 (図版 46・122)

6・7F、7Eに位置する。長軸方向はN-45°-Wである。平面形は直線状、断面形は階段状に近い、規模は長さ15.60m以上、幅1.01m、深さ0.25mである。埋土は3層に分層でき、黒色系埋土と褐色系埋土が堆積する。堆積状況は水平ないしレンズ状である。15SB561-15P473・516・518・519、15SE471、15SK474、15P556と重複し、新旧関係は15SB561-15P473・516・518・519、15SE471、15SK474、15P556を切る。遺物は用途不明金属製品(16)が2層から出土している。長軸方向を見ると、建物との関連は想定できないが、15SD325とは関連する可能性がある。

### 4) 土 坑 ・ ピ ッ ト

#### 15SK31 (図版 56・123)

11K14・19に位置する。平面形は楕円形で、断面形はU字状を呈する。規模は長径0.90m、短径0.64m、深さ0.30mである。埋土は6層に分層でき、褐色系・灰色系埋土と黒色系埋土がレンズ状に堆積する。15SB354内部に位置するが、建物との関係は不明である。遺物は出土していない。

#### 15SK51 (図版 56・123)

11K23・24に位置する。平面形は不整形、断面形は弧状を呈する。規模は長軸1.24m、短軸1.22m、深さ0.18mである。埋土は黒褐色粘質土の単層である。遺物は土師質土器の小片と磨石類が出土した。

#### 15SK305 (図版 56・123)

8G16・17に位置する。平面形は長方形で、断面形は弧状を呈する。規模は長軸1.68m、短軸1.30m、深さ0.23mである。埋土は4層に分層でき、褐色系埋土と黒色系埋土がレンズ状に堆積する。上位は黄褐色粘質土・炭化物を含む。15SB564-15P306と重複し、新旧関係は15SB564-15P306に切られる。遺物は出土していない。

#### 15SK384 (図版 56・123)

9H11・16に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長径0.97m、短径0.67m、深さ0.14mである。埋土は単層で、にぶい黄褐色粘質土が堆積する。遺物は古代の土師器甕の体部片が1層から出土した。この土師器は15SK384検出時と同じレベルから出土し、隣接する8HⅡa層出土の破片が接合した。8H周辺の地形が高く、表土から遺構検出面までの深さが10～20cmであることを考慮すると、畑作や植林の影響を受けている可能性がある。そのため混入と判断した。

#### 15SK447 (図版 56・124)

6H9・10・15に位置する。平面形は不整形で、断面形は弧状を呈する。規模は長軸1.26m、短軸1.10m、深さ0.27mである。埋土は暗灰色粘質土の単層である。遺物は出土していない。

#### 15SK554 (図版 56・124)

8F10に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長径0.90m、短径0.65m、深さ0.10mである。埋土は2層に分層でき、黒色系埋土が堆積する。15SB562内部に位置するが、建物との関係は不明である。遺物は出土していない。

#### 15P560 (図版 56・124)

11H16・21に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状を呈する。規模は長径0.56m、短径0.51m、

深さ0.72mである。二反割遺跡の一般的な建物の柱穴より大型のため、柱穴とは判断しなかった。埋土は4層に分割でき、黒色系埋土と褐色系埋土がおおむねレンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

## 4 遺物

### A 土器・陶磁器

土師器・須恵器・珠洲焼などが2箱(54×34×10cm)出土している。一般的に中世は遺物の出土量が少ない傾向にあるが、それでも二反割遺跡の遺物量は少ない印象を受ける。土器・陶磁器は小破片で器形を復元できる個体は少なく、摩耗しているものも多い。そのため時期を特定できる個体は少ない。小破片や摩耗している個体が多いということは、少なからず畑作の影響を受けた結果と考えられる。古代・中世の土器・陶磁器の時期・器種分類は堂古遺跡と同じ論考を参考にした(第III章3B1 a)。

#### 15SX435 (図版57・125)

土師器を7点図示する(1～7)。器種は1を除き甕である。1の器種は鉢であろうか。口縁部外面にやや強いナデが施され、わずかにくびれる。2は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部は強く外傾する。摩耗が著しいが、内外面にハケが確認できる。3の口縁部は肥厚し、くの字状に短く外傾する。胎土は比較的精良で、焼成も良好である。4は体部片で、内面にはナデ・ハケ、外面にはハケ・ケズリが施される。5～7は取り上げ番号が同じだが、それぞれ別個体である。5の口縁部はゆるく外傾する。胎土が粗悪で摩耗も著しいため、調整は不明である。胎土は2に大変類似するが、器形が異なる。6は端部をわずかに欠損する口縁部片で、外面にはナデが施される。胎土や焼成は3と類似するが、器形や調整が異なる。7は体部片でナデやハケが施される。いずれも埋土から出土しているが、15SX435に本来据えられていた個体は2～4・7である。時期は古代I～II期に位置づける。

#### 15SE471 (図版57・125)

8は土師質土器皿であろうか。胎土が砂質で摩耗が著しく、調整などは観察できない。

#### 遺構外出土 (図版57・125)

9は土師器甕で、図上で器形を復元することができた。底部から外反しながら立ち上がり、体部下半が最大径となる。口縁部はくの字状に短く外傾する。外面にはハケ・ケズリ・ミガキが施される。内面のハケはやや粗い。10は土師器甕で、やや上げ底となる。外面にはケズリが施され、底面にも一部ケズリが確認できる。11は須恵器の無台杯である。器壁は比較的薄く、丁寧な作りである。底部にはケズリが施され、「K」の字状のヘラ記号が確認できる。いずれも時期は古代I～II期と考えている。

### B 土製品 (図版57・125)

12は9G2 IVa層から出土した円筒形土製品である。内面の輪積痕は比較的丁寧な調整によって消され、あまり目立たない。直径は8～10cm程度に復元できるが、歪みがあるため、多少の誤差はあると思われる。外面は被熱の痕跡が確認できる。

### C 石製品 (図版57・125)

13は15SE130の12層から出土した。石造物の一種と考えているが、詳細は不明である。下端を除く周縁や裏面は破損している。石材は安山岩で、正面には明瞭な加工痕(図面の折本部分)が残る。

## D 木 製 品 (図版 57・125)

15SE471 から出土した 2 点 (14・15) を図示する。

14 は連筒下駄で、上端から右側面を欠損する。台の下端には周縁に沿うように釘穴が認められ、裏面から正面に貫通するものと貫通しないものがある。台正面の欠損は著しいが、下半で 6.5cm × 2.5cm、3.8cm × 1.7cm 程度の細長い範囲 2 か所が浅くくぼんでいる。

15 は杭状木製品で、縦に半割した半円形の木材 (直径約 3cm) を左方向から斜位に切断し、先端を尖らせている。正面には部分的に炭化した樹皮が残り、裏面先端には加工痕が残る。樹種はカエデ属である。年代測定に使用した資料で、11 世紀中葉～13 世紀初頭頃という結果が得られた (第 IV 章 5B)。

## E 金 属 製 品 (図版 57・125)

16 は 15SD371 の 2 層から出土した。フックのような形状の金属製品で、用途は不明である。幅は中央部が広く、上端と下端は狭くなる。先端は尖っているが、鋭利ではない。上端は左に向かい湾曲し、下端は右に向かい湾曲する。

17 は 11K2・7 に位置する 15P84 の 1 層から出土した金属製品 (図版 124) で、厚さ 0.6cm 程度の板状を呈している。種別や用途などは明確ではないが、湾曲していることから、鍋などの可能性も考えられる。上縁の欠損は判断できないが、それ以外の周縁は欠損していると思われる。

# 5 自然科学分析

## A はじめに

二反割遺跡 (新潟県上越市三和区岡木字二反割) は、高田平野の中央部、現在の飯田川右岸に分布する自然堤防上に立地する。本遺跡は、発掘調査の結果、中世 (12 世紀) を主体とする集落であることが明らかとされており (2011 年度調査)、掘立柱建物や井戸、溝などが確認されている。

本分析では、井戸から出土した杭状木製品 (15) の年代や樹種、性格不明遺構の性格等に関わる資料の作成を目的として、自然科学分析を実施した。

## B 放射性炭素年代測定・樹種同定

### 1) 試 料

放射性炭素年代測定に供された試料は、15SE471 から出土した杭状木製品 (15) 1 点である。杭状木製品 (15) は径 3cm の半截状を呈し、外面には樹皮が残存する。また、一部が炭化し、加工痕と思われる痕跡も観察される。測定には、破損部を利用し、樹皮直下より採取した木片 (年輪 5～6 年分) を供し、同木片については併せて樹種同定も実施した。

### 2) 分 析 方 法

#### 放射性炭素年代測定

測定試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HCl による炭酸塩等酸可溶性成分の除去、NaOH による腐

植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等可溶成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じ切り、500°C(30分)、850°C(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0(Copyright 1986-2015 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.1.0.のマニュアルに従い、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値及び北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は $\sigma \cdot 2\sigma$ ( $\sigma$ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲)の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

### 樹種同定

試料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液)で封入し、プレバートとする。プレバートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、[島地・伊東1982、Wheeler<sup>1)</sup>1998]を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、[林1991、伊東1995-1999]を参考にする。

### 3) 結 果

杭状木製品(15)から採取した木片の同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)は900±20BPを示す。また、この補正年代に基づく暦年較正結果(2 $\sigma$ )は、calAD 1,042 - calAD 1,208である(第14表・第16図)。なお、杭状木製品(15)の樹種同定の結果、広葉樹のカエデ属に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・カエデ属(*Acer*) カエデ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は

試料	測定年代 (yrBP)	$\delta^{13}C$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果			相対比	測定機関 CodeNo.
				$\sigma$	1 $\sigma$	2 $\sigma$		
15SE471 杭状木製品 (カエデ属)	900 ± 20	-21.24 ± 0.45	899 ± 24	$\sigma$	cal AD 1,048 – cal AD 1,087	cal BP 902 – 863	0.523	IAAA-162452
					cal AD 1,122 – cal AD 1,138	cal BP 828 – 812	0.162	
					cal AD 1,149 – cal AD 1,169	cal BP 801 – 781	0.268	
					cal AD 1,176 – cal AD 1,182	cal BP 774 – 768	0.047	
				2 $\sigma$	cal AD 1,042 – cal AD 1,106	cal BP 908 – 844	0.467	
					cal AD 1,117 – cal AD 1,208	cal BP 833 – 742	0.533	

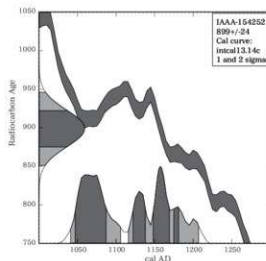
第14表 二反割遺跡放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

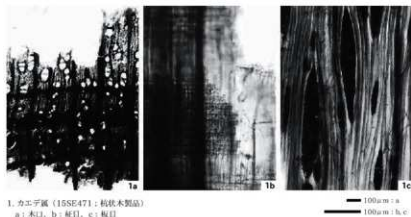
#### 4) 考 察

15SE471は、調査所見によれば、中世(12世紀)の集落に伴う可能性が考えられている。15SE471から出土した杭状木製品(15)は、半截状(径約3cm)を呈する、一部が炭化し、加工痕と思われる痕跡が確認される資料である。本資料の放射性炭素年代に基づく暦年較正年代(2 $\sigma$ )は11世紀中頃～13世紀初頭頃と推定されたことから、上記した調査所見を支持する結果といえる。

また、樹種同定の結果、杭状木製品(15)は広葉樹のカエデ属に同定された。カエデ属は、河畔、二次林、山地などに広く分布する落葉低木～高木であり、木材は重硬・緻密で強度が高い。自然木に由来するものであれば、集落の周辺にカエデ属が生育していた可能性がある。一方、加工痕と思われる痕跡が認められる点などを考慮すると、カエデ属の材質などから強度を必要とする器種・部位としての利用の可能性もある。参考までに、周辺地域の古代から中世の木製品におけるカエデ属が確認された事例について見ると、仲田遺跡(旧板倉町、現上越市板倉区)の鎌倉時代から室町時代前半の端部加工材、分割材、杭など、大武遺跡(旧和島村、現長岡市)の鎌倉時代から室町時代前半とされる柱根や杭などが挙げられる〔伊東・山田2012〕。



第16図 二反割遺跡暦年較正結果

1. カエデ属 (15SE471: 杭状木製品)  
a: 木口, b: 縦目, c: 板目

第17図 二反割遺跡の木材

## C 土壤理化学分析

### 1) 試料

試料は、15SX435 埋土及び調査区南壁に確認された堆積層（以下、基本層序）から採取された土壌 8 点である。以下に、試料の概要を記す。

#### 15SX435

15SX435 は、平面が楕円形を呈し、深さ 25cm を測る。調査所見によれば、埋土は 1～4 層に区分されており、1 層が暗オリーブ褐色粘質土、2 層が暗赤褐色粘質土、3 層がぶい黄褐色粘質土、4 層が黄褐色粘質土とされている。試料は、上記した 1～4 層の各層から採取された土壌 4 点からなる（図版 49 15SX435 A-A' から採取）。

#### 基本層序

基本層序試料は、上記した 15SX435 の比較対照として調査区南壁に認められた堆積層より採取されている（図版 46）。南壁の基本層序は、調査所見によれば、I～V 層に区分されており、I 層と II 層が暗褐色シルト～粘質土、III 層が黒色シルト～粘質土、IV 層が褐色シルト～粘質土、V 層が黄褐色シルト～粘質土からなる。このうち、II 層が中世の遺物包含層、III 層が古墳時代の遺物包含層とされ、IVb 層や V 層が遺構検出面とされている。試料は、これらの層準のうち、IIa 層（サンプル②）、III 層（サンプル⑤）、IVa 層（サンプル⑦）、V 層（サンプル⑧）より採取された土壌 4 点からなる。

本分析では、遺構の性格に関わる資料の作成として、とくに土壌の化学性に着目し、上記した土壌試料 8 点について、炭素（腐植）、リン酸、カルシウムの各種成分含量の測定を行った。

### 2) 分析方法

有機炭素はチューリン法、リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法〔土壤標準分析・測定法委員会 1986〕に従った。以下に、各項目の操作工程を示す。

#### 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して 2mm の篩で篩い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm 篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で 4 時間乾燥し、分析試料水分を求める。

#### 有機炭素

粉砕土試料 0.100～1.000g を 100ml 三角フラスコに正確に秤りとり、0.4N クロム酸・硫酸混液 10ml を正確に加え、約 200℃の砂浴上で正確に 5 分間煮沸する。冷却後、0.2% フェニルアントラニル酸液を指示薬に 0.2N 硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値及び加熱減量法で求めた水分量から乾土当たりの有機炭素量（Org C 乾土 %）を求める。これに 1.724 を乗じて腐植含量（%）を算出する。

#### リン酸・カルシウム含量

粉砕土試料 1.00g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO<sub>3</sub>）約 10ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO<sub>4</sub>）約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計



によりカルシウム (CaO) 濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土当たりのリン酸含量 ( $P_2O_5$ mg/g) とカルシウム含量 (CaOmg/g) を求める。

### 3) 結 果

分析結果を第 15 表・第 18 図に示す。以下に、地点ごとに結果を記す。

#### 15SX435

1～4 層の野外土性 [ペドロロジー学会編 1997] はいずれも HC (重埴土) と粘質であり、土色は、1・2 層が暗褐色 (10YR3/3, 7.5YR3/4)、3・4 層がにぶい黄褐色 (10YR5/4) である。

分析の結果、腐植含量は 1 層が 3.74% と最も多く、2～4 層は 1.66～2.34% とやや少ない。全リン酸は 1・2 層が 1.84～1.85mg/g と同程度の含量を示し、3・4 層が 1.37～1.47mg/g と 1・2 層として比較してやや少ない。全カルシウムは、1～4 層を通じて 0.54～0.69mg/g と一定して少ない。

#### 基本層序

基本層序の野外土性は、LIC (軽埴土) から HC (重埴土) と粘質である。土色は IIa 層・III 層 (サンプル㉔・㉕) が黒褐色 (10YR3/2, 10YR2/3)、IVa 層・V 層 (サンプル㉖・㉗) がにぶい黄褐色 (10YR4/3, 10YR5/4) である。

分析の結果、腐植含量は IIa 層・III 層 (サンプル㉔・㉕) が 4.93～4.90%、IVa 層が 3.15%、V 層が 1.05% と、それぞれ土色に相応する傾向にある。全リン酸は III 層 (サンプル㉕) が 2.84mg/g と多い。このほか、IIa 層が 2.40mg/g、IVa 層が 2.12mg/g、V 層 (サンプル㉗) が 0.82mg/g と下層に向かって減少する傾

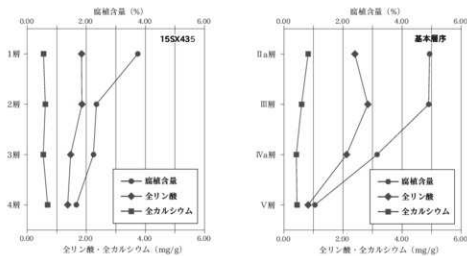
地点名	試料名	土色 <sup>1)</sup>		土性 <sup>2)</sup>	有機炭素 C (%)	腐植 (%)	全リン酸 $P_2O_5$ (mg/g)	全カルシウム CaO (mg/g)
15SX435	1 層	10YR3/3	暗褐	HC	2.17	3.74	1.84	0.55
	2 層	7.5YR3/4	暗褐	HC	1.96	2.34	1.85	0.61
	3 層	10YR5/4	にぶい黄褐	HC	1.30	2.24	1.47	0.54
	4 層	10YR5/4	にぶい黄褐	HC	0.96	1.66	1.37	0.69
南壁 (基本層序)	IIa 層 (サンプル㉔)	10YR3/2	黒褐	LIC	2.86	4.93	2.40	0.82
	III 層 (サンプル㉕)	10YR2/3	黒褐	LIC	2.84	4.90	2.84	0.60
	IVa 層 (サンプル㉖)	10YR4/3	にぶい黄褐	HC	1.83	3.15	2.12	0.42
	V 層 (サンプル㉗)	10YR5/4	にぶい黄褐	HC	0.61	1.05	0.82	0.44

1) 土色: マンセル表色系に準じた新版標準土色粘【農林省農林水産技術会議 1967】による。

2) 土性: 土壤調査ハンドブック改訂版【ペドロロジー学会編 1997】の野外土性による。

LIC: 軽埴土 (粘土 25～45%、シルト 0～45%、砂 10～55%) HC: 重埴土 (粘土 45～100%、シルト 0～55%、砂 0～55%)

第 15 表 二反割遺跡土壌理化学分析結果



第 18 図 二反割遺跡 15SX435・基本層序の土壌理化学分析結果

向にある。全カルシウムは、1～4層を通じて0.42～0.82mg/gと一定して少ない。

#### 4) 考 察

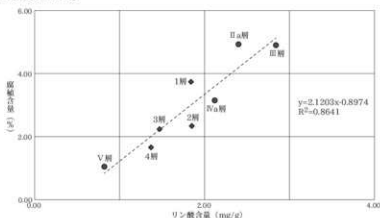
一般的に腐植含量は、主に植生繁茂の指標として用いられるが、その腐植の集積量は主に植物遺体供給量に規定され、気候的要因による植生の繁茂状態が、腐植含量に大きく影響を与えているとされる。また、リン酸の多くが植物に由来することが知られている。

なお、リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壤中に還元され、土壤有機物や土壤中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成することがある。特に活性アルミニウムの多い火山灰土では、非火山性の土壌や沖積低地堆積物などに比べればリン酸の固定力が高いため、火山灰土に立地した遺跡での生物起源残留物の痕跡確認にリン酸含量は有効なことがある。

土壤中に普通に含まれるリン酸含量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例 [Bowen1983, Bolt・Bruggenwert1980, 川崎<sup>ほか</sup>1991, 天野<sup>ほか</sup>1991] があるが、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5mg/gという報告例 [川崎<sup>ほか</sup>1991] があり、骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0mg/gを超える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1～50mg/g [藤貫1979] といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。これは、リン酸に比べると土壤中に固定され難い性質による。

今回の分析結果のうち、基本層序の各種成分について見ると、カルシウムはⅡa層からⅤ層において天然賦存量を超える特徴的な値は認められず、その含量もほぼ一定であることから、カルシウムが富化される状況にはなかつたと推定される。また、リン酸は、中世及び古墳時代の遺物包含層とされるⅡa層やⅢ層でやや含量が多いものの、天然賦存量の上限とされる3.0mg/gを下回る。また、第19図に示すように、リン酸含量と腐植の相関が高いことから、リン酸は主に植物遺体由来と推定される。

一方、15SX435埋土試料について見ると、1層は腐植がやや多く、基本層序のⅣ層（遺構検出面）よりも多いという特徴を示す。ただし、このほかの結果について見ると、Ⅳ層及び上位の遺物包含層との比較では、1～4層の各種成分はいずれもそれを下回る傾向にあり、明瞭な差異を見出すには至らない。このような状況から、15SX435については、リン酸やカルシウムなどの成分が富化されるような行為はなかつたと推定される。また、1層の腐植に関しては、遺構埋積過程における腐植の供給や腐植含量が高い遺物包含層の影響などが推定される。



第19図 二反側遺跡リン酸含量と腐植含量の相関図

## 引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信 1991 「中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量」 農林水産省農  
 林水産技術会議事務局『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』28-36p
- Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M.1980 『土壌の化学』 岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・隅 捷行訳学会出版セン  
 ター 309p
- Bowen,H.J.M. 1983 『環境無機化学—元素の循環と生化学—』 浅見輝男・茅野充男訳 博友社 297p
- 土壌標準分析・測定法委員会編 1986 『土壌標準分析・測定法』 博友社 354p
- 藤貫 正 1979 「カルシウム」『地質調査所化学分析法』52 57-61p
- 林 昭三 1991 『日本産木材顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 京都大学木質科学研究所 81-181p
- 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 京都大学木質科学研究所 66-176p
- 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 京都大学木質科学研究所 83-201p
- 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 京都大学木質科学研究所 30-166p
- 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 京都大学木質科学研究所 47-216p
- 伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学 出土木製品用材データベース』 海青社 449p
- 川崎 弘・吉田 澤・井上恒久 1991 「九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量」 農林水産省農林水産技術会議  
 事務局『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』23-27p
- 農林省農林水産技術会議事務局監修 1967 『新版標準土色帖』
- ペドロジー学会編 1997 『土壌調査ハンドブック改訂版』 博友社 169p
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』 地球社 176p
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. 編 1998 『広葉樹材の識別— IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト—』  
 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修) 海青社 122p [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. 1989,  
 IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

## 第V章 ま と め

### 1 二反割遺跡について

#### A 中世集落の変遷 (第20・21図)

2015年度調査では掘立柱建物14棟(そのうち1棟は2011年度調査分の延伸)、井戸6基、溝31条(そのうち畑作溝16条)、土坑13基、ビット402基、性格不明遺構2基を検出し、中世を主体とする集落遺跡(12世紀)であることが判明した。このうち、7H周辺に位置する畑作溝(15SD369・375～377・385・386・429～431・452～456・469・470)、15SK188・238、15SX129は中世以前となる可能性は低く、15SX435は古代の遺構(7世紀)と考えられる。上記の遺構を除いた中世集落の変遷について、新旧関係や軸方向をもとに、2011年度の調査成果も含め検討する。

2015年度調査では、遺構の重複は15SB354・355と15SD1A、15SD1Aと15SE70、15SB562・565・566と15SD176、15SB561と15SE471周辺で確認できる。遺跡の存続期間を反映してか、重複は比較的少ない。そして直接の重複となると、15SB354と15SD1A、15SD1Aと15SE70、15SB561と15SE471でさらに少なくなる。15SB354、15SD1A、15SE70は、相互の新旧関係から15SB354→15SD1A→15SE70と変遷する。また11J・Kに位置する15SB425の桁行方向は、15SD1Aの長軸と一致することから、同時期と判断できる。15SB354と15SB426も柱筋がそろい、同時期と判断する。15SB354・355は位置関係や桁行方向から関連性が指摘でき、ほぼ同時期の建物と考えられる。また15SD1はA→B→C→Dと変遷するが、15SD1BはI層(表土)直下からIIa層(中世遺物包含層)を掘り込んでおり、ほかの遺構より相対的に新しいことが分かる。したがって、15SB354・355・426→15SB425・15SD1A→15SE70→15SD1B(13世紀以降か?)→15SD1C→15SD1Dという変遷が想定でき、前述のように、15SD1の長軸方向が現代まで続く土地の区画として踏襲された可能性が高い。

15SB562・565・566と15SD176の関係については、15SB562と15SD176は方向が一致することから同時期と判断する。15SB565・566は重複はあるものの、北側の柱筋がほぼそろい、規模もほぼ同じと想定できることから、ほぼ同時期と考えられる。また15SD176とは、15SB566が重複することから、一定の時期差を想定することができる。つまり、15SB562と15SD176、15SB565・566というグループ分けができるが、その新旧関係は不明である。

15SB561と15SE471周辺では、相互の新旧関係から15SE471→15SD325→15SB561→15SD371という変遷になる。15SD325・371は長軸方向が直交することから、関連性が想定できる。ただし、そのほかの建物や溝と長軸方向が一致しないなど、不明な点も多い。

次に建物の桁行方向を見ると、a方位(正方位から5度以内の振れ)、b方位(正方位から5～15度程度の振れ)、c方位(正方位から20～30度程度の振れ)に分けられる(第16表)。2015年度の建物は柱穴などの直接の重複がなく出土遺物も少ないため、2011年度の調査成果を参考にす

	方位	2015年度建物	2011年度建物
a方位	N-0°-S°-E°	15SB354・355・426・492・562・565・566	SB121・126・127
	N-89°-W	15SB561	-
	N-10°-E	-	SB263
b方位	N-75°-85°-W	15SB356・563・564	SB122・123・261・262
	N-82°-E	-	SB125
c方位	N-31°-W	15SB425	-
	N-25°-E	15SB567	-

第16表 二反割遺跡の建物長軸方向

ると、a 方位 (12 世紀前半) → b 方位 (12 世紀後半) という変遷が想定できそうである (第 17 表)。c 方位の建物は 2011 年度調査では確認できないが、15SB425 は区画として踏襲される 15SD1A との関連から、ほかの中世遺構より相対的に新しく位置づけることが可能である。時期が不明な 15SB567 は別として、15SB425 は 15SB492 と規模が類似することから、ほかの中世の遺構と著しく時期を隔てているとも考えにくい。したがって、a 方位 (12 世紀前半) → b 方位 (12 世紀後半) → c 方位 (12 世紀末以降) という変遷が想定できるが、a 方位の建物のなかにも 15SB354 と 15SB355、15SB562 と 15SB565・566 が重複しており、a 方位段階で 2～3 回変遷する。このことから、a 方位段階の方が b 方位段階より相対的に存続期間が長かったのではないかなと思われる。つまり a 方位段階は 12 世紀前半、b 方位段階は 12 世紀後半としているが [細井・高橋<sup>13)</sup>前掲]、12 世紀中葉頃まで a 方位段階に含まれる可能性があるのではないかと考えている。

2015 年度の井戸について見通しを示しておく。出土遺物が乏しいため、周辺の建物との位置関係から考えてみたい。井戸は 6 基検出した。このうち 15SE30・471 は a 方位の建物と重複し、15SE471 は 15SB561 に切られる。15SE30 は、15SB354 との新旧関係は不明だが、15SB355 に隣接する関係でもある。15SE471 の周辺にも a 方位の 15SB562・565・566 が位置している。いずれも a 方位の建物との関係が指摘でき、a 方位段階でも 2～3 回の変遷が想定可能なことから、15SE30・471 も a 方位段階と考える。a 方位の 15SB561・562 は互いに柱筋をそろえている可能性があるが、15SE350 はその柱筋延長線上に位置する。このことから 15SB561・562 との関連がうかがえ、a 方位段階の井戸と考えられる。15SE130 は b 方位の 15SB356 を切り、15SB563 と隣接する。15SB356・563 との関連性から b (～c) 方位段階としておく。15SE70 は 15SB426 に隣接するが、c 方位段階の 15SD1A を切る。そのため c 方位段階以降とする。15SE132 は a～c 方位の建物に隣接し、時期を決めかねるが、建物が集中する範囲の中央付近に位置することから、12 世紀を通じ機能していた可能性がある。

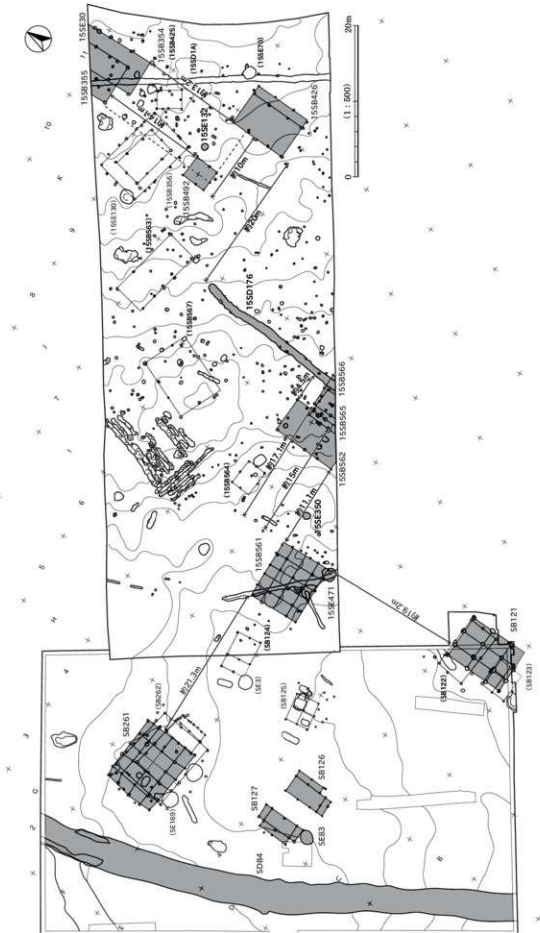
2011 年度調査範囲南西に位置する SD84 は、集落の内側と外側を区画する堀と考えられている [細井・高橋<sup>13)</sup>前掲]。調査区壁面の断面観察では、土塁などは確認できなかった。同様の堀は飯田川対岸に位置する堂古遺跡でも確認できる。ただし、堂古遺跡の集落が飯田川と堀などで囲まれる可能性が高いのに対し、二反割遺跡の集落では北側と南側の区画施設が現状で確認できないという相違点もある。

## B 掘立柱建物について

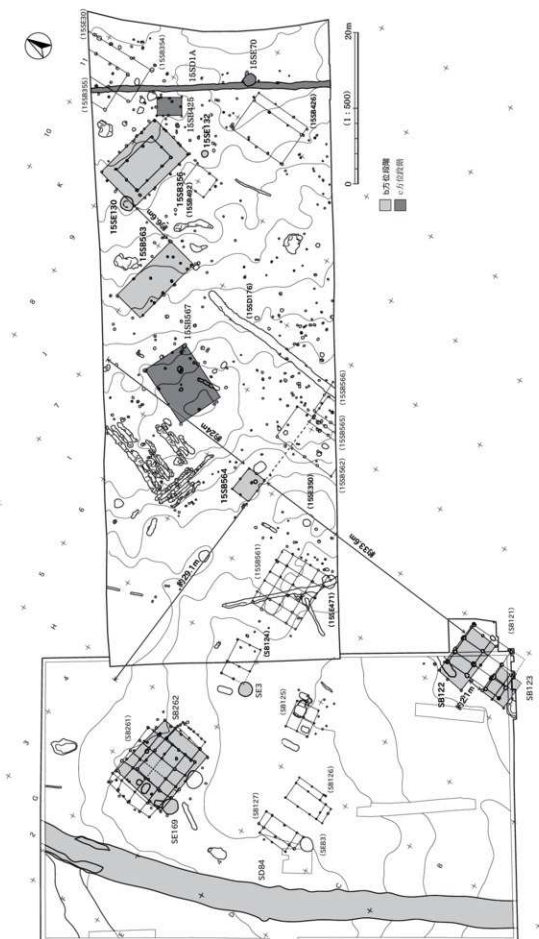
掘立柱建物の特徴についてまとめると、まず 15SB356 や 15SB426 の身舎に見られるように、桁行 3 間のうち中央の 1 間分の柱間が前後の柱間より広い建物が確認できる。15SB562 は桁行 4 間のうち中央の柱間 2 間分が狭いが、その 2 間分を合わせると、前後の柱間より広くなる。一定の規則性は認められるようだが、15SB354・355 のように該当しない建物も存在する。梁行に注目すると、2 間の建物では中柱が中央に位置する建物 (15SB356) と位置しない建物 (15SB492・566 など) が認められる。中央に位置しない建物は、建物規模とは関係なく認められ、中柱がどちらか一方に著しく偏ることもない。総柱建物では、柱間距離が一定しないという特徴がある。柱筋の通りが悪い SB261、15SB561 はばらつきが顕著である。柱筋の通りがよい SB121 でもばらつきが、調査範囲外に延伸する可能性があり、柱間に関して一定の規則性に則している可能性も残る。このような特徴を抽出できるが、このうち桁行中央の柱間が広い建物、梁行の中柱が偏る建物は、時期的に後続する堂古遺跡 (13 世紀～15 世紀) でも確認でき

時期	a 方位	b 方位
12 世紀前半	SB121・126・127	SB261
12 世紀後半	—	SB122・123・262
12 世紀代	—	SB125

第 17 表 2011 年度二反割遺跡の  
建物長軸方向と時期



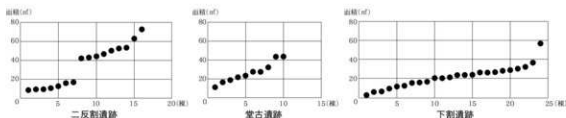
第20図 二区劃遺跡の中世集落a方位図解



第21図 二反割遺跡の中世銅器b・c方位図説

る（桁行中央の柱間が広い建物 SB73・240・1018、中柱が偏る建物 SB1014、15SB304）。このことは、建物構造の情報が堂古遺跡の建物とも共有されていたと考えられよう。一方、居住用の大型総柱建物は、堂古遺跡や下割遺跡（13世紀後半～14世紀）では確認できず、総柱建物自体は小型のものが確認できるのみである。また、下割遺跡では2002・2003年度調査で竪穴状遺構が検出されたが、貯蔵用の機能を担っていたのかもしれない。桁行中央の柱間が広い建物も下割遺跡には認められず、桁行の柱間が等間隔の建物が多い。15SB356は4面に廂をもつ建物で、その系譜は古代に求めることができる〔高橋2003〕。このような古代に系譜を求められる建物が認められることも二反割遺跡の特徴といえ、堂古遺跡や下割遺跡には確認できない建物形態である。

建物の規模について、堂古遺跡、2002・2003・2010・2011年度調査分下割遺跡と比較してみる（第22図）。2011年度調査分を含めた二反割遺跡の建物規模は、20m<sup>2</sup>未満の小型と40m<sup>2</sup>超の大型に分けられ、さらに大型の建物は約60m<sup>2</sup>を境に分けられる可能性がある。検討した16棟中7棟が小型、9棟が大型、大型9棟中2棟が60m<sup>2</sup>超である。一方、堂古遺跡では、20m<sup>2</sup>未満の小型が3棟、40m<sup>2</sup>台の大型が2棟、残り5棟が中型とでもいうべき20～40m<sup>2</sup>の範囲におさまる。下割遺跡は24棟中13棟が中型で、大型が1棟、小型が10棟となる。二反割遺跡から堂古遺跡・下割遺跡へ時期が下るにつれ、大型の減少と中型・小型の増加が確認でき、建物は小型化の傾向がうかがえる。大型総柱建物や廂付建物の減少とともに、桁行中央の柱間が広い建物も構造はそのままに小型化する傾向が確認できる。



第22図 二反割遺跡・堂古遺跡・下割遺跡の建物面積

## C 中世集落の造営について（第20・21図）

a 方位段階（12世紀前半～中葉）は集落の成立期に当たり、掘立柱建物12棟、井戸5基、区画溝1条、堀などで構成される。便宜上、北側の遺構群と南西側の遺構群に分けて考えてみたい。北側の遺構群は15SB354・355・426・492、15SD176である。15SB354と15SB426は柱筋がそろい、その距離は約13.2m（約44尺）である。15SB426の南側柱筋と15SD176の北端もおおむねそろい、距離は約20m（約67尺）となる。15SB492は15SB426の西側に位置し、南側の柱筋は15SB426桁行の北から1間目とそろい。また、15SB426の西側柱筋と15SB492の西側柱筋の距離は約10m（約33尺）で、15SB426と15SD176の距離の約1/2である。15SB355と15SB492の関係は、15SB355西側柱筋と15SB492梁行中央がほぼそろい、距離は約14.1m（約47尺）である。南西側はSB121・126・127・261、15SB561・562・565・566、15SD176である。建物群のほぼ中央に位置する15SB561を中心にして考えてみる。南側に位置するSB121とは、15SB561東側柱筋とSB121梁行の西から1間目がそろい、距離は約19.2m（約64尺）である。SB261との関係は、15SB561北側柱筋がSB261桁行の北から1間目とほぼそろい。距離は約21.3m（約71尺）である。SB121・261、15SB561は総柱構造で、SB121は倉庫の可能性が指摘され〔細井・高橋ほか前掲〕、SB261、15SB561は居住用建物と考えられる。またSB261、15SB561の柱穴はSB121に比べて小型で、柱筋の通りも悪い。この



3棟の建物は遺跡内でも大型で、相互に20m前後の距離をとりL字状に配置している。15SB561と15SB562・565・566との距離は、それぞれ約11.1m(約37尺)、約15m(約50尺)、約17.1m(約57尺)で、15SB562と15SD176との距離は約4.5m(約15尺)となる。また、15SB562南側柱筋は15SB561北側柱筋とそろえている可能性がある。建物の柱間は1尺(≒0.3m)単位で割り切れる数値に近似する。総柱建物を除く大型建物(15SB354・355・426・562)の桁行は約8(・9)・10・11尺が多く、梁行は約16・17(・19)尺である。小型の15SB492の柱間は桁行約4・7尺、梁行約4・5尺、総柱建物の桁行・梁行は約4・5・6・7・10尺で、建物の形態ごとに異なる。

b 方位段階(12世紀後葉)は、建物の桁行方向が南北優位から東西優位へと変化する時期である。掘立柱建物6棟、井戸4基、堀などで構成される。この段階も北側遺構群と南西側遺構群に分けられ、中央に小型の建物が1棟設けられる(15SB564)。北側では15SB356西側と15SB563東側の柱筋がそろい、距離は約6.6m(約22尺)である。南西側では、SB126・127、15SB561・562・565・566に接続するb方位段階の建物は確認できないが、SB121・261ではb方位段階に建て替えが行われる(SB122・123・262)。SB122とSB123は桁行が平行し、約2.1m(約7尺)の距離がある。中央に位置する15SB564と15SB563南側、SB122北側の柱筋、SB262東側の柱筋との距離は、それぞれ約24m(約80尺)、約33.6m(約112尺)、約29.1m(約97尺)となる。15SB564は桁行方向からb方位段階と考えたが、a方位段階の15SB562の桁行北から1間目や15SB565・566北側の柱筋と15SB564南側の柱筋がおおむねそろい。a方位段階とも一定の関連性を想定できるため、時期的には、a方位段階からb方位段階への移行期に位置づけられるのかもしれない。柱間は大型の15SB356が身舎・廊を合わせ約5・6・9尺で、a方位段階の大型建物に比べやや狭い。そのほかはa方位段階とほぼ同じである。

c 方位段階(12世紀末以降)は掘立柱建物2棟、井戸1基、区画溝1条で構成される。遺構数が減少し、遺構の軸が大きく変わる時期で、中世集落の終焉期である。15SB425の桁行方向が15SD1Aの長軸方向とそろい。15SB567は時期が不明で、15SB425や15SD1Aとは方向が異なる。

計測の仕方でも多少の誤差はあると思うが、建物同士の距離、建物の柱間は1尺(≒0.3m)単位で割り切れる、ないしその数値に近似する。なかには端数が出ている場合もあるが、この集落が尺を単位として造営されたときとみなすことができよう。また重複の少ないb方位段階を参考にすると、建物同士は数mから30m程度の距離をとって配置され、建物の柱筋をそろえているものも確認できる。このことは、高い計画性に基づいて集落が造営されていることを示している。二反割遺跡の集落景観は比較的広範囲に複数の大型建物が一定の距離をとって整然と配置され、溝による区画を行い、中型・小型の建物や井戸などを配置する堂古遺跡とは様相が異なる。

## 2 堂古遺跡・下割遺跡について

### A 堂古遺跡の中世集落の変遷(第19表、第24・25図)

遺構の変遷に関して、出土遺物・新旧関係・軸方向に基づき考えてみる。掘立柱建物は出土遺物・新旧関係が認められる場合は、軸方向や構造による共通性よりも優先させる。井戸も同様に、建物との位置関係よりも、出土遺物・新旧関係を優先させる。

まず、建物の桁行方向について考えてみる。建物12棟のうち、8棟が南北棟(約67%)、4棟が東西棟(約33%)である。検出できていない建物も存在すると思われるが、南北棟が優勢である。建物の桁行方

向をやや詳しく見ると、南北棟が4方位、東西棟が2方位に細分できそうである(第18表a～f方位)。このうち、SB1019(e方位)、15SB295(d方位)については、建物の全容が不明のため変更になる可能性も残る。

前述のように、SD510は埋土の堆積状況、出土遺物から新旧2時期の変遷が確認できる。SD510A段階は13世紀代=珠洲Ⅱ・Ⅲ期で、柱状高台の土師質土器皿が出土していないことから12世紀代まではさかのぼらない。珠洲焼はⅡ期頃から出土し始めるため、13世紀に入り集落が成立したと考えている。SD510B段階は14世紀～15世紀代=珠洲Ⅳ～Ⅴ期ないしⅥ期である。SD510は16世紀代には機能を停止し、最終的には17世紀に埋め戻される。最初にSD510を掘削したA段階、SD510を修築したB段階には相応の作業量が見込まれ、一定の労働力が必要になる。それに合わせて、集落内の遺構配置も変更されたことが予測される。そのため、SD510の変遷を中世集落全体の基本的な変遷と想定したい。

遺跡内の遺構分布には粗密があり、分布が密な範囲では遺構の重複が見られる。そこで、遺構が重複する8E周辺と7・8G・H周辺の遺構の新旧関係や変遷について考えてみる(第19表)。8Eの周辺には、SB1014・1018、SI159・238、SE202・205・237・249・315、SK235などが位置している。新旧関係に基づく基本的な変遷は、SB1014(b方位)→SE315→SI159である。SB1014は東側に張り出しがあり、隣接するSE249と関連性の高い建物なので、SB1014とSE249は同時期と判断する。9E・Fに位置するSB170(b方位)との関係は、SB1014南側柱筋とSB170北側柱筋がそろうことから建物配置に関連性がうかがえ、同時期と想定できる。SE315とSB1018(a方位)は隣接する関係にあり、ほぼ同時期と想定しておく。6C・Dに位置するSB240(a方位)とSB1018は梁行が2間と1間で異なるが、そのほかの構造(間仕切柱をもつ、桁行3間のうち中央1間分の柱間がやや広い)や規模に類似性が認められることから、ほぼ同時期と想定できる。10Eに位置するSB1019(e方位)は調査範囲外にも延伸するため明確ではないが、南側の柱筋がSB1018桁行の南から1間目とほぼそろうので、関連があるのかもしれない。8E周辺の遺構の時期について、SE249出土の破片がSE205から出土したⅡ～Ⅲ期の珠洲焼片口鉢(4)と接合している。そのため、SE205・249、SB1014・170はSD510A段階と判断できる。なおSB170・1014から時期を判断できる遺物は出土していない。SI159は14世紀前半の土師質土器皿(1)が出土していることから、SD510B段階と考えられる。SB240・1018、SE315については判然としない。A段階の建物がb方位であるのに対し、SB240・1018はa方位である。B段階の建物がa・e方位→b方位と変遷することを考慮し(後述)、SB240・1018、SE315はB段階としておく。そのほかの遺構では、

	方位	建物
a方位	N-S-E	SB1018・1100
	N-S-E	SB240
b方位	N-S-E	SB1014、15SB304
	N-E	SB170
c方位	N-S-E	SB61
d方位	N-S-E	15SB295
e方位	N-S-E	SB1013・1134
	N-S-E	SB1019
f方位	N-S-E	SB73

第18表 堂古遺跡の建物長軸方向

SD510	珠洲	基本変遷	その他の変遷		建物方位
A段階	Ⅱ Ⅲ	SB1014・SB170・SE249・SE205	SE202		(b方位)
	Ⅳ Ⅴ Ⅵ	SB1018・SB240・SE315・(SB1019) SI159 SE737 <7・8G・H>	SE238	SI185 SI1800 SD462 SE315 SI159 SD528 SI396	(a方位・(e方位))
B段階	Ⅳ Ⅴ Ⅵ	SB1100 SB1134・(SB1013)		SD118	(a方位) (e方位)
	Ⅶ Ⅷ	15SB304 SI736			(b方位)
	Ⅷ Ⅷ	SI736			
	Ⅷ Ⅷ	SI732		SI184	

第19表 堂古遺跡の遺構変遷

SI238 は SE249 との新旧関係から B 段階に、SE202 は出土遺物 (3) から A 段階にそれぞれ位置づける。SE237 も SI238 との新旧関係から B 段階以降となる。

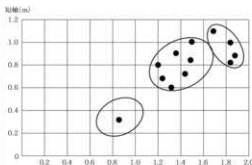
7・8G・H 周辺の遺構について見てみると、この周辺は遺跡内でも特に遺構が密集する範囲で、多くの建物や竪穴状遺構、井戸などが位置する。新旧関係による基本的な遺構の変遷は SE737 → SB1100 → SB1134 → 15SB304 → SI736 → SI732 で、SE737 は 14 世紀前半の土師質土器皿 (15) が出土していることから、SD510B 段階と考えられる。したがって SB1100・1134、15SB304、SI732・736 も B 段階に位置づけられる。建物の桁行方向に着目すると、a・e 方位 → b 方位と変遷するため (第 19 表)、B 段階は 2 時期に細分できる可能性がある。次に建物周辺の溝 (SD151・318・328・366・462) について考えてみる。このうち新旧関係に基づく溝の変遷は、SD328 → SD366 → SD318 である。SD318 の時期は、出土した珠洲焼片が SE393 出土の V 期の片口鉢 (13) と接合していることから、珠洲 V 期と考えられる。SD318 に切られる SD462 の時期は、出土遺物 (45) から 14 世紀前半と判断でき、SI159、SE737 と同時期である。SD318 よりも古い SD328・366 は、出土遺物からは判断しにくい。SD328 と SD318 の関連性を考慮すれば、SD318 とそれほど隔たった時期とは考えにくい。そのため SD328・366 の時期は、珠洲 IV ~ V 期と考えておく。また SD151 の時期は出土遺物 (43) から珠洲 IV 期である。したがって、溝は SD462・151 = 珠洲 IV 期 → SD328・366 = 珠洲 IV ~ V 期 → SD318 = 珠洲 V 期という変遷となる。これらの溝は建物に伴う区画溝と考えているが、平面形が L 字状となる SD151・318・328 の内側には建物が配置されていない。SD318・328 の南側は未調査であるが、そこに位置する建物に伴う可能性も残る。また SD462 の平面形は弧状で、ほかの溝とは形状が異なる。SD462 と SD510 の間には多くの井戸・土坑が位置する一方、建物は位置しない。建物域と井戸・土坑などを区画する溝の可能性が考えられる。そのほかの遺構では、SI465・ST684 は 15SB304 に付属する SD653 との新旧関係から A ~ B 段階と B 段階に、SE800 も出土遺物や SD151 との遺物の接合関係から B 段階とする。

次に埋葬と関連する土坑について考えてみたい (第 20 表・第 23 図)。ST684、SK622 から骨片が出土し、ST684 出土のものは被熱した人骨と判明した (第 III 章 5C)。SK622 からは微細な骨片が少量出土し、分析はしていないが被熱している可能性が高い。いずれも底面や壁面は被熱せず、埋土に炭化物を定量含むという点も共通する。ST684 に関しては、茶毘に付きされ、拾骨した後に残った骨片・炭・焼土・灰などを廃棄した可能性を考えている。SK622 も埋葬に関連する性格を想定しているが、骨片や炭化物の出土量が ST684 と異なるため、具体的な性格は不明である。また平面形が SK622 に類似する土坑 (SK204・212・233・239・381・464・479・480・686・923) は骨片の出土や底面などの被熱は確認できず、埋土

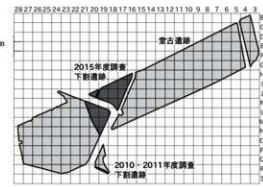
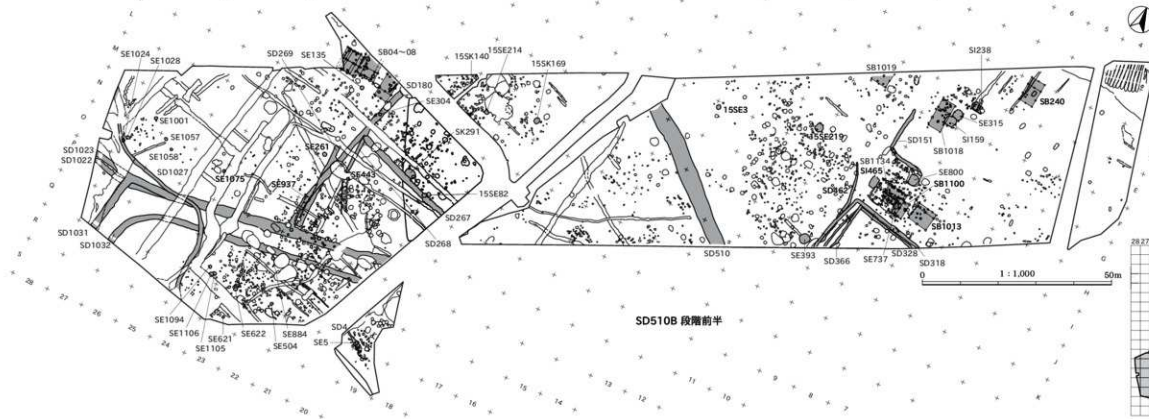
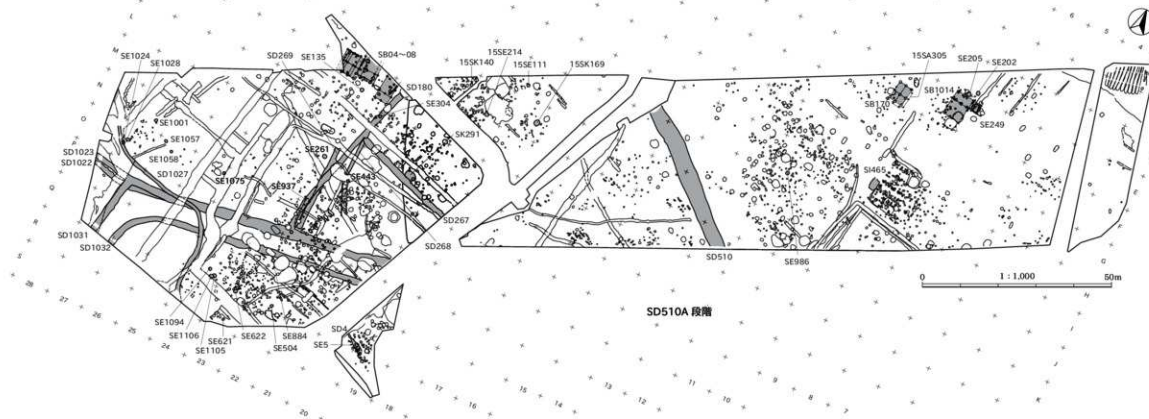
遺構名	骨片	被熱	炭化物	長軸	短軸	短径	長軸	分布	主な出土遺物
ST684	◎	×	◎	0.86	0.32	0.32	小型	東西 西側	—
SK204	×	×	×	1.49	0.84	0.84	—	南北 東側	—
SK381	×	×	×	1.24	0.68	0.68	—	東西 西側	土師器 (72)、鉄滓・用 途不明金属製品
SK464	×	×	×	1.44	0.72	0.72	中型	南北 西側	土師器・珠洲焼
SK470	×	×	△	1.20	0.80	0.80	—	南北 西側	土師器・鉄滓?
SK480	×	×	×	1.50	1.00	1.00	—	南北 西側	土師器
SK622	△	×	○	1.32	0.60	0.60	—	南北 西側	土師器
SK923	×	×	×	1.36	0.90	0.90	—	東西 西側	—
SK212	×	×	△	1.84	0.82	0.82	—	南北 東側	土師器
SK233	×	×	×	1.84	0.99	0.99	—	南北 東側	須恵器
SK239	×	×	×	1.69	1.09	1.09	大型	南北 東側	—
SK686	×	×	×	1.88	0.88	0.88	—	南北 西側	土師器・須恵器・珠洲焼

第 20 表 堂古遺跡の埋葬関連土坑

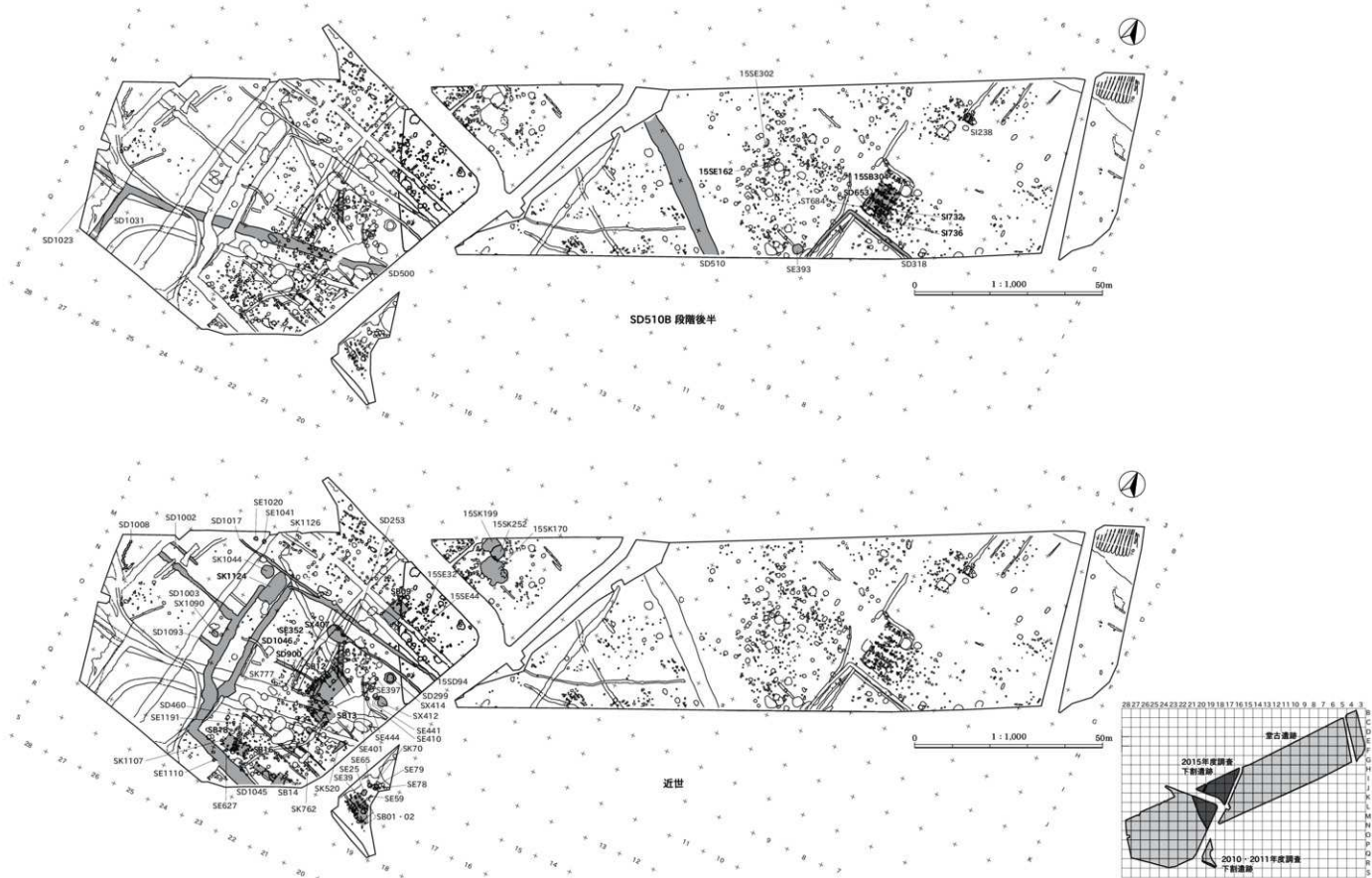
(◎: 多, ○: 骨通, △: 少, ×: 無し) 単位: m



第 23 図 堂古遺跡の埋葬関連土坑の法量分布



第24図 堂古遺跡・下耐遺跡の遺構家連 (1)



第25図 堂古遺跡・下耐遺跡の遺構家連(2)

には炭化物を含まないものが多い（SK212・479は埋土の一部を含む）。分析は行っていないので断定できないが、これらの土坑は形状などからSK622同様、埋葬に関連する遺構の可能性もあり、第20表に掲載したST684、SK622、それ以外の土坑に見られる特徴がそれぞれの性格の差を反映していると考えられる。土坑の規模は小型・中型・大型に分類できる。大型土坑は埋土中に骨片は確認できず、炭化物の含有も低調である。長軸方向は南北が多く、特に大型土坑は南北方向のみである。分布を見ると、ST684を除き、建物の多くが位置する7～9列は意図的に避けて、5・6D・E（東側）と10G～J（西側）にまとまる傾向にある（図版4・6）。西側土坑群はSD462の東側にはほとんど分布せず、井戸の分布と合わせ、SD462の区画としての性格がうかがえる。土坑の規模と分布との関連では、東側には大型の土坑が多く、西側には中型が多い傾向がある。長軸との関連では、東西方向の土坑は西側にのみ分布する。中世の遺物はSK464・686から珠洲焼壺・壺の体部片などが出土しているが、副葬されたような状況は認められない。土坑群の変遷は明確にはできないが、土坑群と建物群の重複が少ないこと、SD510B段階のSD462が区画の性格と想定できることから、特に西側土坑群はB段階の建物とほぼ同時に存在したと考えられる。また、規模と分布域、長軸方向と分布域がそれぞれ関連性をもつ可能性が高く、一定の計画のもとに土坑が構築・配置されていたと考えられる。

## B 下割遺跡の集落について（第24・25図）

2010・2011・2015年度の調査では古代から近世の遺構・遺物が確認できた。中世の遺構は掘立柱建物（SB04～08）や井戸、溝などで、22・23J・K周辺を中心に分布する。遺構の時期は13世紀後半～14世紀で〔石川・山下<sup>ほか</sup>前掲〕、堂古遺跡SD510A段階後半～SD510B段階前半に当たる。2002・2003年度調査の中世集落（13世紀後半～14世紀）は、比較的小規模の溝などで区画された屋敷地が集まって集落を形成していたが、2010・2011・2015年度調査では集落の中心から外れており、状況は明確ではない。この集落は堂古遺跡の中世集落から約140m離れ、2002・2003年度調査の集落からも約200m離れている。それぞれの集落の間には遺構の分布が少ない範囲も見られることから、それぞれが別の集落である可能性が高い。また、2002・2003年度調査の中世集落と清水田遺跡（13世紀後半～14世紀中心）間には水田が位置しており〔飯坂・高橋<sup>ほか</sup>2011〕、集落間の居住に適さない土地は生産域などに利用されたことが分かる。その後、下割遺跡は15世紀以降、堂古遺跡も16世紀以降衰退する。

堂古遺跡SD510は17世紀に埋め戻される。その後、17世紀後半以降、下割遺跡では近世の遺構・遺物が増加する〔石川・山下<sup>ほか</sup>前掲〕。21～23L～R周辺には建物もつくられ、集落が成立するが、居住域からやや離れた場所は火事始末などに利用されている（15SK170・199・252、SK1124）〔石川・山下<sup>ほか</sup>前掲〕。中世末から近世初頭にかけて集落が再編され、近世集落が成立する。そして近世集落は現在の集落に引き継がれていくことになるが、堂古遺跡・下割遺跡ではその状況が確認できる。

## 3 総 括

### A 中世集落の特徴

二反割遺跡・堂古遺跡の中世集落を相互に比較した際の特徴は第21表のとおりである。集落内の遺構配置は、二反割遺跡は建物同士が柱筋をそろえ、正方位を指す建物もある。そして、建物同士は数mから30mの距離をとって配置され、建物周辺や建物間に井戸を配置する。一方、堂古遺跡は溝によって区

画し、建物や井戸、土坑などを配置するが、遺構ごとに配置する位置を変えている可能性が高い。二反割遺跡と堂古遺跡では集落内の遺構配置が異なり集落の景観も異なるが、堀をもつ点では共通する。また、2002・2003年度調査の下割遺跡は区画内に建物や井戸を配置するが、その位置は偏在し、堀はもたない。2010・2011・2015年度下割遺跡では遺構の配置状況が明確ではないが、建物が狭い範囲にまとまること、溝を多用することから、堂古遺跡や2002・2003年度集落と同様と推測できる。

遺跡名	堀	建物規模	区画溝	遺構配置
二反割遺跡	有	大型>小型	少	柱形・方位
堂古遺跡	有	中・小型>大型	多	遺構を区画

第21表 二反割遺跡・堂古遺跡の  
中世集落の特徴

## B 遺跡の動向

二反割遺跡は古代(7世紀)と中世(12世紀)の遺跡で、中世が主体となる。古代の遺構は1基(15SX435)のみで、その性格は不明である。飯田川の対岸に位置する堂古遺跡では8世紀～9世紀の遺物が出土しているが、遺構は確認できなかった。特に堂古遺跡の遺物(78～85)の遺存状況や、2009年度下割遺跡の調査成果[飯坂・高橋<sup>1)</sup>前掲]から、周辺に古代の集落が位置していると考えられる。また米岡から鶴町にかけては第二次世界大戦直後まで、条里の痕跡と思われる地割も確認できる(図版58)。8世紀以降、飯田川中流域にも集落が営まれ、条里も施行されて、周辺の開発が進んでいったと考えられる。古代の二反割遺跡はその端緒と位置づけられる。

中世になると二反割遺跡で集落が成立するが、存続期間はほぼ12世紀に限られる。大小の建物規模から集落内での階層差も想定できるが[細井・高橋<sup>2)</sup>前掲]、出土遺物からそれを明確にはできず、機能差を反映する可能性もある。13世紀になると堂古遺跡に集落が成立、15世紀末頃まで存続し、飯田川中流域における中世集落の成立から衰退までの過程をうかがうことができる。堂古遺跡からやや遅れて下割遺跡に集落がつくられるが、その背景には周辺地域の開発の進展による生産力の向上や人口増などが考えられる。これらの中世集落では、二反割遺跡と堂古遺跡は建物構造や堀をもつことで共通する部分があり、集落内の遺構配置では共通しない。堂古遺跡と下割遺跡とは区画に基づく遺構配置という点で共通し、堀の有無は異なる。下割遺跡と二反割遺跡は共通性が確認できない。このように、堂古遺跡・下割遺跡はそれぞれ先行する集落と共通性・相違性をもっていることが分かる。二反割遺跡は飯田川中流域における中世集落の成立という評価の一方、その集落の終了をもって四面廂建物のような古代的な要素が払拭されるという一面もあわせもっている。堂古遺跡・下割遺跡の出土遺物は当時の日用品が多く、建物は中型・小型が主体となる。大型建物も少ないながら確認できるが、基本的には農業を生業とする集落と想定できる。

飯田川は蛇行を繰り返していたが、自然堤防上に立地する二反割遺跡・堂古遺跡・下割遺跡はその被害を受けていない。中世集落の成立から衰退まで一貫して自然堤防上に集落が営まれ、居住に適していたことが分かるが、自然堤防から外れ居住に適さない集落間の低地は生産域などに利用される。このように中世集落が一定の距離をとって点々と所在し、その間に生産域が展開する景観は現在の高田平野の景観にも通じる光景である。そして、中世末から近世初頭に集落は再編され、現在とほぼ同じ位置に近世集落が成立する。二反割遺跡・堂古遺跡・下割遺跡の調査では、中世集落の成立期の様相やその変遷、中世末から近世初頭の再編を経て成立した近世集落の様相を具体的に確認できた。

## 引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会編 2007 『愛知県史』別編 窯業 2 中世・近世 瀬戸系 愛知県
- 安藤正美 1999 「第2節 陶磁器類の組成と変遷 第3項 近世」新潟県考古学会編『新潟県の考古学』高志書院
- 飯坂盛泰・河崎昭一・柳原喜史 2007 「第2章 遺跡の位置と環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第171集 狐宮遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰・河崎昭一<sup>13.2</sup> 2007 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第171集 狐宮遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰・高橋保雄<sup>13.2</sup> 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第227集 狐宮遺跡Ⅱ 下羽遺跡Ⅳ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀・山下 研<sup>13.2</sup> 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第230集 下羽遺跡Ⅴ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 岩田 隆 1997 「第2節 越前」北陸中世土器研究会編『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁類の分類について」『貿易陶磁研究』NO.2 日本貿易陶磁研究会
- 大野 亨 2001 「竈穴建物とはなにか」東北中世考古学会編『竈立と竈穴 中世遺構論の課題』高志書院
- 大橋康二 1989 『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』ニュー・サイエンス社
- 大橋康二 1994 『古伊万里の文様—初期肥前磁器を中心に—』理工学社
- 尾崎高宏・長沼吉嗣<sup>13.2</sup> 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第217集 下羽遺跡Ⅲ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 岡本郁栄 1999 「第1節 新潟県の地形概観」新潟県考古学会編『新潟県の考古学』高志書院
- 加賀真樹 1999 「第1節 珠洲窯」北陸中世土器研究会編『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 春日貞史 1997 「第2節 土器編年と地域性」新潟県考古学会編『新潟県の考古学』高志書院
- 加藤 学・荒川隆史 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 和泉A遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学・杉田和宏<sup>13.2</sup> 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第159集 用言寺遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 木村孝一郎 2004 「近世越前における編年の研究ノート」『福井城跡Ⅳ』福井県福井市文化財保護センター
- 木村孝一郎 2008 「越前徳の編年の研究ノート」『吾々の考古学』和田晴吉先生選評記念論集刊行会
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』
- 古泉 弘 2001 「廢物2 下駄」江戸遺跡研究会編『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- 小島幸雄・中村美恵子 1984 『新潟県上越市 本長者原慶寺確認調査概要』新潟県上越市教育委員会
- 坂井秀弥 1995 「越後の道・町・村—中世から近世へ—」網野善彦・石井進編『中世の風景を読む4 日本海交通の展開』新人物往来社
- 坂井秀弥<sup>13.2</sup> 1982 『栗原遺跡 第4次・第5次発掘調査概報』新潟県教育委員会・新潟県新井市教育委員会
- 坂井秀弥<sup>13.2</sup> 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 今池遺跡 下新町遺跡 子安遺跡』新潟県教育委員会
- 笹澤正史 2002 「3.上越地方最大の須臾器窯跡群—未野・日向窯跡群—」『三和村史』自然・考古編 新潟県三和村
- 笹澤正史 2003a 「第1節 時代概説」上越市史編さん委員会編『上越市史』資料編2 考古 新潟県上越市
- 笹澤正史 2003b 「10 越前遺跡」上越市史編さん委員会編『上越市史』資料編2 考古 新潟県上越市
- 笹澤正史 2003c 「30 向橋古窯跡群」上越市史編さん委員会編『上越市史』資料編2 考古 新潟県上越市
- 佐藤友子・城前喜英<sup>13.2</sup> 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第251集 清水田遺跡』新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤 慎 2013 『妙高市埋蔵文化財調査報告書第5集 倉田遺跡』新潟県妙高市教育委員会
- 沢田 敦・細井佳浩<sup>13.2</sup> 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第154集 三角田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 沙見一夫 1999 「砥石について—中世遺跡出土の仕上砥を中心に—」北陸中世考古学会編『中世北陸の石文化Ⅰ』
- 篠崎謙治 2010 『馬小屋の考古学』高志書院



- 高田平原団体研究グループ 1962 「高田平原の土積層について—高田平原の団体研究・そのIV—」『研究紀要』第7号 新潟大学教育学部高田分校
- 高田平原団体研究グループ 1980 「高田平原の第四系とその形成史—新潟県の第四系・そのXXIV—」『研究紀要』第25号 新潟大学教育学部高田分校
- 高橋 勉 1984 『栗原遺跡 第7次・第8次発掘調査報告書』新潟県新井市教育委員会
- 高橋與右衛門 1989 「掘立建物の間尺とその時代性」『紀要』IX (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋與右衛門 2003 「中世の建物跡」小野正敏・萩原三郎編『戦国時代の考古学』高志書院
- 田中照久 1994 「越前焼の歴史」『越前古陶とその再現—久右衛門窯の記録』出光美術館
- 田中 靖・桑原陽一 1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 八幡林遺跡』新潟県和島村教育委員会
- 鶴巻康志 2001 「越後・佐渡地方の中世竪穴状遺構」東北中世考古学会編『掘立と竪穴 中世遺構論の課題』高志書院
- 鶴巻康志・水澤幸一 2003 「9 至徳寺遺跡 (至徳寺館跡・至徳寺跡)」上越市史専門委員会考古部会編『上越市史叢書8 考古—中・近世資料—』新潟県上越市
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1998 『東京大学構内遺跡研究年報2 別冊 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)』
- 戸根与八郎 2003 「第1節 時代概説」上越市史専門委員会考古部会編『上越市史叢書8 考古—中・近世資料—』新潟県上越市
- 土橋由理子・尾崎高宏<sup>1)</sup> 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第221集 古渡路遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 野村忠司<sup>2)</sup> 2009 『子安遺跡』新潟県上越市教育委員会
- 秦 恵二<sup>3)</sup> 2012 『有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告第12集 矢加部町屋敷遺跡IV 蒲津西ノ内遺跡 蒲津水町遺跡』福岡県教育委員会
- 畑中英二 2003 『信楽焼の考古学的研究』サンライズ出版
- 畑中英二 2005 『近畿自動車道名古屋神戸線建設事業に伴う発掘調査報告書3 西念寺北遺跡』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 畠野義昭 2008 「第二章 遺跡の環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 藤巻正信・横田 浩 1995 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第65集 鉄砲町遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細井佳浩・高橋保雄<sup>4)</sup> 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第236集 二反割遺跡 延命寺遺跡II』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 水澤幸一 2003 「3 横曽根遺跡」上越市史専門委員会考古部会編『上越市史叢書8 考古—中・近世資料—』新潟県上越市
- 水澤幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』NO.2 日本貿易陶磁研究会
- 山崎忠良・外山浩史<sup>5)</sup> 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第120集 下割遺跡I』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良・金子正宏<sup>6)</sup> 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第134集 下割遺跡II』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良・畠野義昭<sup>7)</sup> 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山下 研 2012 「第二章 遺跡の位置と環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第230集 下割遺跡V』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山本信夫<sup>8)</sup> 2000 『太宰府市の文化財第49集 大宰府桑坊跡XV—陶磁器分類—』福岡県太宰府市教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須原器の研究』吉川弘文館
- 吉岡康暢 2003 「珠洲焼概論」『平成15年度埋蔵文化財実務研修① 珠洲焼概論』新潟県教育庁文化行政課
- 西藤嘉章 1997 「北陸の漆器考古学—中世とその前後—」北陸中世土器研究会編『北陸の漆器考古学—中世とその前後—』

堂古遺跡 掘立柱建物觀察表 (1)

単位:mm

遺構番号	位置	掘行方向	階数	面積 (㎡)	掘行	壁行				
SH01	7-9E-E	N15°-E	2階×2階	11.15	掘3	掘3	掘3	備考		
									柱穴	柱径
	P8	有	円形	円筒状	0.38×0.32	0.27	13.67	P8-P16	1.81	
	P16	有	円形	U字状	0.34×0.32	0.41	13.73	P16-P19	1.71	柱径0.15
	P19	有	楕円形	古板状	0.41×0.33	0.50	13.86	P19-P24	1.56	柱径0.14
	P24	不明	円形	不明	0.36×0.32	0.41	13.92	P24-P31	3.42	
	P11	有	円形	U字状	0.32×0.30	0.38	13.95	P11-P16	1.60	柱径0.12
	P18	無	円形	U字状	0.37×0.36	0.44	13.88	-	-	
	位置	掘行方向	階数	面積 (㎡)	掘行	壁行				
	7-9E-E	N8°-W	3階×3階	22.32	掘3	掘3	掘3	備考		
柱穴 (鎌倉)	柱径	平面形	断面形	階数	深さ	底面高さ	柱/間隔			
P76	有	楕円形	圓筒状	0.47×0.39	0.46	13.95	P76-P72	1.99	柱径0.16	
P72	有	楕円形	圓筒状	0.52×0.37	0.57	13.84	P72-P68	2.44	柱径0.21	
P68	無	円形	圓筒状	0.29×0.26	0.23	14.21	P68-P70	2.01		
P70	不明	円形	不明	0.45×0.38	0.23	14.21	P70-P66	1.46		
P66	有	円形	圓筒状	0.31×0.27	0.46	13.93	P66-P64	1.71	柱径0.07	
P64	有	楕円形	U字状	0.30×0.20	0.50	13.90	P64-P67	1.99	柱径0.10	
P67	有	円形	圓筒状	0.34×0.29	0.63	13.78	P67-P71	2.63	柱径0.11	
P71	有	方形	U字状	0.36×0.33	0.45	13.94	P71-P74	1.80	柱径0.14	
P74	無	楕円形	圓筒状	0.41×0.34	0.41	13.99	P74-P78	0.96		
P78	有	円形	U字状	0.44×0.37	0.41	14.01	P78-P481	0.89	柱径0.15	
P481	無	方形	不明	0.31×0.30	0.58	13.83	P481-P76	1.17		
柱穴 (鎌倉志)	柱径	平面形	断面形	階数	深さ	底面高さ	柱/間隔	備考		
P79	有	円形	U字状	0.47×0.42	0.55	13.89	P79-P81	2.04	柱径0.22	
P81	有	円形	U字状	0.46×0.43	0.53	13.80	P81-P28	0.90	柱径0.13	
遺構番号	位置	掘行方向	階数	面積 (㎡)	掘行	壁行				
SH170 18A300	9E-E	N11°-E	2階×2階	18.84	掘3	掘3	掘3	備考		
									柱穴	柱径
	P828	有	円形	圓筒状	0.65×0.64	0.53	13.50	P828-P831	2.68	柱径0.17
	P831	有	楕円形	船状	0.31×0.34	0.42	13.74	P831-P834	2.39	柱径0.12
	P834	有	楕円形	圓筒状	0.61×0.41	0.54	13.53	P834-P833	1.80	柱径0.20
	P833	有	楕円形	圓筒状	0.66×0.63	0.58	13.54	P833-P832	2.03	柱径0.20
	P832	有	楕円形	U字状	0.71×0.44	0.72	13.44	P832-P829	2.28	柱径0.23
	P829	無	長方形	圓筒状	0.79×0.62	0.48	13.69	P829-P826	2.71	
	P826	無	円形	U字状	0.40×0.38	0.47	13.59	P826-P827	1.98	
	P827	有	円形	圓筒状	0.56×0.51	0.29	13.76	P827-P828	1.98	柱径0.17
P830	無	楕円形	圓筒状	0.67×0.46	0.45	13.69	P831-P830	2.00		
P830	無	楕円形	圓筒状	0.67×0.46	0.45	13.69	P830-P829	2.00		
位置	掘行方向	階数	面積 (㎡)	掘行	壁行					
18A300	N6°-E	3階	7.60	掘3	掘3	掘3	備考			
柱穴	柱径	平面形	断面形	階数	深さ	底面高さ	柱/間隔			
P310	無	円形	U字状	0.22×0.30	0.19	13.94	P310-P300	1.82		
P200	有	楕円形	圓筒状	0.47×0.33	0.37	13.80	P200-P837	1.12	柱径0.18	
P837	無	楕円形	U字状	0.29×0.23	0.27	13.90	P837-P836	2.51		
P836	有	楕円形	圓筒状	0.29×0.24	0.25	13.81	P836-P835	1.85	柱径0.11	
P835	不明	円形	不明	0.31×0.26	0.20	13.89	-	-		
遺構番号	位置	掘行方向	階数	面積 (㎡)	掘行	壁行				
SH240	6C-D	N6°-E	2階×2階	27.50	掘3	掘3	掘3	備考		
									柱穴	柱径
	P208	有	円形	U字状	0.32×0.31	0.51	13.19	P208-P230	2.02	柱径0.15
	P230	有	長方形	不明	0.39×0.34	0.65	13.14	P230-P206	2.77	柱径0.11
	P206	有	円形	U字状	0.31×0.30	0.41	13.55	P206-P210	1.97	柱径0.12
	P210	有	方形	U字状	0.34×0.31	0.44	13.58	P210-P242	2.01	柱径0.11
	P242	無	円形	円筒状	0.26×0.23	0.16	13.88	P242-P341	2.01	
	P341	無	円形	U字状	0.31×0.28	0.49	13.52	P341-P226	1.92	
	P226	有	長方形	U字状	0.34×0.34	0.48	13.49	P226-P225	2.71	柱径0.09
	P225	有	方形	U字状	0.31×0.30	0.57	13.30	P225-P343	2.16	柱径0.10
P243	有	円形	円筒状	0.30×0.29	0.30	13.47	P243-P344	1.93	柱径0.08	
P244	無	円形	船状	0.27×0.26	0.09	13.65	P244-P208	2.14		
P222	無	円形	不明	0.26×0.25	0.23	13.61	P230-P222	2.04		
P222	無	円形	不明	0.26×0.25	0.23	13.61	P222-P225	2.05		
遺構番号	位置	掘行方向	階数	面積 (㎡)	掘行	壁行				
SH103	7-8H	N7°-W	2階×2+1階	27.38	掘3	掘3	掘3	備考		
									柱穴 (鎌倉)	柱径
	P374	有	円形	圓筒状	0.32×0.29	0.59	13.59	P374-P384	2.82	柱径0.10
	P384	有	楕円形	不明	0.56×0.44	0.39	14.12	P384-P384	2.84	柱径0.16
	P184	無	円形	U字状	0.50×0.43	0.57	14.00	P184-P351	3.71	
	P351	無	楕円形	U字状	0.61×0.42	0.82	13.92	P351-P385	3.77	
	P385	有	円形	圓筒状	0.55×0.62	0.71	13.77	P385-P367	2.88	柱径0.12
	P367	有	円形	U字状	0.48×0.42	0.96	13.49	P367-P390	1.80	柱径0.09
	P390	有	円形	U字状	0.43×0.36	0.58	13.88	P390-P374	1.94	柱径0.11
	P349	無	円形	U字状	0.52×0.44	0.36	13.92	P349-P349	1.80	
柱穴 (鎌倉)	柱径	平面形	断面形	階数	深さ	底面高さ	柱/間隔	備考		
P331	無	円形	古板状	0.42×0.36	0.54	13.92	P331-P332	1.35		
P332	有	楕円形	U字状	0.41×0.33	0.44	13.99	P332-P334	1.44	柱径0.08	
P334	有	円形	古板状	0.40×0.36	0.46	13.98	P334-P362	2.88	柱径0.14	
P362	有	長方形	不明	0.44×0.28	0.34	14.12	P362-P367	1.16	柱径0.10	

觀察表

堂古遺跡 掘立柱建物觀察表 (2)

単位:m

遺構番号	位置		形状		面積		面積 (㎡)		備考		
	7-8期	N10°E	3期×2-1期	3期×2-1期	43.52	7.23	5.10×2.61				
SH1014	P102	有	円形	平凸形	楕圓形	楕圓	深さ	底面標高	P102/P112	2.40	柱残存 0.12
	P112	有	円形	U字状		0.32×0.32	0.48	13.57	P112/P119	2.58	柱残存 0.11
	P119	有	楕円形	楕圓状		0.49×0.36	0.36	13.75	P119/P127	1.92	柱残存 0.16
	P127	有	楕円形	凸形状		0.49×0.38	0.37	13.68	P127/P178	2.96	柱残存 0.15
	P178	有	円形	U字状		0.43×0.38	0.67	13.35	P178/P338	2.21	柱残存 0.15
	P338	不明	円形	不明		0.29×0.27	0.28	13.76	P338/P339	3.35	
	P339	有	楕円形	U字状		0.33×0.27	0.40	13.57	P339/P693	2.33	柱残存 0.15
	P711	有	円形	U字状		0.30×0.29	0.58	13.43	P711/P500	2.64	柱残存 0.10
	P693	有	円形	U字状		0.23×0.22	0.87	13.22	P693/P303	2.54	柱残存 0.10
	P703	無	瓦方型	不明		0.29×0.22	-	-	P703/P700	2.65	
	P700	有	楕円形	U字状		0.35×0.29	0.77	13.31	P700/P126	2.23	柱残存 0.06
	P126	有	楕円形	平凸状		0.50×0.38	0.30	13.74	P126/P102	2.51	柱残存 0.17
	P130	無	円形	U字状		0.38×0.36	0.37	13.69	P130/P330 P130/P111	2.66 3.16	
	(P698)	有	楕円形	不明		0.36×0.28	0.53	13.55	P711/P608	0.44	
	(P705)	不明	楕円形	不明		0.36×0.30	0.44	13.62	P700/P705	0.45	
遺構番号	位置		形状		面積		面積 (㎡)		備考		
	8-9期	N5°E	3期×1期		31.83	8.10					
SH1018	P122	無	円形	平凸形	楕圓形	楕圓	深さ	底面標高	P122/P138	2.77	
	P138	無	円形	U字状		0.39×0.38	0.47	13.33	P138/P654	3.07	
	P104	有	方形	楕圓状		0.58×0.50	0.68	13.44	P104/P161	2.23	柱残存 0.16
	P161	無	円形	U字状		0.30×0.36	0.28	13.90	P161/P163	3.56	
	P163	無	円形	楕圓状		0.25×0.34	0.21	13.91	P163/P174	2.58	瓦ノリ埋1.10
	P174	無	楕円形	U字状		0.37×0.30	0.43	13.62	P174/P43	2.93	
	P143	不明	円形	不明		0.34×0.33	0.47	13.58	P143/P101	2.41	
	P101	不明	円形	不明		0.37×0.35	0.30	13.77	P101/P122	3.93	
	P114	有	円形	楕圓状		0.37×0.31	0.45	13.58	P138/P114 P114/P143	2.05 1.62	柱残存 0.15
	遺構番号	位置		形状		面積		面積 (㎡)		備考	
10期		N62°W	2期×2期~		15.57~	4.37~					
SH1019	P303	有	円形	平凸形	楕圓形	楕圓	深さ	底面標高	P303/P198	2.36	柱残存 0.13
	P168	不明	円形	不明		0.26×0.25	0.27	13.76	P168/P195	2.02	
	P195	有	円形	楕圓状		0.39×0.35	0.34	13.71	P195/P305	2.04	柱残存 0.12
	P305	無	楕円形	U字状		0.30×0.25	0.40	13.64	P305/P199	2.18	瓦ノリ埋1.1
	P199	有	円形	U字状		0.31×0.29	0.36	13.49	-	-	柱残存 0.12
	(P309)	有	楕円形	U字状		0.56×0.39	0.31	13.42	-	-	柱残存 0.12
遺構番号	位置		形状		面積		面積 (㎡)		備考		
	8期	N5°E	3期×2期		16.35	4.62					
SH1100	P419	有	円形	楕圓状		0.48×0.42	0.42	13.98	P419/P1129	2.26	柱残存 0.10
	P1129	不明	楕円形	不明		0.48×0.34	0.56	13.93	P1129/P976	2.34	
	P976	有	楕円形	楕圓状		0.40×0.26	0.26	13.99	P976/P353	1.68	柱残存 0.09
	P353	無	円形	平凸状		0.35×0.33	0.30	14.18	P353/P337	1.79	
	P337	不明	楕円形	不明		0.38×0.30	0.46	13.99	P337/P460	2.40	
	P460	有	楕円形	U字状		0.44×0.36	0.31	14.00	P460/P279	2.02	柱残存 0.09
	P279	有	円形	U字状		0.46×0.43	0.54	13.83	P279/P278	1.79	柱残存 0.07
	P278	有	楕円形	U字状		0.53×0.42	0.61	13.83	P278/P419	1.74	柱残存 0.11
	P463	不明	円形	不明		0.27×0.25	0.46	13.99	P1129/P443 P443/P460	1.84 1.68	
	遺構番号	位置		形状		面積		面積 (㎡)		備考	
8-9期		N79°W	3期×2期		22.95	6.71					
SH1134	P646	無	円形	平凸形	楕圓形	楕圓	深さ	底面標高	P646/P243	1.63	
	P743	有	方形	不明		0.31×0.30	0.46	14.21	P743/P760	1.88	
	P760	不明	円形	不明		0.25×0.34	0.29	14.45	P760/P644	2.20	
	P644	有	楕円形	不明		0.29×0.21	-	-	P644/P291	4.00	
	P291	有	瓦方型	U字状		0.39×0.26	0.86	13.59	P291/P410	2.07	柱残存 0.10
	P410	無	楕円形	不明		0.38×0.28	0.66	13.77	P410/P636a	1.89	
	P636a	不明	楕円形	不明		0.61×0.50	0.52	14.06	P636a/P424	1.44	
	P424	無	円形	不明		0.36×0.31	0.55	13.87	P424/P650	1.92	
	P650	不明	円形	不明		0.45×0.42	0.68	13.76	P650/P646	1.80	
	遺構番号	位置		形状		面積		面積 (㎡)		備考	
13-14期-1		N30°E	3期~×2期~		22.51~	5.60~					
18SH295	P12	有	円形	平凸形	楕圓形	楕圓	深さ	底面標高	P12/P104		
	18P234	無	円形	不明		0.32×0.30	0.20	13.98	18P234-18P272	2.12	
	18P272	無	円形	楕圓状		0.21×0.20	0.19	14.17	18P272-18P247	1.33	
	18P247	無	円形	不明		0.22×0.30	0.23	14.18	18P247-18P240	2.14	
	18P240	無	楕円形	不明		0.46×0.27	0.25	14.10	-	-	
	18P237	無	円形	不明		0.23×0.20	0.57	13.87	18P237-18P232	1.95	
	18P232	無	円形	不明		0.27×0.36	0.45	13.91	18P232-18P234	2.08	

堂古遺跡 掘立柱建物観察表 (3)

単位: cm

遺構番号	位置	掘削方向	平面形	断面形	面積 (㎡)	新打	埋行	備考
B・9C・H	N-10°・E		3階×2・2階		44.4	7.71	3.76×1.00×1.00	
P452	無	横内形	平面形	階段	深さ	底面高さ	穴内埋積	
P298	無	長方形	U字状	0.59×0.44	0.81	13.61	P298-P404	2.79
P404	有	円形	平面形	0.34×0.33	0.37	14.08	P404-P690	2.34
P690	無	横内形	平面形	0.50×0.26	-	-	P690-P754	1.91
P754	有	円形	平面形	0.35×0.35	-	-	P754-P756	1.99
P756	有	方形	U字状	0.42×0.39	0.60	13.69	P756-P803	2.41 相残存 0.13
P403	有	長方形	階段状	0.59×0.45	0.53	15.92	P403-P466	2.49 相残存 0.10
P406	有	円形	階段状	0.50×0.44	0.54	13.71	P406-P472	2.58 相残存 0.12
P472	有	円形	平面形	0.40×0.37	0.50	13.87	P472-P607	2.04
P607	有	横内形	平面形	0.35×0.25	0.37	14.04	P607-P452	1.74
P287	無	横内形	平面形	0.44×0.34	0.36	14.03	P298-P287 P287-P406	1.64 2.32
P458	有	円形	台形状	0.43×0.37	0.76	13.60	P404-P458 P458-P403	1.83 2.14
穴元 (編)	柱状	平面形	断面形	階段	深さ	底面高さ	穴内埋積	
P270	無	円形	平面形	0.48×0.42	0.35	14.06	P270-P635b	2.67
P635b	不明	横内形	平面形	0.47×0.37	0.52	14.06	P635b-P690	2.68
P660	不明	円形	平面形	0.42×0.40	0.78	13.94	P660-P690	2.38
P658	不明	長方形	平面形	0.58×0.48	0.36	14.38	P658-P690	0.96
P971	無	円形	階段状	0.20×0.20	0.09	14.18	P971-P415	2.41
P415	有	方形	台形状	0.50×0.48	1.14	13.25	P415-P272	2.50 相残存 0.07
P272	有	長方形	U字状	0.39×0.30	0.55	13.70	P272-P406	0.90 相残存 0.09
付属遺構	長軸方向		平面形	断面形	長さ	幅	埋行	備考
SD653	N 8°・E・N 75°・W		L字状	半円状	6.30	0.15・0.37	0.25	>S405, <S7064

堂古遺跡 竪穴状遺構観察表

単位: cm

遺構番号	位置	長軸方向	平面形	断面形	面積 (㎡)	長軸	短軸	深さ	新打埋積
B・F	N 77°・W		方形	台形状	7.37	2.76	2.67	0.35	
穴元	柱状	平面形	断面形	階段	深さ	底面高さ	穴内埋積		
P177	無	横内形	U字状	0.24×0.19	0.37	13.68	P177-P180	1.41	
P146	無	円形	U字状	0.31×0.27	0.34	13.72	P146-P155	1.23	
P155	無	横内形	U字状	0.27×0.25	0.28	13.72	P155-P173	1.33	
P173	無	横内形	階段状	0.40×0.32	0.38	13.68	P173-P172	1.32	
P172	有 0.15	横内形	半円状	0.44×0.29	0.30	13.76	P173-P171	1.29	
P171	無	円形	U字状	0.37×0.32	0.54	13.65	-	-	
遺構番号	位置	長軸方向 <td>平面形 <td>断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td></td></td>	平面形 <td>断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td></td>	断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td>	面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td>	長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td>	短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td>	深さ <td>新打埋積</td>	新打埋積
BH	N 78°・W		長方形	台形状	8.59	2.61	2.38	0.30	
穴元	柱状	平面形	断面形	階段	深さ	底面高さ	穴内埋積		
P905	有 0.06	長方形	台形状	0.26×0.16	0.14	14.24	P905-P967	2.13	
P967	有 0.08	方形	台形状	0.26×0.24	0.13	14.27	-	-	
遺構番号	位置	長軸方向 <td>平面形 <td>断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td></td></td>	平面形 <td>断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td></td>	断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td>	面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td>	長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td>	短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td>	深さ <td>新打埋積</td>	新打埋積
SD238	7E	N 83°・W	長方形	階段状	6.59	3.28	2.61	0.30	>SH1014-P1903・S3249・SK245, <SK237・SD201
遺構番号	位置	長軸方向 <td>平面形 <td>断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td></td></td>	平面形 <td>断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td></td>	断面形 <td>面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td></td>	面積 (㎡) <td>長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td></td>	長軸 <td>短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td></td>	短軸 <td>深さ <td>新打埋積</td> </td>	深さ <td>新打埋積</td>	新打埋積
SD405	BH	N 8°・E	長方形	階段状	6.96	> 2.28	2.09	0.10	>1083004-SD653

堂古遺跡 井戸観察表 (1)

単位: cm

遺構番号	位置	グッド	平面形	断面形	長軸・短軸	短軸	埋行	深さ	底面高さ	新打埋積
SK23	5F4・9・10		方形	階段状	1.45	1.32	2.44	11.90		
SK90	7G13・18		円形	階段状	1.14	1.02	2.14	12.27		
SK196	9F24・25, 9G4・5		円形	階段状	0.94	0.84	2.47	11.94		
SK202	7D20・25		円形	階段状	1.17	1.02	1.55	12.40		
SK205	8J021, 8J1		円形	階段状	1.33	1.13	2.13	11.92	<SK118	
SK227	7E8・9		円形	階段状	1.11	1.02	2.31	11.80	<SK238	
SK249	7E4・5・9・10		円形	階段状	2.40	2.04	1.83	12.28	<SK238・SD201・P704・P744	
SK206	9E20・25, 10E16・23		横内形	U字状	2.24	1.76	2.26	11.80	<SK170-P633	
SK313	6H12・13・17・18		円形	階段状			1.56	12.86		
SK316	7E15・20, 8E31・32・16・17		円形	階段状	2.83	2.71	2.35	11.70	>SH1014-P1718・P330, <SH159	
SK367	8H13・14		円形	階段状	1.05	0.94	1.84	12.87		
SK380	10E7・12		円形	階段状	0.91	0.90	1.86	12.65		
SK388	8E3・8		円形	U字状	1.01	0.92	1.47	12.77	>SK326	
SK391	10E3・8		円形	U字状	0.97	0.88	1.72	12.70		
SK393	10E2・3・7・8・12・13		円形	階段状	2.91	2.64	2.08	12.26	>SD1004	
SK412	8H1・8		円形	U字状	0.94	0.79	1.59	12.16		
SK588	12G16・21		横内形	階段状	1.08	0.84	1.95	12.35		
SH13	10H1・2・6・7		円形	階段状	1.11	0.98	1.83	12.60		
SK737	8H13・14・18・19		方形	階段状	1.53	1.41	2.46	11.98	>P954, <SH1001-P1120・SH134・SH736・P738	
SK800	8G12・13・17・18・22・23		方形	階段状	3.01	2.66	2.07	12.35	<SK235	
SP922	12J21		横内形	階段状	1.41	1.21	1.88	12.58		
SH999	12H13・8		円形	U字状			1.80	12.55	>158099	
SK1087	12H・8・10・14		横内形	台形状	2.34	1.92	1.96	12.51		
SK1104	11H15, 12H11		円形	U字状	1.42	1.28	2.76	11.07	>15P215・15P216, <P1128	
SK1124	12H16		円形	U字状	1.05	0.90	1.98	12.49	>1582162	
15883	12H9・10		円形	階段状	1.96	1.23	1.92	12.55		

観 察 表

堂古遺跡 井戸観察表 (2)

単位: m

遺構番号	グリッド	平面形	断面形	長軸・長径	短軸・短径	深さ	遺物・遺構	新旧関係
158339	12G25・24, 12H3・4	楕円形	U字状	1.39	1.06	1.89	12.58	>S1999
1583162	12H11・16	長方形	U字状	1.41	0.97	1.74	12.66	>15P170, >SK1134
1583185	11H14・10・19・20	円形	U字状	2.54	2.35	2.24	12.27	>15SK218, >10SK182
1583219	11G7・11・12・16・17	円形	掘り状	2.32	2.26	2.94	11.41	>15P227・15P228
1583232	12K14・15	楕円形	溝状	1.51	1.13	2.21	12.26	
1583236	13K14・19	楕円形	溝状	1.68	1.09	1.94	12.36	
1583239	13K12・17	円形	溝状	1.47	1.31	2.64	11.86	
1583282	12G7	円形	溝状	1.12	0.98	2.36	12.04	>SK936・15P295・15P293
1583296	14J7・8	楕円形	掘り状?	1.73	1.43	2.18	12.14	

堂古遺跡 溝観察表

単位: m

遺構番号	グリッド	長軸方向	平面形	断面形	長さ	幅	深さ	新旧関係	
S1150	9E		N-0°	直線状	2.80 ~	0.78 ~ 1.21	0.15	>S1154・P326	
S1151	8G, 9F+G		N-5° E N-75° W	溝状 L字状	溝状 溝状	22.84 0.72 ~ 1.15	0.25	>S1255・SK256・SK262・SK296・P258, >SK264・P254	
S1201	7H・E		N-13° E	直線状	溝状	12.50 ~	0.45 ~ 1.18	>S1238・15J249・SK245, >SK236	
S1209	6C・D		N-13° E	直線状	溝状	12.80 ~	0.20 ~ 0.65	>SK260・P210・SK234	
S1218	7 ~ 9E, 8・9H, 9・10E		N-17° E N-75° W	L字状	台形状	36.80 ~	0.66 ~ 1.11	0.50	>S1368・SK366・SD462・SD1136・SK802・P864
S1308	7・8L, 9H ~ J		N-17° E N-75° W	L字状	台形状	30.80 ~	0.40 ~ 0.83	0.25	>SK365・SK368, >SK388・SD366
S1306	9H ~ J		N-10° E	直線状	台形状	13.00 ~	0.47 ~ 0.90	0.30	>SK396・SK328, >SK318・SK378
S1462	9G ~ J		南北方向	溝状	平円状	24.00 ~	0.33 ~ 0.85	0.25	>SK392・SK885, >SK318
S1510	12J・K, 13I ~ K, 14H ~ J, 15H・I		N-45° W	直線状	台形状	39.90 ~	3.72 ~ 4.97	1.45	
1583263	15・16J・J, 16K ~ M		N-10° W	直線状	溝状	21.40 ~	1.05 ~ 2.44	0.44	>1583222・15S1029・15S1298・15S10299, >15S171
1583298	13・14K, 15K・L, 16・17L		N-65° 70° E	直線状	掘り状	43.20 ~	0.32 ~ 0.44	0.80	>15S1298, >15S1023・15P320
1583298	14・15E, 15・16K, 16J		N-37° 56° W	直線状	溝状	20.60 ~	0.69 ~ 1.20	0.55	>15S1023・15S1029・15S1262・15P246
1583399	15 ~ 17L・M		東西方向	S字状	溝状	14.80 ~	0.61 ~ 1.05	0.83	>1583233・15P122・15P123

堂古遺跡 畑作観察表

単位: m

遺構番号	グリッド	長軸方向	平面形	断面形	長さ	幅	深さ	備考	
S191	4B・C		N-11° E	直線状	溝状	7.29 ~	0.75	0.13	一連の畑作溝
S192	4B・C		N-8° W	直線状	台形状	7.44 ~	0.93	0.13	
S193	4B・C		N-9° W	直線状	台形状	7.34 ~	0.92	0.14	
S194	4B・C		N-9° W	直線状	台形状	7.33 ~	0.87	0.16	
S195	4B・C		N-5° W	直線状	溝状	6.80 ~	0.97	0.14	
S196	4B・C		N-2° W	直線状	溝状	6.70 ~	0.94	0.10	
S197	4B・C		N-4° W	直線状	溝状	6.42 ~	0.84	0.13	
S198	4B・C		N-4° W	直線状	溝状	6.26 ~	0.89	0.11	
S199	4B・C		N-9° W	直線状	溝状	4.40 ~	0.81	0.13	
SD1100	4B・C		N-12° W	直線状	溝状	3.74 ~	0.85	0.08	

堂古遺跡 焼土土坑・土坑・ビット観察表

単位: m

遺構番号	グリッド	平面形	断面形	長軸・長径	短軸・短径	深さ	新旧関係	備考
ST684	9H12・17	長方形	溝状	0.86	0.32	0.14	>1583304・SD653	骨片出土, 焼土
SK83	4C24, 4E4	方形	平円状	1.13	0.95	0.36		
SK167	9E25, 9F5, 10E21, 10F1	楕円形	台形状	0.72	0.50	0.15		
SK204	6D8	長方形	台形状	1.49	0.84	0.47		SK340内
SK212	5E7・8・12・13	長方形	台形状	1.84	0.82	0.39		
SK233	6E2・3・7・8	楕円形	台形状	1.84	0.59	0.41		
SK234	6E25, 6E5	楕円形	台形状	1.36	0.96	0.48	>SK309	
SK235	7E14	円形	台形状	1.36	1.33	0.29		
SK239	5E20・25, 6E16・21	長方形	台形状	1.69	1.09	0.42		
SK256	9G2・6・7	長方形	台形状	1.31	0.96	0.45	>SK296, >SD151・P254	
SK264	8G13	円形	溝状	1.10	1.02	0.18	>SD255・SD151, >P363	
SK296	9G6・7	楕円形	溝状	1.24	0.92	0.20	>SD151・SK256	
SK381	10I22・23, 10J2	長方形	溝状	1.24	0.68	0.29		
SK500	4E16・17・21・22	方形	溝状	0.72	0.68	0.19		
SK622	9H15・20, 10H11・16	長方形	溝状	1.32	0.60	0.42	>P918, >SK727	骨片出土
SK691	9G10・15	長方形	溝状	1.20	0.87	0.28		
SK722	8H17・18・22・23	楕円形	溝状	0.92		0.14	>P726	
158336	15L15・20, 16L11・16	円形	平円状	0.75	0.66	0.40		
1583218	11H10・15	楕円形	台形状	1.38	0.74	0.41	>15SK183C・15P211・15P214	
1583264	14I20, 15H11・16	円形	溝状	2.35	2.12	0.29		
P262	8G13	円形	台形状	0.68	0.58	0.33	>SD255・SK264	紅顔土0.08 ~ 0.10

堂古遺跡 性格不明遺構観察表

単位: m

遺構番号	グリッド	平面形	断面形	長径	短径	深さ	新旧関係	備考
1583182	11H15	楕円形	溝状	0.62	0.36	0.06	>15SK183C	焼土

## 堂古遺跡 土器・陶磁器観察表(1)

砂：砂粒、灰：石英、雲、金雲母、黒：黒色粒子、海：海輪付粒、長：長石、子：チャート

集約 番号	種類	器種	時期	出土地点			法量 (cm)			色澤		付着物		用途など		備考	
				フツツド	遺構	層位	口径	高さ	底径	内径	外径	胎土の 成分	内面	外面	内面		外面
1	土師器	皿	14世紀 前半	SE22	SR159	2	12.6	2.9	7.8	灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ・微塵付 底	チづく丸成形		
2	珠洲焼	片口鉢	前期	HF24・25	SR196	7				灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形 (幅1.4cm)		
3	青磁	梅	13世紀 後半	TI05	SR202	5				緑灰色	緑灰色				編後片文		
4	珠洲焼	片口鉢	10～11期	HD21	SR205	3	30.4	(9.2)		灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	灰土質	ロクロナデ	ロクロナデ	チづく丸成形 (幅1.4cm) (SR240)	
5	珠洲焼	香付樽 C型	10～11期	OH18	SR313	覆土	13.4	(3.7)		黄灰色	黄灰色	砂・海・ 雲	ナデ	ナデ	波状文		
6	珠洲焼	香付樽 C型	10～11期	GH18	SR313	3・5				黄灰色	黄灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
7	土師器	皿	13世紀 後半	1017	SR380	4	8.8	1.7	6.4	灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ・微塵付 底	チづく丸成形		
8	珠洲焼	黄	10～11期	1013	SR391	覆土				灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
9	珠洲焼	片口鉢	10期	1013	SR391	覆土				灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
10	土師器	皿	14世紀 前半	1023・7・8・ 12	SR393	覆土	9.0	1.8	2.0	淡黄褐色	淡黄褐色	砂・灰土質	ナデ	ナデ	有明窓付、チづく丸成形		
11	土師器	皿	13世紀 前半	1023・7・8・ 12	SR393	11	8.0	1.8	5.0	灰白色	灰白色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
12	珠洲焼	片口鉢	V期	1023・7	SR393	覆土	36.2	(12.3)		灰白色	灰色	砂・灰土質	灰土質	スス	ロクロナデ	チづく丸成形 (幅1.1cm) 波状文	
13	珠洲焼	片口鉢	V期	1023・8	SR393	覆土				灰白色	灰色	砂・海	灰土質	スス	ロクロナデ	チづく丸成形 (幅2.7cm) 波状文 (SR318)	
14	珠洲焼	片口鉢	前期	10H1・2・ 6・7	SR613	7	(6.8)	11.2		灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	スス	スス	ナデ	チづく丸成形 (幅 2.8cm)、底面波状文	
15	土師器	皿	14世紀 前半	8H13	SR737	覆土	10.6	2.0	6.0	灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
16	珠洲焼	片口鉢	V期	8H13	SR737	覆土				灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
17	珠洲焼	香付樽 C型	10～11期	8G18	SR800	1	7.8	(8.0)		灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	波状文		
18	珠洲焼	香付樽 C型	10～11期	8G17	SR800	覆土				灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	波状文		
19	珠洲焼	香付樽 C型	10～11期	8G18	SR800	覆土				灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	波状文		
20	珠洲焼	片口鉢	前期	8G18	SR800	6	28.0	(7.2)		灰黄色	黄灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
21	珠洲焼	片口鉢	V期	8G18	SR800	8	(6.2)	12.0		黄灰色	黄灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
22	珠洲焼	片口鉢 小鉢	10～11期	11H23	SR986	覆土	18.0	7.6	8.8	灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	胎土白		
23	黄磁器	鉢蓋	中期	11H・8・10	SR1087	5	16.0	(3.0)		灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	胎土白		
24	珠洲焼	片口鉢	前期	11H・8・10	SR1087	5				灰白色	灰白色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	胎土白		
25	珠洲焼	香付樽 B型	10～11期	12H16	SR1124	17	25.8	(8.2)		灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
26	珠洲焼	黄	10～11期	13H5	SR1583	8・9	41.2	(10.8)		灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
27	珠洲焼	香付樽 B型	10～11期	13H5	SR1583	8	19.8	(3.0)		灰色	灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
28	珠洲焼	片口鉢	前期	13H5	SR1583	8	25.2	(6.9)		黄灰色	黄灰色	灰土質	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
29	珠洲焼	片口鉢	V期	12H11・16	SR1662	7・8	25.9	9.9	12.0	灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
30	土師器	小笠	10～11期	11H14・15・ 19・20	SR1885	3	11.6	(9.0)		黄灰色	黄灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	胎土白		
31	土師器	小笠	10～11期	11H14・15・ 19・20	SR1885	28	18.0	(5.6)		灰白色	灰白色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	胎土白		
32	土師器	小笠	10～11期	11H14・15・ 19・20	SR1885	3	17.2	(7.8)		灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	胎土白		
33	土師器	小笠	10～11期	11H14・15・ 19・20	SR1885	28・ 32	(14.0)	6.0		灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	胎土白		
34	黄土 土器	鉢蓋	10～11期	11H20	SR1885	17	16.8	(5.3)		褐色	褐色	灰土質	ナデ	ナデ	胎土白		
35	珠洲焼	片口鉢	前期	11H14・15・ 19・20	SR1885	17				灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
36	珠洲焼	片口鉢	前期	11G7・11・ 12・16・17	SR219	1	32.2	(10.0)		黄灰色	黄灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
37	珠洲焼	片口鉢	中期	11G7・11・ 12・16・17	SR219	25	34.4	(11.6)		褐色	褐色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
38	珠洲焼	片口鉢	前期	11G7・11・ 12・16・17	SR219	上層				灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	編後片文		
39	珠洲焼	片口鉢	前期	11G7・11・ 12・16・17	SR219	2	(7.8)	13.0		灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		
40	珠洲焼	片口鉢	前期	11G7・11・ 12・16・17	SR219	4	(4.3)	11.2		灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	内面波状文		
41	珠洲焼	片口鉢	前期	11G7・11・ 12・16・17	SR219	2	(4.6)	10.4		黄灰色	黄灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	内面波状文		
42	土師器	小笠	10～11期	14T・8	SR2296	覆土	14.1	10.4		褐色	褐色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	胎土白		
43	珠洲焼	片口鉢	中期	8G13	SD151	1	20.6	(11.2)		灰色	灰色	砂・灰・ 雲・海	ナデ	ナデ	チづく丸成形		

観 察 表

堂古遺跡 土器・陶磁器観察表 (2)

集丸 番号	種別	形状	時期	出土地点		位置 (cm)		色澤		材質		遺痕など		備考			
				グロッド	遺積	経度	緯度	内径	外径	内面	外面	内面	外面				
44	珠洲焼	飯椀	5世紀前半	91	SD318	埋土	口縁 高さ 底径	灰白色 灰白色 灰白色	灰白色 灰白色 灰白色	灰・黄 赤色 赤色	灰化焼	灰化焼	ナデ	ナデ	唐文文		
45	土師焼	飯 椀	14世紀後半		SD462	埋土	7.5 3.7 3.0	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色	灰化焼	灰化焼	ナデ	ナデ	ナデ・唐文付 飯	灯明皿、すづくぬ成形	
46	越前焼	飯 椀	13世紀後半～ 14世紀前半	9H5	SD462	埋土		褐色 褐色	褐色 褐色	砂・灰 灰			ナデ	ナデ	ナデ既白焼、唐文付	口口口成形、唐文	
47	土師焼	飯白鉢	5世紀	14118	SD510	Ⅰ	11.8 3.9 6.0	褐色 褐色	砂・灰 灰							口口口成形、唐文	
48	土師焼	飯 椀	5世紀	1421	SD510	Ⅰ	13.0 2.5 6.0	褐色 褐色	砂・灰 灰				口口口ナデ	口口口ナデ		口口口成形、唐文既白赤切 り、唐文	
49	土師焼	飯 椀	5世紀	13110	SD510	Ⅰ	15.0 2.4 7.4	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		口口口成形、唐文既白赤切 り、唐文	
50	土師焼	小笠焼	5世紀	1426	SD510	Ⅰ	15.0 (5.0)	褐色 褐色	砂・灰 灰				口口口ナデ	口口口ナデ		口口口成形、唐文付	
51	土師焼	飯丸鉢	5世紀	1421	SD510	Ⅰ	22.8 (6.1)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			ナデ・カキメ	ナデ・ハヤ		口口口成形	
52	土師焼	飯丸鉢	5世紀	1422	SD510	Ⅰ	21.8 (10.8)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			ナデ・カキメ	ナデ・ハワ ナズリ		口口口成形	
53	土師焼	飯丸鉢	5世紀	14118	SD510	Ⅰ	(5.3)	褐色 褐色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			カキメ	ナデ		赤口口成形、唐文既 白	
54	越前焼	飯白鉢	5世紀	14113	SD510	Ⅰ	11.4 3.6 6.4	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			口口口ナデ	口口口ナデ		底部へう切り、唐文既白成 不十分	
55	越前焼	飯白鉢	5世紀	1421	SD510	Ⅰ	12.0 3.0 7.6	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		底部へう切り、筋1線 貫	
56	越前焼	飯白鉢	5世紀	13125・1421	SD510	Ⅰ	12.6 3.0 8.0	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		底部へう切りナデ、内外 面1線の水ぶき1線	
57	越前焼	飯白鉢	5世紀	13121	SD510	Ⅰ	12.8 3.1 7.8	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		底部へう切り、筋1線 貫	
58	越前焼	飯白鉢	5世紀	1422	SD510	Ⅰ	12.2 4.1 8.9	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			口口口ナデ	口口口ナデ		底部へう切りナデ、筋1 線貫、唐文既白成不十分	
59	越前焼	神蓋	5世紀	1421	SD510	Ⅰ	(1.8)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		筋1線貫	
60	越前焼	飯丸鉢	5世紀	13219	SD510	Ⅰ		灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		唐文既白、SD465	
61	珠洲焼	飯 椀	5世紀	1288	SD510	Ⅰ		灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ 赤て具	口口口ナデ 平行タタキ		唐文既白	
62	珠洲焼	飯 椀	5世紀	12214・ 10422	SD510	Ⅰ・2		灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			ナデ・赤て具 底	ナデ・平行タ タキ		唐文既白	
63	越前焼	飯 椀	16世紀下葉	14118	SD510	Ⅰ		灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			ナデ	ナデ		押印文(格子目)、68と同 一様か?	
64	瀬戸瓦 遺物	灰瓦	高瀬川 流域(16 世紀後半)	13112	SD510	Ⅰ	11.6 (2.9)	褐色 褐色	褐色 褐色	灰 灰						内外両面	
65	瀬戸瓦 遺物	灰瓦	大瀬川 流域(16 世紀後半)	12224	SD510	Ⅰ	11.0 (3.1)	褐色 褐色	褐色 褐色	灰 灰						内外両面	
66	白磁	椀・鉢	13世紀 後半～ 14世紀 前半	12225	SD510	Ⅰ		灰白色 灰白色	灰白色 灰白色							口内白磁	
67	越前焼	飯 椀	5世紀	16K10	155D23	Ⅲ		灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			ナデ	ナデ		唐文文	
68	越前焼	飯 椀	16世紀 下葉	9G2	SK256	Ⅲ		灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			ナデ?	ナデ		押印文(格子目)、 63と同一様か?	
69	白磁	椀	13世紀 後半～ 14世紀 前半	9G2	SK256	Ⅳ	10.0 (2.8)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色							口内白磁	
70	珠洲焼	白口鉢	5世紀	8G13	SK264	Ⅰ	28.0 (7.2)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			ナデ	ナデ		押印10条1単位(縦 1.8cm、SD255、 SD151)	
71	珠洲焼	白口鉢	5世紀	9G6	SK296	Ⅰ	30.4 (11.7)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		押印7条1単位(縦1.3cm、 21と同一様か? (SK260))	
72	土師焼	小笠焼	5世紀	10122	SK381	Ⅰ	14.0 (4.2)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			スス	ナデ・カキメ	ナデ・カキメ	口口口成形	
73	土師焼	飯 椀	14世紀 前半	8H22	SK722	Ⅰ	8.4 3.3 5.0	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			ナデ	ナデ		すづくぬ成形、唐文不 貫	
74	珠洲焼	飯丸鉢	5世紀	8G13	P263	Ⅲ・4	20.8 (33.8)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			灰化焼	ナデ・赤て具 底	口口口ナデ 斜線タタキ	(SK300・SD151・ SK107・SK254)	
75	白磁	椀	13世紀 後半～ 14世紀 前半	8H10	P297	埋土	12.2 (2.6)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色							口内白磁	
76	土師焼	飯 椀	14世紀 前半	8H18	P500	埋土	9.0 3.5 7.6	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			灰化焼?	灰化焼?	ナデ	ナデ・唐文付 飯	すづくぬ成形、唐文
77	珠洲焼	飯 椀	5世紀	715・851	P801	埋土		灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			口口口ナデ 赤て具	口口口ナデ 赤て具		口口口成形、唐文既 白	
78	土師焼	小笠焼	5世紀	1423		Ⅲ	13.6 13.2 6.6	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			カキメ	ナズリ		口口口成形、唐文	
79	土師焼	小笠焼	5世紀	1426		Ⅲ	13.4 10.6 9.0	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			スス	カキメ	カキメ・ナズリ	口口口成形、唐文既 白	
80	越前焼	飯白鉢	5世紀	1423		Ⅲ	13.8 3.5 11.0	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			口口口ナデ	口口口ナデ		底部へう切りナデ、筋1 線貫	
81	越前焼	飯白鉢	5世紀	1428		Ⅲ	14.5 4.0 8.4	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			口口口ナデ	口口口ナデ		底部へう切りナデ、筋1 線貫	
82	越前焼	神蓋	5世紀	141		Ⅲ	14.4 (2.2)	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		底部へう切り、筋1線 貫	
83	越前焼	神蓋	5世紀	1428		Ⅲ	15.0 2.9	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		瓦部へう切り 口口口ナデ ナズリ	筋1線貫
84	越前焼	神蓋	5世紀	1428		Ⅲ	15.2 2.7	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	灰・黄 赤色			口口口ナデ	口口口ナデ		瓦部へう切り 口口口ナデ ナズリ	筋1線貫、水ぶき 1線
85	越前焼	神蓋	5世紀	1423		Ⅲ	15.6 3.1	灰白色 灰白色	灰白色 灰白色	砂・灰 灰			口口口ナデ	口口口ナデ		筋1線貫、唐文既白成不 十分	





観 察 表

堂古遺跡 金属製品観察表

発出番号	品名	出土地点			法量 (cm・g)			遺存状況	備考		
		グロッド	通径	厚径	長さ	幅	厚さ			高さ	
130	130A不明	8819・14	SB1015P122	2	13.0		2.8	1.3	47.0	上下段次	土層から取り出した土器
130	刀子	8818	SB1015P114	1	(5.5)		1.7	0.4	7.0	短形・基部が一部破損	
131	鎌	18E22	SB1015P168	1	厚部長 17.0	厚部幅 4.2	0.4	170.0		ほぼ定形	基部に木質・竹質の残存。幅部幅1.5～2.0cm。目釘の長さ5.5～6.0cm
132	刀子	8816	SK315	8	(4.0)		2.6	0.6	14.0	区別品のみ遺存	
133	小刀	128.14・15	103E222	15	29.3		2.1	0.3	45.5	区別品	墓に付けたもの
134	刀子	99E21	SD038	1	(2.6)		1.3	0.5	3.0	区別品のみ遺存	
135	135A不明	913	SD028	1	(4.6)		3.1	0.8	14.0		前より遺存より正確
136	136A不明	8820		8	(11.1)		3.1	0.5	36.0	土段次	土層にほぼ納まつ可溶性。下層は平刃

下割遺跡 掘立柱建物観察表

遺構番号	位置		形状		面積		面積 (㎡)		形状		備考	
	20・21L・21M	N22・主	2階×1階	2階×1階	27.30	6.56	4.16	2010年度調査分				
	柱穴	柱径	平面形	断面形	幅	深さ	断面高さ	柱穴間隔			備考	
P213	有	楕円形	楕円形	楕円形	0.72×0.58	0.76	13.30	P213-P216	2.28	柱間距 0.13		
P216	有	楕円形	不明	不明	0.32×0.24	0.49	13.53	P216-P276	4.24			
P276	有	楕円形	不明	不明	0.35×0.28	0.73	13.30	P276-P286	4.16			
P286	有	楕円形	不明	不明	0.38×0.29	0.77	13.16	P286-P225南	4.12			
P225南	有	楕円形	不明	不明	0.59×0.32	0.84	13.15	P225南・15P15	2.36			
15P15	無	楕円形	楕円形	楕円形	0.63×0.38	0.27	13.68	15P15-P213	4.18			
P215	有	楕円形	不明	不明	0.31×0.23	0.63	13.41	P215-P216	0.68			
P277	有	楕円形	不明	不明	0.24×0.18	0.40	13.41	P277-P276	0.96			
P284	有	楕円形	不明	不明	0.22×0.18	0.46	13.48	P284-P286	0.94			
P225北	有	不明	不明	不明	0.59×0.32	0.66	13.33	P225北-P225南	0.70			
15P16	無	円形	楕円形	楕円形	0.37×0.34	0.28	13.65	15P16-15P15	0.56			

P225の幅解は南と北を合わせた幅解。

下割遺跡 井戸観察表

遺構番号	グロッド		平面形	断面形	長軸・直径	短軸・短径	深さ	断面高さ	新旧関係	備考
	20・21L・21M	N22・主								
SK212	20L・10	21L・6	円形	U字状	1.09	1.00	1.68	12.90	-15P72	2010年度調査分
15SK232	20L7・8		円形	U字状	1.26	1.18	2.31	11.47	-15SK248・15P61・15P62	
15SK44	20L17・22		円形	U字状	0.83	0.76	2.00	11.98		
15SK74	19L7・8		円形	楕円形	0.79	0.72	1.00	12.87	-15SK38	
15SK81	19M15		楕円形	U字状	1.09	0.87	1.20	12.54		
15SK82	19M15・20	20M11・10	楕円形	楕円形	1.24	1.03	1.24	12.50	>SD287	
15SK100	20M1		方形	楕円形	0.86	0.83	1.10	12.37	-明治の遺構の跡	
15SK107	20M3・8		楕円形	楕円形	0.83	0.66	1.20	12.06	-SK291	
15SK108	20M7		円形	U字状	0.88	0.83	1.78	12.08	-15SK162	
15SK111	18I19		円形	楕円形	0.89	0.85	0.78	12.12	-15P221	
15SK121	20I18・23		楕円形	U字状	1.00	0.81	1.42	12.62	-15P151	
15SK135	19J19		方形	楕円形	0.98	0.94	1.07	12.98		
15SK162	20M7		円形	楕円形	1.09	1.03	0.93	12.86	-15SK108	
15SK190	17I10・18I0		楕円形	U字状	1.62	1.33	1.97	12.10		
15SK214	19J18・22・23		円形	楕円形	1.22	1.10	1.77	12.35	-15P292・-15SK170	
15SK291	19J7		楕円形	台形状	0.89	0.68	0.71	13.26	-15SK170・15SK252	

下割遺跡 溝観察表

遺構番号	グロッド	長軸方向	平面形	断面形	長さ	幅	深さ	断面高さ	新旧関係	備考
SD50	20M	N-81・W	直線状	半円状	0.65～1.10	0.25	<15SD94			西側に延び
SD267	19・20M	N-70・W	直線状	台形状	14.18～	0.70～1.20	0.55	>SK291・<15SK212・15SD194		溝幅・溝底とも延長
SK209	19・20N	N-74・W	直線状	弧状	8.09～	0.50～0.70	0.26			
15SD44	19・20M	N-62・W	直線状	半円状	7.40～	0.45～0.95	0.17	>SD353・SD267		

下割遺跡 土坑観察表

遺構番号	グロッド	平面形	断面形	長軸・直径	短軸・短径	深さ	断面高さ	新旧関係	備考
SK291	20M2・4・8・9	楕円形	台形状	3.15	2.05	0.52	>15SK107・<SD267・P290		備考
15SK140	20M	不整形	半円状	0.71	0.59	0.39			
15SK163	18K10・15	方形	弧状	1.33	1.15	0.29			
15SK169	18J1・12	円形	U字状	1.62	1.47	0.70			
15SK170	18J14・15・19・20・25, 19J6・8・11・13・14・18・21～23	不整形	台形状	7.70	5.70	0.92	>15SK214・15SK291・15SK247・15P292, <15SK252		近所の土器出土
15SK180	20J1	円形	半円状	0.56	0.49	0.35			
15SK199	19I18・22・24, 19J3・4・9	不整形	台形状	4.65	2.40	0.78	<15SK252		近所の土器出土
15SK223	18I25, 19I21	楕円形	楕円形	1.17	0.83	0.70			
15SK252	19I21～23, 19J1・3・6・8	円形	半円状	3.65	3.30	0.80	>15SK291・15SK170・15SK199・15P298, <15SK305		近所の土器出土

下割遺跡 土器・陶磁器観察表

砂：砂粒、灰：石英、雲、金雲母、黒：黒色粒子、海：海輪状針、長：長石、チ：チャート

報告 番号	種類	器種	時期	出土地点			高さ (cm)	色澤		動土の 層(人)	付着物	使用状況		備考
				グリッド	通径	層位		内面	外面			内面	外面	
1	灰陶	瓶	前期	18119	1558111	3	20.8	(8.0)	淡黄色	灰・赤・黒	赤て具装?	平片タタキ	還元雰囲気不十分、磨粒	
2	青磁	瓶	13世紀後半	18119	1558111	3			緑灰色	緑灰色			緑釉非文	
47	土師器	罎	前期	20116		5	36.4	(13.8)	明黄褐色	にじみ/黄褐色	砂・赤	コシスス/ハケ	磨粒	

下割遺跡 近世陶磁器観察表

報告 番号	種類	器種	出土地点			高さ (cm)	色澤		付着物	支障など		備考
			グリッド	通径	層位		内面	外面		内面	外面	
3	瀬戸焼	瓶	1558252	3-4	18.2	(3.6)	6.2	灰・赤	緑釉、透明釉	緑釉、透明釉		灰皿焼、黒釉 (1558199)
4	瀬戸焼	瓶	1558252	4	9.2	0.6	4.0	灰・赤	透明釉	黒釉、透明釉、沈澱		磨粒、磨粒、19世紀前半
5	信楽焼	瓶	1558170	5	8.9	3.0	5.7		透明釉	透明釉、厚け出し高白		小砂陶、黒釉、高白粒3.0cm、19世紀前半・19世紀後半
6	肥前編刷	瓶蓋	1558170	1-5	10.2	3.1	3.3	灰・赤	西方摩文、コンニャク印判五弁瓦	赤灰文、灰文		黒釉 (1558252)?
7	肥前編刷	瓶蓋	1558252	2-3	12.0	6.8	4.4	灰・赤	西方摩文、コンニャク印判五弁瓦	赤灰文、灰文		黒釉 (1558170・1999)
8	肥前編刷	瓶蓋	1558170	5	10.6	3.4	3.3	灰・赤	蟹文	灰文、蟹脚文、蟹脚文		広葉陶、黒釉 (1558252)
9	肥前編刷	瓶蓋	1558170	5	11.6	6.2	6.4	灰・赤	蟹文	灰文、蟹脚文、蟹脚文		広葉陶、磨粒、黒釉
10	肥前編刷	瓶蓋	1558199	3	9.6	(2.2)			西方摩文	青磁釉		黒釉 (1558170)
11	肥前編刷	瓶蓋	1558252	3	10.8	(7.5)		灰・赤	西方摩文、コンニャク印判五弁瓦	青磁釉		
12	肥前編刷	瓶蓋	1558170	5	9.6	3.3		灰・赤	西方摩文、手組五弁瓦	青磁釉、高白内・赤内青線刺		
13	肥前編刷	瓶蓋	1558170	5	9.6	4.9	3.6	灰・赤		高白内高 (1700年製?)、黒釉		
14	肥前編刷	瓶蓋	1558170	5	12.4	5.8	4.2	灰・赤	コンニャク印判五弁瓦	高白内高 (1700年製?)、黒釉		
15	肥前編刷	瓶蓋	1558170	2	7.9	5.7	4.2		手組五弁瓦	刻捺文、丸文		中砂陶
16	肥前編刷	小鉢	1558252	2-3	6.8	3.4	3.0	灰・赤				19世紀後半
17	肥前編刷	小鉢	1558199	4	4.6	2.6	3.0	灰・赤		若灰文		黒釉 (1558170・252)
18	肥前編刷	小鉢	1558170	5	9.8	4.4	2.8		鉄粒	底部内面赤内、内面赤内磨粒、磨粒		手組陶、陶丸形、磨り付付高白、磨粒
19	肥前編刷	小鉢	1558199	3	10.0	2.0	6.0	灰・赤	灰文	灰文		
20	肥前編刷	中鉢	1558170	5	19.4	6.0	7.2	灰・赤	灰化変物	底の付動削牙		縦糸付漆、緑色、磨粒
21	肥前編刷	中鉢	1558170	5	12.0	3.6	4.0	灰・赤	粉子付文、底の付動削牙			底部内面赤内磨粒
22	肥前編刷	中鉢	1558170	5	14.0	3.4	7.0	灰・赤	蟹脚摩文、コンニャク印判五弁瓦、底の付動削牙			黒釉 (1558252)
23	肥前編刷	中鉢	1558170	5	18.2	3.6	6.2	灰・赤	蟹文、コンニャク印判五弁瓦、底の付動削牙			
24	肥前編刷	大鉢	1558170	5	22.0	2.9	14.2	灰・赤	蟹脚文			輪花、磨粒 (1558252)
25	肥前編刷	大鉢	1558170	5				灰・赤	蟹文、空文、鳥雲文	「面書具付」黒		磨粒
26	肥前編刷	鉢蓋	1558170	5	38.0	17.0	17.4	灰・赤	鉄粒	鉄粒		磨粒 (14世紀前半位(約3.5cm)、磨り付付高白、磨粒、18世紀前半・中葉にさかのぼる?)
27	肥前陶器	鉢	1558199	3	45.6	15.3	13.2		斑状文、磨粒			磨粒、18世紀前半・中葉にさかのぼる? (1558170・252)
28	越前焼	鉢	1558199	3	35.6	16.9	25.6	灰・赤		赤粒		磨粒、19世紀前半 (1558252)
29	肥前編刷	大入	1558170	5	10.0	(5.6)		灰・赤		赤粒文、青輪文		磨粒
30	肥前編刷	大入	1558199	3	10.8	8.2	5.2	灰・赤	灰化変物	一部青磁釉		磨粒 (1558170)
31	瀬戸焼	香炉	1558199	4	10.8	9.2	10.6		一部鉄粒	鉄粒		磨粒、18世紀後半
32	肥前編刷	香炉	1558199	4	8.2	4.8	3.0	灰・赤	一部青磁釉	青磁釉		磨粒、19世紀前半
33	肥前編刷	香炉	1558199	4	7.6	5.6	3.8	灰・赤	一部青磁釉	青磁釉		磨粒、19世紀前半、磨粒 (1558170)
34	信楽焼	瓶蓋	1558252	3	(6.6)	6.6			灰粒?	灰粒?		磨粒 (1558199)
35	肥前編刷	瓶蓋	1558170	5	2.0	10.1	4.2	灰・赤		底付磨文、磨粒状文		高白砂付、磨粒
36	肥前編刷	瓶蓋	1558170	5		(16.8)	6.8	灰・赤	灰化変物	灰文		研削研入、高白砂付、磨粒 (1558252)
37	肥前編刷	瓶蓋	1558170	5				灰・赤		色鉛筆、磨粒		
38	肥前編刷	水鉢	1558170	5	9.2	(0.8)		灰・赤	輪刺子	青磁文		赤色の底付、鉄片、磨粒
39	肥前編刷	水鉢	1558170	5	長径10.9、幅5.0、厚3.2		3.3	灰・赤				磨粒、磨粒 (1558252)
40	信楽焼	瓶蓋	1558170	5	7.2	5.0		灰・赤		灰粒		磨粒
41	信楽焼	瓶蓋	1558170	5	7.8	(0.5)		灰・赤		灰粒		底面下付文? (磨粒など)、磨粒
42	瀬戸焼	甕	1558199	3	14.0	11.8	9.8		鉄粒	鉄粒、灰粒、沈澱		内面付磨、磨粒、19世紀前半 (1558170・252)
43	肥前編刷	甕	1558170	5	8.8	(6.1)				鉄粒		磨粒
44	肥前陶器	甕	1558170	5	29.0	29.9	13.6			白化削子		手組陶、磨粒、18世紀後半・19世紀中葉 (1558252)
45	肥前編刷	甕	1558252	3-4	32.7	(11.6)		灰・赤	鉄粒、赤て具装(粉子?)	鉄粒、磨粒、赤帯		磨り付付高白、磨粒 (1558170)
46	瓦葺土器	大鉢	1558199	3	22.0	22.8	21.0	灰・赤	変灰、ナシ	ナシ		磨り付付高白、磨粒 (1558170)

下割遺跡 石製品観察表

報告 番号	器種	出土地点			法量 (cm-g)			石材	付着物	使用状況など	保存状況	備考
		グリッド	通径	層位	長さ	幅	厚さ					
48	磨石類	2017-8	1558252	9	12.0	7.5	6.5	828.5	安山岩	上下層・右面に磨打痕	完好	右側面は白雲母、1層・裏面は成層?
49	磨石	19M15	155881	5	12.6	8.7	3.2	419.3	安山岩	正面が使用面、磨粒状	右側面下付文	
51	磨石	20M2-8	1558207	3	(9.9)	4.4	3.0	131.7	緑長石	正面左右磨面が使用面、磨粒状、研入	下付文	磨石?
51	磨石	20M7	1558108	5	(5.4)	3.5	1.7	44.6	緑長石	正面左右磨面が使用面、磨粒状	下付文	安山岩
52	磨石	17J10、16R	1558193	4	(10.6)	12.9	4.4	785.9	安山岩	正面左右磨面が使用面、磨粒状	右側面下付文	
53	磨石	18-19J	1558170	5	14.7	5.9	2.5	361.6	板状石?	磨粒、磨粒状	ほぼ完成	磨石
54	磨石	18-19J	1558170	5	12.3	5.0	2.0	265.3	緑長石	正面左右磨面が使用面、磨粒、磨粒状	左上端欠	安山岩
55	磨石	18-19J	1558170	7	14.3	6.5	5.3	687.1	砂岩	正面左右磨面が使用面	ほぼ完成	磨石、磨粒、磨石
56	用通手磨	18-19J	1558170	5	13.0	8.5	4.0	497.0	安山岩	正面に内面、裏面使用面なし	右側面欠	
57	建築材料?	18-19J	1558170	5	(27.8)	13.4	12.1	2307.8	緑長石	全面に加工痕、約6cm×約2.7cmの1辺に	上面磨面欠	下層面磨面付

観察表

下割遺跡 木製品観察表

発掘調査 品目	遺跡名	出土地況			遺長 (cm)		遺存状況	本取り	備考
		層位	深さ	幅	長さ	幅			
品目	遺跡名	2003-R	108R107	A	31.3	10.0	3.1	1/4文	板行 表面の縦線磨削、表面遺存、ホトリノ裏
品目	遺跡名	19218-22-23	109R214	11	30.0	12.5	1.0	1/2文	板行 加工痕、線状痕、文字

二反割遺跡 掘立柱建物観察表 (1)

単位: cm

遺跡番号	位置	板行方向	間数				距離 (m)	板行	備考
			柱数	平面形	断面形	間隔			
S8124	5-6F	N48°E	2間×2間			16.00	5.00	3.30	2011年度調査分
	柱穴	柱数	平面形	断面形	間隔	深さ	底面標高	柱穴間隔	備考
	P116	無	円形	U字状	0.20×0.20	0.50	14.07	P116-15P557	3.20
	15P557	無	楕円形	U字状	0.19×0.15	0.14	14.34	15P557-15P381	1.60
	15P381	無	円形	U字状	0.25×0.22	0.36	14.12	15P381-15P383	1.75
	15P383	無	円形	U字状	0.21×0.27	0.49	13.96	15P383-P112	3.20
	P112	無	円形	U字状	0.22×0.20	0.24	14.17	P112-P113	1.85
	P113	無	楕円形	U字状	0.28×0.22	0.42	14.03	P113-P115	1.80
	P115	無	円形	扁斗状	0.31×0.28	0.24	14.33		
	P114	無	円形	U字状	0.22×0.21	0.38	14.10	P114-P114 P114-P112	1.60 1.75
158R354	11R-L	N0°	3間×1間			4.75±	8.78±	5.10	備考
	柱穴	柱数	平面形	断面形	間隔	深さ	底面標高	柱穴間隔	備考
	15P223	無	楕円形?	U字状	0.47×0.34	0.31	13.59	15P223-15P229	3.44
	15P229	有	楕円形	台形状	0.38×0.31	0.52	13.44	15P229-15P15	5.10 柱線跡 0.15
	15P15	無	楕円形	V字状	0.63×0.46	0.66	13.60	15P15-15P36	3.21
	15P36	無	円形	U字状	0.35×0.25	0.43	13.52	15P36-15P20	3.25
	15P20	無	楕円形	U字状	0.45×0.36	0.30	13.62	15P20-15P36	2.32
15P36	有	楕円形	台形状	0.31×0.25	0.38	13.62	-	- 柱線跡 0.13	
158R355	11R-L	N45°	3間×1間			2.73±	4.28±	5.61	備考
	柱穴	柱数	平面形	断面形	間隔	深さ	底面標高	柱穴間隔	備考
	15P28	有	楕円形	台形状	0.43×0.33	0.34	13.63	15P28-15P14	5.61 当りあり
	15P14	無	円形	扁斗状?	0.45×0.39	0.50	13.40	15P14-15P24	2.70
	15P24	無	円形	扁斗状	0.28×0.25	0.35	13.70	15P24-15P21	2.36
	15P21	有	円形	台形状	0.37×0.32	0.34	13.62	-	- 当りあり
158R356	10-11J-K	N75°W	5間×4間 (長さ3間×2間)			83.00 (長さ22.45)	10.00 (長さ6.10)	6.36 (長さ5.68)	備考
	柱穴 (番号)	柱数	平面形	断面形	間隔	深さ	底面標高	柱穴間隔	備考
	15P237	無	円形	扁斗状?	0.36×0.35	0.51	13.57	15P237-15P170	1.94
	15P170	有	楕円形	台形状	0.24×0.19	0.47	13.60	15P170-15P159	2.66 柱線跡 0.12
	15P159	無	楕円形	台形状	0.32×0.24	0.35	13.72	15P159-15P338	1.68
	15P338	有	円形	U字状	0.35×0.30	0.41	13.65	15P338-15P145	1.84 柱線跡 0.08
	15P145	有	円形	U字状	0.23×0.23	0.20	13.84	15P145-15P146	1.82
	15P146	無	円形	U字状	0.26×0.25	0.31	13.71	15P146-15P119	1.70
	15P119	有	円形	扁斗状?	0.31×0.30	0.29	13.73	15P119-15P151	2.80 柱線跡 0.14
	15P151	無	円形	扁斗状	0.33×0.30	0.43	13.58	15P151-15P231	1.84
	15P231	無	楕円形	階段状	0.29×0.22	0.19	13.81	15P231-15P232	1.98 柱線跡 0.05
	15P232	無	楕円形	平円状	0.31×0.22	0.13	13.93	15P232-15P237	2.03
	柱穴 (番号)	柱数	平面形	断面形	間隔	深さ	底面標高	柱穴間隔	備考
	15P187	有	円形	U字状	0.27×0.24	0.24	13.84	15P187-15P189	1.76
	15P189	無	円形	扁斗状	0.24×0.21	0.46	13.66	15P189-15P180	1.94
	15P180	無	円形	台形状	0.18×0.17	0.20	13.92	15P180-15P160	2.60
	15P160	無	楕円形	扁斗状	0.21×0.24	0.27	13.80	15P160-15P170	1.44
15P170	無	楕円形	U字状	0.33×0.26	0.31	13.77	15P170-15P362	1.86	
15P362	無	円形	V字状	0.28×0.24	0.26	13.73	15P362-15P167	1.74	
15P167	無	木榿形	扁斗状	0.35×0.23	0.27	13.75	15P167-15P139	1.26	
15P139	有	円形	U字状	0.30×0.26	0.27	13.78	15P139-15P276	1.71 柱線跡 0.13	
15P276	無	円形	扁斗状	0.25×0.23	0.44	13.58	15P276-15P114	1.63	
15P114	有	円形	U字状	0.27×0.23	0.42	13.60	15P114-15P124	1.70 柱線跡 0.06	
15P124	有	円形	U字状	0.22×0.21	0.46	13.54	15P124-15P146	1.48 柱線跡 0.08	
15P146	無	楕円形	U字状	0.20×0.18	0.23	13.77	15P146-15P230	3.00	
15P230	有	円形	U字状	0.22×0.19	0.28	13.62	15P230-15P169	1.89 柱線跡 0.10	
15P169	無	円形	V字状	0.21×0.18	0.16	13.81	15P169-15P158	1.59	
15P158	有	方形	扁斗状	0.27×0.25	0.38	13.68	15P158-15P236	1.34 柱線跡 0.09	
15P236	無	円形	不明	0.28×0.26	0.19	13.87	15P236-15P207	1.70	
15P207	無	円形	扁斗状	0.22×0.19	0.17	13.88	15P207-15P232	1.74	
158R425	11J-K	N31°W	2間×2間			8.64	3.40	2.64	備考
	柱穴	柱数	平面形	断面形	間隔	深さ	底面標高	柱穴間隔	備考
	15P97	無	円形	U字状	0.24×0.22	0.32	13.67	15P97-15P97	1.56
	15P97	有	楕円形	平円状	0.25×0.20	0.25	13.66	15P97-15P101	1.60 当りあり
	15P101	無	円形	扁斗状	0.23×0.22	0.46	13.56	15P101-15P240	1.21
	15P240	無	円形	不明	0.22×0.22	0.13	13.87	15P240-15P239	1.32
	15P239	無	楕円形	不明	0.21×0.16	0.32	13.66	15P239-15P28	1.62
	15P28	無	円形	U字状?	0.27×0.25	0.25	13.76	15P28-15P36	1.86
	15P36	有	楕円形	階段状	0.35×0.25	0.44	13.52	15P36-15P50	1.22 柱線跡 0.16
	15P50	有	円形	階段状	0.31×0.31	0.31	13.69	15P50-15P57	1.12

## 二反割通跡 掘立柱建物観察表(2)

単位:m

連絡番号	位置	掘立方向	断面	面積 (㎡)	形状	層行	備考	
155R436	11.111-J	掘立	3階×11階	46.22	7.86	5.88 (2階4.70)		
	掘立(金庫)	柱状	平面形	階段	壁	底面概高	穴内階高	
	15P42	無	格内形	凸形状	0.46×0.33	0.42	13.59	15P42-15P44 2.54
	15P44	無	格内形	箱状	0.28×0.23	0.45	13.57	15P44-15P47 3.14
	15P47	無	格内形	凸形状	0.37×0.24	0.42	13.68	15P47-15P48 2.18 柱径径 0.13
	15P48	無	格内形	階段状	0.53×0.29	0.60	13.66	15P48-15P48 4.70
	15P48	無	内形	凸形状	0.33×0.29	0.18	13.94	15P48-15P18 2.16
	15P18	有	内形	扇斗状	0.29×0.26	0.35	13.73	15P18-15P49 3.04 柱径径 0.10
	15P49	無	方形	U字状	0.42×0.36	0.45	13.56	15P49-15P12 2.48
	15P12	無	格内形	盒状	0.32×0.23	0.10	13.87	15P12-15P42 4.70
	掘立(金庫)	柱状	平面形	階段	壁	底面概高	穴内階高	
	15P53	無	内形	箱状	0.18×0.18	0.21	13.66	15P53-15P10 2.62
	15P10	無	格内形	箱状	0.21×0.16	0.12	13.88	15P10-15P22 2.94
	15P22	無	格内形	階段状?	0.31×0.22	0.19	13.88	15P22-15P35 2.42
15P35	無	木彫形	扇斗状	0.26×0.27	0.37	13.74	15P35-15P48 1.02	
連絡番号	位置	掘立方向	断面	面積 (㎡)	形状	層行	備考	
10-111-J	N-4-E	2階×2階	10.52	3.35	3.14			
掘立	柱状	平面形	階段	壁	底面概高	穴内階高		
15P18	無	格内形	凸形状	0.23×0.19	0.41	13.75m	15P18-15P12 2.00	
15P12	有	内形	扇斗状?	0.25×0.22	0.44	13.72m	15P12-15P18 1.34 柱径径 0.14	
15P18	無	内形	U字状	0.18×0.18	0.39	13.76m	15P18-15P18 1.28	
15P184	有	格内形	U字状	0.21×0.17	0.22	13.94m	15P184-15P13 1.49 穴内水口	
15P163	有	格内形	扇斗状?	0.27×0.21	0.52	13.61m	15P163-15P79 1.25 柱径径 0.12	
15P479	有	格内形	扇斗状?	0.30×0.21	0.32	13.80m	15P479-15P59 2.10 柱径径 0.08	
15P59	無	内形	凸形状	0.19×0.17	0.30	13.81m	15P59-15P11 3.14	
連絡番号	位置	掘立方向	断面	面積 (㎡)	形状	層行	備考	
6-7E-F	N40°-W	3階×4階	54.00	8.06	6.70			
掘立	柱状	平面形	階段	壁	底面概高	穴内階高		
15P42	無	格内形	凸形状	0.24×0.19	0.19	14.26	15P42-15P43 1.55	
15P43	無	内形	半円状	0.24×0.21	0.13	14.36	15P43-15P59 1.67	
15P59	無	格内形	半円状?	0.38×0.30	0.18	14.26	15P59-15P43 1.60	
15P43	有	格内形	U字状	0.27×0.22	0.21	14.26	15P43-15P18 1.88 柱径径 0.11	
15P518	有	格内形	扇斗状	0.29×0.24	0.38	14.05	15P518-15P15 1.36 柱径径 0.11	
15P515	無	内形?	扇斗状	0.28×0.13	0.45	14.08	15P515-15P60 1.58	
15P560	有	格内形	U字状	0.33×0.27	0.43	14.06	15P560-15P37 1.70 柱径径 0.19	
15P37	無	格内形	半円状	0.34×0.28	0.32	14.16	15P37-15P73 1.65	
15P473	無	内形?	箱状	0.18×0.14	0.21	14.19	15P473-15P49 1.43	
15P496	無	内形	盒状	0.33×0.30	0.12	14.35	15P496-15P95 1.74	
15P596	無	木彫形	半円状	0.32×0.28	0.25	14.16	15P596-15P97 1.66	
15P397	無	格内形	凸形状	0.29×0.22	0.29	14.20	-	
15P482	無	内形	半円状	0.22×0.19	0.12	14.29	15P482-15P16 1.58	
15P516	無	方形?	凸形状	0.41×0.37	0.14	14.28	15P516-15P98 1.59	
15P598	無	内形	凸形状	0.23×0.20	0.34	14.11	15P598-15P40 3.63	
15P346	無	内形	U字状	0.27×0.26	0.36	14.10	15P346-15P40 1.92	
15P440	無	格内形	凸形状	0.27×0.22	0.24	14.15	15P440-15P380 1.68	
15P389	無	方形	U字状	0.31×0.30	0.19	14.18	15P389-15P388 1.72	
15P398	無	格内形	盒状	0.26×0.16	0.11	14.35	15P398-15P495 3.34	
15P495	無	内形	箱状	0.26×0.23	0.13	14.23	15P495-15P10 1.64	
15P510	無	格内形	凸形状	0.37×0.29	0.18	14.22	15P510-15P19 1.54	
15P519	無	格内形	盒状	0.16×0.11	0.05	14.28	15P519-15P72 1.34	
15P372	無	内形	U字状	0.23×0.22	0.32	14.10	15P372-15P48 1.80	
15P348	無	木彫形	扇斗状	0.22×0.19	0.29	14.06	15P348-15P49 1.33	
15P549	無	内形	U字状	0.28×0.25	0.32	14.02	15P549-15P439 1.60	
15P439	無	内形	盒状	0.32×0.29	0.15	14.16	15P439-15P440 2.40	
15P446	有	内形	扇斗状?	0.30×0.27	0.36	13.97	- 柱径径 0.10	
連絡番号	位置	掘立方向	断面	面積 (㎡)	形状	層行	備考	
8-10P-G	N54°-E	3階×1階	41.97	5.78	4.78			
掘立	柱状	平面形	階段	壁	底面概高	穴内階高		
15P11	無	内形	半円状	0.34×0.29	0.33	14.38	15P11-15P12 2.45	
15P312	無	内形	凸形状	0.28×0.34	0.16	14.42	15P312-15P282 1.99	
15P282	無	木彫形	凸形状	0.34×0.31	0.18	14.36	15P282-15P311 1.98	
15P311	有	内形	U字状	0.34×0.30	0.33	14.18	15P311-15P514 2.36 柱径径 0.17	
15P514	無	内形	凸形状	0.22×0.20	0.23	14.18	-	
15P270	無	内形	凸形状	0.47×0.42	0.48	14.20	15P270-15P267 1.82	
15P267	無	格内形	V字状	0.37	-0.25	0.31	14.40	15P267-15P278 2.66
15P278	有	内形	半円状	0.24×0.24	0.13	14.05	15P278-15P511 4.78 柱径径 0.07	
連絡番号	位置	掘立方向	断面	面積 (㎡)	形状	層行	備考	
82-9-10R	N77°-W	3階×1階	43.03	10.10	4.26			
掘立	柱状	平面形	階段	壁	底面概高	穴内階高		
15P242	無	内形	扇斗状?	0.24×0.22	0.34	14.12	15P242-15P234 2.24	
15P234	無	内形	凸形状	0.30×0.27	0.26	14.18	15P234-15P231 3.57	
15P231	無	乱方形	扇斗状?	0.39×0.30	0.18	14.20	15P231-15P216 3.39	
15P216	無	格内形	半円状	0.49×0.30	0.31	14.00	15P216-15P226 4.20	
15P226	無	乱方形	V字状	0.56×0.29	0.41	13.84	15P226-15P236 3.18	
15P236	無	内形	不明	0.29×0.28	0.12	14.13	15P236-15P251 3.74	
15P251	無	格内形	半円状?	0.32×0.24	0.17	14.15	15P251-15P281 3.18	
15P281	無	格内形	不明	0.41×0.28	0.17	14.20	15P281-15P242 4.28	

観 察 表

二反別通跡 擬立柱建物観察表 (3)

単位 : cm

通跡番号	位置	移行方向	間数		距離 (m)	移行	移行	備考	
7・8G	N40°E	南	2階×2階	2階×2階	9.15	3.52	2.60		
1588564	柱穴	柱状	平面形	断面形	幅幅	高さ	底面標高	新旧関係	
	15P472	無	円形	U字状	0.20×0.18	0.35	14.07	15P472-15P314	1.06
	15P514	無	楕円形	U字状	0.31×0.22	0.33	14.08	15P314-15P306	1.43
	15P306	無	円形	扇斗状	0.28×0.24	0.19	14.29	15P306-15P333	1.17
	15P233	有	円形	台形状	0.20×0.20	0.22	14.26	15P333-15P427	1.82 柱継接 0.07
	15P427	有	方形	台形状	0.24×0.24	0.27	14.18	15P427-15P487	1.70 柱継接 0.12
15P487	無	円形	U字状	0.20×0.19	0.40	14.03	15P487-15P341	1.30	
15P341	無	楕円形	U字状	0.26×0.21	0.30	14.12	—	—	
位置	移行方向	間数		距離 (m)	移行	移行	備考		
9F・G	N45°E	2階×2階	2階×2階	12.93	3.10	4.17			
1588565	柱穴	柱状	平面形	断面形	幅幅	高さ	底面標高	新旧関係	
	15P309	無	楕円形	V字状	0.32×0.22	0.22	14.48	15P309-15P271	3.10
	15P271	無	円形	台形状	0.32×0.30	0.76	13.87	—	—
	15P501	有	長方形	階段状?	0.35×0.22	0.45	14.23	15P501-15P272	1.96 柱継接 0.10
	15P272	無	円形	台形状	0.19×0.18	0.08	14.61	15P272-15P309	2.21
位置	移行方向	間数		距離 (m)	移行	移行	備考		
9F・G	N45°E	2階×2階	2階×2階	12.02	2.67	4.50			
1588566	柱穴	柱状	平面形	断面形	幅幅	高さ	底面標高	新旧関係	
	15P294	無	楕円形	U字状	0.38×0.25	0.32	14.38	15P294-15P269	2.67
	15P269	無	楕円形	V字状	0.37×0.20	0.49	14.17	—	—
	15P303	無	楕円形	扇状	0.18×0.15	0.25	14.42	15P303-15P249	2.06
	15P249	無	円形	半円状	0.28×0.24	0.18	14.52	15P249-15P294	2.50
位置	移行方向	間数		距離 (m)	移行	移行	備考		
8・9H・I	N25°E	3階×3階	3階×3階	32.99 <th>8.52 <th>6.22</th> </th>	8.52 <th>6.22</th>	6.22			
1588567	柱穴	柱状	平面形	断面形	幅幅	高さ	底面標高	新旧関係	
	15P291	無	円形	台形状	0.54×0.47	0.39	14.23	15P291-15P418	2.92
	15P418	無	楕円形	U字状	0.40×0.30	0.58	14.14	15P418-15P442	2.54
	15P442	無	楕円形	U字状	0.24×0.17	0.28	14.47	15P442-15P491	3.04
	15P491	無	楕円形	扇状	0.36×0.29	0.53	14.27	15P491-15P478	3.10
	15P478	無	楕円形	半円状	0.38×0.31	0.23	14.50	—	—
	15P568	無	楕円形	扇斗状?	0.34×0.26	0.26	14.50	15P568-15P419	2.44
	15P419	無	円形	U字状	0.40×0.34	0.30	14.42	15P419-15P253	2.98
	15P253	無	楕円形	弧状	0.70×0.44	0.24	14.37	15P253-15P403	3.30
	15P403	無	楕円形	半円状?	0.55×0.41	0.30	14.27	15P403-15P291	2.80

二反別通跡 井戸観察表

単位 : cm

通跡番号	グッド	平面形	断面形	長幅	短幅	高さ	底面標高	新旧関係など
1588300	1125	円形	円形	0.65	0.64	0.98	12.58m	1588354と重複するが、新旧関係不明
1588370	1211B・23	円形	扇斗状	1.75	1.54	1.91	12.04m	158831A・15P40・15P60
1588130	1016・7・11・12	円形	V字状	2.03	1.70	1.78	12.32m	1588356
1588132	1122・23	円形	U字状	0.95	0.88	1.31	12.79m	
1588350	7P15・20	円形	台形状	1.05	0.96	1.06	13.20m	
1588471	7E2・3・7・8	円形	U字状?	1.92	1.77	1.92	12.60m	1588561-15P15・1588371

二反別通跡 溝観察表

単位 : cm

通跡番号	グッド	長幅方向	平面形	断面形	長幅	短幅	高さ	底面標高	新旧関係など
158D1A 158D1B 158D1C 158D1D	11K, 11・12E, 12・13E	N33°W	直線状	台形状 (A) 弧状 (B) 半円形 (C) 半円形 (D)	31.65	0.78 (A) 0.76 (B) 0.70・1 (C) 1.18 (D)	0.32 (A) 0.24 (B) 0.35 (C) 0.42 (D)		158D1A-158D34-15P23・158D55, 158D1A-158D70・15P46 4階の支溝 (A-B-C-D)
158D176	9F・1	N4°E	直線状	台形状	21.70	1.00	0.25		15P31・15P36, 1588566と重複するが、新旧関係不明
158D025	6・7E	N33°E	直線状	弧状	5.51	0.47	0.14		1588474, <1588561-15P50
158D071	6・7F, 7E	N45°W	直線状	溝段状	15.60	1.01	0.25		1588561-15P75・15P16・15P18・ 15P519・1588471・1588474・15P556

二反別通跡 土坑・ピット観察表

単位 : cm

通跡番号	グッド	平面形	断面形	長幅・短幅	知幅・知深	深さ	備考
158K21	11K14・19	楕円形	U字状	0.90	0.64	0.20	新旧関係
158K51	11K23・24	不整形	弧状	1.24	1.22	0.18	1588354F
158K305	8G16・17	長方形	弧状	1.68	1.30	0.23	+1588564・15P36
158K384	9H11・16	楕円形	弧状	0.97	0.67	0.14	
158K447	6H9・10・15	不整形	弧状	1.26	1.10	0.27	
158K354	8F10	楕円形	弧状	0.90	0.65	0.10	1588602F
15P560	11H18・21	円形	U字状	0.56	0.51	0.72	

二反別通跡 性格不明遺構観察表

単位 : cm

通跡番号	グッド	平面形	断面形	長幅	短幅	深さ	備考
158X435	8H4	楕円形	台形状	1.02	0.70	0.25	1階層? 8階層, 1588567F

## 二反割通跡 土器・陶磁器観察表

砂：砂粒、灰：石英、雲、金雲母、黒：黒色粒子、海：海綿付針、長：長石、子：チャート

報告番号	種類	器種	時期	出土地点			法量 (cm)				色調		割上の 厚さ	付着物		調整など		備考		
				グリッド	通幅	縦位	口径	高さ	底径	内面	外面	内面		外面	内面	外面				
1	土師器	鉢?	1～3前期	89H4	155X435	腹土	17.2	(5.0)				にがい黄褐色	灰黄褐色	砂・雲・灰			ハケ	ナデ	割上顆粒、外面焼熟	
2	土師器	甕	1～3前期	89H4	155X435	腹土	20.0	(6.4)				にがい黄褐色	にがい黄褐色	砂・灰			ハケ	ハケ	割上顆粒、焼成不良、摩耗	
3	土師器	甕	1～3前期	89H4	155X435	腹土	16.4	(5.6)				明赤褐色	赤褐色	砂・雲・灰			ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ミガキ?	割上結晶、焼成良好	
4	土師器	甕	1～3前期	89H4	155X435	腹土		(3.8)				明赤褐色	明赤褐色	砂・灰			ナデ・ハケ	ハケ・ケズリ		
5	土師器	甕	1～3前期	89H4	155X435	腹土	16.0	(3.4)				にがい黄褐色	にがい黄褐色	砂・灰			ナデ・ハケ	ハケ	割上顆粒、摩耗	
6	土師器	甕	1～3前期	89H4	155X435	腹土		(4.0)				明赤褐色	明赤褐色	砂・雲・灰			ナデ・ハケ	ナデ	割上結晶	
7	土師器	甕	1～3前期	89H4	155X435	腹土		(12.5)				明赤褐色	明赤褐色	砂・雲・灰			ナデ・ハケ	ハケ	内面黒染、摩耗	
8	土師器?	鉢?		782・3・7・8	1598・471	32		(1.5)	5.4			灰黄褐色	灰白色	長?					底面に赤褐色匂子? 割上結晶、摩耗	
9	土師器	甕	1～3前期			8a	15.8	26.2	10.0			にがい黄褐色	にがい黄褐色	砂・灰	コケ?		ハケ	ハケ・ケズリ・ミガキ	割上結晶	
10	土師器	甕	1～3前期?			8a	(2.9)	10.6				明褐色	黄褐色	砂・雲・灰			炭化物	ナデ?	ケズリ	底面青黒一部分ケズリ
11	灰土器	無白粉	1～3前期			8a	11.5	3.8	7.4			灰黄色	灰黄色	灰					底面ハケケズリ、底面ハケ起子 OK、割上結晶	

## 二反割通跡 土製品観察表

報告番号	器種	出土地点			法量 (cm・g)				調整・使用など		通行状況	備考
		グリッド	通幅	縦位	長さ	幅	厚さ	重さ				
12	内陸系土製品	9G2		7/4	(7.5)			(31.5)	赤・ハケ・ケズリ?、内?ナデ?・ハケ	上半部・下半部欠	外面焼熟、直径8～10cm、輪縁直	

## 二反割通跡 石製品観察表

報告番号	器種	出土地点			法量 (cm・kg)				石種	付着物	使用状況など	通行状況	備考
		グリッド	通幅	縦位	長さ	幅	厚さ	重さ					
13	石造物	10J6・7・11・12	1568・130	12	27.8	23.5	9.5	8.63	安山岩		正面加工跡	下部に赤の短線状欠	石造物? 焼熟

## 二反割通跡 木製品観察表

報告番号	器種	出土地点			法量 (cm)				通行状況	本取?	備考	
		グリッド	通幅	縦位	長さ	幅	厚さ	重さ				
14	埋没不明	7E5	158D371	39	17.3	11.3	3.5		上端石割面欠	釘?	埋没下駄、釘穴あり、右正面に浅い凹み2箇所	
15	縄文木製品	7E2・3・7・8	1598・471	35	12.8	2.7	1.6		上端欠	平磨	正面に磨反残る、裏面加工跡、年代測定、古エテ属	

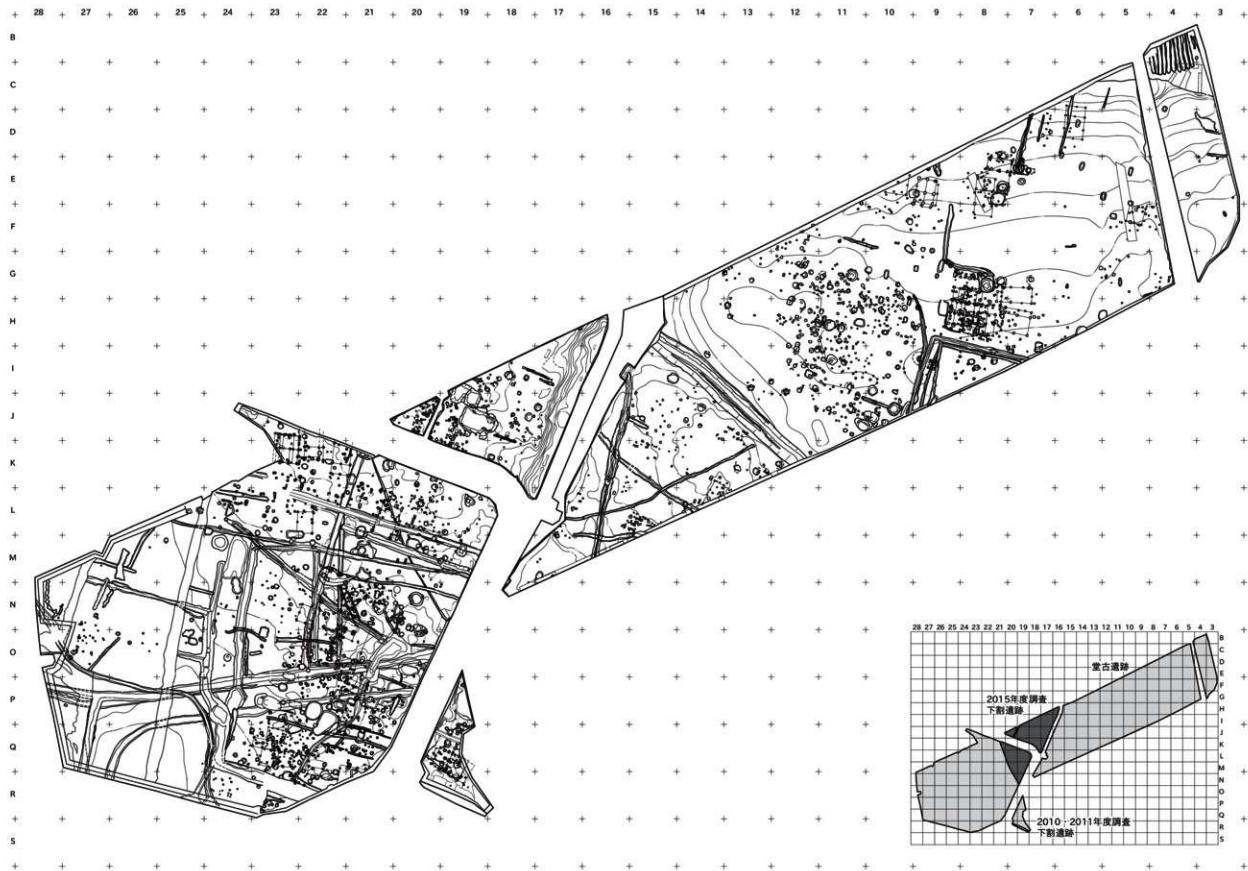
## 二反割通跡 金属製品観察表

報告番号	器種	出土地点			法量 (cm・g)				通行状況	備考	
		グリッド	通幅	縦位	長さ	幅	厚さ	重さ			
16	用途不明	7E5	158D371	2	8.4	1.3	0.9	20.8	不明		
17	用途不明	11K2・7	16P94	1	(2.9)	(6.3)	0.6	46.1	上縁以外短線欠?		跡などか?

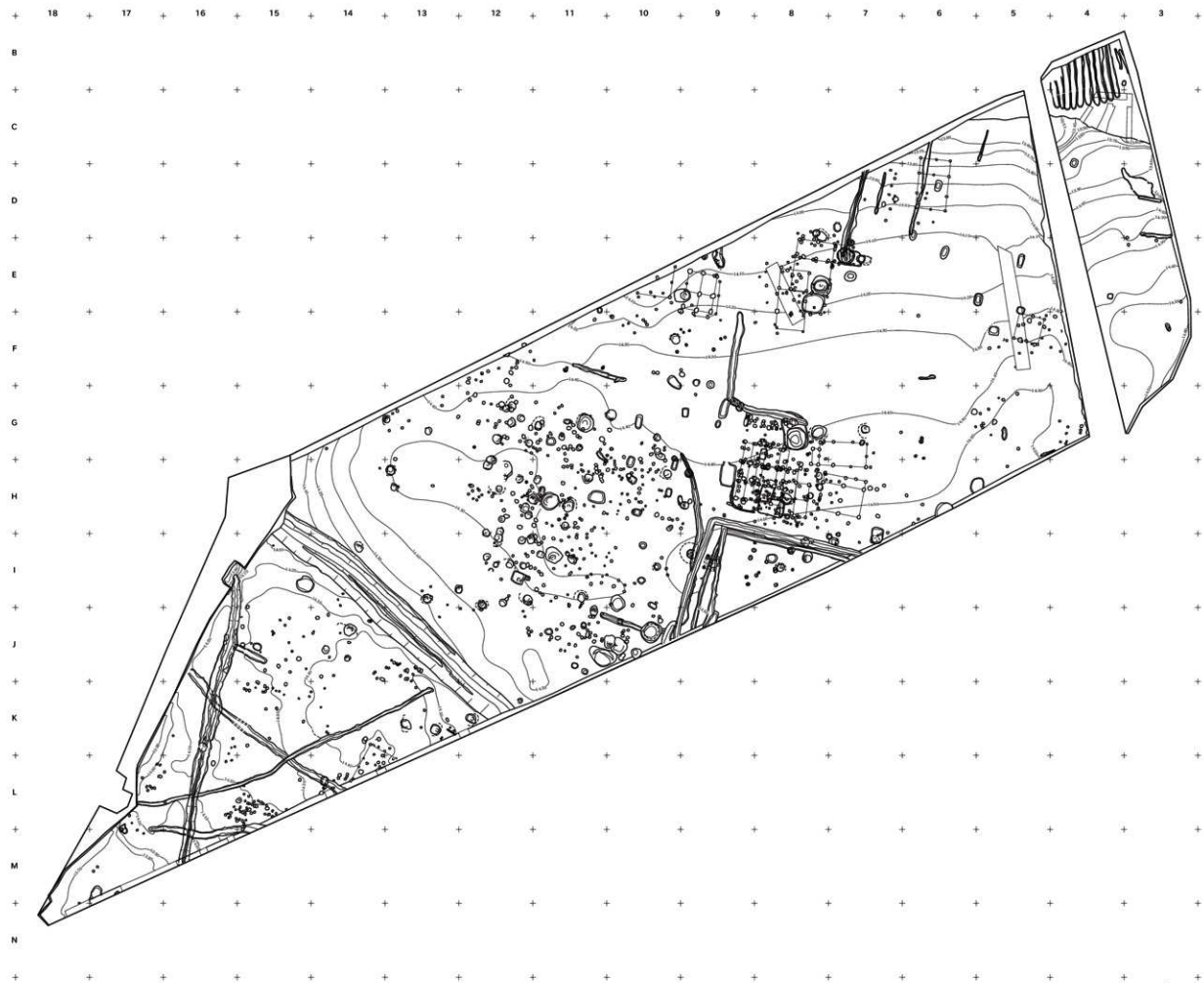
## 図 版

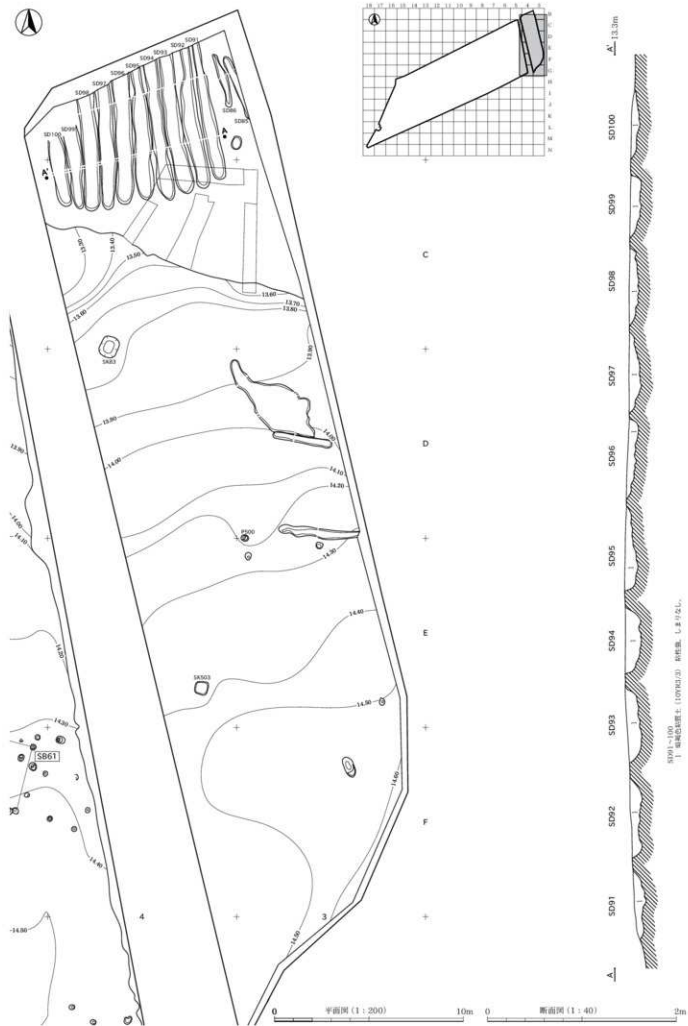
### 凡 例

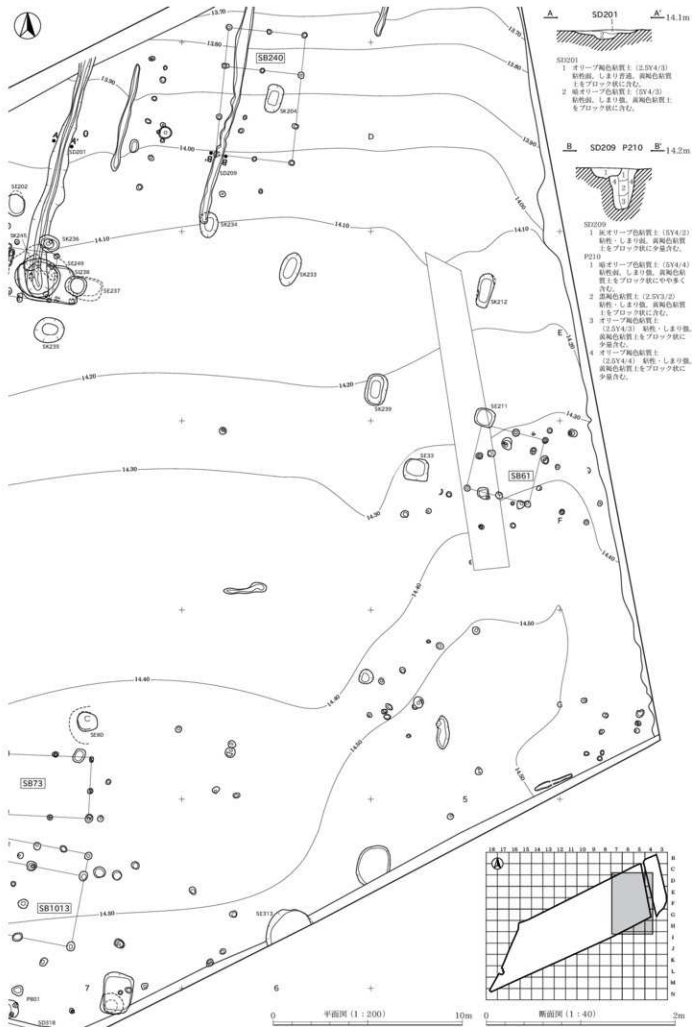
- 1 土器・陶磁器の断面は、須恵器は塗りつぶし、その他は白抜きとした。
- 2 付着物などはスクリーントーンで表示し、各図版に凡例を示した。
- 3 木製品の木目は、木取り部位表示を目的としているため、年輪幅は実際を示していない。













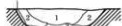
**A** SD150 **A'** 14.2m



SD150

- 1 黄褐色粘土 (10YR3/4)  
粘土・しまり普通。黄褐色粘土をブロック状にやや多く含む。

**B** SD151 **B'** 14.4m



SD151 (B-B')

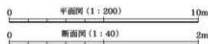
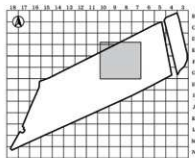
- 1 黄褐色粘土 (10YR3/1)  
粘土・しまり普通。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色粘土 (10YR2/2)  
粘土普通。しまり多。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 3 黄褐色粘土 (10YR5/8)  
粘土。しまり普通。黄褐色粘土を多く含む。

**C** SD151 **C'** 14.5m

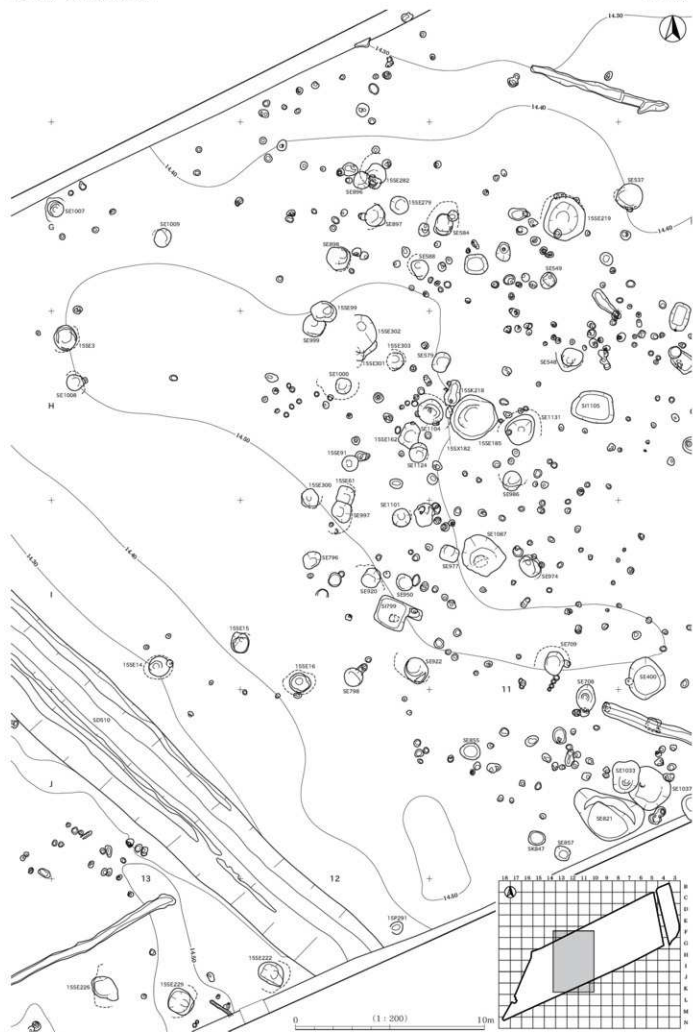


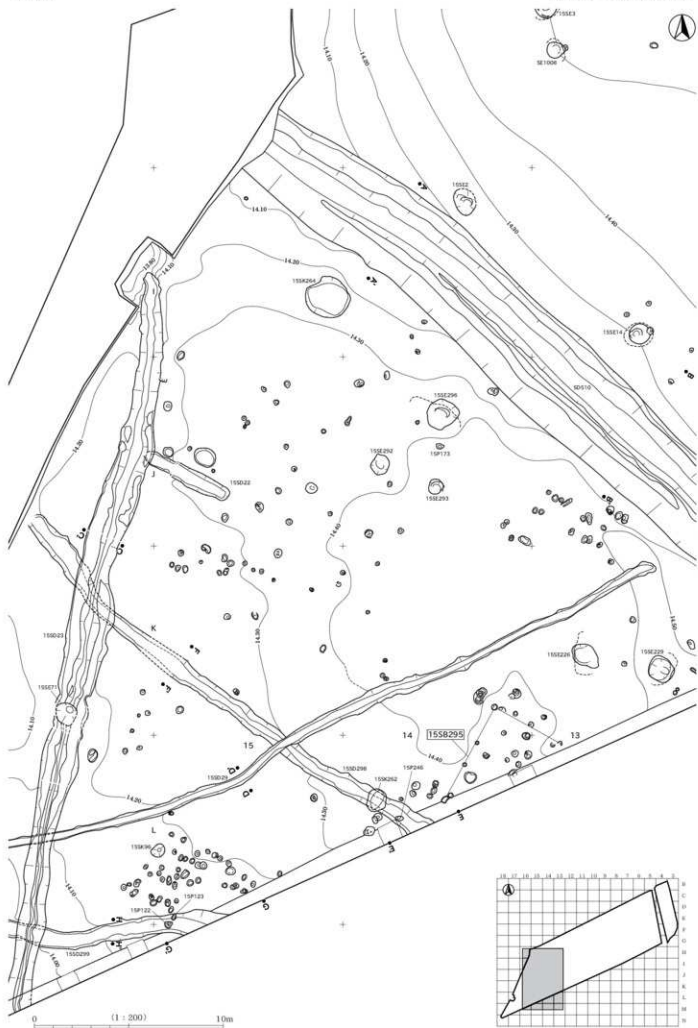
SD151 (C-C')

- 1 オリーブ褐色粘土 (2.5Y4/4)  
粘土。しまり普通。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 2 灰褐色粘土 (7.5Y5/3)  
粘土。しまり普通。黄褐色粘土をブロック状に多く含む。



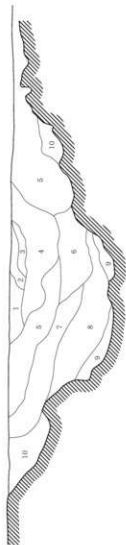






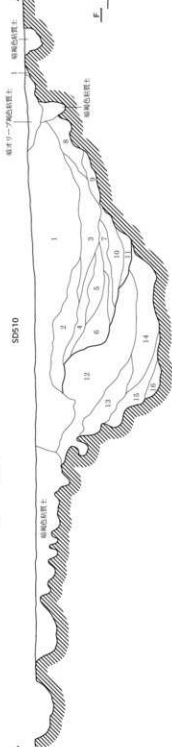
A' 14.4m

SD510



SD510

14.5m



- SD510 (A-A') (107932.5) 埋蔵土質、土層厚薄、  
 2 二土層埋蔵土質 (107942.2) 埋蔵土質、土層厚薄、  
 3 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 4 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 5 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 6 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 7 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 8 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 9 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 10 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、

- SD510 (B-B') (107931.1) 埋蔵土質、土層厚薄、  
 2 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 3 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 4 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 5 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 6 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 7 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 8 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 9 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 10 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 11 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 12 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 13 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 14 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 15 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、  
 16 埋蔵土質、土層厚薄、土層厚薄、土層厚薄、

A

B

C' 14.6m

155023



- 155023  
 1 埋蔵土質、土層厚薄、  
 2 埋蔵土質、土層厚薄、  
 3 埋蔵土質、土層厚薄、  
 4 埋蔵土質、土層厚薄、  
 5 二土層埋蔵土質、土層厚薄、

D' 14.3m

155029



- 155029  
 1 埋蔵土質、土層厚薄、  
 2 埋蔵土質、土層厚薄、  
 3 埋蔵土質、土層厚薄、  
 4 埋蔵土質、土層厚薄、

E' 14.7m

155026



- 155026  
 1 埋蔵土質、土層厚薄、埋蔵土質、土層厚薄、  
 2 埋蔵土質、土層厚薄、埋蔵土質、土層厚薄、  
 3 埋蔵土質、土層厚薄、埋蔵土質、土層厚薄、  
 4 埋蔵土質、土層厚薄、埋蔵土質、土層厚薄、  
 5 埋蔵土質、土層厚薄、埋蔵土質、土層厚薄、

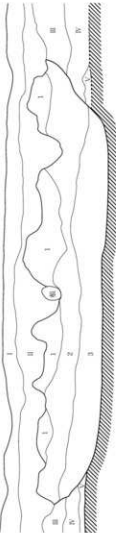
C

D

E

1550299

14.6m



H' 13.6m

1550299



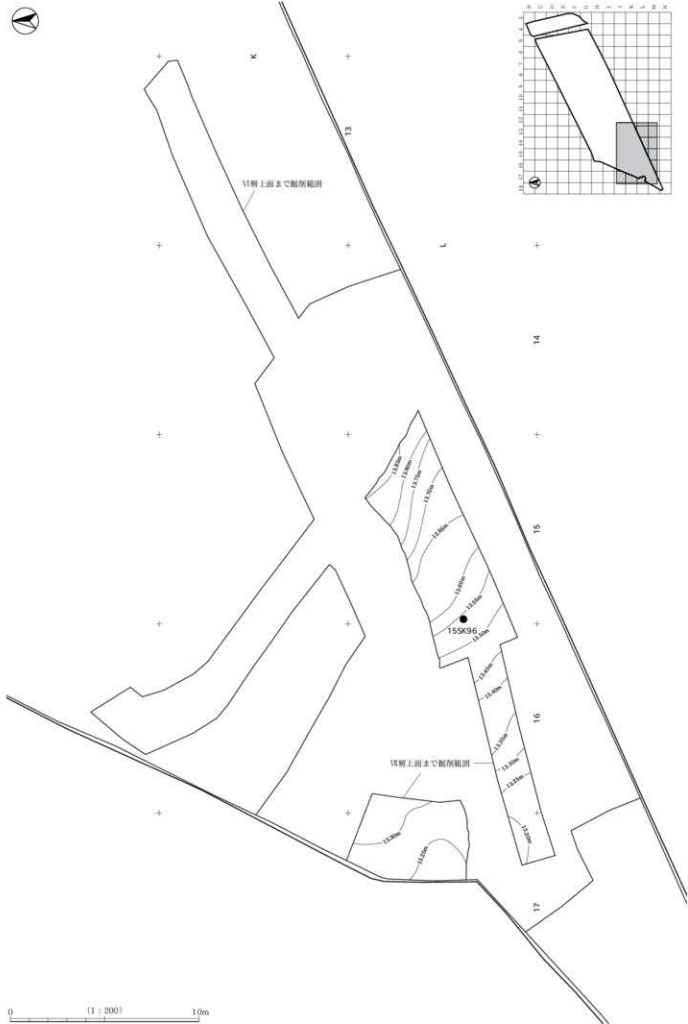
1550299

- 1550299  
 1 埋蔵土質、土層厚薄、  
 2 埋蔵土質、土層厚薄、  
 3 埋蔵土質、土層厚薄、

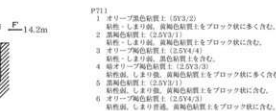
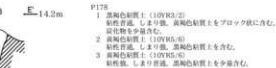
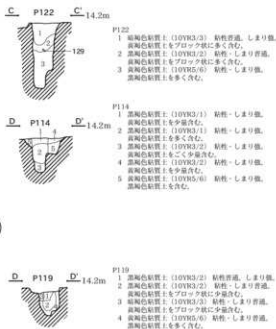
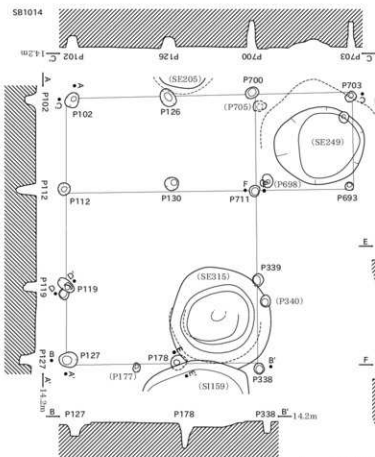
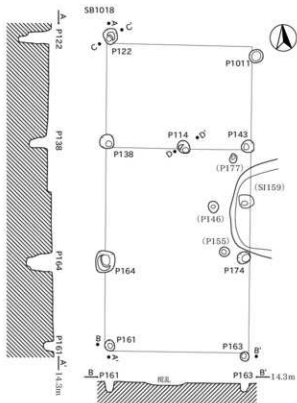
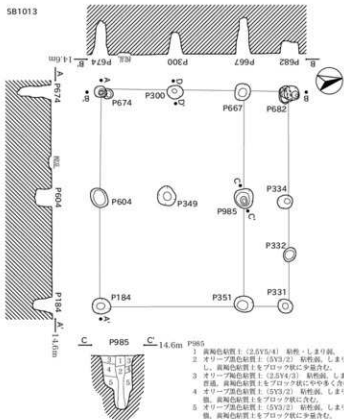
G







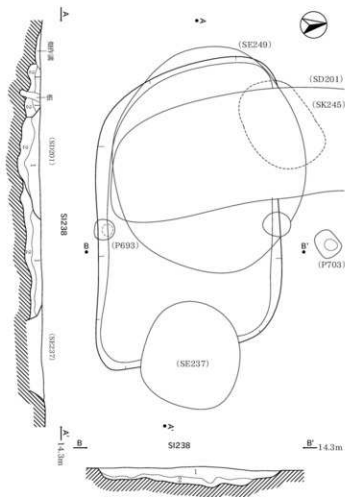








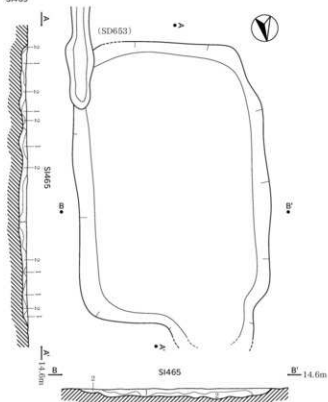
SI238



SI238

- 1 オリーブ色粘質土 (SY4/3) 粘性土、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 2 黄褐色粘質土 (2.SY5/4) 粘性・しまり強。黄褐色粘質土の堆積上。

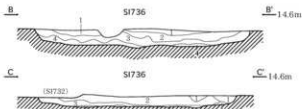
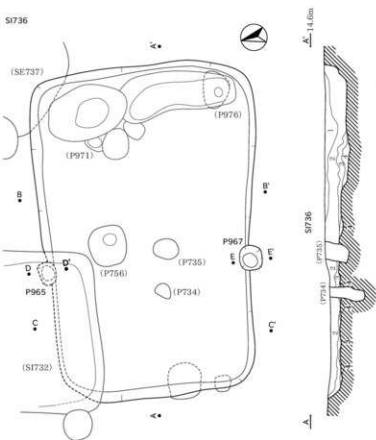
SI465



SI465

- 1 オリーブ黒色粘質土 (SY3/2) 粘性土、しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 2 オリーブ褐色粘質土 (2.SY4/4) 粘性土、しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。

SI736



SI736

- 1 オリーブ黒色粘質土 (SY3/2) 粘性土、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 2 黒オリーブ灰色シルト (SGY/1) 粘性土、しまり強。1層を縦目状に含む。赤化したシルトをブロック状に含む。
- 3 黒オリーブ色粘質土 (SY4/2) 粘性土、しまり強。2層を含む。
- 4 灰白色シルト (SGV/1) 粘性土、しまり強。底部は赤色調質。粘土。

D P965 D' 14.5m



P965

- 1 オリーブ黒色粘質土 (SY3/2) 粘性・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に含む。
- 2 オリーブ黒色粘質土 (SY2/2) 粘性土、しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。

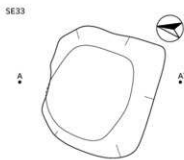
E P967 E' 14.5m



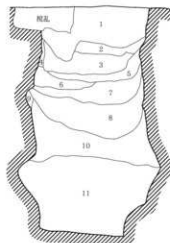
P967

- 1 オリーブ黒色粘質土 (1DY3/1) 粘性・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に多く含む。
- 2 オリーブ黒色粘質土 (SY3/1) 粘性土、しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状に含む。

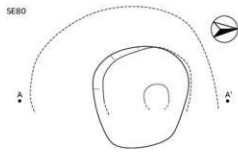
0 (1:40) 2m



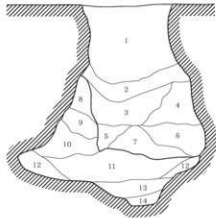
SE33 A A' 14.4m



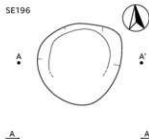
- SE33
- 1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘状態、しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR2/4) 粘状態、しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘状態、しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 4 褐色粘土 (10YR4/4) 粘状態、しまり普通。
  - 5 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘状態、しまり普通。
  - 6 黒褐色粘質土 (10YR2/6) 粘状態、しまり普通。黒褐色粘質土を含む。
  - 7 黒褐色粘質土 (10YR2/6) 粘状態、しまり普通。
  - 8 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘状態、しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 9 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/6) 粘状態、しまりなし。
  - 10 褐色粘土 (10YR4/4) 粘状態、しまり普通。
  - 11 灰黄色粘土 (7.5Y5/1) 粘状態、しまり普通。黒褐色シルトを含む。



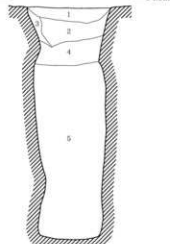
SE80 A A' 14.5m



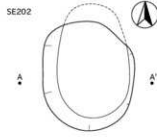
- SE80
- 1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘状態、しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR2/6) 粘状態、しまり普通。1層を多く含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘状態、しまり普通。青灰色シルトを含む。
  - 4 8 褐色粘土 (10YR4/4) 粘状態、しまり普通。
  - 5 暗オリーブ粘質土 (5Y4/3) 粘状態、しまりなし。
  - 6 暗褐色粘土 (10YR2/3) 粘状態、しまり普通。
  - 7 明褐色シルト (7.5Y7/1) 粘状態、しまり普通。
  - 8 10 明黒褐色粘質土 (2.5Y6/6) 粘状態、しまり普通。
  - 9 明褐色シルト (7.5Y7/1) 粘状態、しまり普通。
  - 11 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1) 粘状態、しまり普通。青灰色シルトと原土物の互層。
  - 12 明褐色シルト (10YR/1) 粘状態、しまり普通。砂粒を含む。
  - 13 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1) 粘状態、しまり普通。青灰色シルトと原土物の互層。
  - 14 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) 粘状態、しまり普通。灰白色物を多く含む。上層は必ず灰白色。



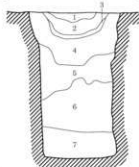
SE196 A A' 14.5m



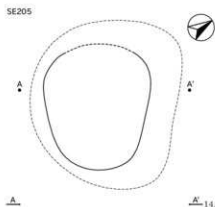
- SE196
- 1 黒褐色粘質土 (10YR2/1) 粘状態普通、しまり強。灰白色物のごく少量を含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘状態普通、しまり強。
  - 3 黒褐色粘質土 (2.5Y2/1) 粘状態普通、しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 4 黒褐色粘質土 (10YR2/1) 粘状態普通、しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 5 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘状態普通、しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。



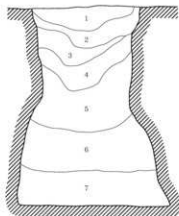
SE202 A A' 14.1m



- SE202
- 1 灰オリーブ粘質土 (5Y4/2) 粘状態、しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 2 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/6) 粘状態、しまり強。1層をまばらに含む。
  - 3 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/2) 粘状態、しまり強。灰白色物を少量含む。
  - 4 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/4) 粘状態、しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 5 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘状態普通、しまり強。
  - 6 明黒褐色シルト (2.5Y6/6) 粘状態、しまり強。
  - 7 明黒褐色シルト (2.5Y7/6) 粘状態、しまり強。

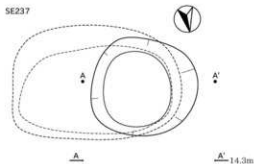


SE205 A A' 14.2m



- SE205
- 1 灰オリーブ粘質土 (5Y4/2) 粘状態、しまり強。黒褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。
  - 2 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3) 粘状態、しまり強。黒褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (2.5Y5/6) 粘状態、しまり普通。
  - 4 暗オリーブ褐色粘質土 (2.5Y3/3) 粘状態、しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 5 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/6) 粘状態、しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。4層をまばらに含む。
  - 6 濃い黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘状態、しまり普通。4層をまばらに含む。
  - 7 浅褐色粘質土 (7.5Y7/2) 粘状態、しまり普通。直径5-10cmの灰白色シルト・灰白色シルト・細灰白色シルトをブロック状に含む。

SE237



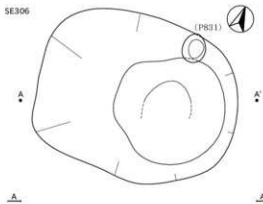
A'-14.3m



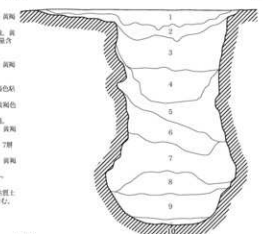
SE237

- 1 オリーブ褐色粘質土 (2.5V4/2) 粘性強、しまり強、黄褐色粘質土をプロック状に少量含む。
- 2 暗オリーブ褐色粘質土 (2.5V3/3) 粘性強、しまり強、黄褐色粘質土をプロック状に少量含む。炭化物をごく少量含む。
- 3 黄褐色粘質土 (2.5V5/4) 粘性、しまり強。
- 4 暗オリーブ褐色粘質土 (2.5V2/2) 粘性、しまり強、黄褐色粘質土をプロック状に少量含む。
- 5 黄褐色粘質土 (2.5V5/4) 粘性普通、しまりなし。
- 6 黄褐色粘質土 (2.5V5/2) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。炭化物を含む。
- 7 灰オリーブ色粘質土 (5V4/2) 粘性、しまり普通。黄褐色粘質土をプロック状に含む。
- 8 オリーブ褐色粘質土 (2.5V4/4) 粘性強、しまり普通。
- 9 オリーブ褐色粘質土 (5V3/2) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状に含む。
- 10 灰白色粘質土 (2.5V6/4) 粘性普通、しまり強。7層を斜切面を含む。
- 11 オリーブ褐色粘質土 (5V3/2) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状に多く含む。
- 12 黄褐色粘質土 (2.5V5/2) 粘性、しまり普通。直径5~10cmの炭化物を含む。
- 13 黄褐色粘質土 (2.5V5/4) 粘性、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状に少量含む。直径5~10cmの炭化物を含む。

SE306



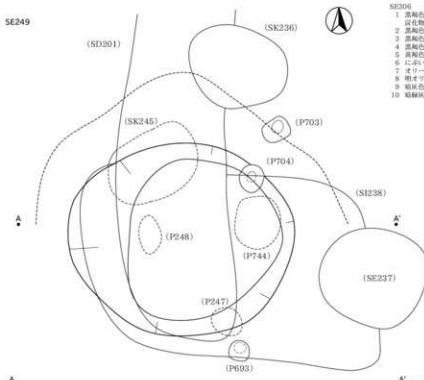
A'-14.2m



SE306

- 1 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状に含む。炭化物をごく少量含む。
- 2 黄褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状に少量含む。
- 3 黄褐色粘質土 (2.5V5/2) 粘性、しまり普通。黄褐色粘質土をプロック状に少量含む。
- 4 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をプロック状に含む。
- 5 黄褐色粘質土 (2.5V5/4) 粘性強、しまり普通。
- 6 灰白色粘質土 (2.5V6/4) 粘性強、しまり強。上・下はほぼ炭化物。
- 7 オリーブ褐色粘質土 (5GV5/1) 粘性、しまり普通。暗灰色シルトを含む。
- 8 暗オリーブ灰粘質土 (5GV7/1) 粘性普通、しまり強。上面は必ず炭層。
- 9 暗灰色シルト (N4/0) 粘性普通、しまり強。
- 10 暗褐色粘質土 (10G4/1) 粘性、しまり普通。暗灰色粘質土・細砂を含む。

SE249

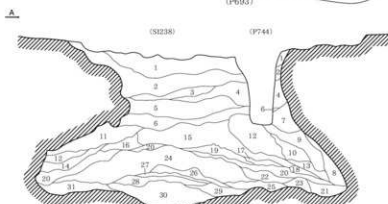


SE249

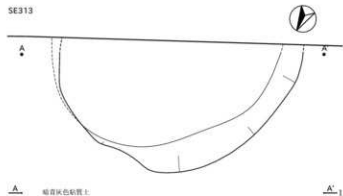
SE249

- 1 オリーブ色粘質土 (5V5/6) 粘性強、しまり強。
- 2 オリーブ色粘質土 (5V3/2) 粘性強、しまり強。1層を少量含む。
- 3 黄褐色粘質土 (2.5V5/2) 粘性、しまり強。2層を少量含む。
- 4 灰オリーブ色粘質土 (5V4/2) 粘性、しまり強。3層を斜切面を含む。
- 5 黄褐色粘質土 (2.5V5/4) 粘性普通、しまり強。
- 6 オリーブ褐色粘質土 (2.5V4/2) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。下部に炭化物を少量含む。黄褐色粘質土をプロック状に含む。
- 7 黄褐色粘質土 (2.5V5/3) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。
- 8 オリーブ色粘質土 (5V5/4) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土を少量含む。
- 9 灰オリーブ色粘質土 (5V5/3) 粘性、しまりなし。炭化物・黄褐色粘質土を少量含む。
- 10 灰オリーブ色粘質土 (5V4/2) 粘性、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状に多く含む。炭化物・黄褐色粘質土を少量含む。
- 11 暗オリーブ色粘質土 (5V4/3) 粘性、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。炭化物・黄褐色粘質土を少量含む。
- 12 明黄褐色シルト (2.5V6/0) 粘性普通、しまり強。
- 13 灰白色粘質土 (10YR5/4) 粘性強、しまりなし。炭化物・黄褐色粘質土を少量含む。
- 14 灰オリーブ色粘質土 (5V4/2) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。
- 15 黄褐色粘質土 (2.5V5/2) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。
- 16 暗灰色シルト (5HG/4) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。炭層を斜切面を含む。
- 17 暗灰色シルト (5B4/1) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状に含む。壁面を炭層露れ。
- 18 黄褐色シルト (7.5YR/3) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をプロック状に含む。
- 19 黄褐色粘質土 (2.5V5/3) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。炭層を斜切面を含む。
- 20 暗灰褐色粘質土 (2.5V4/2) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状に多く含む。
- 21 黄褐色粘質土 (2.5V5/3) 粘性強、しまりなし。炭化物・黄褐色粘質土を少量含む。
- 22 黄褐色粘質土 (2.5V5/4) 粘性強、しまり普通。炭化物・黄褐色粘質土を含む。
- 23 灰白色シルト (2.5V6/0) 粘性普通、しまり強。
- 24 黄褐色粘質土 (2.5V5/4) 粘性強、しまり強。
- 25 黄褐色粘質土 (2.5V5/3) 粘性強、しまり普通。
- 26 灰色シルト (N4/0) 粘性強、しまり普通。24層を含む。炭化物をごく少量含む。
- 27 暗灰色シルト (N2/0) 粘性普通、しまり強。底部に炭化物を含む。
- 28 灰オリーブ色粘質土 (5V4/2) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。
- 29 暗オリーブ色粘質土 (7.5V4/3) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をプロック状にやや多く含む。炭化物・黄褐色粘質土を少量含む。
- 30 緑色シルト (10GY6/1) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をプロック状に多く含む。炭化物をごく少量含む。壁面を炭層露れ。
- 31 オリーブ色粘質土 (5V5/4) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をやや多く含む。

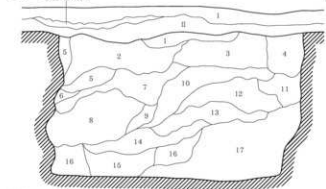
A'-14.3m



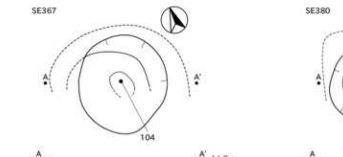




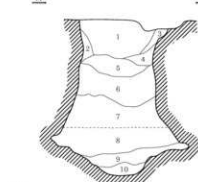
SE313 幅員彩色粘土 14.8m



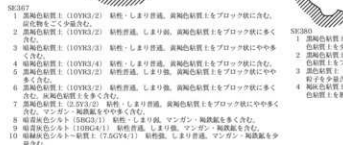
- SE313
- 1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に少量含む。
  - 2 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土をブロック状に多く含む。
  - 3 暗褐色粘土 (2.5YR6/6) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土を互層状に含む。
  - 4 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状にやや多く含む。
  - 5 濃い赤褐色粘土 (10YR3/4) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土を少量含む。
  - 6 濃い赤褐色粘土 (10YR3/3) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土を少量含む。
  - 7 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土をブロック状に含む。
  - 8 濃い赤褐色粘土 (10YR3/4) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土を少量含む。
  - 9 濃い赤褐色粘土 (10YR3/4) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土を少量含む。
  - 10 黒褐色粘土 (10YR2/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に多く含む。
  - 11 黒褐色粘土 (10YR3/6) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土を互層状に含む。
  - 12 黒褐色粘土 (10YR3/6) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土を少量含む。
  - 13 灰白色粘土 (5Y7/1) 粘質普通, しまり強。
  - 14 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘質・しまり普通。13層を含む。
  - 15 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘質普通, しまり強。13層を含む。
  - 16 黒褐色粘土 (10YR3/6) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土を互層状に含む。
  - 17 黒褐色粘土 (10YR3/6) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土を少量含む。



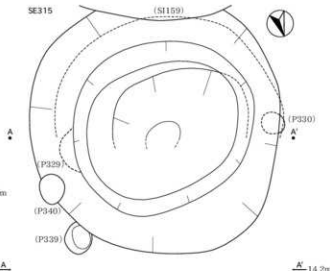
SE367 14.7m



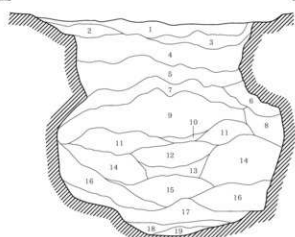
- SE367
- 1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土をブロック状に含む。
  - 2 赤褐色粘土 (2.5YR3/2) 粘質普通, しまり強。赤褐色粘土を少量含む。
  - 3 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に多く含む。
  - 4 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土をブロック状にやや多く含む。
  - 5 黒褐色粘土 (10YR3/4) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土をブロック状に含む。
  - 6 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状にやや多く含む。
  - 7 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に含む。
  - 8 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に含む。
  - 9 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に含む。
  - 10 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に含む。



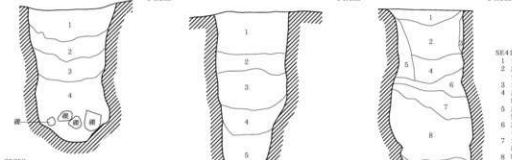
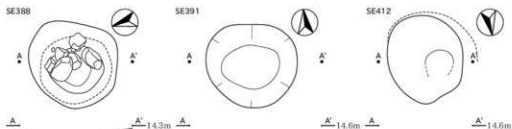
- SE380
- 1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質・しまり強。黒褐色粘土を少量含む。
  - 2 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘質・しまり強。黒褐色粘土をブロック状に含む。
  - 3 黒褐色粘土 (10YR2/1) 粘質・しまり強。黒褐色粘土を少量含む。
  - 4 黒褐色粘土 (7.5YR4/1) 粘質・しまり強。黒褐色粘土を互層状に含む。



SE315 (SI109) 14.2m



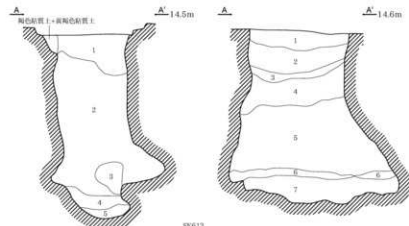
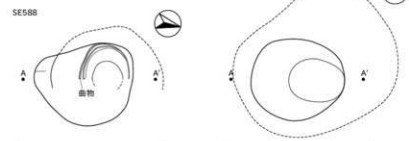
- SE315
- 1 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘質・しまり普通。炭化物をごく少量含む。
  - 2 暗赤リッパ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘質・しまり普通。黒褐色粘土をブロック状にやや多く含む。
  - 3 暗赤リッパ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に多く含む。
  - 4 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に多く含む。
  - 5 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に多く含む。
  - 6 黒褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土をブロック状に少量含む。
  - 7 黒褐色粘土 (10YR3/6) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土を少量含む。
  - 8 リッパ褐色粘土 (2.5Y4/4) 粘質。しまり強。暗褐色粘土をやや多く含む。
  - 9 暗褐色粘土 (2.5Y4/2) 粘質。しまり強。黒褐色粘土をやや多く含む。
  - 10 黒褐色粘土 (2.5Y3/6) 粘質普通, しまり強。黒褐色粘土を少量含む。
  - 11 暗褐色粘土 (2.5Y3/6) 粘質普通, しまり普通。
  - 12 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘質・しまり普通。
  - 13 リッパ褐色粘土 (2.5Y4/6) 粘質普通, しまりなし。炭化物・赤褐色粘土を少量含む。
  - 14 暗褐色粘土 (2.5Y3/6) 粘質普通, しまり普通。
  - 15 暗褐色粘土 (7.5Y2/1) 粘質普通, しまり強。炭化物・黒褐色粘土を少量含む。壁部赤化顕著。
  - 16 リッパ褐色粘土 (2.5Y4/6) 粘質。しまり普通。
  - 17 暗褐色粘土 (10YR2/1) 粘質・しまり強。黒褐色粘土を少量含む。
  - 18 暗褐色粘土 (7.5Y4/1) 粘質。しまりなし。青灰色粘土を多く含む。炭化物・黒褐色粘土を少量含む。
  - 19 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) しまり強。粘質。炭化物を含む。上部に炭化物を懸状に含む。



- SE388
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。灰化物を多く少量含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 4 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。

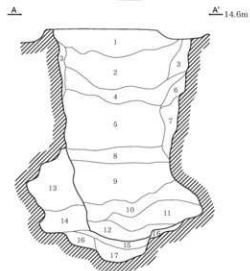
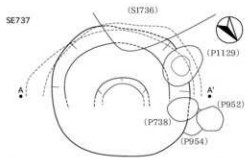
- SE391
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR5/6) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土を多く含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (10YR5/6) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土を多く含む。
  - 4 赤灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 5 赤灰色粘質土 (5Y5/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土を少量含む。

- SE412
- 1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1) 粘質、しまり甚。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘質、しまり甚。灰化物を少量含む。
  - 3 オリーブ色粘質土 (2.5Y4/2) 粘質、しまり甚。
  - 4 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 5 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 6 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘質、しまり甚。灰化物を多く少量含む。
  - 7 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。灰化物を多く少量含む。
  - 8 黒褐色粘質土 (10YR6/6) 粘質、しまり甚。下に細砂が混入する。
  - 9 黒褐色粘質土 (10YR2/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 10 赤オリーブ黒色粘質土 (2.5Y3/4) 粘質、しまり甚。赤灰色粘質土を含む。上、下は石灰質土。下に灰化物を多く含む。
  - 11 赤褐色粘質土 (10R2/1) 粘質、しまり甚。下に灰化物を多く含む。
  - 12 黒褐色粘質土 (7.5GY4/1) 粘質、しまり甚。

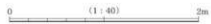


- SE588
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘質、しまり甚。
  - 2 灰色粘土 (5Y4/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に含む。灰褐色粘質土を少量含む。
  - 3 暗灰色粘質土 (2.5Y4/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 4 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 5 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。

- SE613
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く少量含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 4 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 5 暗灰色粘質土 (7.5GY7/1) 粘質、しまり甚。暗灰色粘質土を塊状に含む。
  - 6 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/2) 粘質、しまり甚。灰白色粘質土をブロック状に含む。
  - 7 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。

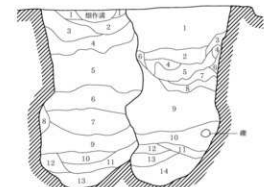
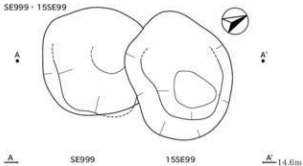


- SE737
- 1 におり黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘質、しまり甚。
  - 2 オリーブ黒色粘質土 (2.5Y4/6) 粘質、しまり甚。灰白色粘質土を少量含む。
  - 3 オリーブ黒色粘質土 (2.5Y4/6) 粘質、しまり甚。灰白色粘質土を少量含む。
  - 4 暗灰色粘質土 (10YR4/4) 粘質、しまり甚。
  - 5 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。
  - 6 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/2) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。壁面層上。
  - 7 黒褐色粘質土 (2.5Y5/6) 粘質、しまり甚。壁面層上。
  - 8 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 9 オリーブ黒色粘質土 (10Y3/1) 粘質、しまり甚。灰白色粘質土を少量含む。
  - 10 灰色シルト (10Y4/1) 粘質、しまり甚。底面に細粒状を混入。
  - 11 暗褐色粘質土 (10G4/1) 粘質、しまり甚。灰化物を多く含む。
  - 12 灰色シルト (10Y3/0) 粘質、しまり甚。灰化物を含む。
  - 13 赤褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に含む。灰化物を多く含む。
  - 14 灰色シルト (10Y4/1) 粘質、しまり甚。黒褐色粘質土をブロック状に含む。灰化物を多く含む。
  - 15 暗褐色粘質土 (10G4/1) 粘質、しまり甚。灰化物を少量含む。壁面を含む。
  - 16 暗褐色粘質土 (10G7/1) 粘質、しまり甚。灰化物を少量含む。
  - 17 黒褐色粘質土 (10Y3/1) 粘質、しまり甚。上に長さ30cm前後の粘質を混入。灰化物を含む。





SE999-155E99



SE999

- 1 オリーブ褐色粘土 (3Y3/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 2 オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に多く含む。
- 3 オリーブ褐色粘土 (3Y3/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 4 黄褐色シルト (2.5Y3/6) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 5 明黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 6 黄褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 7 オリーブ褐色粘土 (2.5Y4/4) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 8 黄褐色粘土 (5Y6/1) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 9 オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 10 オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 11 黄褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 12 灰オリーブ色粘土 (5Y5/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 13 黄褐色粘土 (7.5Y2/1) 粘性强。しまり弱。灰白色粘土をブロック状に含む。

155E99

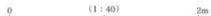
- 1 灰オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をまばらに含む。
- 2 灰オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をやや多く含む。
- 3 灰オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土を多く含む。
- 4 灰オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土を多く含む。
- 5 黄褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 6 黄褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をまばらに含む。
- 7 灰オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘性强。しまり強。
- 8 灰黄褐色粘土 (2.5Y4/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 9 灰オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土を少量含む。
- 10 灰褐色粘土 (7.5Y4/4) 粘性强。しまり強。灰白色粘土をブロック状に含む。
- 11 黄褐色粘土 (7.5Y4/6) 粘性强。しまり強。
- 12 黄褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。灰白色粘土をブロック状に含む。
- 13 灰白黄褐色粘土 (10YR6/4) 粘性强。しまり強。
- 14 灰黄色粘土 (2.5Y5/1) 粘性强。しまり強。灰白色粘土をブロック状に含む。

SE104

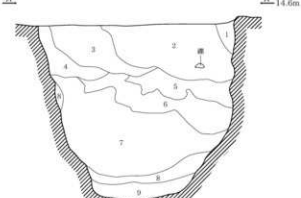
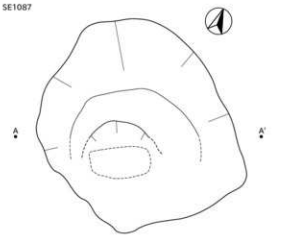
- 1 オリーブ褐色粘土 (2.5Y4/4) 粘性强。しまり弱。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 2 黄褐色粘土 (10YR3/1) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に多く含む。
- 3 オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 4 明黄褐色シルト (7.5Y4/1) 粘性强。しまり強。
- 5 明黄褐色シルト (7.5Y3/6) 粘性强。しまり強。オリーブ褐色シルト・黄褐色シルトをやや多く含む。
- 6 黄褐色粘土 (10YR3/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。黄褐色粘土を少量含む。
- 7 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 8 黄褐色粘土 (10YR4/1) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土・灰黄色シルトをブロック状に多く含む。炭化物を少量含む。
- 9 黄褐色粘土 (10YR3/1) 粘性强。しまり強。明褐色粘土・灰黄色シルトをブロック状に多く含む。
- 10 黄褐色粘土 (10YR4/1) 粘性强。しまり強。黄褐色シルトをブロック状に含む。黄褐色粘土を少量含む。
- 11 黄褐色粘土 (10YR4/1) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土を少量含む。
- 12 黄褐色粘土 (10YR4/1) 粘性强。しまり強。明褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 13 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 14 灰黄色シルト (5Y5/1) 粘性强。しまり弱。明褐色粘土を非常に多く含む。

PI126

- 1 オリーブ褐色粘土 (2.5Y4/2) 粘性强。しまりなし。黄褐色粘土をブロック状にごく少量含む。
- 2 明黄褐色粘土 (2.5Y4/2) 粘性强。しまりなし。黄褐色粘土をブロック状に少量含む。
- 3 オリーブ褐色粘土 (2.5Y4/3) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。



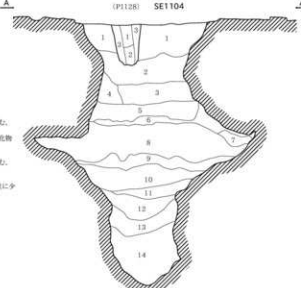
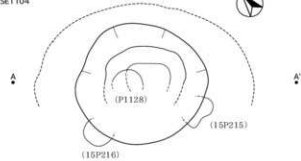
SE1087



SE1087

- 1 オリーブ褐色粘土 (2.5Y4/3) 粘性强。しまり強。
- 2 黄褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。灰白色粘土をまばらに含む。
- 3 黄褐色粘土 (2.5Y3/2) 粘性强。しまり強。灰白色粘土をブロック状に含む。
- 4 黄褐色粘土 (3.5Y1/1) 粘性强。しまり強。灰白色粘土を少量含む。
- 5 黄褐色粘土 (2.5Y2/1) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土をブロック状に含む。
- 6 オリーブ褐色粘土 (2.5Y3/6) 粘性强。しまり強。灰白色粘土を少量含む。
- 7 オリーブ褐色粘土 (2.5Y4/6) 粘性强。しまり強。灰白色粘土をブロック状に含む。
- 8 灰オリーブ色粘土 (5Y5/3) 粘性强。しまり強。灰オリーブ褐色粘土をブロック状に含む。
- 9 黄褐色粘土 (7.5Y2/1) 粘性强。しまり強。黄褐色粘土・黄褐色粘土をブロック状に含む。

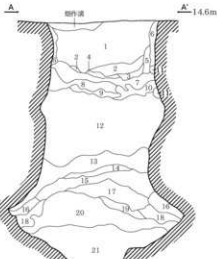
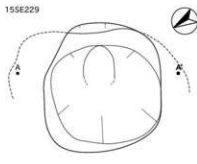
SE1104







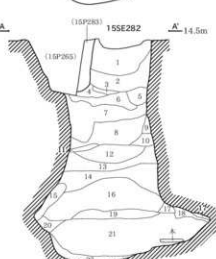
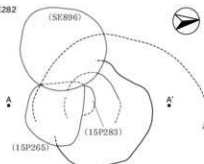
155E229



155E229

- 1 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土を少量含む。炭化物をまばらに含む。
- 2 黄褐色土質土 (2.5V3/2) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をまばらに含む。炭化物を多く含む。
- 3 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/3) 粘焼。しまり溝。炭化物をごく少量含む。
- 4 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土を少量含む。
- 5 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をまばらに含む。
- 6 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/4) 粘焼。しまり溝。
- 7 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土を少量含む。
- 8 黄褐色土質土 (2.5V3/2) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。炭化物をまばらに含む。
- 9 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土を少量含む。
- 10 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/4) 粘焼。しまり溝。堀オリーブ陶色土質土を少量含む。
- 11 黄褐色土質土 (10V9/5/6) 粘焼。しまり溝。
- 12 黄褐色土質土 (2.5V4/2) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。炭化物をまばらに含む。
- 13 黄褐色土質土 (2.5V3/1) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。
- 14 黄褐色土質土 (2.5V2/1) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。白砂層 (層17) を多く含む。
- 15 黄褐色土質土 (10V9/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土を少量含む。
- 16 オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。
- 17 オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。17層をブロック状に含む。
- 18 オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。17層をまばらに含む。

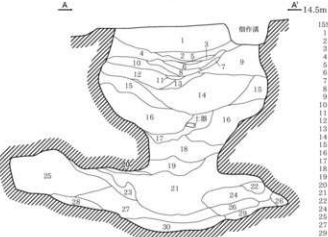
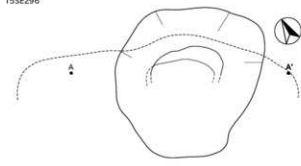
155E282



155E282

- 1 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。炭化物をまばらに含む。
- 2 7・9 黄褐色土質土 (2.5V4/4) 粘焼。しまり溝。堀オリーブ陶色土質土をまばらに含む。
- 3 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をまばらに含む。
- 4 黄褐色土質土 (2.5V4/4) 粘焼。しまり溝。堀オリーブ陶色土質土を少量含む。
- 5 黄褐色土質土 (2.5V3/2) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。
- 6 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。
- 7 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。
- 8 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。
- 9 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。
- 10 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。灰黄色シルトをブロック状に少量含む。
- 11 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に少量含む。
- 12 黄褐色土質土 (2.5V4/1) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に少量含む。灰黄色シルトをブロック状に多く含む。
- 13 黄褐色土質土 (2.5V4/2) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。
- 14 灰白色土質土 (5V4/1) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む。
- 15 灰白色土質土 (5V6/2) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土を少量含む。
- 16 オリーブ陶色土質土 (5V3/2) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をブロック状に含む。14層との境界が不明。
- 17 灰白色土質土 (5V6/1) 粘焼。しまり溝。中・中細砂。
- 18 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/4) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をまばらに含む。
- 19 灰白色土質土 (10V9/5) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。
- 20 オリーブ陶色土質土 (7.5V3/1) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。
- 21 黄褐色土質土 (2.5V3/2) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。炭化物をまばらに含む。
- 22 オリーブ陶色土質土 (2.5V3/1) 粘焼。しまり溝。

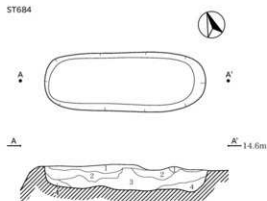
155E296



155E296

- 1 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をまばらに含む。炭化物をごく少量含む。
- 2 オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。炭化物を多く含む。
- 3 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/3) 粘焼。しまり溝。
- 4 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/4) 粘焼。しまり溝。堀オリーブ陶色土質土をブロック状に含む。
- 5 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/2) 粘焼。しまり溝。
- 6 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/3) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をまばらに含む。
- 7 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をまばらに含む。
- 8 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土を少量含む。
- 9 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/4) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をまばらに含む。
- 10 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。黄褐色土質土をまばらに含む。
- 11 オリーブ陶色土質土 (2.5V4/3) 粘焼。しまり溝。
- 12 黄褐色土質土 (2.5V5/4) 粘焼。しまり溝。堀オリーブ陶色土質土をブロック状に含む。
- 13 黄褐色土質土 (10V9/6/8) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。
- 14 堀オリーブ陶色土質土 (2.5V3/3) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。
- 15 黄褐色土質土 (2.5V5/4) 粘焼。しまり溝。堀オリーブ陶色土質土を少量含む。
- 16 黄褐色土質土 (2.5V5/5) 粘焼。しまり溝。
- 17 黄褐色土質土 (2.5V4/1) 粘焼。しまり溝。灰白色土質土をブロック状に含む。
- 18 黄褐色土質土 (10V9/6/8) 粘焼。しまり溝。堀オリーブ陶色土質土を少量含む。
- 19 灰白色土質土 (10V7/1) 粘焼。しまり溝。黄褐色シルトを多く含む。
- 20 23・26・28 黄褐色土質土 (5V8/5/6) 粘焼。しまり溝。
- 21 灰白色土質土 (10V7/1) 粘焼。しまり溝。黄褐色シルトをブロック状に含む。
- 22 灰白色土質土 (10V5/1) 粘焼。しまり溝。炭化物を多く含む。
- 23 灰白色土質土 (10V9/7/1) 粘焼。しまり溝。
- 24 黄褐色土質土 (2.5V5/4) 粘焼。しまり溝。
- 25 灰白色土質土 (10V7/1) 粘焼。しまり溝。黄褐色シルトをブロック状に含む。
- 26 黄褐色土質土 (7.5V6/7/1) 粘焼。しまり溝。
- 27 黄褐色土質土 (5V2/1) 粘焼。しまり溝。炭化物を多く含む。
- 28 オリーブ陶色土質土 (5V2/1) 粘焼。しまり溝。炭化物を多く含む。

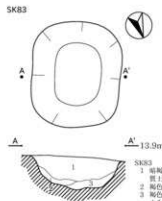
ST684



ST684

- 1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/2) 粘性、しまり強。
- 2 暗オリーブ色粘質土 (5Y4/3) 粘性、しまり強。壁土をブロック状に含む。
- 3 明褐色粘質土 (7.5YR5/3) 粘性、しまり強。壁土をブロック状に含む。厚約3~20mm程度の層を含む。炭化物を含む。
- 4 黄褐色粘質土 (2.5Y6/4) 粘性、しまり強。炭化物を少量含む。

SK83



SK83

- 1 暗褐色粘質土 (10YR3/4) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状に含む。
- 2 褐色粘質土 (10YR4/4) 粘性強、しまり普通。
- 3 褐色粘質土 (10YR4/6) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状に含む。

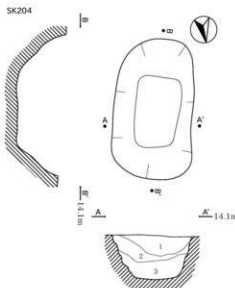
SK167



SK167

- 1 黄褐色粘質土 (7.5YR2/2) 粘性、しまり強。黄褐色粘質土を少量含む。

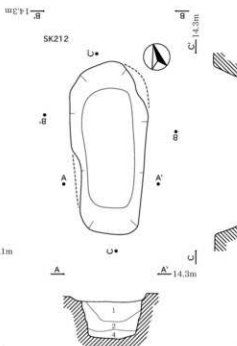
SK204



SK204

- 1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/2) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 2 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/4) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に含む。
- 3 暗オリーブ色粘質土 (5Y4/4) 粘性、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。

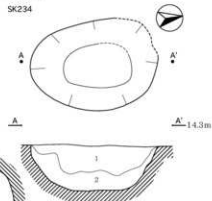
SK212



SK212

- 1 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。炭化物をごく少量含む。
- 2 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性強、しまり普通。
- 3 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性強、しまり強。
- 4 明褐色色シルト (7.5GY/1) 粘性普通、しまり強。浅黄褐色シルトを含む。

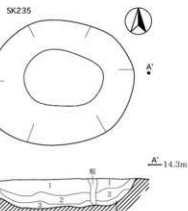
SK234



SK234

- 1 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に含む。
- 2 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性、しまり強。1層をまばらに含む。

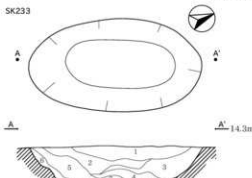
SK235



SK235

- 1 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/4) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に含む。
- 2 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3) 粘性、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。
- 3 明黄褐色粘質土 (2.5Y6/6) 粘性、しまり強。2層を少量含む。

SK233



SK233

- 1 暗オリーブ色粘質土 (2.5Y4/3) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 2 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/4) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 3 黄褐色粘質土 (2.5Y6/4) 粘性、しまり強。
- 4 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/4) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。
- 5 オリーブ色粘質土 (5Y5/4) 粘性普通、しまり強。4層を互に挟むに含む。
- 6 オリーブ黄色粘質土 (5Y6/4) 粘性普通、しまり強。
- 7 暗オリーブ色粘質土 (2Y4/3) 粘性普通、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。

SK239

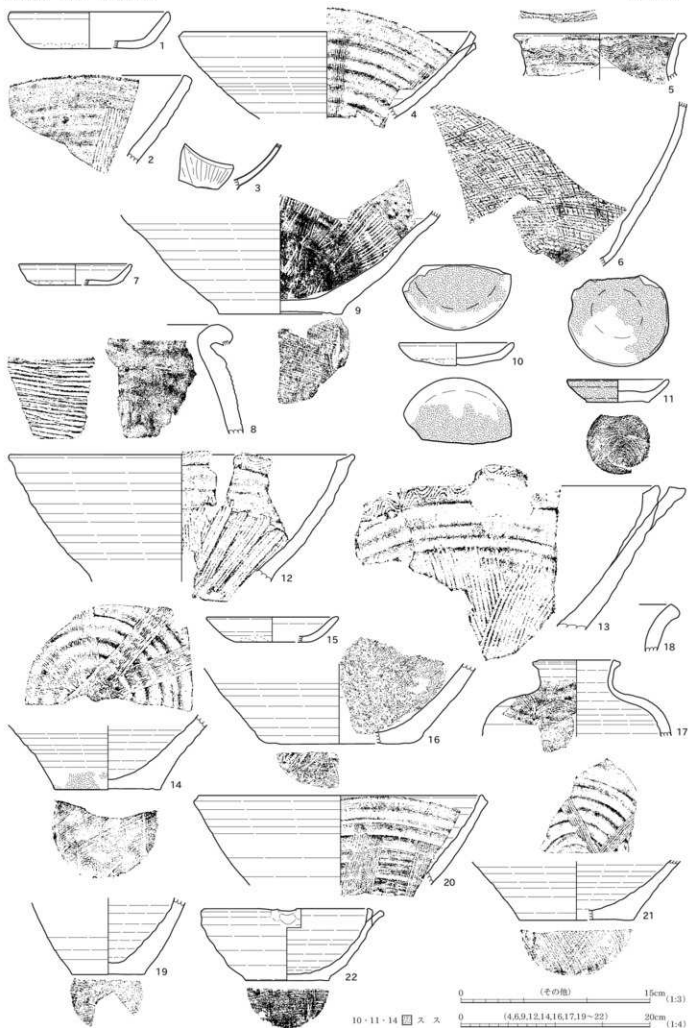


SK239

- 1 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3) 粘性強、しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 2 オリーブ色粘質土 (5Y5/4) 粘性強、しまり普通。暗黄褐色シルトを少量含む。
- 3 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/4) 粘性強、しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状に多く含む。1層をまばらに含む。

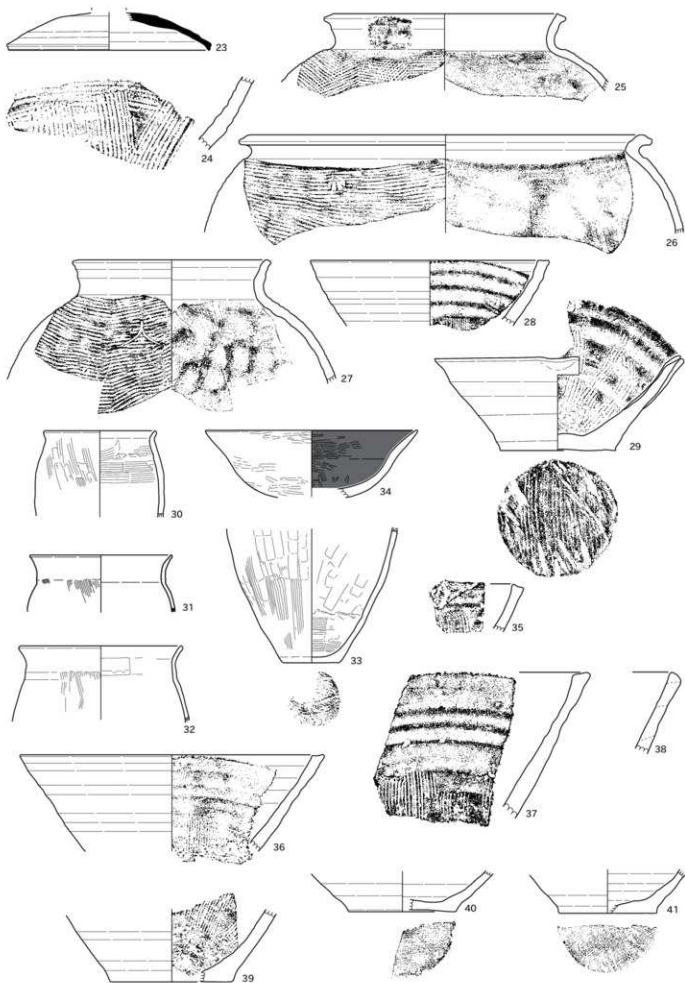






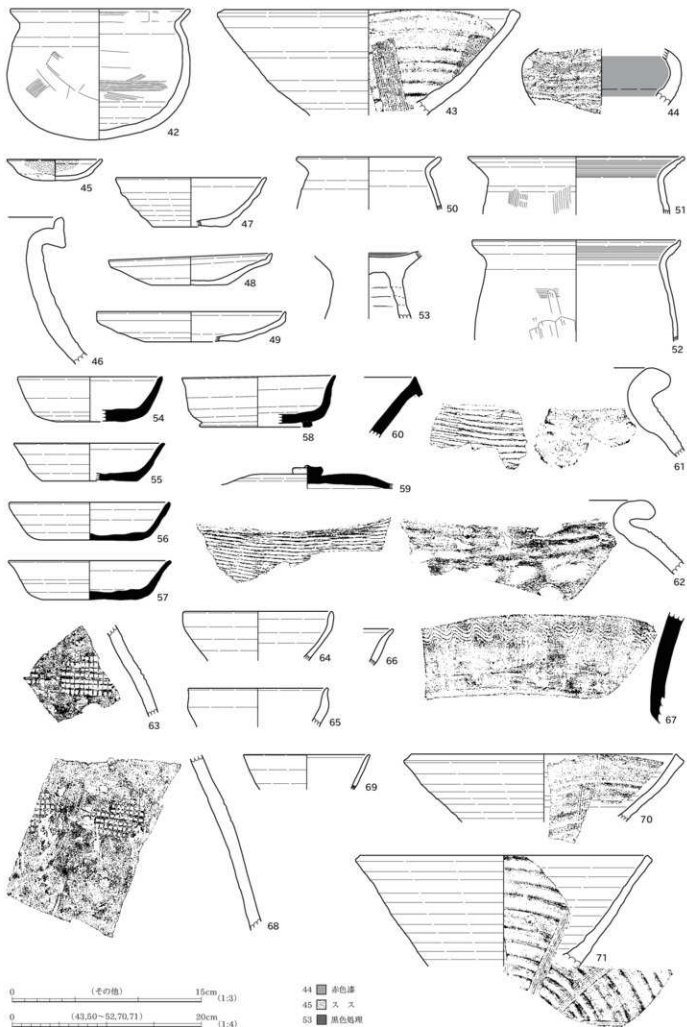
10・11・14 □ 欠

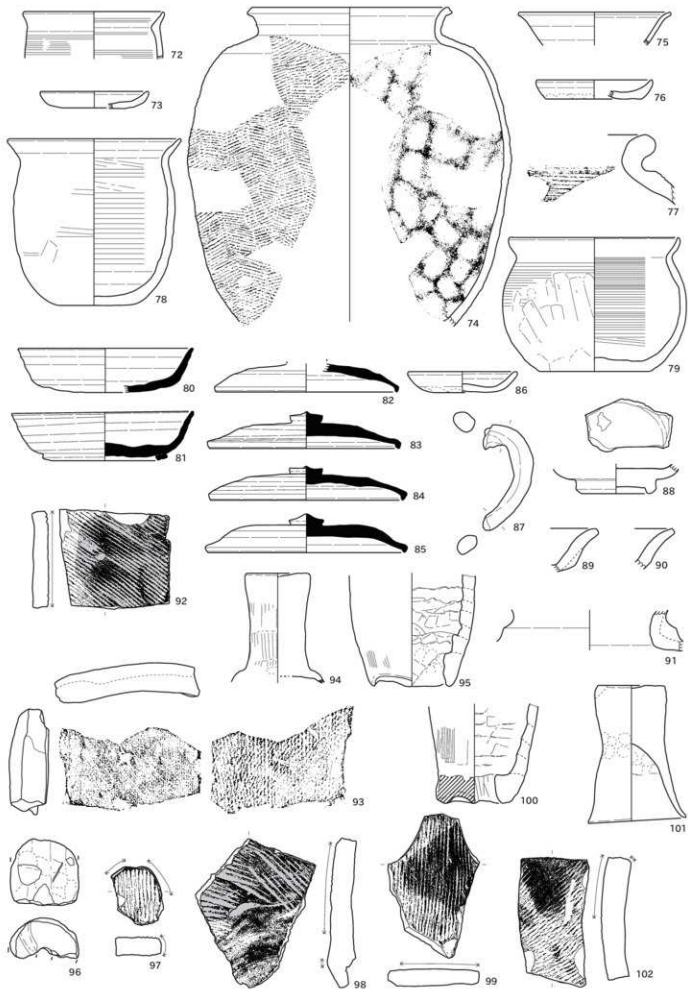
0 (その他) 15cm (1:3)  
 0 (4,6,9,12,14,16,17,19~22) 20cm (1:4)



34 ■ 黒色処理

0 (23,24,34,35,37,38) 15cm 0 (その他) 20cm (1:3) (1:4)

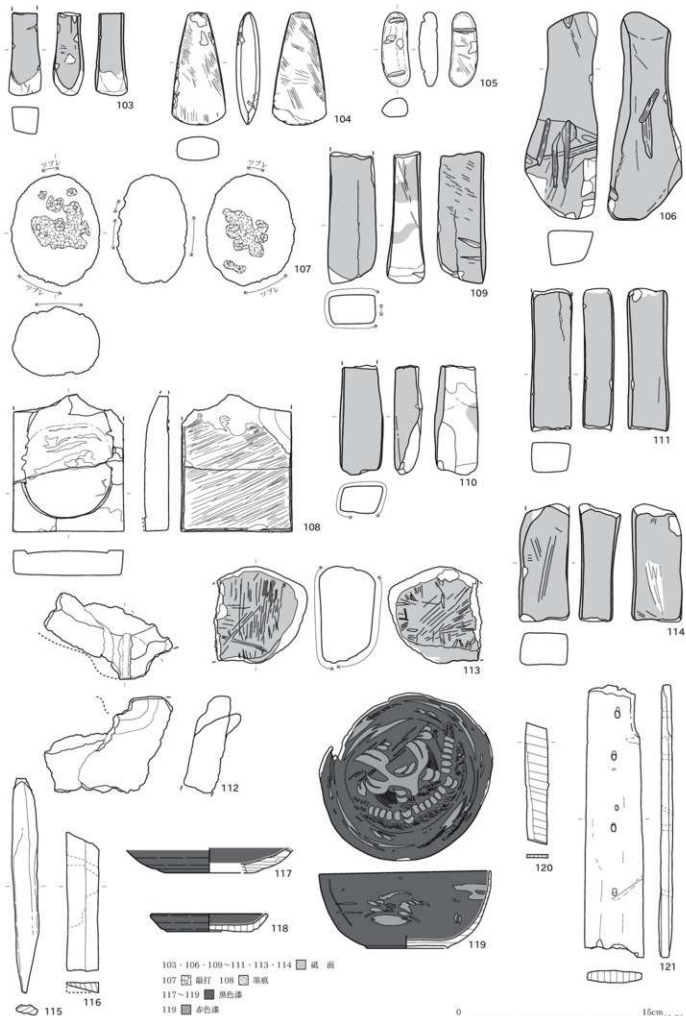


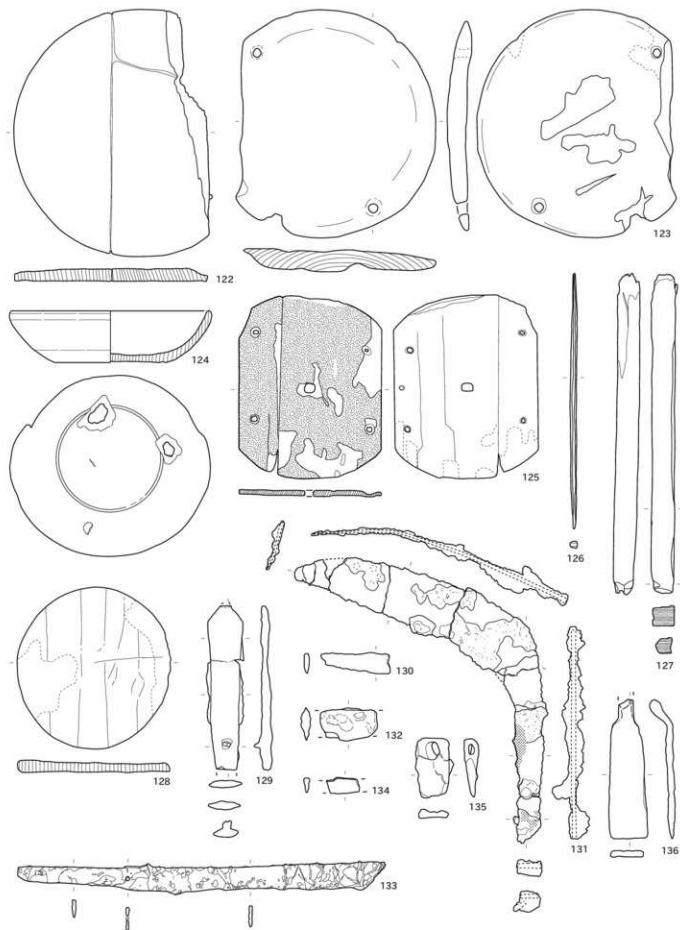


92 - 97 - 99 - 102  研表面

100  は5分

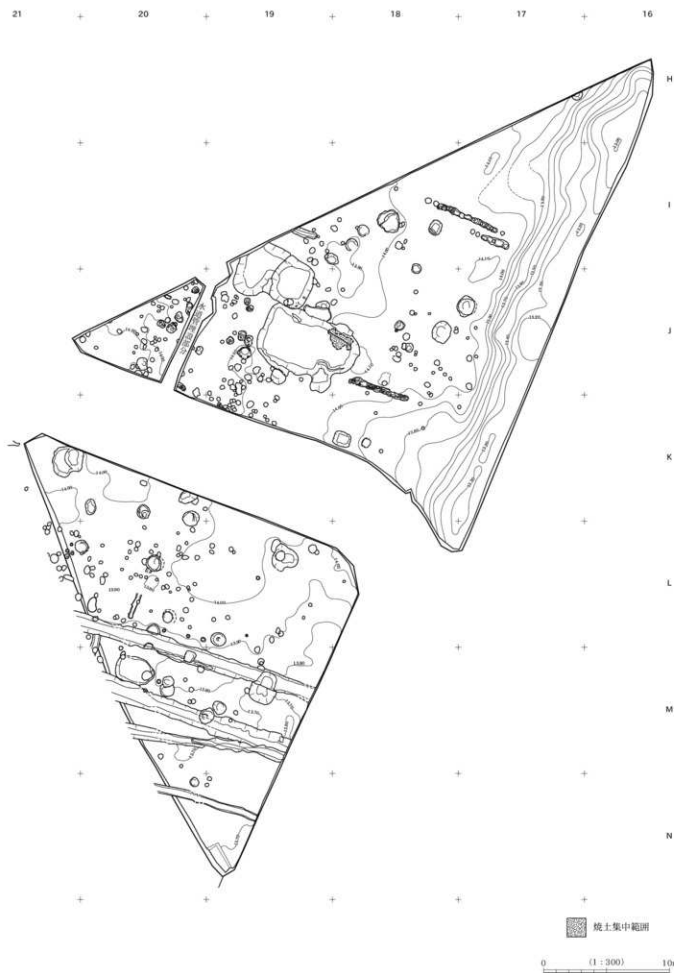
0 (その他) 15cm (1:3) 0 (72,74) 20cm (1:4)





125 黑色付岩物  
131 木質

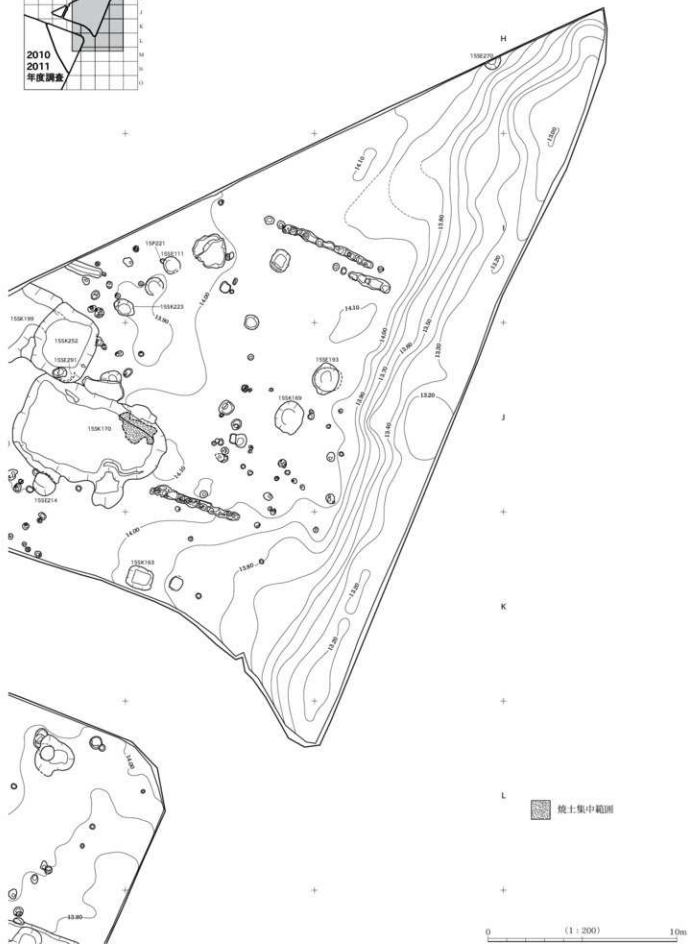
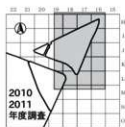
0 15cm (1:3)

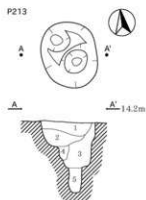
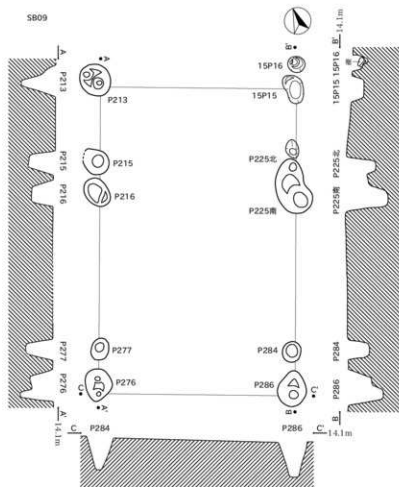




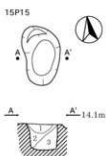




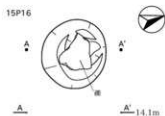




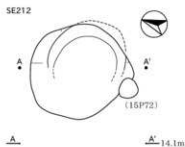
- P213
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、黄褐色土層を少量含む。
  - 2 褐色粘質土 (10YR4/4) 粘性强、しまり強、黄褐色土層を含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、黄褐色土層を少量含む。
  - 4 黄褐色粘質土 (10YR5/5) 粘性强、しまり強、灰色土層を少量含む。
  - 5 黄褐色粘質土 (10YR5/1) 粘性强、しまり強、黄褐色土層を含む、底部を少量含む。



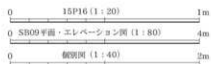
- 15P15
- 1 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3) 粘性强、しまり強。
  - 2 暗黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性强、しまり強。
  - 3 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3) 粘性强、しまり強。
- 2層・褐色粘質土を多く含む。



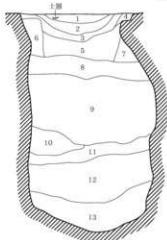
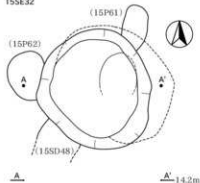
- 15P16
- 1 濃い黄褐色粘質土 (10YR4/3) 粘性强、しまり強。
  - 2 黄褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性强、しまり強。



- SE212
- 1 濃い黄褐色粘質土 (10YR4/3) 粘性强、しまり強。
  - 2 暗黄褐色粘質土を少量含む。
  - 3 黄褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性强、しまり強。
  - 4 灰色粘質土 (5Y4/1) 粘性强、しまり強、直径約4~8cmの礫を少量含む。

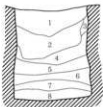
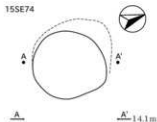


155E32



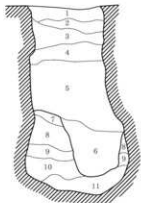
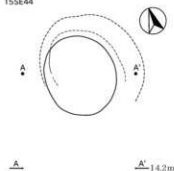
- 155E32
- 1 土間・黒褐色粘質土 (10YR5/4) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を多く含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR7/6) 粘粒。しまり中～強。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (2.5Y/2) 粘粒・しまり弱。
  - 4 黒褐色粘質土 (2.5Y/2) 粘粒・しまり弱。
  - 5 土間・黒褐色粘質土 (10YR4/3) 粘粒普通。しまり中～強。
  - 6 オリーブ灰色粘質土 (2.5Y4/4) 粘粒・しまり普通。土間・黒褐色粘質土を少量含む。
  - 7 土間・黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘粒普通。しまり中～強。
  - 8 黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘粒・しまり中～強。黒褐色粘質土を多く含む。
  - 9 暗緑褐色粘質土 (10G4/1) 粘粒・しまり弱。
  - 10 暗オリーブ灰色粘質土 (5GY4/1) 粘粒普通。しまり弱。
  - 11 暗オリーブ灰色粘質土 (5GY4/1) 粘粒普通。しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 12 オリーブ灰色粘質土 (2.5G5/3) 粘粒普通。しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 13 オリーブ灰色粘質土 (10Y3/1) 粘粒普通。しまり普通。灰白色粘質土・黒褐色粘質土をブロック状に含む。

155E74

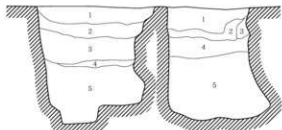
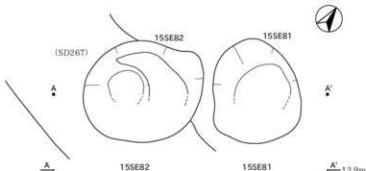


- 155E74
- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を多く含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘粒普通。しまり中～強。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 3 暗緑褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒普通。しまり中～強。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 4 黒褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒普通。しまり中～強。黒褐色粘質土を多く含む。
  - 5 黒褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒普通。しまり中～強。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 6 暗緑褐色粘質土 (2.5G2/1) 粘粒普通。しまり中～強。黒褐色粘質土を多く含む。
  - 7 黄褐色粘質土 (5R5/2) 粘粒普通。しまり中～強。
  - 8 黄褐色粘質土 (5R5/1) 粘粒普通。しまり普通。

155E44



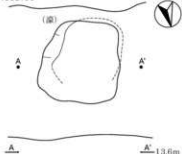
- 155E44
- 1 黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘粒普通。しまり中～強。オリーブ灰色粘質土・黒褐色粘質土を含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒・しまり中～強。黒褐色粘質土を含む。
  - 3 土間・黒褐色粘質土 (10YR5/2) 粘粒・しまり中～強。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 4 黒褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒中～強。しまり普通。暗緑褐色粘質土を少量含む。
  - 5 暗緑褐色粘質土 (7.5GY4/1) 粘粒中～強。しまり弱。オリーブ灰色粘質土をブロック状に含む。
  - 6 オリーブ灰色粘質土 (5GY2/1) 粘粒普通。しまり弱。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 7 オリーブ灰色粘質土 (5GY2/1) 粘粒普通。しまり普通。
  - 8 暗緑褐色粘質土 (10GY4/1) 粘粒普通。しまり普通。土間・黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 9 暗緑褐色粘質土 (10GY4/1) 粘粒普通。しまり普通。土間・黒褐色粘質土を少量含む。
  - 10 黒褐色粘質土 (10Y2/1) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 11 暗緑褐色粘質土 (10GY4/1) 粘粒普通。しまり普通。土間・黒褐色粘質土をブロック状に含む。



- 155E81
- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土・暗緑褐色粘質土・土間・黒褐色粘質土を少量含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒・しまり中～強。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 3 オリーブ灰色粘質土 (2.5Y2/1) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を多く含む。
  - 4 黒褐色粘質土 (10YR5/2) 粘粒・しまり普通。オリーブ灰色粘質土・土間・黒褐色粘質土を多く含む。
  - 5 暗緑褐色粘質土 (5GY4/1) 粘粒普通。しまり弱。

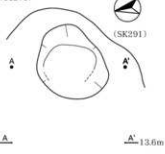
- 155E82
- 1 暗緑褐色粘質土 (2.5Y2/2) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 2 暗褐色粘質土 (2.5Y2/2) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 3 暗緑褐色粘質土 (2.5Y2/2) 粘粒・しまり普通。暗緑褐色粘質土・黒褐色粘質土を多く含む。
  - 4 黒褐色粘質土 (5Y5/1) 粘粒・しまり普通。
  - 5 暗緑褐色粘質土 (5GY4/1) 粘粒普通。しまり弱。

155E100



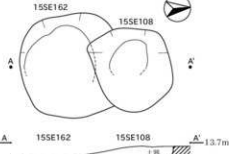
- 155E100
- 1 黄褐色粘質土(2.5V4/1) 粘粒性、しまりや中強、灰褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 2 黄褐色粘質土(2.5V5/6) 粘粒性、しまり普通、灰褐色粘質土を少量含む。
  - 3 灰土粘質土(5V4/1) 粘粒性中強、しまりやや中強、黄褐色粘質土を少量含む。
  - 4 灰土粘質土(7.5V3/1) 粘粒性中強、しまりやや中強、青灰色粘質土を含む。
  - 5 オリーブ黒色粘質土(2.5G9/6/1) 粘粒性やや中強、しまり中強。

155E107



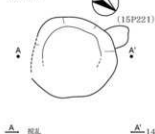
- 155E107
- 1 黄褐色粘質土(2.5V4/1) 粘粒性普通、しまりやや中強。
  - 2 灰土粘質土(10V4/1) 粘粒性普通、しまりやや中強。
  - 3 灰土粘質土(7.5V4/1) 粘粒性強、しまり普通、細灰褐色粘質土を少量含む。
  - 4 灰土粘質土(10V9/4/1) 粘粒性強、しまり普通。

155E162



- 155E162
- 1 暗褐色粘質土(2.5V5/2) 粘粒性、しまり普通、中に赤褐色粘質土に赤褐色粘質土を多く含む。
  - 2 暗褐色粘質土(10V9/4/1) 粘粒性中強、しまり普通、灰白色粘質土を多く含む。
  - 3 暗褐色粘質土(5R6/4/1) 粘粒性中強、しまり普通。
  - 4 灰土粘質土(7.5V5/1) 粘粒性やや中強、しまりやや中強。

155E111



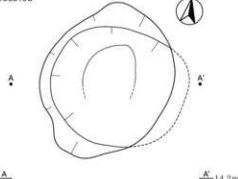
- 155E111
- 1 黒褐色粘質土(2.5V3/1) 粘粒性、しまり強、黄褐色粘質土を少量含む。
  - 2 黒褐色粘質土(2.5V3/1) 粘粒性、しまり強、黄褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 3 黒褐色粘質土(5V2/1) 粘粒性、しまり普通、黄褐色粘質土を少量含む。
  - 4 黒褐色粘質土(5V2/1) 粘粒性、しまり普通、黄褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 5 黒褐色粘質土(5V2/1) 粘粒性、しまり普通、黄褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 6 黒褐色粘質土(7.5V2/1) 粘粒性、しまり強、灰白色粘質土を少量含む。炭化物を多く含む。

155E155



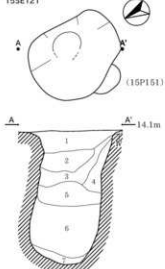
- 155E155
- 1 暗オリーブ褐色粘質土(2.5V3/2) 粘粒性、しまり強、黄褐色粘質土を少量含む。
  - 2 暗オリーブ褐色粘質土(2.5V3/2) 粘粒性、しまり強、黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。炭化物を少量含む。
  - 3 黄褐色粘質土(2.5V4/1) 粘粒性、しまり普通、黄褐色粘質土を少量含む。
  - 4 黒色粘質土(5V2/1) 粘粒性、しまり普通。
  - 5 黒色粘質土(10V9/12) 粘粒性強、しまり普通、4層を少量含む。

155E193



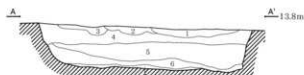
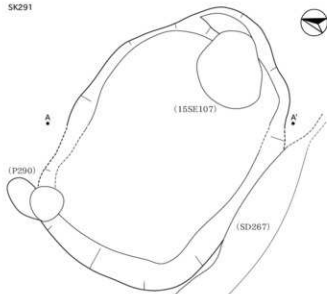
- 155E193
- 1 暗褐色粘質土(10V9/3/2) 粘粒性普通、しまりや中強。
  - 2 じいし(炭化物)粘質土(10V9/4/2) 粘粒性普通、しまりや中強、明褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 3 灰褐色粘質土(10V9/4/2) 粘粒性、しまり普通、明褐色粘質土を少量含む。
  - 4 灰褐色粘質土(10V9/4/1) 粘粒性、しまり中強、灰白色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 5 灰褐色粘質土(10V9/5/1) 粘粒性強、しまり中強。
  - 6 黒色粘質土(10V2/1) 粘粒性、しまり普通。
  - 7 灰白色粘質土(7.5V7/1) 粘粒性強、しまり普通。
  - 8 灰白色粘質土(7.5V7/1) 粘粒性強、しまり普通、黒色粘質土をブロック状に含む。
  - 9 オリーブ黒色粘質土(10V3/1) 粘粒性強、しまり強、灰白色粘質土をブロック状に含む。
  - 10 黒色粘質土(7.5V2/1) 粘粒性、しまり普通、灰白色粘質土をブロック状に含む。

155E121



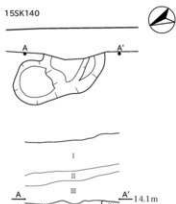
- 155E121
- 1 黒褐色粘質土(10V9/3/2) 粘粒性、しまりや中強。
  - 2 黒褐色粘質土(10V9/2/2) 粘粒性、しまり強、黄褐色粘質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む。
  - 3 黒褐色粘質土(2.5V3/2) 粘粒性、しまり強。
  - 4 黒褐色粘質土(青褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 5 黒褐色粘質土(2.5V3/2) 粘粒性、しまり強。
  - 6 黒褐色粘質土(青褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。
  - 7 暗オリーブ黒色粘質土(7.5V3/1) 粘粒性、しまり普通、黄褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 8 暗褐色粘質土(7.5V3/1) 粘粒性強、しまり普通。

5K291



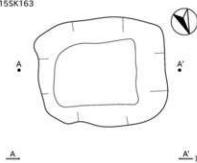
- 5K291
- 1 黒灰色粘質土 (2.5V4/1) 粘性・しまり普通。黒灰色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性やや弱。しまり普通。
  - 3 黒灰色粘質土 (10YR4/1) 粘性やや弱。しまり普通。
  - 4 灰色粘土 (2.5V2/1) 粘性弱。しまりやや弱。
  - 5 灰オリーブ色粘質土 (7.5V4/2) 粘性弱。しまりやや弱。
  - 6 灰色粘土 (10Y/1) 粘性やや弱。しまり普通。
  - 7 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性普通。しまりなし。腐植物を多く含む。

155K140



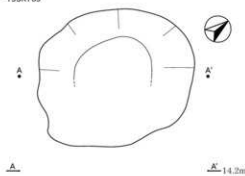
- 155K140
- 1 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土・黒灰色粘質土をブロック状に含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に多く含む。
  - 4 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土・黒灰色粘質土をブロック状に多く含む。

155K163



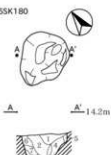
- 155K163
- 1 黒灰色粘質土 (10YR5/1) 粘性やや弱。しまり普通。
  - 2 黒灰色粘質土 (2.5V2/2) 粘性・しまりやや弱。1層を少量含む。
  - 3 土間・灰色粘質土 (2.5V6/2) 粘性・しまりやや弱。黒褐色シルトを多く含む。
  - 4 黒灰色粘質土 (10YR5/1) 粘性・しまりやや弱。

155K169



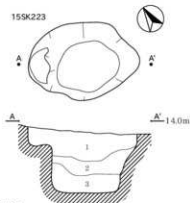
- 155K169
- 1 土間・黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性やや弱。しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性やや弱。しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性・しまり普通。黒褐色粘質土を含む。
  - 4 土間・黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性やや弱。しまり普通。
  - 5 黒褐色粘質土 (10YR5/1) 粘性・しまり普通。土間・黒褐色粘質土を少量含む。
  - 6 黒褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性・しまり普通。灰色粘土をブロック状に含む。

155K180

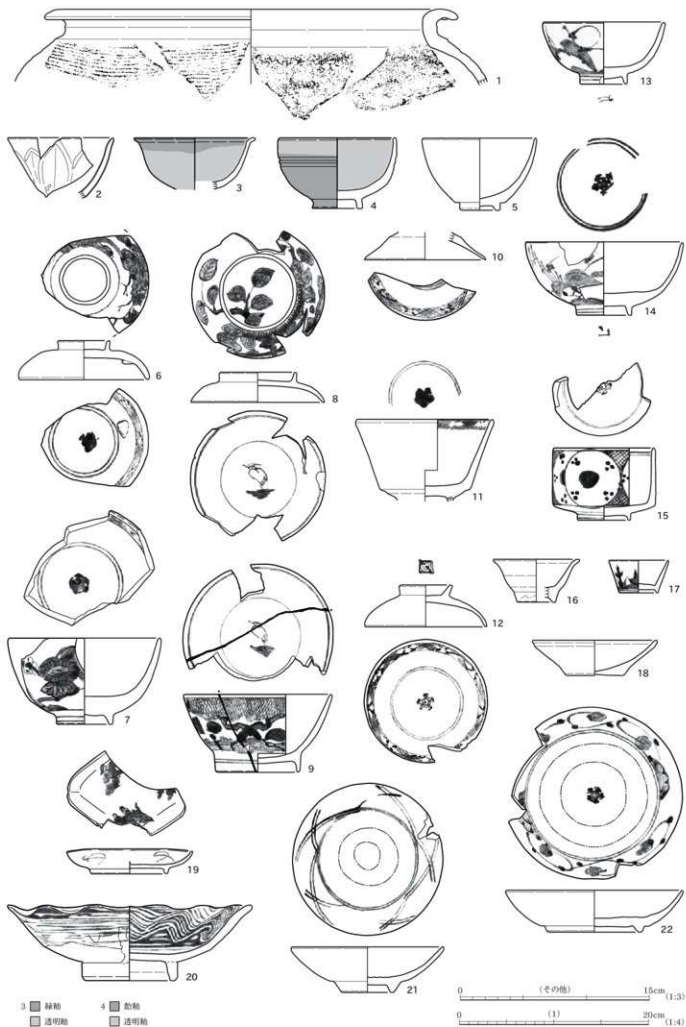


- 155K180
- 1 黒灰色粘質土 (2.5V4/2) 粘性・しまりやや弱。黒褐色粘質土・黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (2.5V2/2) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土を多く少量含む。
  - 3 土間・黒褐色粘質土 (10YR5/4) 粘性・しまり強。
  - 4 黒褐色粘質土 (2.5V3/2) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土・黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 5 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまり強。
  - 6 土間・黒褐色粘質土 (10YR5/4) 粘性・しまり強。
  - 7 黒オリーブ褐色粘質土 (2.5V3/3) 粘性・しまり強。
  - 8 黒褐色粘質土 (2.5V4/1) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 9 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性・しまり強。

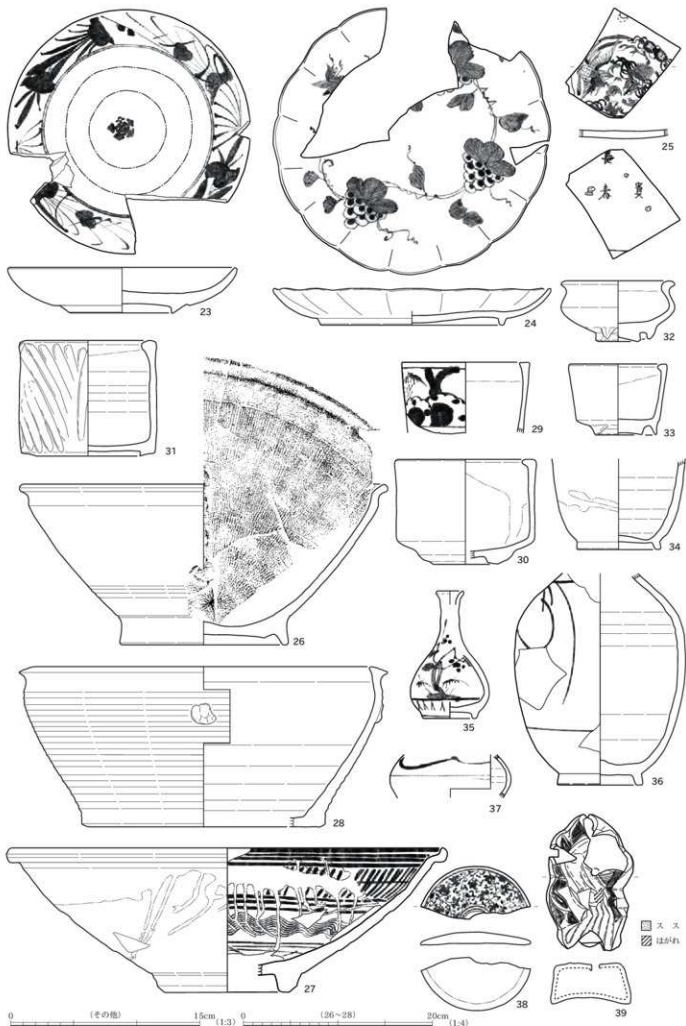
155K223

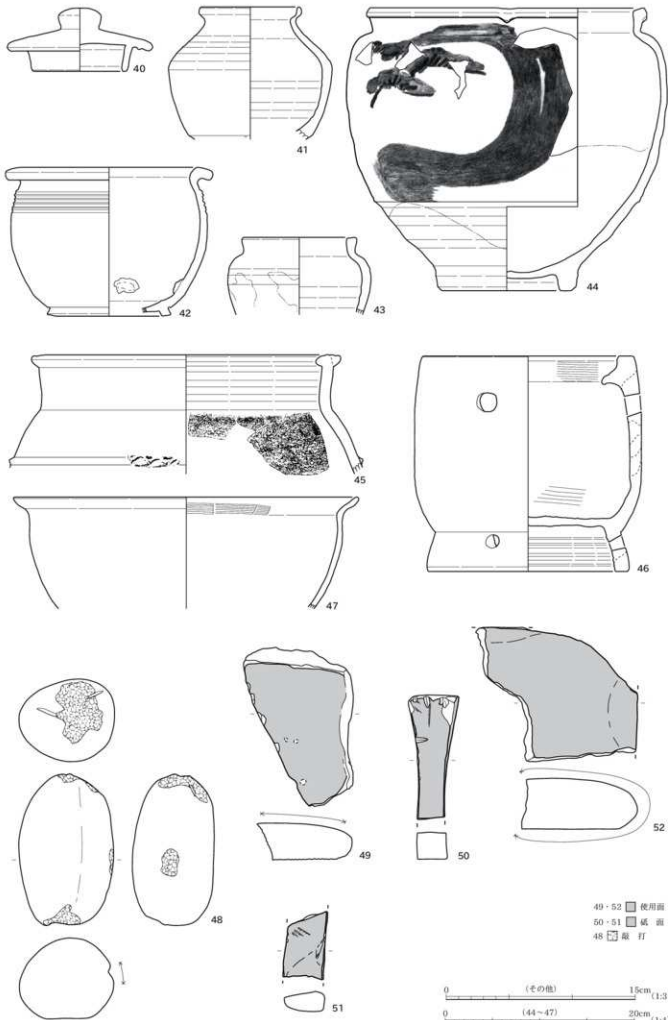


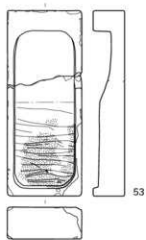
- 155K223
- 1 黒褐色粘質土 (2.5V3/2) 粘性・しまりやや弱。黒褐色粘質土・黒褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 2 黒褐色粘質土 (2.5V3/2) 粘性・しまりやや弱。黒褐色粘質土・黒褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。
  - 3 黒褐色粘質土 (10YR6/0) 粘性・しまり普通。黒褐色粘質土・黒褐色粘質土をブロック状に含む。



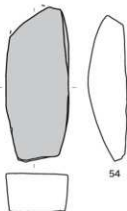




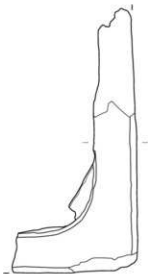




53



54



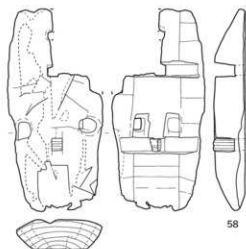
57



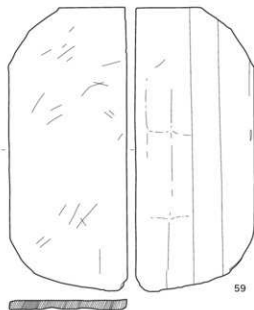
55



56



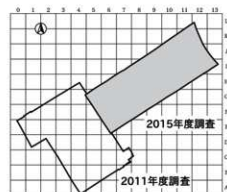
58

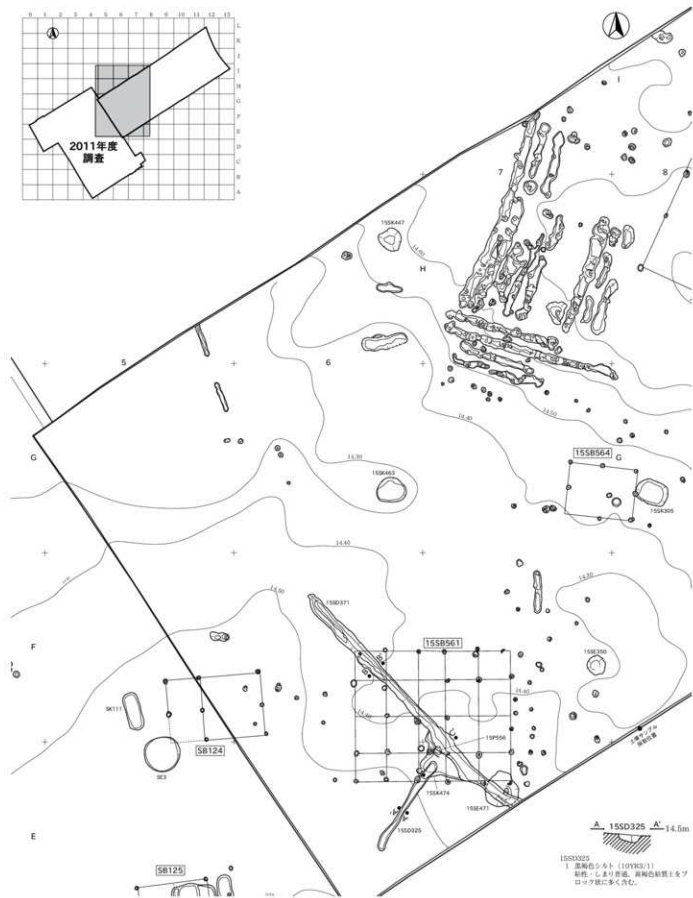
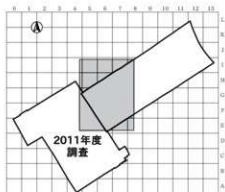


59

53 ■ 漆 痕  
54 - 55 ■ 砥 面  
56 ■ 炭化物

0 (その他) 15cm (1:3)  
0 (57~59) 20cm (1:4)





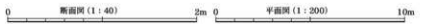
A 155D325 A' 14.6m

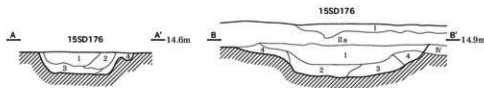
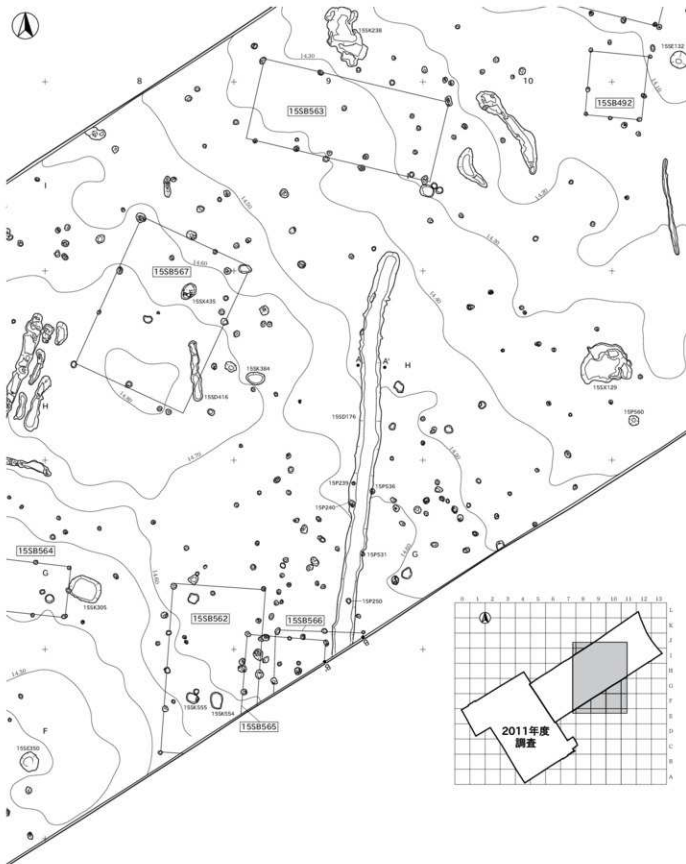
155D325  
1 黒褐色シルト (10YR3/1)  
粘性・しまり普通。黒褐色粘質土をフ  
ロップ状に多く含む。

B 155D371 B' 14.4m

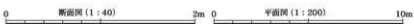
155D371  
1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性・しまりやや強。  
黒褐色粘質土をごく少量含む。  
2 におい・黒褐色粘質土 (10YR4/3) 粘性・しまり強。  
黒褐色粘質土・黒褐色粘質土をフロップ状に含む。  
3 黒褐色粘質土 (10YR3/4) 粘性・しまりやや強。

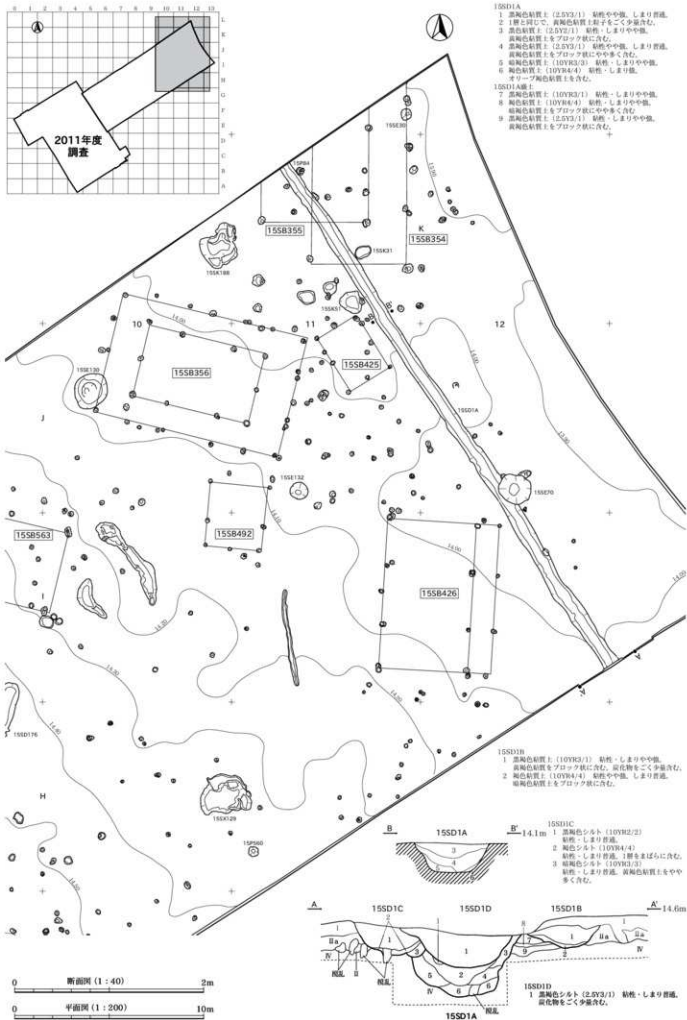
C 155D325 155K474 155D371  
C' 14.6m 155K474  
1 黒褐色粘質土 (10YR2/4) 粘性・しまりやや強。  
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまり普通。  
黒褐色粘質土をフロップ状に少量含む。  
3 におい・黒色シルト (2.5YR/3) 粘性弱。しまり普通。  
黒褐色粘質土をごく少量含む。



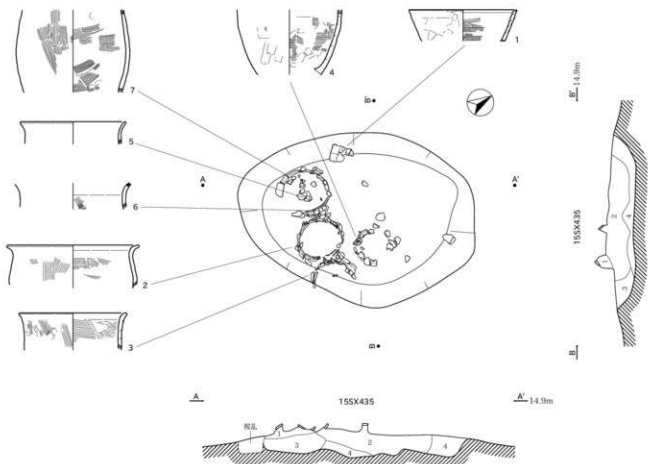


- 155D176
- 1 漆褐色シルト (10VR2/1) 粘板・しまりや中硬、炭化物をごく少量含む。
  - 2 漆褐色シルト (20VR/1) 粘板・しまり程度、炭化粘板土をブロック状に少量含む。
  - 3 漆色シルト (7.0V2/1) 粘板・しまり程度、炭化粘板土をブロック状にやや多く含む。
  - 4 濃い黄褐色シルト (10VR5/2) 粘板・しまり程度。





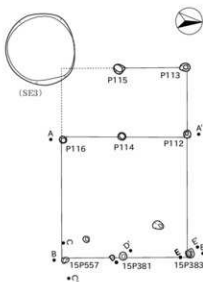
155X435



155X435

- 1 焼きろーア陶色粘質土 (2.0Y3/3) 粘粒・しまり普通。
- 2 灰赤陶色粘質土 (2.5Y5/2) 粘粒・しまり普通。黄陶色粘質土を少量含む。
- 3 濃い黄陶色粘質土 (10YR4/3) 粘粒・しまり普通。
- 4 黄陶色粘質土 (2.5Y5/3) 粘粒・しまり普通。焼赤陶色粘質土・濃い黄陶色粘質土を少量含む。

SB124



A-P116 P114 P112 A' 14.6m



B 15P557 15P381 15P383 B' 14.6m



C 15P557 C' 14.7m



15P557

- 1 黒色シルト (10YR2/1) 粘粒・しまり普通。
- 2 黄陶色粘質土をブロック状に少量含む。灰化物をごく少量含む。

D 15P381 D' 14.7m



15P381

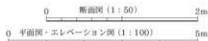
- 1 黄陶色粘質土 (10YR2/2) 粘粒・しまり普通。
- 2 黄陶色粘質土をブロック状にやや多く含む。

E 15P383 E' 14.7m



15P383

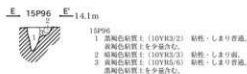
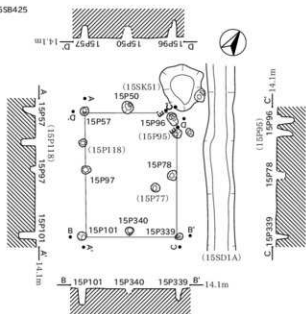
- 1 黄赤粘質土 (10YR2/1) 粘粒・しまり中強。
- 2 灰化物をごく少量含む。



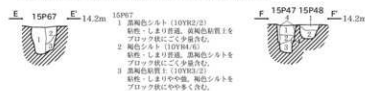
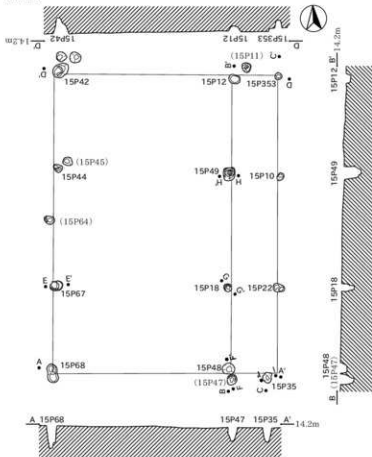




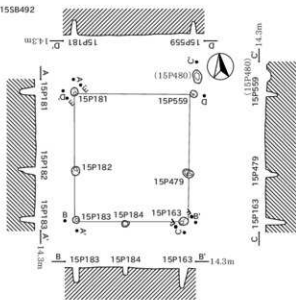
155B425



155B426



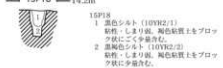
155B492



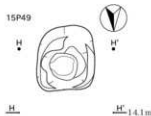
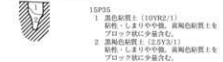
15P181  
1 黒褐色粘質土 (10YR3/2)  
粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を含む。

15P163  
1 黒褐色粘質土 (10YR3/2)  
粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。  
2 黒褐色粘質土 (10YR3/2)  
粘粒・しまり弱。黒褐色粘質土を少量含む。

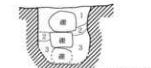
G-G' 14.2m



I-I' 14.2m

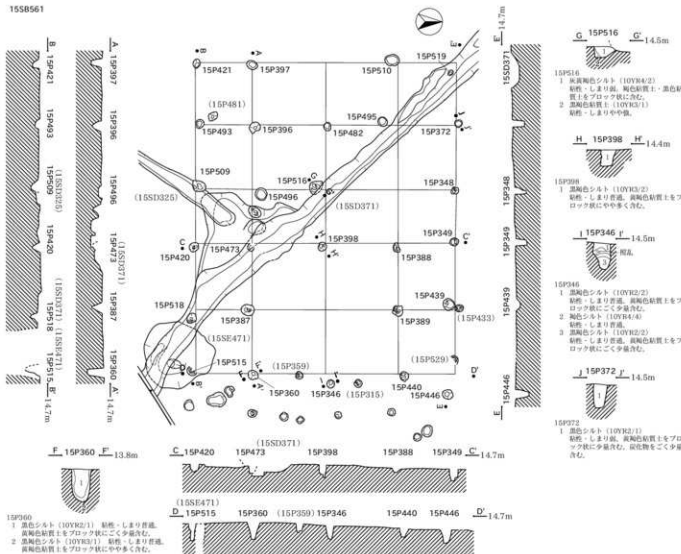


H-H' 14.1m

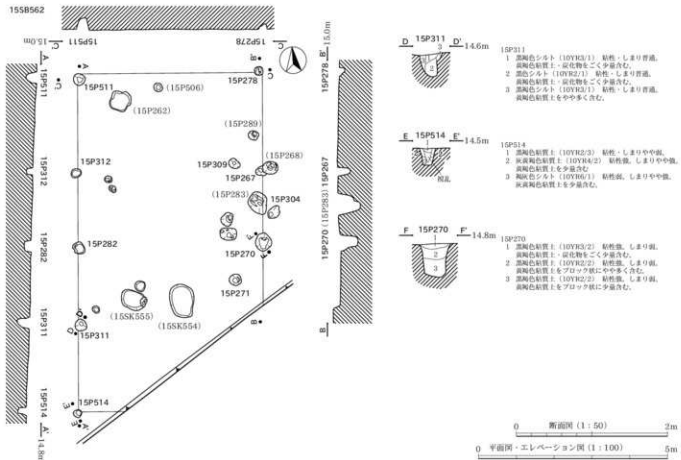


15P49  
1 褐色シルト (10YR4/1) 粘粒・しまり弱。褐色シルトをまばらに含む。黒褐色粘質土をブロック状に含む。  
2 黒色シルト (10YR2/1) 粘粒・しまり普通。  
3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に含む。

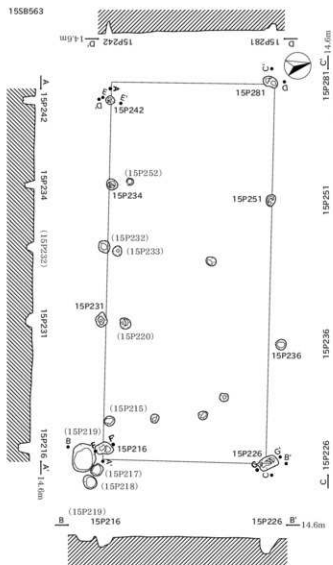
15B561



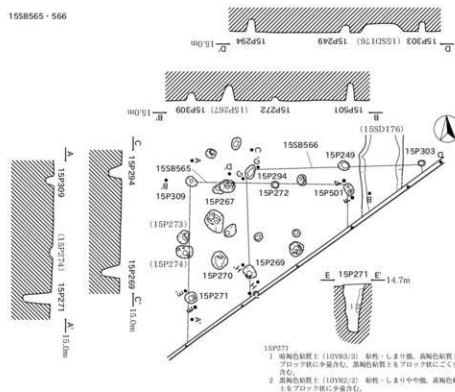
15B562



1558563



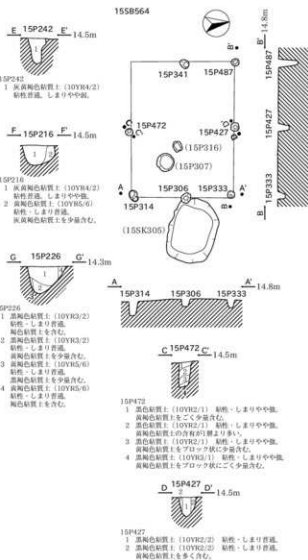
1558565 - 566



15P271

- 1 褐色粘質土 (10YR3/3) 粘質・しまりぬ。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘質・しまりややぬ。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。

1558564



- 15P242
- 1 黄褐色粘質土 (10YR4/2) 粘質普通。しまりややぬ。

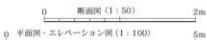
- 15P216
- 1 黄褐色粘質土 (10YR4/2) 粘質普通。しまりややぬ。黄褐色粘質土を少量含む。
  - 2 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘質・しまり普通。

- 15P226
- 1 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 粘質・しまり普通。
  - 2 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 粘質・しまり普通。
  - 3 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘質・しまり普通。
  - 4 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘質・しまり普通。

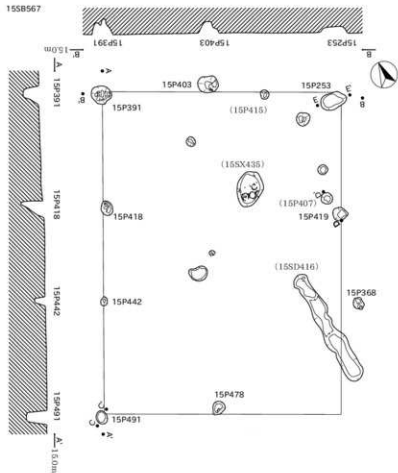
- 15P256
- 1 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 粘質・しまり普通。
  - 2 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 粘質・しまり普通。
  - 3 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘質・しまり普通。
  - 4 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘質・しまり普通。

- 15P472
- 1 灰色粘質土 (10YR2/1) 粘質・しまりややぬ。黄褐色粘質土をごく少量含む。
  - 2 灰色粘質土 (10YR2/1) 粘質・しまりややぬ。黄褐色粘質土の含有がやや多い。
  - 3 灰色粘質土 (10YR2/1) 粘質・しまりややぬ。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
  - 4 黄褐色粘質土 (10YR3/1) 粘質・しまりややぬ。黄褐色粘質土をブロック状にごく少量含む。

- 15P427
- 1 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘質・しまり普通。
  - 2 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘質・しまり普通。



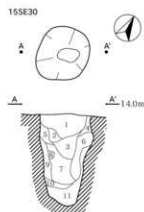
155B567



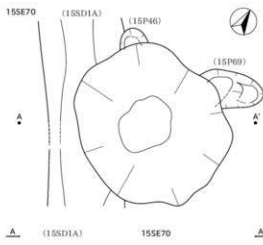
C 15P491 C' 14.9m  
15P491  
1 灰色・黄褐色粘質土 (10YR4/3) 粘性・しまりや中硬。  
2 褐色粘質土 (10YR4/6) 粘性や中硬。  
3 褐色粘質土 (10YR4/6) 粘性や中硬。しまり普通。  
黄褐色粘質土を少量含む。

D 15P419 15P407 D' 14.9m  
15P419  
1 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまり普通。  
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまり普通。  
3 褐色粘質土 (10YR4/4) 粘性・しまり普通。  
黄褐色粘質土を少量含む。

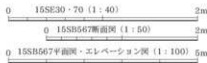
E 15P253 E' 14.7m  
15P253  
1 黄褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性や中硬。しまり普通。  
2 灰色粘質土 (10YR4/3) 粘性や中硬。しまり普通。  
3 灰色粘質土 (10YR4/3) 粘性普通。しまりや中硬。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
4 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性普通。しまりや中硬。  
灰色粘質土を少量含む。



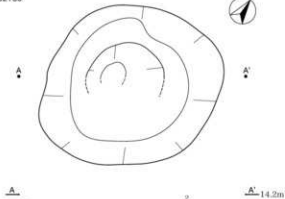
155E30  
1 褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性普通。しまり強。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
2 褐色粘質土 (10YR2/3) 粘性普通。しまりや中硬。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
3 黄褐色粘質土 (10YR2/1) 粘性普通。しまりや中硬。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
4 黄褐色粘質土 (10YR6/6) 粘性や中硬。しまり普通。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
5 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまり普通。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
6 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまりや中硬。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
7 黄褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性普通。しまりや中硬。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
8 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまり普通。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
9 黄褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性や中硬。しまり普通。  
黄褐色粘質土を少量含む。  
10 黄褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性や中硬。しまり普通。  
11 黄褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性や中硬。しまりや中硬。



155E70  
1 暗オリーブ褐色シルト (2.5Y2/3) 粘性・しまり普通。黄褐色粘質土・炭化物をごく少量含む。  
2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性・しまり強。  
3 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまり普通。黄褐色粘質土を少量含む。  
4 黒色粘質土 (7.5Y2/1) 粘性・しまりや中硬。炭化物を多く含む。  
5 黄褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性・しまりや中硬。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。炭化物をごく少量含む。  
6 暗オリーブ褐色シルト (2.5Y2/3) 粘性・しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。炭化物をごく少量含む。  
7 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・しまりや中硬。黄褐色粘質土をブロック状に多く含む。炭化物をごく少量含む。  
8 黒色粘質土 (10YR2/1) 粘性・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。炭化物をごく少量含む。  
9 黄褐色粘質土 (10YR4/6) 粘性・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。  
10 黄褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性強。しまりや中硬。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。  
11 黒色シルト (N2/0) 粘性や中硬。しまり強。黄褐色粘質土を少量含む。  
12 黒色粘質土 (N2/0) 粘性や中硬。しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状に含む。炭化物を多く含む。  
13 褐色粘質土 (10YR4/6) 粘性強。しまりや中硬。黄褐色粘質土を少量含む。  
14 褐色粘質土 (10YR4/6) 粘性・しまり強。  
15 黒色粘質土 (N2/0) 粘性・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に含む。  
16 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性・しまり強。13層をブロック状に含む。



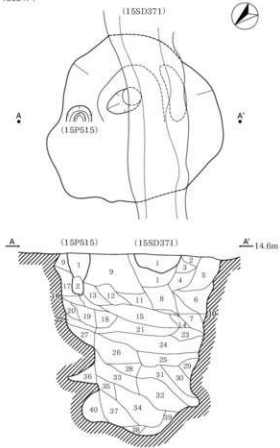
155E130



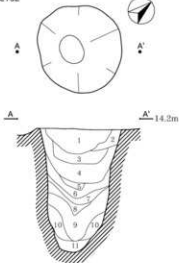
155E130

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒・しまり普通。
- 2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘粒・しまりやや強。
- 3 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒・しまりやや強。褐色粘質土を少量含む。
- 4 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘粒・しまり中強。しまり弱。黒褐色粘質土を少量含む。
- 5 灰白色粘質土 (10YR4/2) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。
- 6 黒褐色粘質土 (10YR4/1) 粘粒普通。しまりやや強。黒褐色粘質土を少量含む。
- 7 褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒やや強。しまり普通。
- 8 黄褐色粘質土 (10YR5/4) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。
- 9 黄褐色粘質土 (10YR4/1) 粘粒やや強。しまり普通。炭化物を少量含む。
- 10 褐色粘質土 (10YR4/1) 粘粒・しまりやや中強。黒褐色粘質土・灰白色粘質土を多く含む。
- 11 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒やや強。しまり普通。灰白色粘質土・黒褐色粘質土を少量含む。
- 12 黒褐色粘質土 (10YR5/1) 粘粒強。しまり中強。炭化物を多く含む。
- 13 黒褐色粘質土 (10YR5/1) 粘粒・しまり中強。黄褐色粘質土・灰白色粘質土を少量含む。
- 14 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒・しまりやや中強。灰白色粘質土を少量含む。
- 15 黒褐色粘質土 (10YR5/1) 粘粒強。しまり普通。灰白色粘質土を少量含む。
- 16 褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒・しまり強。炭化物を多く含む。
- 17 黒褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒普通。しまり強。灰白色粘質土を多く含む。
- 18 黒褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒中強。しまり強。黄褐色粘質土を多く含む。

155E471



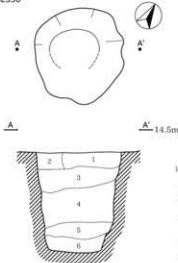
155E132



155E132

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒・しまり普通。
- 2 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒・しまり普通。
- 3 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒・しまり普通。
- 4 黒褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒普通。しまり中強。中に灰褐色粘質土を少量含む。
- 5 褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒中強。しまり普通。
- 6 褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒・しまり普通。
- 7 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒中強。しまり普通。
- 8 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘粒中強。しまり普通。炭化物を少量含む。
- 9 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘粒中強。しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。
- 10 黄褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒強。しまり中強。黒褐色粘質土を含む。
- 11 黄褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒強。しまり強。黒褐色粘質土を少量含む。

155E350



155E350

- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に中々多く含む。
- 2 褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒・しまり普通。
- 3 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 4 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘粒・しまり普通。
- 5 黄褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。炭化物を多く含む。
- 6 褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
- 7 褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒・しまり強。

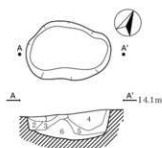
155E471

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒・しまり中強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 2 褐色シルト (10YR4/6) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 3 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘粒・しまり普通。
- 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘粒・しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。
- 5 褐色シルト (10YR4/6) 粘粒・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に含む。
- 6 土層に同じだが、黄褐色粘質土の含有率が多少少ない。
- 7 土色・黄褐色シルト (10YR4/3) 粘粒・しまり普通。黄褐色粘質土をブロック状に含む。
- 8 褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒・しまり強。
- 9 黒褐色粘質土 (10YR3/4) 粘粒・しまり中強。黄褐色粘質土・炭化物をごく少量含む。
- 10 黒褐色粘質土 (10YR4/6) 粘粒・しまり強。
- 11 灰白色粘質土 (2.5Y7/2) 粘粒・しまり中強。
- 12 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土・炭化物をごく少量含む。
- 13 褐色粘質土 (10YR4/6) 粘粒・しまり中強。
- 14 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に少量含む。炭化物を含む。
- 15 黒褐色シルト (10YR2/1) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に中々多く含む。
- 16 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘粒・しまり普通。
- 17 黒褐色シルト (10YR3/3) 粘粒・しまり強。
- 18 黄褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘粒中強。しまり普通。
- 19 黒褐色粘質土 (10YR4/1) 粘粒・しまり中強。
- 20 褐色粘質土 (2.5Y2/1) 粘粒・しまり強。
- 21 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒・しまり強。
- 22 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘粒・しまり強。20層をブロック状に中々多く含む。
- 23 褐色シルト (10YR4/6) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状にごく少量含む。
- 24 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘粒・しまり強。褐色粘質土をブロック状に中々多く含む。
- 25 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘粒・しまり強。
- 26 灰白色シルト (2.5Y7/1) 粘粒・しまり強。
- 27 褐色粘質土 (2.5Y2/1) 粘粒・しまり中強。黄褐色粘質土をブロック状にごく少量含む。炭化物をごく少量含む。
- 28 黒褐色シルト (2.5Y2/2) 粘粒・しまり強。
- 29 褐色シルト (10YR4/6) 粘粒・しまり普通。
- 30 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘粒・しまり強。
- 31 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘粒・しまり強。20層をブロック状に少量含む。
- 32 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状にごく少量含む。炭化物をごく少量含む。
- 33 灰白色シルト (2.5Y7/1) 粘粒・しまり普通。
- 34 褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土・褐色粘質土をブロック状に含む。
- 35 黄褐色粘質土 (2.5Y3/3) 粘粒・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に中々多く含む。
- 36 褐色粘質土 (10YR4/6) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状に中々多く含む。
- 37 黄褐色粘質土 (2.5Y5/3) 粘粒・しまり強。粘性鉄を多く含む。
- 38 褐色粘質土 (2.5Y2/1) 粘粒・しまり強。
- 39 褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒・しまり強。
- 40 土色・黄褐色粘質土 (2.5Y3/3) 粘粒・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。

155E15

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土をブロック状にごく少量含む。
- 2 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒・しまり強。黄褐色粘質土を中々多く含む。

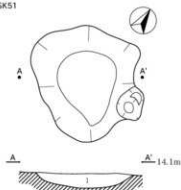
155K31



155K31

- 1 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性・しまり普通。にのみ黒褐色粘質土を少量含む。
- 2 にのみ黒褐色粘質土 (10YR5/4) 粘性・しまり普通。灰黄褐色粘質土を少量含む。
- 3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性・中強。しまり普通。明褐色粘質土を少量含む。
- 4 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 粘性普通。しまり中強。黒褐色粘質土を少量含む。
- 5 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性・しまり普通。黒褐色粘質土を少量含む。
- 6 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性・しまり普通。にのみ黒褐色粘質土を少量含む。

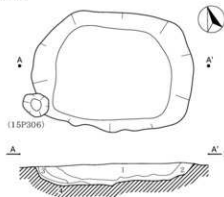
155K51



155K51

- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性普通。しまり中強。

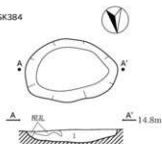
155K305



155K305

- 1 黒色シルト (10YR2/1) 粘性・しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。炭化物をごく少量含む。
- 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性・しまり普通。黒褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。炭化物をごく少量含む。
- 3 黒色シルト (7.5Y2/1) 粘性・しまり普通。
- 4 黒色シルト (10YR4/4) 粘性・しまり普通。3層をブロック状に含む。

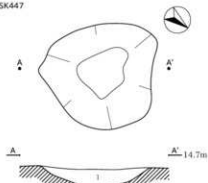
155K384



155K384

- 1 にのみ黒褐色粘質土 (10YR5/4) 粘性・しまり普通。

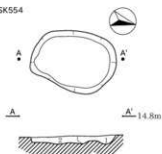
155K447



155K447

- 1 暗灰黄色粘質土 (7.5Y5/2) 粘性・しまり強。黄褐色粘質土を少量含む。

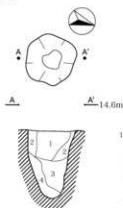
155K554



155K554

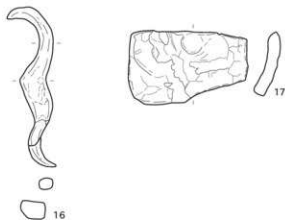
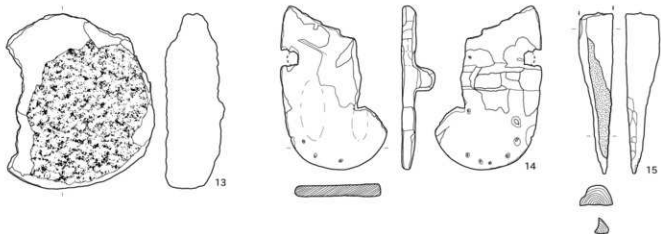
- 1 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性普通。しまり弱。
- 2 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘性普通。しまり弱。黒褐色粘質土をブロック状にやや多く含む。黒褐色粘質土をブロック状に含む。

15P560



15P560

- 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘性・しまり普通。黄褐色粘質土を少量含む。
- 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性普通。しまり弱。黄褐色粘質土をやや多く含む。
- 3 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2) 粘性・しまり強。黒褐色粘質土をブロック状に少量含む。灰白色粘質土をブロック状にごく少量含む。
- 4 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性・しまり強。炭化物をまばらに含む。



15 ■ 炭化樹皮





上越三和道谷と堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡の位置 1947年11月4日米軍撮影 (1:50,000)



堂古遺跡・下割遺跡・二反割遺跡の位置と周辺の地割 1946年10月10日米軍撮影 (1:10,000)



堂古遺跡・下割遺跡全景（上空から）



2015年度調査 堂古遺跡・下割遺跡遠景（南東上空から）



2014年度調査 堂古遺跡遠景（南東上空から）



堂古遺跡全景（上空から）





掘立柱建物（上空から）



8・9G・H周辺の遺構（上空から）



SD510 完掘(南東から)



10～12G～J周辺の遺構(上空から)



15・16L VI層(15SK96内) 出土状況(北東から)



16・17L VI層 出土状況(北東から)



16・17L VI層 出土状況拡大(南から)



第8図 基本層序③(南東から)



第8図 基本層序⑥(南東から)



第8図 基本層序⑦(南東から)



第8図 基本層序⑧(北西から)



SB1019-P168 遺物(131) 出土状況(東から)



SE588 底面付近(北東から)



SE737 遺物(119) 出土状況(西から)

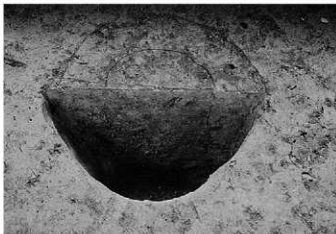


15SE222 遺物(124・133) 出土状況(北西から)

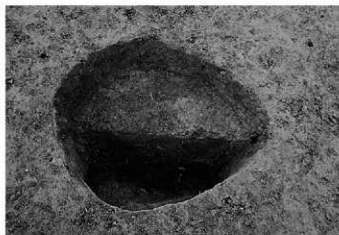




SB61 完照(西から)



SB61-P16 断面(北東から)



SB61-P11 断面(北東から)



SB61-P18 断面(北から)



SB73 完照(東から)



SB73-P66 断面(南から)



SB73-P67 断面(南から)



SB73-P71 断面(北から)





SB170・15SA305 完掘(南から)



SB170-P834 断面(南から)



SB170-P833 断面(南から)



SB170-P832 断面(南から)



15SA305-P836 断面(北から)



SB240 完掘(北から)



SB240-P230 断面(南西から)



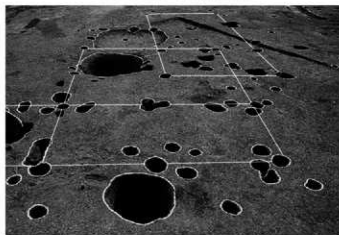
SB240-P241 断面(東から)



SB1013-P985 断面(南東から)



SB1013-P300 断面(南から)



SB1014・1018 平面(北から)



SB1014-P119 断面(南東から)



SB1014-P178 断面(南西から)



SB1014-P711 断面(南から)



SB1014-P693 断面(西から)



SB1018-P114 断面(南東から)



SB1018-P122 遺物(129) 出土状況(南から)



SB1018-P122 断面(南東から)



SB1019 完掘(南から)



SB1019-P303 断面(南から)



SB1019-P195 断面(南から)



SB1019-P305 断面(南から)



SB1100-P419 断面(北東から)



SB1100-P278 断面(北西から)



SB1134-P291 断面(東から)



155B295 完掘(南西から)



155B295-15P272 断面(北東から)



155B304 ほか完掘(南から)



155B304-P756 断面(北から)



155B304-P415 断面(北東から)



155B304-P272 断面(南東から)



SD653 断面(北から)



SI159 断面(南から)



SI159-P173 断面(東から)



SI159-P171 断面(北から)



SI159 完照(南から)



SI238 断面(南東から)



SI238 完照(北から)



SI465 断面 A-A'(東から)



SI465 完照(東から)



S1736 断面(南西から)



S1736 完掘(南から)



SE33 断面(西から)



SE33 完掘(西から)



SE80 断面上部(西から 断面図とは反対方向)



SE80 断面下部(東から)



SE80 完掘上部(西から)



SE196 断面上部(南から)



SE196 完掘上部(南から)



SE202 断面(南から)



SE202 完掘(南から)



SE205 断面上部(東から)



SE205 完掘上部(北東から)



SE237 断面上部(北から)



SE237 断面下部(北から)



SE237 完掘上部(北から)



SE249 断面上部(南から)



SE249 断面下部(南から)



SE249 完掘上部(南から)



SE306 断面上部(北西から 断面図とは反対方向)



SE306 断面下部(南東から)



SE313 断面(北西から)



SE315 断面上部(北から)



SE315 断面下部(北から)





SE315 完掘上部(南から)



SE367 断面上部(南西から)



SE367 断面下部(南西から)



SE367 完掘上部(南西から)



SE380 断面上部(東から)



SE380 断面下部(東から)



SE380 完掘上部(南から)



SE388 断面(北西から)



SE388 完掘上部(西から)



SE391 断面(南から)



SE391 完掘(南から)



SE393 断面(西から)



SE393 完掘(西から)



SE412 断面上部(南から 断面図とは反対方向)



SE412 断面下部(北から)



SE412 完掘上部(東から)



SE588 断面上部(東から)



SE588 断面下部(東から)



SE588 完面上部(東から)



SE613 断面上部(東から)



SE613 断面下部(東から)



SE613 完面上部(東から)



SE737 断面上部(北東から)



SE737 断面下部(北東から)



SE737 完掘上部(北東から)



SE800 断面 A-A'(西から)



SE800 断面 B-B'(南から)



SE800 完掘(西から)



SE922 断面上部(北東から)



SE922 断面周囲(北東から)



SE922 完掘上部(北東から)



SE999 断面上部(南東から)



15SE99 断面上部(南東から)



SE999・15SE99 断面下部(北西から 断面図とは反対方向)



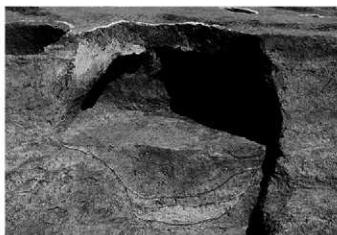
SE999 完掘上部(南東から)



15SE99 完掘上部(南東から)



SE1087 断面上部(南東から)



SE1087 断面下部(南東から)



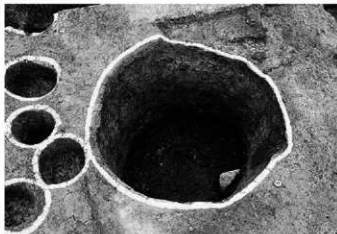
SE1087 完掘上部(南東から)



SE1104 断面上部(南西から)



SE1104 断面下部(南西から)



SE1104 完掘上部(南西から)



SE1124 断面上部(南西から)



SE1124 断面下部(南西から)



SE1124 完掘上部(南西から)



15SE3 断面上部(南東から)



15SE3 断面下部(北西から 断面図とは反対方向)



15SE3 完掘上部(南東から)



15SE162 断面上部(南東から)



15SE162 断面下部(南東から)



15SE162 完掘上部(南東から)



15SE185 断面上部(南東から)



15SE185 断面下部(南東から)



15SE185 完掘上部(南東から)



15SE219 断面上部(南西から)



15SE219 断面下部(南西から)



15SE219 完掘上部(南西から)



15SE222 断面上部(北西から)



15SE222 断面下部(北西から)



15SE222 完掘上部(北西から)



15SE226 断面上部(東から)



15SE226 断面下部(東から)



15SE226 完掘上部(南東から)



15SE229 断面上部(北西から)





155E229 断面下部(北西から)



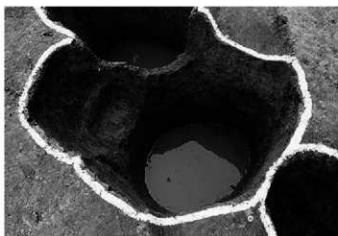
155E229 完掘上部(北西から)



155E282 断面上部(東から)



155E282 断面下部(東から)



155E282 完掘上部(東から)



155E296 断面上部(南西から)



155E296 断面下部(南西から)



155E296 完掘上部(南西から)



SD150 断面(南東から)



SD150 完掘(北から)



SD151 断面 B-B' (南から)



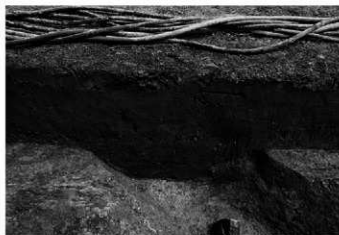
SD151 断面 C-C' (東から)



SD201 断面(南西から)



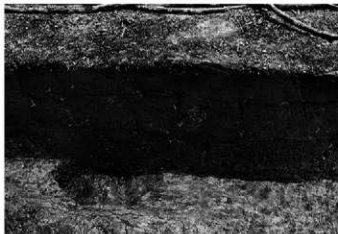
SD209・P210 断面(北から)



SD318 断面 A-A' (北西から)



SD318 遺物(108)出土状況(東から)



SD328 断面 A-A' (北西から)



SD366 断面 C-C' (北から)



SD462 断面 B-B' (南東から)



SD318・328・366・462 完掘 (上空から)



SD510 断面 A-A' (北西から)



SD510 断面 B-B' (北西から)



15SD23 断面 (北東から)



15SD23 完掘 (南西から)



15SD29 断面(北東から)



15SD29 完掘(北東から)



15SD298 断面 F-F'(北西から)



15SD298 断面 E-E'(北西から)



15SD298 完掘(南東から)



15SD299 断面 H-H'(西から)



15SD299 断面 G-G'(北西から)



15SD29・15SD299 完掘(西から)



畑作溝 SD91～93 断面(北から)



畑作溝 SD94～96 断面(北から)



畑作溝 SD91～100 完掘(北から)



段丘縁断面(西から)



ST684 断面 A-A'(南から)



ST684 出土状況北半(南から)



ST684 出土状況北半アップ(南から)



ST684 完掘(南から)



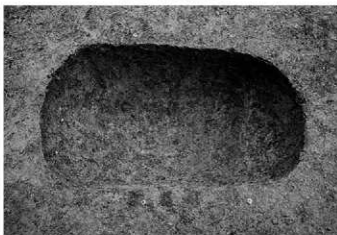
SK83 断面(北から)



SK83 完掘(北から)



SK204 断面(北から)



SK204 完掘(西から)



SK212 断面 A-A'(南西から)



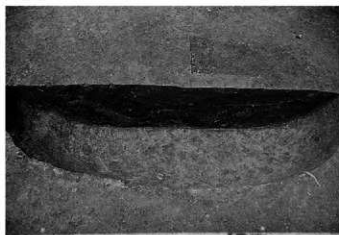
SK212 断面 B-B'(北東から)



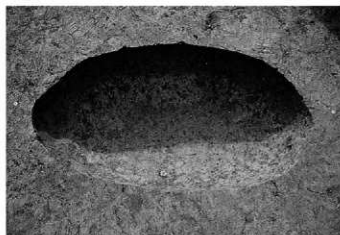
SK212 完掘(西から)



SK167 断面(南から)



SK233 断面(南東から)



SK233 完掘(南東から)



SK234 断面(東から)



SK234 完掘(東から)



SK235 断面(南から)



SK235 完掘(南から)



SK239 断面(東から)



SK239 完掘(東から)



SK256 断面(南東から)



SK256 完掘(南西から)



SK296 断面(北東から)



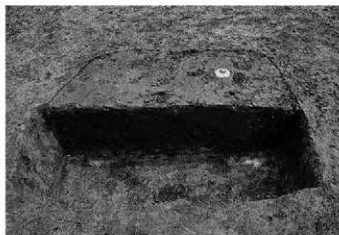
SK296 完掘(北東から)



SK381 断面(南東から)



SK381 完掘(南東から)

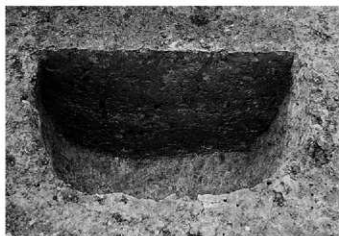


SK503 断面(北から)



SK503 完掘(北から)





SK622 断面(北から)



SK622 完掘(東から)



SK691 断面(東から)



SK691 完掘(東から)



SK722 断面(東から)



SK722 完掘(東から)



155K96 断面(北東から)



155K96 完掘(北東から)



155K218 断面 A-A' (東から)



155K218 断面 B-B' (北東から)



155K218 完掘 (東から)



SK264 断面 (東から)



155K264 断面 (南西から)



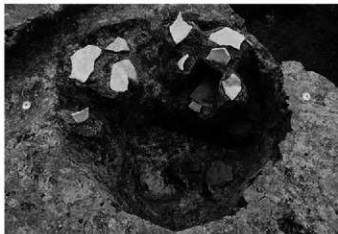
155K264 完掘 (南西から)



P263 検出状況 (北西から)



P263 断面 (北から)



P263 遺物出土状況(北西から)



P263 完掘(北西から)



155X182 検出(南東から)



155X182 断面(南東から)



16・17L VI層 出土状況(東から)



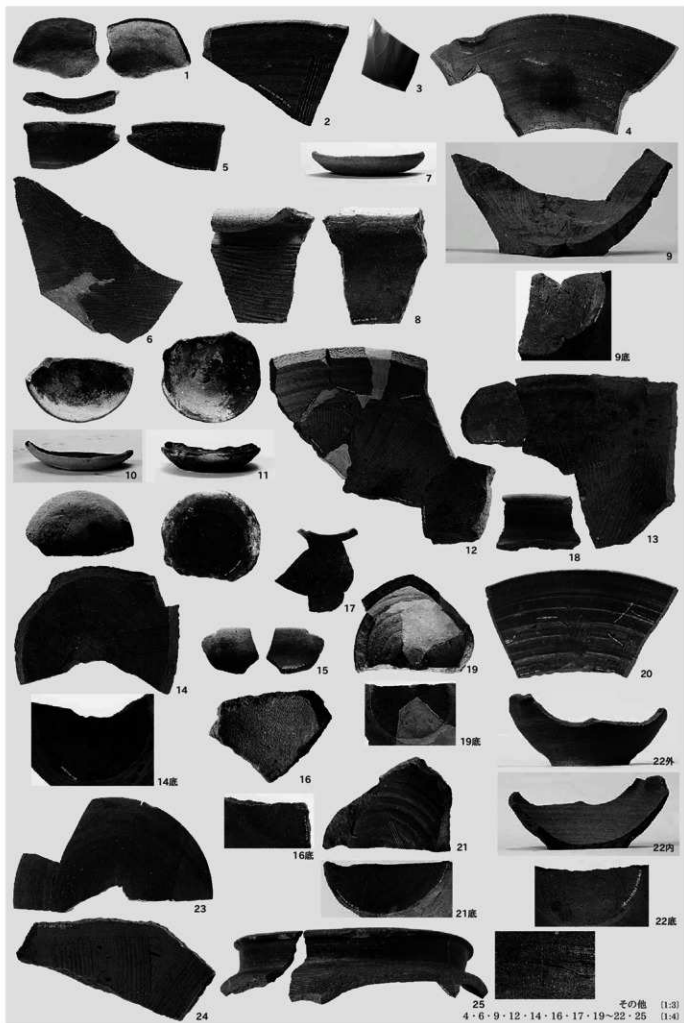
16・17L VI層 遺物取り上げ後(東から)

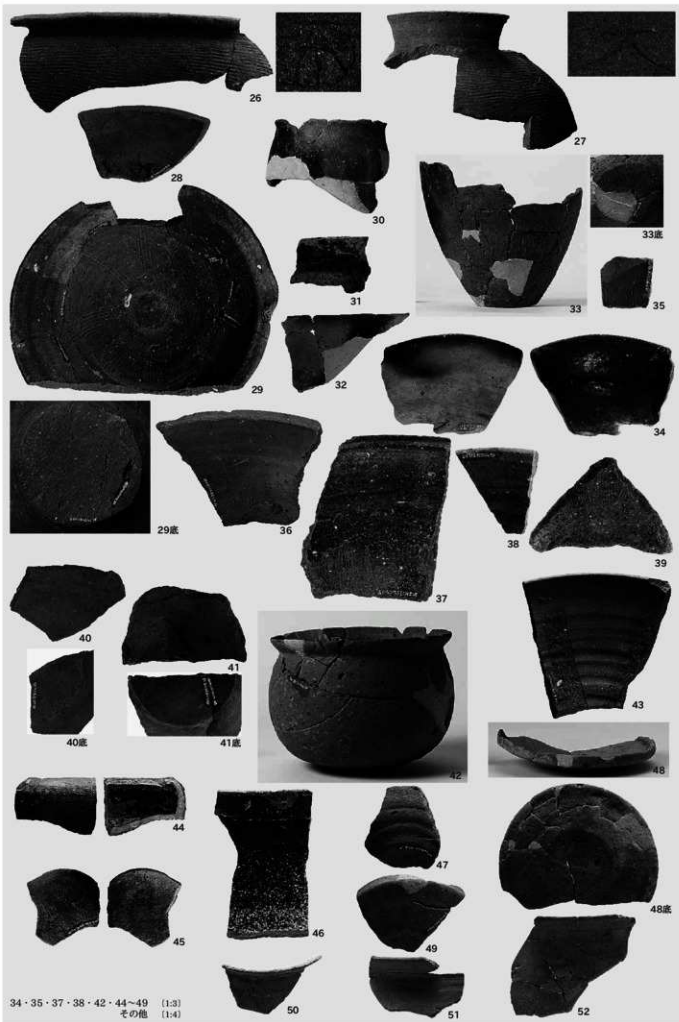


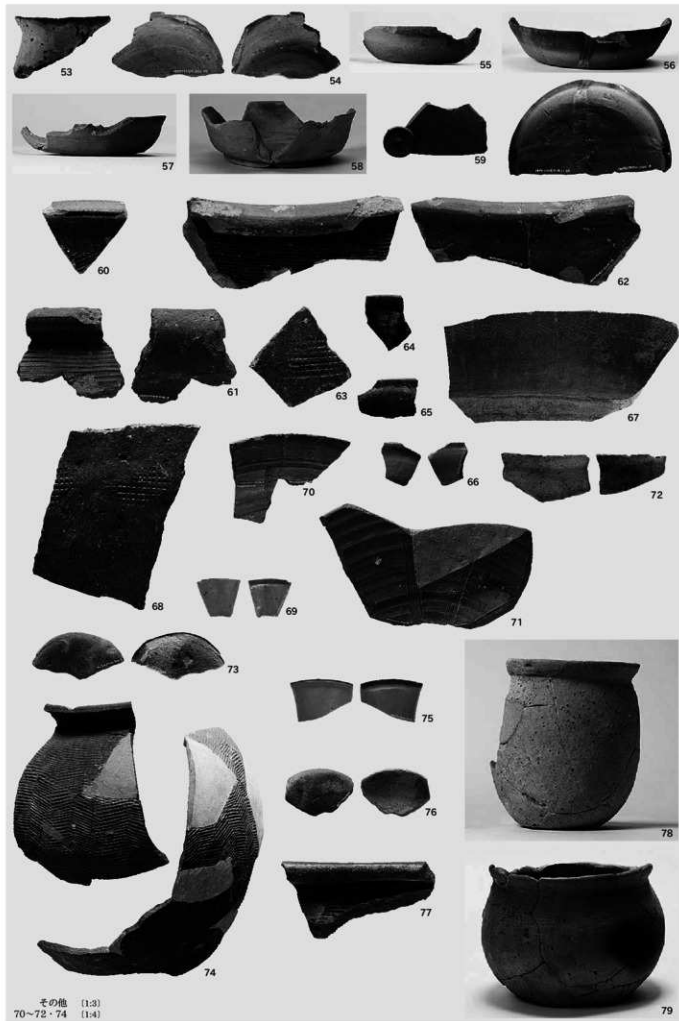
15L VI層 出土状況拡大(西から)

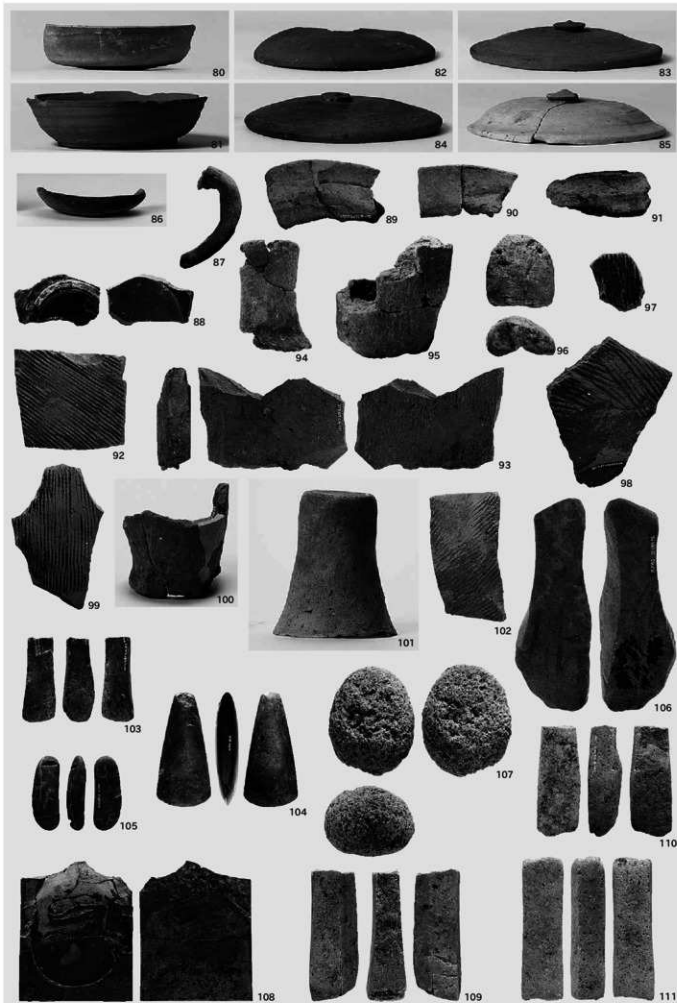


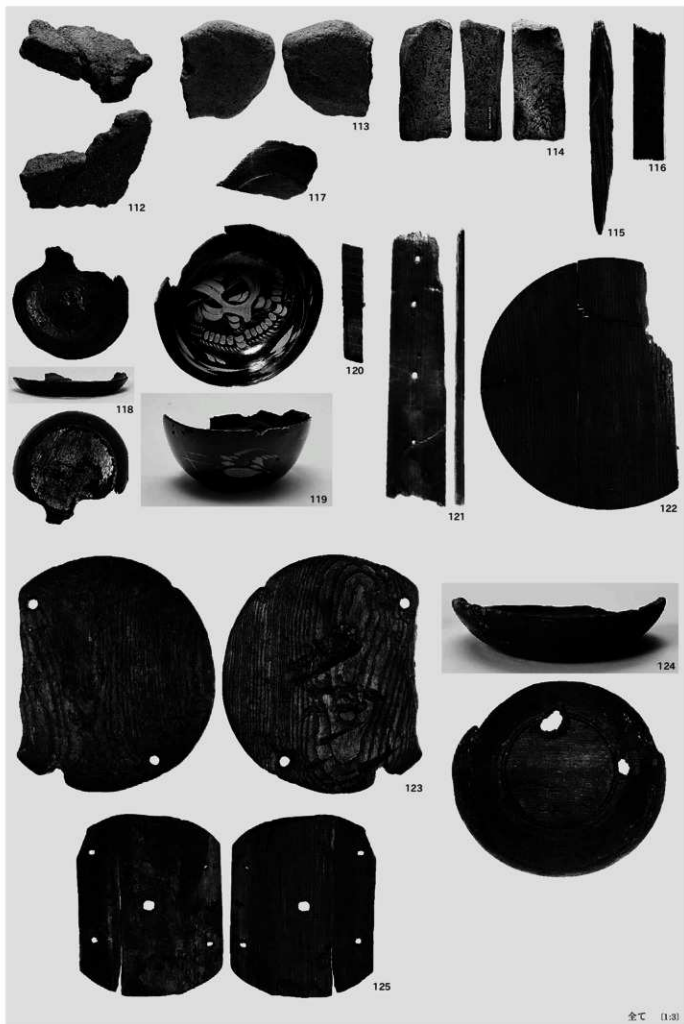
14～16L VI層 遺物取り上げ後(北東から)



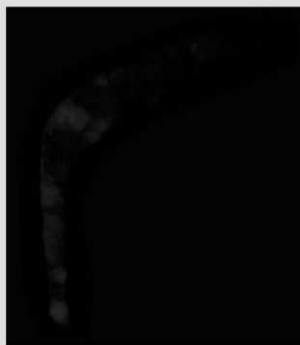
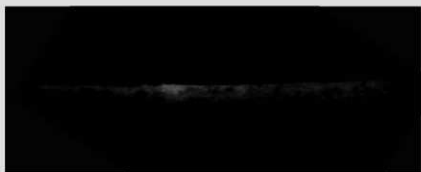
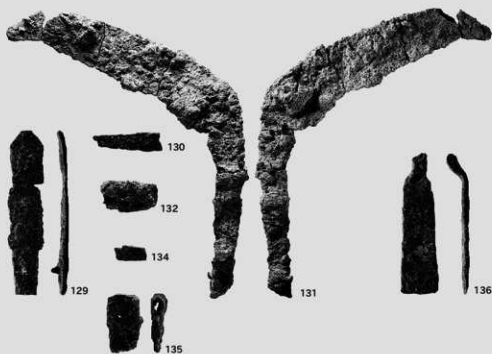














下割遺跡 2015年度調査区全景(上空から)



第8図 基本層序②(南東から)



西側調査区南側全景(上空から)



SB09 完掘状態(上空から)



SB09-15P16 断面(南東から)



155K170・199・252 完掘(上空から)



155K170 断面 A-A'(東から)



155K252・199 断面 B-B'(北東から)



155K170 断面(北東から)



155K170 焼土検出状況(南西から)



SE212 断面上部(西から)



SE212 完掘上部(西から)



15SE32 断面上部(南から)



15SE32 断面下部(南から)



15SE32 完掘上部(南から)



15SE44 断面上部(南西から)



15SE44 断面下部(南西から)



15SE44 完掘上部(南西から)



15SE74 断面上部(南東から)



15SE74 完掘上部(南東から)



15SE81 断面上部(南東から)



15SE81 完掘上部(北西から)



15SE82 断面上部(南東から)



15SE82 完掘上部(北西から)



15SE100 断面上部(北から)



15SE100 完掘上部(北から)



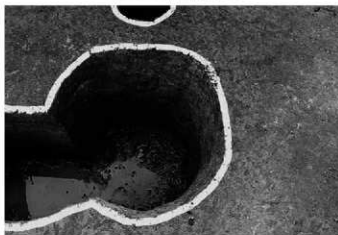
15SE107 断面上部(西から)



15SE107 完掘上部(西から)



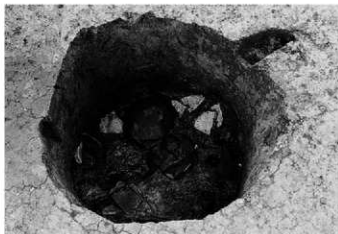
15SE108 断面上部(東から)



15SE108 完掘上部(東から)



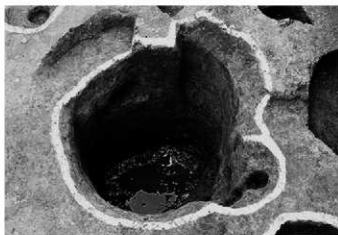
15SE111 断面上部(北東から)



15SE111 完掘上部(東から)



15SE121 断面上部(北西から)



15SE121 完掘上部(北西から)





15SE155 断面上部(北西から)



15SE155 完掘上部(北から)



15SE162 断面上部(東から)



15SE162 完掘上部(東から)



15SE193 断面上部(南から)



15SE193 完掘上部(南から)



15SE214 断面上部(東から)



15SE214 断面下部(東から)



15SE291 断面(北東から)



SD253・15SD94 断面D-D'(東から)



SD267 断面C-C'(東から)



SD299 断面E-E'(西から)



SK291 断面(西から)



SK291 完掘(北西から)



15SK140 断面(北西から)

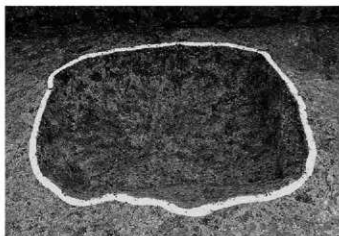


15SK140 完掘(南東から)





15SK163 断面(北東から)



15SK163 完掘(北東から)



15SK169 断面(南東から)



15SK169 完掘(南東から)



15SK180 断面(南西から)



15SK180 完掘(南西から)

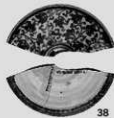
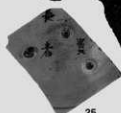
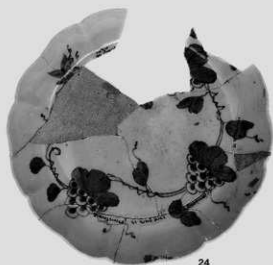
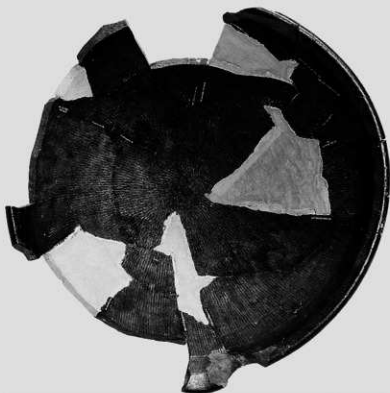
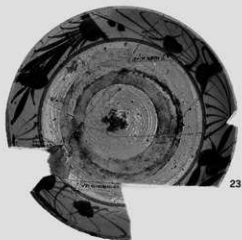


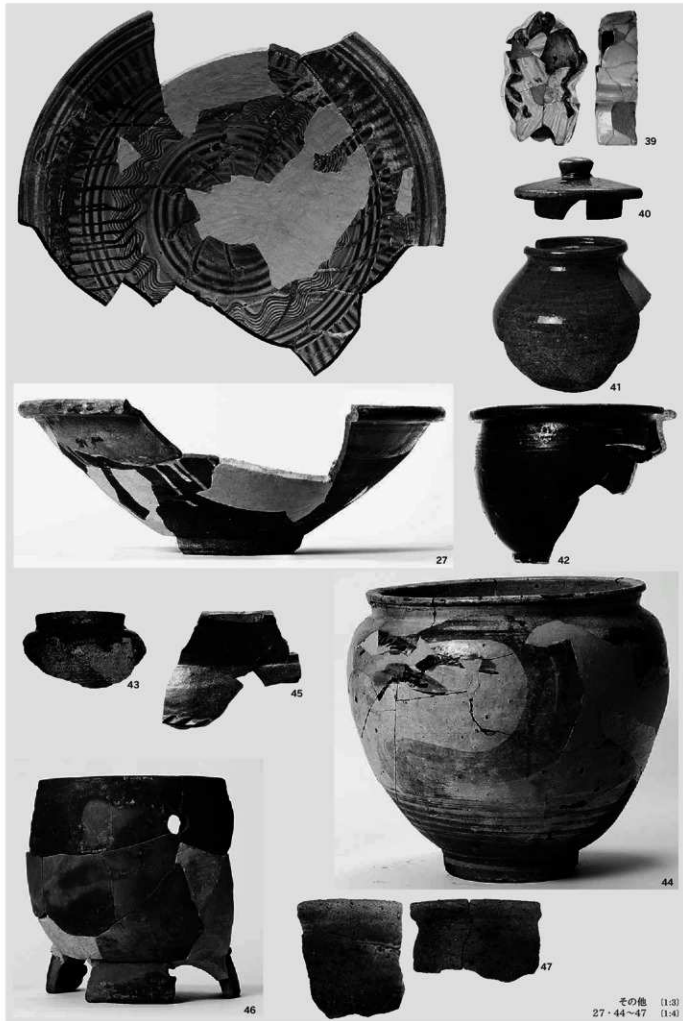
15SK223 断面(南西から)



15SK223 完掘(北から)









15SK170・199・252出土の壁材

15SK170・199・252出土の戸車



二反割遺跡近景（東から）



二反割遺跡全景（上空から）





10～13・I～L周辺 (上空から)



15SX435 検出状況 (北から)



15SD1Aと延伸する道 (南東から)



第15図 基本層序③ (南東から)



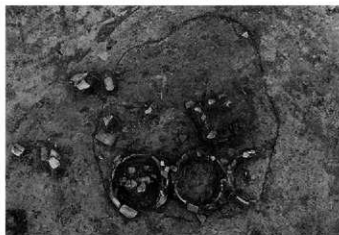
第15図 基本層序④ (北西から)



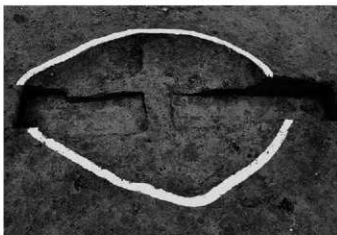
15SX435 断面 A-A' (南東から)



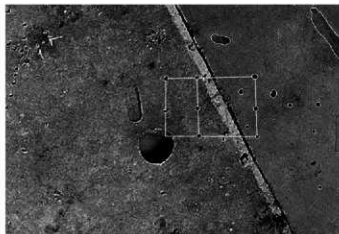
15SX435 断面 B-B' (北東から)



15SX435 検出状況 (写真上が北)



15SX435 完図 (東から)



SB124 完図 (上空から)



SB124-15P557 断面 (南から)

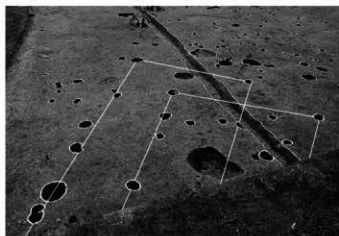


SB124-15P381 断面 (北東から)



SB124-15P383 断面 (北東から)





155B354・355 完掘(北から)



155B354-15P223 断面(南東から)



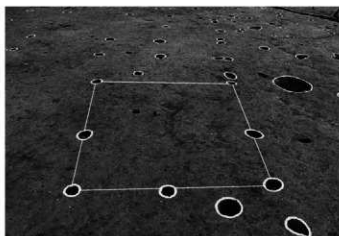
155B354-15P39 断面(南東から)



155B354-15P86・87 断面(東から)



155B355-15P14 断面(南東から)



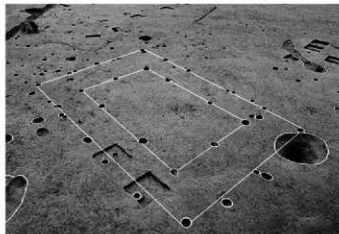
155B492 完掘(南から)



155B492-15P181 断面(南東から)



155B492-15P163 断面(南東から)



155B356 完掘(北西から)



155B356・492周辺 完掘(南東から)



155B356-15P170 断面(北東から)



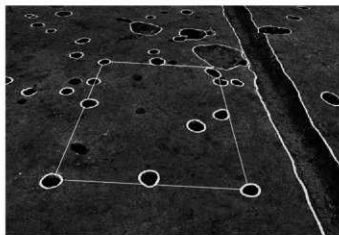
155B356-15P119 断面(北東から)



155B356-15P139 断面(南東から)



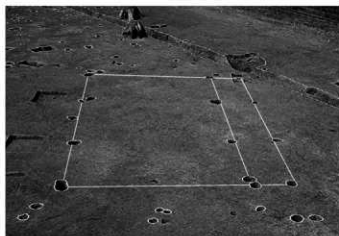
155B356-15P158 断面(北東から)



155B425 完掘(南東から)



155B425-15P96 断面(北から)



15SB426 完壘(南から)



15SB426-15P67 断面(南から)



15SB426-15P48 断面(東から)



15SB426-15P18 断面(北東から)



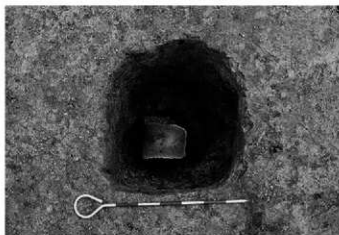
15SB426-15P35 断面(北西から)



15SB426-15P49 断面(北から)



15SB426-15P49 礫検出状況1段目(北から)



15SB426-15P49 礫検出状況2段目(北から)



15SB561 完掘(上空から)



15SB561-15P360 断面(北東から)



15SB561-15P516 断面(南東から)



15SB561-15P398 断面(南東から)



15SB561-15P346 断面(東から)



15SB561-15P372 断面(南から)



15SB562・564～566 完掘(上空から)



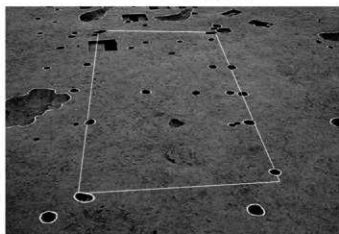
15SB562-15P311 断面(南東から)



15SB562-15P514 断面(東から)



15SB562-15P270 断面(北東から)



15SB563 完圖(西から)



15SB563-15P242 断面(南東から)



15SB563-15P216 断面(東から)



15SB563-15P226 断面(北東から)



15SB564-15P472 断面(南東から)



15SB564-15P427 断面(北西から)



15SB565-15P271 断面(北東から)



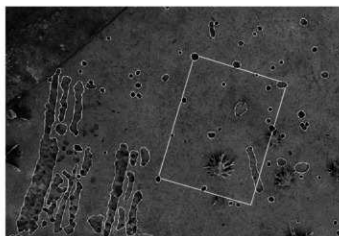
15SB565-15P501 断面(北東から)



15SB566-15P294 断面(南東から)



15SB566-15P269 断面(北東から)



15SB567 完掘(上空から)



15SB567-15P491 断面(南東から)



15SB567-15P419 断面(東から)



15SB567-15P253 断面(南から)



15SE30 断面(南東から)



15SE30 完掘(南東から)



15SE70 断面上部(南東から)



15SE70 完掘上部(南東から)



15SE130 断面上部(南東から)



15SE130 完掘上部(南東から)



15SE132 断面上部(南東から)



15SE132 完掘上部(南から)



15SE350 断面(南東から)



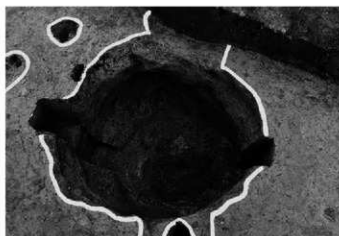
15SE350 完掘(南東から)



15SE471 断面上部(北西から)



15SE471 断面下部(北西から)



15SE471 完掘上部(北西から)



15SD1 断面 A-A'(北西から)



15SD1A 断面 B-B'(南東から)



15SD1A 完掘(南東から)





15SD176 断面 A-A' (南西から)



15SD176 断面 B-B' (北西から)



15SD176 完掘 (南西から)



15SD325・371・15SK474 断面 (南東から)



15SD325 断面 (北東から)



15SD325 完掘 (南西から)



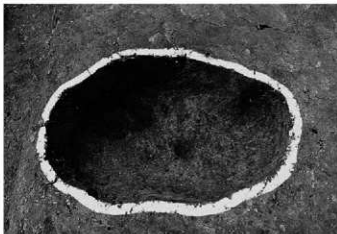
15SD371 断面 (南東から)



15SD371 完掘 (南東から)



15SK31 断面(南東から)



15SK31 完掘(南東から)



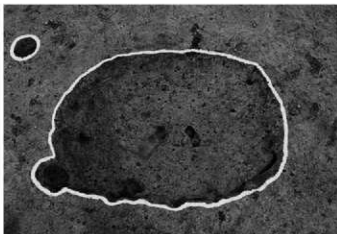
15SK51 断面(南東から)



15SK51 完掘(南東から)



15SK305 断面(南西から)



15SK305 完掘(南西から)



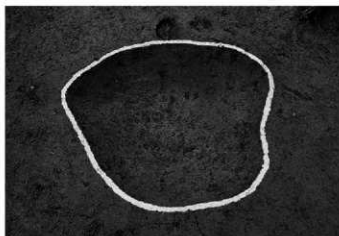
15SK384 断面(北から)



15SK384 完掘(北から)



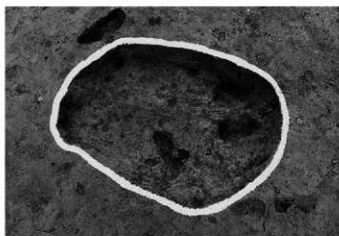
15SK447 断面(北東から)



15SK447 完掘(北東から)



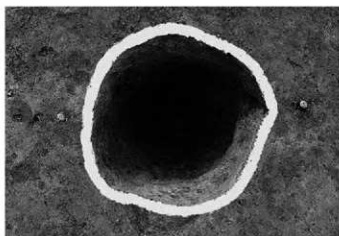
15SK554 断面(東から)



15SK554 完掘(東から)



15P560 断面(東から)



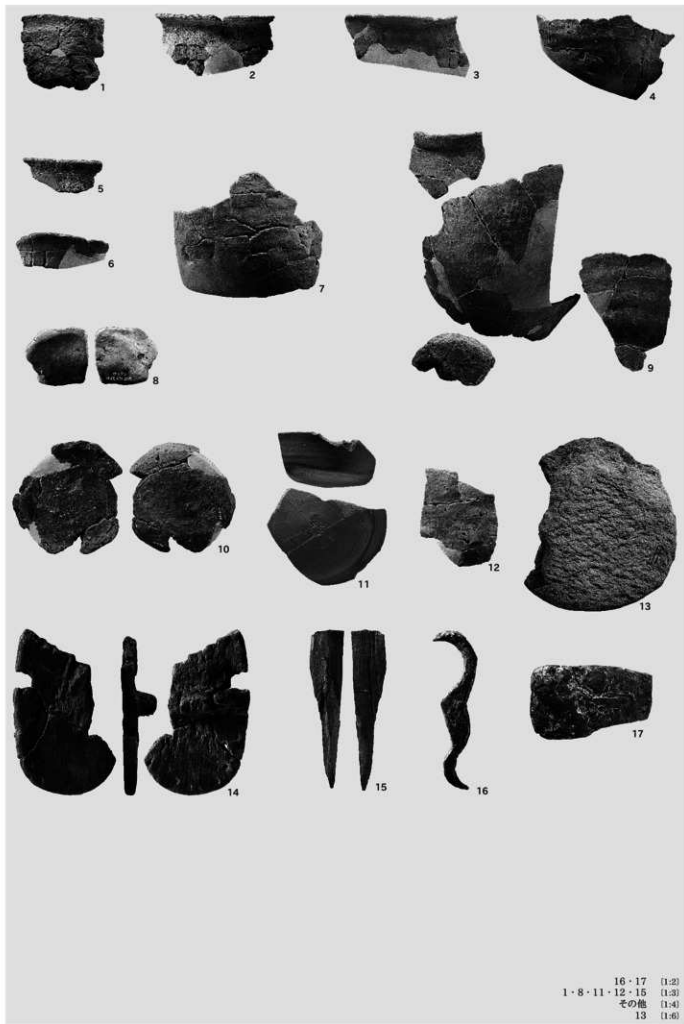
15P560 完掘(東から)



15P84 遺物(17) 出土状況(南から)



清掃風景



# 報告書抄録

ふりがな	どうこいせき しもわりせき ろく にたんわりせきに							
書名	堂古遺跡 下割遺跡Ⅵ 二反割遺跡Ⅱ							
副書名	一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書							
巻次	XIII							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第269集							
編者者名	飯坂盛泰・山崎忠良(以上、埋文事業団)、城前喜英・渡邊大士(以上、株式会社古田組)、桶谷 潤・福永 徹・坂之井真弓(以上、小柳建設株式会社)、千葉博俊・高橋 敦・金井慎司・芝口 怜(以上、パリオ・サーヴェイ株式会社)							
編集機関	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1 TEL. 0250 (25) 3981							
発行年月日	2017(平成29)年3月8日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
堂古遺跡	新潟県上越市米岡字 堂古535番地ほか	15222	1549	37度 08分 04秒	138度 19分 07秒	20140407～ 20141003 20150421～ 20150827	6,804	一般国道253号 上越三和道路建設
下割遺跡	新潟県上越市米岡字 ころろ原624番地 10ほか	15222	266	37度 08分 03秒	138度 19分 05秒	20150508～ 20150827	1,137	一般国道253号 上越三和道路建設
二反割遺跡	新潟県上越市三和区 岡木字二反割1013 番地ほか	15222	1551	37度 08分 11秒	138度 19分 22秒	20150713～ 20150930	2,580	一般国道253号 上越三和道路建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
堂古遺跡	散布地 集落跡	古墳時代前期 古代 中世	掘立柱建物12棟、堅穴状遺構8基、 井戸93基、溝27条、畑作溝12条、 焼土土坑1基、土坑72基		土師器、須恵器、円筒形土製品、 土師質土器、珠洲焼、青磁、 白磁、硯、石鉢、漆器、鎌、 小刀		中世集落が2時期変遷、井戸が多い。	
下割遺跡	集落跡	中世～近世	掘立柱建物1棟、井戸21基、溝11条、 土坑23基、ビット260基		珠洲焼、青磁、近世陶磁器、硯、 砥石、下駄		近世の火事始末を 確認。	
二反割遺跡	散布地 集落跡	古代 中世	掘立柱建物14棟、井戸6基、 溝15条、畑作溝16条、土坑13基、 ビット402基、性格不明遺構2基		土師器、須恵器、円筒形土製品、 珠洲焼、石造物、漆器片、下駄		12世紀中心の集落、 2011年度に調査した 集落の延伸部分。	
要約	堂古遺跡	飯田川左岸の自然堤防上に立地する中世(13世紀～15世紀)の集落遺跡で、標高は13.3～14.5mである。遺跡南西側に位置する塚を地に、東側には多くの掘立柱建物や井戸、土坑などが位置する。塚の西側にも建物や井戸が位置するが、その数は東側比べて少ない。塚には2時期の変遷があり、建物などにも重複が見られることから、塚の変遷に合わせ、集落内の配置も変更されたことが想定できる。また井戸が多いことも特徴的である。 古墳時代の調査では遺物は出土したが、遺構は確認できていない。出土した土師器は摩耗しており、傾斜地に流れ込んだような出土状況である。古代の調査でも土器が出土したが、遺構は確認できなかった。土師の遺存率が高く、周辺に古代の遺跡が存在すると考えられる。 遺物は古墳時代の土師器、古代の土師器、須恵器、円筒形土製品などのほか、中世の土師質土器、珠洲焼、青磁、白磁、硯、石鉢、漆器、鎌、小刀などが出土した。						
	下割遺跡	飯田川右岸の自然堤防上に立地する中世～近世の集落遺跡で、堂古遺跡に隣接する。標高は13.5～14mで、遺構は掘立柱建物、井戸、溝、土坑、ビットを検出した。2010・2011年度に調査した集落域の周辺部に当たるが、時期が判明する遺構が少なく、集落の様相は明確ではない。火事始末をした近世の土坑からは陶磁器などが出土した。遺物は古代の土師器、須恵器、中世の珠洲焼、青磁、近世の陶磁器などが出土した。このうち、近世陶磁器の出土量がもっとも多い。						
	二反割遺跡	飯田川右岸の自然堤防上に立地する中世の集落遺跡(12世紀中心)で、標高は13.9～14.8mである。2011年度に調査した中世集落の延長部分を検出した。遺構は掘立柱建物、井戸、溝、土坑、ビット、性格不明遺構などがある。掘立柱建物は14棟確認でき、四面囲建物、片廂建物、総柱建物が各1棟で、そのほかは側柱建物である。2011年度調査分も含め、建物同士の柱筋がそろそろなど計画的に配置された可能性が高い。井戸出土の木製品の年代を測定した結果、11世紀中葉～13世紀初頭の年代が得られ、2011年度の調査成果とも整合する。 古代の遺構は性格不明遺構1基を検出した。近年の畑作などの影響もあり、遺存状況はあまりよくないが、土師器遺構4個体が土坑内に据えられたような状態でも確認された。掘立柱建物の内部に位置するが、建物には伴うとは考えにくい。周辺に古代の遺構が位置していた可能性も残る。 遺物は古代の土師器や須恵器、中世の珠洲焼、石造物、木製品などが出土したが、出土量はかなり少ない。特に土師器は摩耗した小破片が多く、時期を特定できるものは少ない。						

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第269集  
一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書XIII  
堂古遺跡・下割遺跡VI・二反割遺跡II

2017(平成29)年3月7日印刷  
2017(平成29)年3月8日発行

編集・発行 新潟県教育委員会  
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1  
電話 025(285)5511

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
電話 0250(25)3981  
FAX 0250(25)3986

印刷・製本 株式会社新潟印刷  
〒950-0134 新潟市江南区曙町3丁目5-5  
電話 025(383)3900

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第269集 『堂古遺跡・下割遺跡VI・二反割遺跡II』 正誤表

ページ	範囲	誤	正
64	13行目	ST648から採取された	ST684から採取された
64	第13図 凡例	1. ヒト中節骨 (ST648)	1. ヒト中節骨 (ST684)
64	第13図 凡例	2. ヒト末節骨 (ST648)	2. ヒト末節骨 (ST684)
64	第13図 凡例	3. ヒト?歯牙 (ST648)	3. ヒト?歯牙 (ST684)
64	第13図 凡例	4. ヒト?基節骨/中節骨 (ST648)	4. ヒト?基節骨/中節骨 (ST684)
66	2行目	ST648から出土した	ST684から出土した
66	5行目	ST648については、	ST684については、
86	22行目	IV層 (遺構検出面) より	IVa層より
86	23行目	IV層及び	IVa層及び
115	二反割遺跡 土師・陶磁器観察表 11行目 時期	I～II期?	I～II期
115	二反割遺跡 石製品観察表 2行目 備考	石造物?	削除
図版47	18SD176 断面図 B-B	IV	IVa
図版48	18SD1 断面図 A-A	II	遺乱